

令和 7 年度 小長田団地改修工事（3 棟）

図面リスト					
建築意匠図			電気設備図		
図 番	図面名称	縮 尺	図 番	図面名称	縮 尺
A-00	表紙・図面リスト	—	E-01	特記仕様書	
A-01	改修工事特記仕様書（1）	—	E-02	改修前・後 1 階平面図	1：100
A-02	改修工事特記仕様書（2）	—	E-03	改修前・後 2 階平面図	1：100
A-03	改修工事特記仕様書（3）	—	E-04	改修前・後 3 階平面図	1：100
A-04	改修工事特記仕様書（4）	—	E-05	改修前・後 屋根伏図	1：100
A-05	アスベスト含有建材除去等工事特記仕様書（1）	—	E-06	姿図・詳細図	1：10・1：20 1：30
A-06	アスベスト含有建材除去等工事特記仕様書（2）	—			
A-07	附近見取図・配置図	1：500			
A-08	仕上表・キープラン・建具表	—			
A-09	（参考図）仮設計画図	1：100			
A-10	改修前・後 1 階平面図	1：100			
A-11	改修前・後 2 階平面図	1：100			
A-12	改修前・後 3 階平面図	1：100			
A-13	改修前・後 屋根伏図	1：100			
A-14	改修前 西側・南側立面図	1：100			
A-15	改修後 西側・南側立面図	1：100			
A-16	改修前 東側・北側立面図	1：100			
A-17	改修後 東側・北側立面図	1：100			
A-18	改修前・後 GL 階天井伏図	1：100			
A-19	改修前・後 1 階天井伏図	1：100			
A-20	改修前・後 2 階天井伏図	1：100			
A-21	改修前・後 3 階天井伏図	1：100			
A-22	改修前 東側階段室 展開図	1：50			
A-23	改修後 東側階段室 展開図	1：50			
A-24	改修前 西側階段室 展開図	1：50			
A-25	改修後 西側階段室 展開図	1：50			
A-26	改修前 矩計図	1：30			
A-27	改修後 矩計図	1：30			
A-28	改修前・改修後後 矩計図	1：30			
A-29	（参考図）屋根納り図	1：5・1：3			
A-30	（参考図）1 階・2 階平面図	1：100			
A-31	（参考図）3 階平面図・屋根伏図	1：100			
A-32	（参考図）欠損 西側・南側立面図	1：100			
A-33	（参考図）欠損 東側・北側立面図	1：100			
A-34	（参考図）1 階・2 階天井伏図	1：100			
A-35	（参考図）3 階天井伏図	1：100			
A-36	（参考図）欠損 東側・西側 階段室 展開図	1：100			
A-37	（参考図）欠損 集計表－1	—			
A-38	（参考図）欠損 集計表－2	—			

福 岡 県 改 修 工 事 特 記 仕 様 書

1) 工事概要

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 工事名称 | 令和7年度 小長田団地改修工事（3棟） |
| 2. 工事場所 | 福岡県京都郡みやこ町勝山黒田（小長田団地 内） |
| 3. 工事概要は別紙（仕上表）による。 | |
| 4. 別途工事 | ・ ・ |

2) 建築工事仕様

1. 標 準 様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項はすべて国土交通省大臣官庁官庁整備部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）」（以下「改修仕様」）及び「改修改修工事監理指針（令和元年版）」による。
ただし、改修仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁整備部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）」及び「建築工事監理指針（令和元年版）」による。
2. 特 記 仕 様
（1）項目は番号に○印のついたものを適用する。
（2）特記事項は、○印のついたものを適用する。
○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
○印と ※印のついた場合は、共に適用する。
- （3）特記事項に記載の（ ）内表示番号は、公共建築改修工事標準仕様書の当該項目、当該図、または当該表を示す。
（4）特記事項に記載の（ ）内表示番号は、公共建築工事標準仕様書の当該項目、当該図、または当該表を示す。
（5）形状・寸法の単位は特記なき限り、ミリメートルとする。

①適用基準等

②補足基準等

③適用範囲等

④現場に常備する図面等

⑤工事実績サービス(CORINS)への登録

⑥施工体制台帳

7.実施工程表

8.余裕期間

⑨工事の記録

⑩電気保安技術者

⑪施工条件

特記事項

図面もしくは特記仕様書に記載なき場合は、以下の仕様書による。
(1)「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成31年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(以下「標準仕様書」又は「標仕」という。)による。
(2)「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)平成31年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(3)「公共木造建築工事標準仕様書 平成31年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(4)「建築物解体工事共通仕様書 平成31年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
適用仕様等、図面、特記仕様書に記載なきものについては、以下の基準、指針、要領、標準図等による。
(1)「建築構造設計基準 平成30年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(2)「建築工事標準詳細図 平成28年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(3)「建築工事監理指針 令和元年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(4)「建築改修工事監理指針 令和元年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(5)「建築工事安全施工技術指針・同解説 平成27年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(6)「建設廃棄物処理指針」 厚生労働省生活衛生局
(7)「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び 厚生労働省労働基準局
石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」 環境省水・大気環境局
(8)「建築物等の解体工事における石綿粉じんへのばく露防止マニュアル(新版)」 建設業労働災害防止協会
(9)「基礎くい工事の適正な施工を確保するために請うべき措置」国土交通省告示第468号
(10)「官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説(平成8年版) 建設大臣官庁営繕部監修
(11)「建築工事標準仕様書・同解説」 日本建築学会
(12)「建築工事の手引き」 福岡県建築都市部編集
(13)「解体工事の手引き」 福岡県建築都市部編集
(14)「積載工事の手引き」 福岡県建築都市部編集
(15)「黒板、畳、換工事の手引き」 福岡県建築都市部編集
全ての設計図書は相互に補充する。ただし設計図書間に相違がある場合、適用の優先順位は、次の(1)から(5)までのとおりとする。
(1)質問回答書 (2)から(5)に対するもの)
(2)現場説明書
(3)特記仕様書
(4)別冊の図面
(5)改修標準仕様書
上記の「1.適用基準等」及び「2.補足基準等」のうち、当該工事に係る図書等については現場事務所に着用し監督官の確認を要する。
請負者は、工事請負額が500万円以上の工事について、受注時は契約締結後10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から10日以内に、工事完成時は完成後10日以内に、工事実績情報サービス(CORINS)に基づき、「建設情報実績」を作成し、建築都市総務課、契約室の承認を受けた後、(一財)日本建設情報総合センターに提出しなければならない。また、同センター発行の「登録内容確認書」の写しを建築都市総務課に提出しなければならない。ただし、期間には、行政機関の休日に関する法律(昭和63年法律第91号)に定める行政機関の休日は含まない。
問い合わせ先 千812-0013 福岡市博多区博多駅東3-11-28博多サンシティビル2F
(一財)日本建設情報総合センター九州地方センター
TEL 092-411-3664 FAX 092-411-3486 (1.1.4)
※現場説明書による。請負者は下請け契約を行う全ての工事で施工体制台帳を作成し、工事現場に据え置くとともに、その写しを監督官に提出すること。
概成工期(令和 年 月 日)
方式 → 発注者指定方式 → 任意着手方式
(余裕期間内は、請負者の責により現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入、仮設物の設置等、工事の着手等を行ってはいらない。なお、実工事期間には、準備・後片付け期間を含む。詳細は、契約特約による。)
工事日報は、工事記録を兼ねることができる。
下記要領により撮影し、写真帳に説明を記入のうえ提出する。(原簿は撮影業者が保管する。)(1.2.4)

区分	分類	規格	部数	原簿の大きさ	備考
着工前	カラー	※サービス版・()	※1部・()	24×36以上又はデジタル画像	撮影箇所は監督官との協議による
施工中	カラー	※サービス版・()	※1部・()	24×36以上又はデジタル画像	撮影箇所は監督官との協議による
完成時	カラー	※サービス版・()	※2部・(1)	24×36以上又はデジタル画像	撮影箇所は監督官との協議による
注 記					
撮影者は建築完成写真の撮影実績がある者で、監督官が承認する撮影者(着工前、施工中)、監督官の承認する専門業者(完成時)とする。 電子データはRGB(フルカラー)、JPG形式としCD-Rで提出する。(200万画面上300dpi以上)					

各工程ごとに作業時の状況がわかるように黒板(工事名、撮影箇所、年月日等記入)、スケール等をおて撮影する。このほか、写真の撮影、整理等については国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編」による。
※適用する(工事用電力設備の保安責任者が兼ねる。) → 適用しない (1.3.3)
※現場説明書による (1.3.5)

⑫ 施工中の安全確保

⑬建設リサイクル法

⑭建設副産物の処理
について

<p>資質調査法、労働安全衛生法、その他関係法令等に定めるところによるほか、</p> <p>建設工事公衆災害防止対策要綱に従うとともに、建設工事安全施工技術指針を参考に、常に工事の安全に留意して現場管理を行い、施工に伴う災害及び事故の防止に努める。</p> <p>建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）の対象となる工事に該当する場合説明書による。・する・しない</p> <p>※参考受入場所は現場説明書による</p>	<p>(1.3.7)</p>
<p>建設副産物の処理 について</p> <p>資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。</p> <p>現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別し指定された場所へ集積すること。</p> <p>また、施工区分表に積み込み・運搬・処分までの指示がある工事については、現場内に分別保管場所を設置するとともに、再生資源利用の促進に関する法律、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。</p> <p>工事に際しては、工事着手時に建設副産物処理計画書、再生資源利用計画書等を、工事竣工時に建設副産物の処理結果報告書、再生資源利用実施書等を提出すること。</p>	<p>(1.3.12)</p>
<p>指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）</p> <p>がれき類（コンクリート塊）（アスファルト塊）</p> <p>木くず</p> <p>建設発生土</p> <p>汚泥</p>	<p>指定副産物の工事現場からの搬出、再生資材等の利用等については、「リサイクル原則化ルール」（平成18年6月12日策定）により実施する。</p> <p>建設汚泥については、「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン」（平成18年6月12日 事務次官通知）に従い、建設汚泥の再生利用を推進する。</p>

⑬. 施工中の環境
保全等

⑩. 再資源利用(促進)

①. 建築材料等

⑬. 施工数量調査

①⑨. 技能士

20. 施工の検査等

21.ホルムアルデヒド 及び揮発性有機化 合物の測定	室内空气中化学物質の濃度測定 ホルムアルデヒド測定の検体数 VOC測定の検体数	・行う ・力所 ・力所	・行わない
----------------------------------	---	-------------------	-------

その他の廃棄物

廃プラスチック	ガラス、陶磁器くず	廃石膏ボード	金属くず	繊維くず
特別管理産業廃棄物				
廃石棉等	「建築物の解体等に係る石棉飛散防止対策マニュアル(環境省水・大気環境局大気環境課)」及び「石棉障害予防規則(平成17年7月1日施行)」に従い、収集、運搬、処分を行う。			
廃PCB等	「電気事業法：電気関係報告規則」及び「ポリ塩化フェニール廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・届出を行うとともに、適正に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。			
建築基準法、建設リサイクル法、環境基本法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、資源有効利用促進法その他関係法令等に定めるところによるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、工事の施工の各段階において、騒音、振動、粉じん、臭気、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、周辺環境の保全に努める。 <div>(1.3.11)</div>				
排出ガス対策型建設機械について				
「排出ガス対策型建設機械指定要領」に基づき、指定された建設機器を使用すること。 (対象機種：パッラー、ブレード、トラックザンベル(車輪式)、空気圧縮機(可動式)、油圧ユニット(油圧パワーアシスト)油圧式鋼管圧入引抜機・油圧式杭圧入引抜機・アースオーガ・オートシフティング掘削機・リ・サチレーション)リ・アースリ、地下連続壁施工機・全周転回オアキング掘削機の基礎工事用機械のうち、パシ又は別に独立したディゼンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの)、ローダー、クレーン、振動う、ケーシング、発電電動機(可動式(溶接用機を含む))但し、以上はディゼンジン(エンジン)出力7.5kW以下で260kg以下)を搭載したものに限る。)				
工事における振動被害防止要領の適用 振動計の設置については現場説明書による				
※ 提出する	・ 提出しない			
本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。 ただし、「同等のものとする場合は、監督員の承諾を得る。」と特記されたものについては、国土交通大臣官庁常務幹部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(最新版)」による。福岡県認定リサイクル製品の使用製品名及び使用部位については、現場説明書によること。標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督員の承諾を受け、当該製品の指定工法によることができる。 <div>(1.4.1)</div>				
環境への配慮について				
国による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)により、環境負荷の低減できる材料を選定すること。 使用する材料の選定に当たっては、揮発性有機化合物の放出による健康への影響に配慮すること。 工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとする。 指定品目、判断基準は「福岡県環境物品等調達方針」によること。				
調査項目	調査範囲	調査方法	報告書・数量書	
		全面打診	※2部	
			※2部	
			※2部	
※既存部分の破壊を行った場合の補修方法は図面図示による。 <div>(1.5.2) (1.5.3)</div>				
適用工事				
工事種別	技能検定職種			備考
・鉄筋工事	鉄筋施工			
・コンクリート工事	型枠施工			
・木工事	建築大工			
・左官工事	左官			
・塗装工事	塗装			
・屋根及び福祉工事	建築板金			
・内装工事	内装仕上げ施工			
・内装工事	塗装			
・金属工事	内装仕上げ施工(鋼製地下)			
・補修工事	造園			請負額 300万以上
見本施工の実施箇所() 工種() <div>(1.6.5)</div>				
室内空気中化学物質の濃度測定 ・ 行う ・ 行わない ホルムアルデヒド測定の実験数 ・ 力所 VOC測定の実験数 ・ 力所 測定対象室 ※現場説明書による ・ 図示 測定時期、測定位置、方法については、測定前に監督員に確認する。 測定方法等は「揮発性有機化合物の室内測定要領」参照 ※学校施設については、文部科学省「学校環境衛生基準」 (平成21年4月1日告示第60号)に基づきVOC等の測定を行う。 <div>(1.6.9)</div>				

②② 完成図等

種類及び提出形式は下記による			(1.8.2)
種 類	提 出 形 式	部 数	
完成図 ※設計図一式	※二つ折り白焼き製本（Ａ１） ※ＣＡＤデータ（ＪＷＷ又はＤＸＦ） ※ＰＤＦデータ（竣工図電子データ作成要領による）	※１部 ・（ ）部	
総合図 ※一式	※二つ折り白焼き製本（適宜Ａ１又はＡ３） ※ＣＡＤデータ（ＪＷＷ）	※１部 ・（ ）部	
施工図 ※構造整体 ※平面図 ※建具 ※屋根及び樋 ・（ ）	※二つ折り白焼き（適宜Ａ１又はＡ３） ※ＣＡＤデータ（ＪＷＷ）	※１部 ・（ ）部	
工作図 ※家具図 ・（ ）	※二つ折り白焼き（適宜Ａ１又はＡ３） ※ＣＡＤデータ（ＪＷＷ）	※１部 ・（ ）部	

②③ 保全に関する資料

②4 設計 G L

②⑤ 過積載の防止

26. 解体等工事の範囲

②⑦ 敷地に関する調査

②⑧ 原形復旧

取合い

(30) 風速及び

③① 接着剂

③② 総合図での調整

③③ 参考図の取り扱い

②4 竣工後の調査

①足場その他

② 養生

3. 仮設間仕切り

(注) データの抽出はCD-R、DVD-R又はUSBフラッシュメモリーに保存して提出すること。

「改修仕様」1.8.3(1)の他、下記について必要事項を記入のうえ監督員に提出する。
建設大臣官庁官務部監修の「管理者のための建築物保全の手引き」

提出部数 ※2部 ()部
保全に関する説明書 ※建物概要及び建物仕上り表 ※施工者一覧表
※取り扱い説明書、メンテナンスについての注意事項 (1.8.3)

※図示による () 現状地盤の平均高さとし、監督員の指示による

ダンプトラック等による工事用資機材等の運搬載行を行わないこと。さし枠の装置又は物品積載装置の不正改造をしたダンプトラックは工事現場内に入出りさせないこと。

解体等工事にかかる範囲は以下のとおり。

- ・建築物 ()
 - ・地上部・地下部・杭 ()
- ・竹履構造物 ()
 - ・浄化槽・貯油槽・杭・電気設備機器 ()
- ・電気設備 ()
 - ・建物内配管配線・衛生設備機器 ()
 - ・建物への引込線・敷地への引込線(廃止) ()
 - ・建物内配管配線・衛生設備機器 ()
 - ・建物への引込管・敷地への引込管(玉下ろし) ()
- ・給排水設備 ()
 - ・建物内配管・空調設備機器・建物内風道 ()
 - ・建物内配管・ガス設備機器 ()
 - ・建物への引込管・敷地への引込管(廃止) ()
- ・空調設備 ()
 - ・ガス設備 ()
 - ・建物への引込管・敷地への引込管(廃止) ()
- ・屋外付帯 ()
 - ・門、門塙・塙、フェンス・舗装 ()
 - ・植栽 ()
- ・有害廃棄物の処理 ()
 - ・廃PCB・特定フロンガス・廃石綿等 ()
- ・什器、備品類等の撤去 ()

○各種残留物等の撤去は下表による。 ※を標準とする。

区 分	建物管理者	工事請負者
アスベスト含有建材		※
オイルタンク内のオイル	※	
ビット(浄化槽・便槽)汚泥	※	
使用された酸、アルカリ・薬品等	※	
医療系特別管理産業廃棄物、放射性廃棄物	※	
フロン、ハロン使用機器		※
PCB使用機器		※

○敷地内障害物の調査 ○敷地内配管、配線の調査 ○地下水位の調査

工事中、取卸その他本工事範囲外の部分に汚損が生じた場合は原形に復する。

※施工区分表による
・施工範囲は下記による

- 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強
- 図示した壁、天井の仕上げ材、下地材の切込み及び下地材の補強
- 駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ
- 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 ()

風速 () 32 m/秒 () 34 m/秒 ()
地面表粗度区分 (・Ⅰ) (Ⅱ) (Ⅲ) (Ⅳ) (各章共通)

ホルムアルデヒド放散等級 (※F☆☆☆☆・F☆☆☆・F☆☆) (各章共通)

各工事中の着工に先立ち、各施工工場の基準となる総合図を作成し、監督員の承諾を受ける。
総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事業者の情報などをすべて盛り込んだ図面とし、それらの接点の細部調整を行う。
総合図の調整は、建築工事の請負者が行い、設備工事・その他の請負者がそれに協力する。
参考図の製品等の使用にあたっては、参考図の外形状等に多少相違がある製品でも同等品以上であれば使用できる。

竣工後(※2・1)年以内に当該工事範囲に関する経年変化の状況を調査し、報告すること。

手 す り 先 行 足 場 に つ い て

足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン」(厚生労働省 基準第0424001号平成21年4月24日)の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立て、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、手すり・中横及び両面幅木の機能を有するものを設置しなければならない。
なお、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

内部足場 ※脚立・足場板等 () (2.2.1)
外部足場 ※枠足場 ○X又は緊結式足場・単管足場 ()
防護シートによる養生 ※行う・行わない
材料、撤去材等の運搬・A種 ※B種・C種・D種・E種 (表2.2.1)

固定部分の養生 ※ビニールシート等・合板 () (2.3.1)
既定家具の養生 ・行わない・行う(図示)
既定家具の養生 ※ビニールシート等 ()

仮設置切替等の種別 (2.3.2) (表2.3.1)

種別	下地	仕上材 (厚さ)	充てん材	塗装	設置箇所
・A種	・軽量鉄骨	・合板 (※9.0・12.0)	厚さ mm	※無し・片面	図示による
・B種	・木下地	・石こうボード (※9.5)		・片面	
・C種	・単管下地	・防湿シート		※無し・片面	
仮設扉	※木製扉	※合板張り程度	程度		
	・鋼製扉	()			

④監督員事務所

○

(5) 工事用水

⑥工事用電力

⑦総合仮設計画

9. 樓台

○

④ 三事王公

①改修方法の種

2. アスファルト

設ける ○ 設けない (2.4.1)

※構内に新設する。(m程度)

・ 既存建物内の一部を使用する。

監督員事務所に設ける設備、備品については監督員との協議による。

構内既存の施設 ・ 利用できる (※有償 ・ 無償) ※利用できない

構内既存の施設 ・ 利用できる (※有償 ・ 無償) ※利用できない

※要する ・ 要しない

仮囲い等 ※設ける ○ 設けない

設置方法 ※ 成形鋼板 (H=2.0m) ・ 垂鉛引鉄板 (H= m) ・ シート張り

・ ロープ張り ()

ゲート ・ シート (W=4.5m) ・ パネル (W= m)

・ ハンガー (W= m)

垂直防護施設 ○ メッシュシート ○ 防災Ⅰ類 ・ 防災Ⅱ類 ・ 防音シート (防災Ⅰ類同等)

○ 枠付き金網 ・ アルミ防音パネル ()

水平防護施設 ○ 防護柵 (朝顔) ・ ダブルネット

防護施設等取付足場 ・ 単管一本足場 ・ 枠組本足場 (W= m) ・ ()

設置範囲 ※図示による ・ 監督員の指示による ○ くさび緊結式足場

設置期間 ※工事期間中 ・ 監督員の指示による

養生構台 ・ 設置する (図示による) ・ 設置しない

乗入れ構台 ・ 設置する (幅員 m、長さ m) ・ 設置しない

監督員の指示による

工事用車両の出入口では、一般行人及び一般車両の安全確保に努めること。

交通誘導員 ○ 配置する (1 名以上) ・ 配置しない

防水改修方法の種類及び工程については「改修標準」表 3.1.1 による。(表 3.1.1)

シーリング改修工法の種類及び工程については「改修標準」表 3.1.2 による。(表 3.1.2)

(3.2.3) (表 3.1.1) (表 3.3.3～10)

	防水改修工法種別	新規防水層の種類	施工箇所
保護防水	・ P1B工法	・ B-1 ※ B-2	
	・ P1B1工法	・ T1B1工法	・ B1-1 ※ B1-2
	・ P2A1工法		・ A1-1 ※ A1-2
	・ P2A2工法		・ A1-1 ※ A1-2
露出防水	・ M4C工法		・ C-1 ※ C-2
	・ M3D工法	・ P0D工法	・ D-1 ※ D-2
	・ P0D1工法	・ M3D1工法	・ D1-1 ※ D1-2
	・ M4D1工法		
屋内防水	・ P1E工法	・ P2E工法	・ E-1 ※ E-2
			(保護層は図示による)

アスファルトの種類 ※3種 (3.2.2) (3.2.2)

M3D、P0D、P0D1、M3D1、及びM4D1工法の脱気装置 ※設ける ・ 設けない (3.3.3)

断熱工法の断熱材 (3.3.2)

※押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種 b A (スキン層付き) 厚さ(mm) ※25 ・ ()

・ 図示による

立上り部の保護材 (3.3.2)

・ 乾式保護材 ※押出成型セメント版 (厚さ15mm)

・ れんが

・ JIS R 1250によるもの

・ 市販品のれんが又は市販品のれんが形コンクリートブロック (見え隠れ部分)

・ コンクリート 仕上りの平たんさ ※a種 ・ b種 ・ c種 (表 8.1.5)

(3.4.2.3) (表 3.1.1) (表 3.4.1～3)

防水改修工法の種類	新規防水層の種類	厚さ (mm)	施工箇所
・ M4AS工法	・ AS-T1 ・ AS-T2 ・ AS-J2		
・ M3AS工法	・ AS-T3 ・ AS-T4 ・ AS-J1		
・ P0AS工法	・ AS-J3		
・ M3AS1工法			
・ M4AS1工法	・ AS1-T1 ・ AS1-J1		
・ P0AS1工法			

M3AS1、M4AS1及びP0AS1工法の防湿用シート ・ 設ける ・ 設けない (表 3.4.3)

M3AS、P0AS、M3AS1、M4AS1及びP0AS1の脱気装置 ※設けない ・ 設ける (3.4.3)

(3.5.2.3) (表 3.1.1) (表 3.5.1.2)

防水改修工法の種類	新規防水層の種類	施工箇所	仕上り塗料塗り	使用分類
・ P0S工法	・ S-F1 ・ S-F2		・ シルバー	※非歩行
・ S4S工法	・ S-M1 ・ S-M2			
	・ S-M3			
・ P0S1工法	・ S1-F1 ・ S1-F2		・ カラー	製造メーカー仕様
・ S4S1工法	・ S1-M1 ・ S1-M2			
・ S3S工法	・ S-F1 ・ S-F2			
・ S3S1工法	・ S1-F1 ・ S1-F2			
・ M4S工法	・ S-M1 ・ S-M2			
	・ S-M3			
・ M4S1工法	・ S1-M1 ・ S1-M2			

仕上り塗料の使用量等 ※シートの製造所の仕様による ・ ()

脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない (3.5.3)

目地処理 ※図示による ・ () (3.5.4)

(3.6.3) (表 3.6.1)

施工箇所	改修工法種別	新規防水層種類	仕上り塗料塗り
屋上 (平場)	・ P0X	※ X-1	※ カラー ・ シルバー
n' 軒下、立上り、狭小部	・ L4X	※ X-2	※ カラー ・ シルバー

脱気装置 ※図面図示による ・ 種類 () ・ 設置数量 ()

シーリング改修工法の種類 (3.1.4) (表 3.1.2)

・ シーリング充填工法 ○シーリング再充填工法

・ 拉幅シーリング再充填工法 ・ ブリッジ工法

シーリング材の種類

「改修標準」表 3.7.1による。(表 3.7.1)

接着性試験 ※ 簡易接着性試験 (3.7.8)

・ 引張接着性試験 (部位)

[illegible]

7	④ 錆止め塗料塗り	塗料種別 (表7.3.1)～(表7.3.2)					
		塗装面		種別	備考		
		○鉄鋼面	A種(屋外) ・B種(EP・Gの場合)				
		○亜鉛めっき鋼面	A種 ・B種 ・C種(EP・Gの場合)				
		錆止め塗料塗り (表7.3.3)～(表7.3.4)					
		塗装面		種別	備考		
		○鉄鋼面	・A種 ・B種 C種				
		○亜鉛めっき鋼面	・A種 ・B種 C種				
		・新規鋼製建具等亜鉛めっき鋼面	A種 ・B種 ・C種				
		5. 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) (表7.4.1)～(表7.4.3)					
		塗装面		種別	塗装の種類	備考	
		・木部	新規	A種 ・B種 ・C種	1種 ・2種		
			塗替	A種 B種 ・C種	1種 ・2種		
			・鉄鋼面	新規	・A種 ・B種		1種 ・2種
				塗替	・A種 B種 ・C種		1種 ・2種
			・亜鉛めっき鋼面	新規	・A種 B種		1種 ・2種
塗替	A種 B種 ・C種			1種 ・2種			
鋼製建具面 A種							
6. クリヤラッカー塗り (CL) (表7.5.1)							
塗装面		種別	備考				
・木部		・A種 B種					
7. フタル酸樹脂エナメル塗り (FE) (表7.6.1)～(表7.6.2)							
塗装面		種別	備考				
・木部	新規	・A種 ・B種 ・C種					
	塗替	・A種 B種					
・鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面	新規	・A種 ・B種					
	塗替	・A種 B種 ・C種					
8. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD) (表7.7.1)							
塗装面		種別	備考				
・モルタル面		・A種 B種					
		・A種 B種					
⑨ 耐候性塗料塗り (DP) (表7.8.1)～(表7.8.3)							
塗装面		種別	塗料の種類	備考			
○鉄鋼面	・A種 ・B種 ・C種		上塗1級				
○亜鉛めっき鋼面	・A種 ・B種 ・C種		上塗1級				
・コンクリート面	・A種 ・B種 ・C種		上塗1級				
その他							
10. つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP・G) (表7.9.1)～(表7.9.4)							
塗装面		種別	備考				
・木部	新規	A種 ・B種 ・C種					
	塗替	A種 B種 ・C種					
・鉄鋼面	新規	A種 ・B種					
	塗替	A種 B種 ・C種					
・亜鉛めっき鋼面	新規	A種 ・B種					
	塗替	A種 B種 ・C種					
・コンクリート面	新規	A種 ・B種					
	塗替	A種 B種 ・C種					
11. 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP) (表7.10.1)							
塗装面		種別	備考				
・	新規	A種 ・B種					
	塗替	A種 B種 ・C種					
12. 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP・T) (表7.11.1)							
塗装面		種別	備考				
・	新規	A種 ・B種					
	塗替	A種 B種 ・C種					
13. ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) (表7.12.1)							
塗装面		種別	備考				
・	新規	・A種 B種					
	塗替	A種 B種					
14. オイルステイン塗り (OS) (表7.13.1)							
塗装面		備考					
・							
・							
15. 木材保護塗装塗り (WP) (表7.14.1)							
塗装面		種別	備考				
・		・A種 B種					
	・	・A種 B種					
16. 屋内水系塗料塗り							
屋内の木部、鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面のつや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りに適用する。							

8	耐震改修工事	1. 鉄筋の種類	材質 JIS G 3112 ・ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの (8.2.4)			
		種類	・ SD295A	・ SD345	・ SD390	
		径				
		2. 鉄筋の継手	(8.3.4)			
		接合方法		部位	径	備考
		・ガス圧接・重ね継手・溶接継手		柱・梁の主筋	D19以上	()
		・機械式継手・()				
		重ね継手・()		その他	D16以下	・()
		3. 溶接金網	JIS G 3551規格品 (8.2.2)			
		形状() 寸法() 径()				
		4. 帯筋	図示による			
		5. 壁の配筋	シアコネクタ (8.3.7)			
		・種類()・径()・長さ()		()		
		・膨込み深さ()・間隔()		()		
		6. 圧接完了後の試験	外観試験 超音波探傷試験 (8.3.8)			
		7. 特殊な鉄筋継ぎ手	・機械式継手の種類()・溶接継手 (8.4.2)(8.4.3)			
8. 割製補強筋	(8.21.6)(8.22.7)					
種類	材料	材種	径	本数・ピッチ	適用箇所	
・スパイラル筋					図示	
					図示	

9	耐震改修工事	9. コンクリートの強度	設計基準強度(Fc) N/mm ²	類別	18	21	24					(8.1.3)
		10. コンクリートの種類	普通コンクリート	部位								(8.1.3)
		11. スランプ	打込み箇所	基礎、基礎梁	柱、梁、スラブ、壁							(8.1.4)
		12. 普通コンクリートの調査	所要スランプ	・ 15 18	・ 15 18							(8.1.4)
		13. セメントの種類	単位水量の上限値	185 kg/m ³								(8.1.4)
			単位セメント量の下限值	270 kg/m ³								
			水セメント比の上限値	65% (高炉セメントB種 60%)								
			所要空気量の目標値	4.5%								
			塩化物の含有量	0.30 kg/m ³ 以下								
			気温によるコンクリート強度の補正	監督員の指示による								
10	耐震改修工事	14. 打放し仕上げの種類	普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種									(8.2.5)
			・高炉セメントB種()									
		15. コンクリートの仕上りの平たんさ	合板せきを用いる場合	(表8.1.4)(8.2.7)								
			種別	適用箇所								
			・A種									
			・B種									
			・C種									
			種別	適用箇所								(表8.1.5)
			a 種	・化粧打放しコナート ・塗装仕上げ ・壁紙張り ・セメント系張り(接着剤)	・()	・合成樹脂塗床 ・ビニル系床材張り	・床コナート直均し仕上げ ・アクリル系アクリル					
			b 種	・仕上げ塗材塗り	・()	・カベツ張り ・防水下地	・タイル張り					
11	耐震改修工事	16. モルタル及びグラウト材	・構造体用モルタル (圧縮強度)									(8.2.12)
			・柱底均しモルタル (無収縮モルタル)									
			・グラウト材 (無収縮グラウト材)									
		17. 鉄骨製作工場	監督員の承諾する工場	Sグレード ・ Hグレード ・ Mグレード ・ Rグレード ・ Jグレード								(8.1.5)
			加工能力条件()									
		18. 鋼材の種類	材質 JIS等の規格品									(8.2.8)
			・ 建築基準法に基づき指定又は認定を受けた構造用鋼材及び鉄鋼									
			・ SS400									
			・ () ・ () ・ ()									
			寸法 図示									
12	耐震改修工事	19. 高力ボルト	トルシア形高力ボルト	指定、認定品	セットの種類	S10T						(8.2.9)
			・ JIS形高力ボルト	JIS B 1186	セットの種類	2種 (F10T)						
			・ 溶融亜鉛メッキ高力ボルト	指定、認定品	セットの種類	1種 (F8T相当)						
		20. 溶接部の検査	外観試験	試験箇所	全数試験	・図示による ()						(8.15.12)
			(参考)「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」			独立行政法人 建築研究所 監修						
			超音波探傷試験(完全溶け込み溶接)									
			・工場溶接	AOQL 4.0% ・2.5%								
			検査水準	第6水準	・()							
			・現場溶接	全数試験								
		21. スタッド	JIS B 1198(頭付きスタッド)									(8.2.11)
13	耐震改修工事	22. スタッド溶接後の試験	軸径	図示による								(8.16.6)
			長さ	図示による								
		23. 耐火被覆の種類及び性能	外観試験	仕上がり高さ及び傾きの試験								(8.18.3)
			打撃曲げ試験									
			種別	性能	使用箇所							
			耐火材吹付け	・1時間 ・30分	図示							
			・吹付けロックワール									
			・	・1時間 ・30分	図示							
		24. スリット	スリットの種類									(8.25.2)
			・完全スリット	・部分スリット								
14	耐震改修工事	25. あと施工アンカー	種類	・金属系アンカー								(8.2.4)
			引っ張り耐力()	せん断耐力()								
			径()	埋込み長さ()	図示							
			セット方式(本体打込み式)									
			接合筋の種類	径	長さ							
			・接着系アンカー	・カプセル型								
			引っ張り耐力()	せん断耐力()								
			径()	埋込み長さ()	図示							
			アンカー筋の種類(異形棒鋼)									
			性能確認試験	・適用する	適用しない							
15	耐震改修工事		穿孔前の埋込配管等の探査									(8.12.4)
			範囲	全て	・図示							
			方法	鉄筋探査機								
			施工確認試験									(8.12.7)
			引張り試験(確認強度)									

施 工 区 分 表														(印を塗りつぶしたものを適用する)	
工 事 内 容				建 築	外 構	植 栽	電 気	電 話	昇 降	給 衛	空 調	ガ ス	黒 板 量	備 考	
機器の基礎	電気関係	配電盤・制御盤の基礎	屋内	○										電 気 と 十 分 協 議 す る こ と	
			屋外	○											
			屋上	○											
		自家発電機の基礎 (アンカーボルトを除く)			○										
		テレビアンテナの基礎 (")			○										
	避雷針の基礎 (")			○											
	機械関係	屋内設備			○								機 械 と 十 分 協 議 す る こ と		
		屋外設備 (架台、アンカーボルト含む)			○										
屋上設備 (架台、アンカーボルト除く)			○												
特記した基礎															
開口部	梁、床、壁 貫通スリーブ	補強を要するもの				○	○	○	○	○	○				
		補強を要しないもの				○	○	○	○	○	○				
	梁、床、壁 貫通部型枠	補強を要するもの	○												
		補強を要しないもの	○												
	軽量鉄骨下地、 壁・天井ボード類の切込み	補強を要するもの	○												
		補強を要しないもの	○												
	埋込型分電盤、 端子盤等の型枠	補強を要するもの	○												
		補強を要しないもの	○												
	上記開口部の補強			○											
	上記開口部の墨出し スリーブの穴埋め (型枠の穴埋めを含む) ○ A フロア器具取付用			○			○	○	○	○	○	○			
点検口	床、壁、天井			○											
ガラリ	外壁面 (ダクト、チャンバーの接続用含む)			○											
	建具取付			○											
	空調用リターン										○				
排気フード	厨房 上記以外		○							○	○	○			
換気扇の取付枠及びアルミパネル				○						○	○	○			
換気扇	壁換気扇 (ウェザーカバー含む)										○				
	天井換気扇 (ベントキャップ含む)										○				
流し台	排水トラップ含む			○											
防油堤	オイルサービスタンの防油堤		○												
			○												
床下水槽のマンホール蓋				○											
屋外配水管	雨水		○												
	汚水、雑配水管									○					
雨水竖樋			○												
身障者用便所手すり				○											
はめ込み形洗面器用カウンター (前板共)				○											
ガスボンベ転倒防止用の鎖												○			
電気配管配線	機械設備機器付属の制御盤以降の配管配線 (接地共)										○				
	機械設備機器付属の制御盤と電源供給及び配管配線						○								
	機械設備自動制御と電気設備盤との電源供給						○								
	機械設備自動制御と電気設備盤との操作回路の渡り配管配線									○					
	天井吊り型 F C U、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチとの渡り配管						○								
	天井吊り型 F C U、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチとの渡り配線									○					
	天井吊り型 F C U、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチ									○					
	天井吊り型 F C U、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチ埋込ボックス						○								
	煙感知器から運動制御盤を経て防煙ダンパー及び排煙口に至る配管配線						○								
	小便器用節水装置制御盤以降の配管配線									○					
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部への電源供給						○								
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部			○											
	自動ドア及び電動シャッターなどの操作スイッチ間の配管配線及び操作スイッチ						○								
	防火扉リリース						○								
	電極棒						○								
パッケージエアコンの配線	配線ビット及び蓋			○											
	別途機器などへの接続						○			○					
	室外機・室内機間の伝送線										○				
	室外機・室内機間の電源渡り線										○				
	室内機・リモコン間の配線										○				
	室内機・リモコン間の配管						○								
	リモコン埋込ボックス						○								
室内機・集中リモコン間の渡り伝送線															
ガス漏れ探知機 (遮断弁連動) ○ A フロア用配線器具											○				
電気錠	電気錠及び通電金具 T E N キー及び制御盤			○			○								
エレベーター出入口三方枠 (金属製) シャワーユニット (バスユニット)				○					○					大理石のみ建築工事	
ガス給湯器リモコン用ケーブル ガス給湯器電線管及びボックス							○				○				
畳工事												○			
黒板工事	下地補強 黒板・白板・掲示板			○								○			
植栽工事						○									

備考	承認覧	工事名称 令和7年度 小長田団地改修工事 (3 棟)	図面名称 改修工事特記仕様書 (4)	
		(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1・20757号 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号	尺度	図面番号 A - 04
			日付 2025年 6 月	

[illegible]





建物概要 3棟

構造・階数	鉄筋コンクリート壁式構造・3階
建築面積	333.21m ²
延床面積	934.86m ²

外部仕上表

種別		改修前	符号	改修後	7/6ミ面台 予定部
屋根		洋瓦葺き	GR	既存瓦撤去の上 ｶﾞﾙﾊﾞﾆｼﾞﾝｸﾞ鋼板横葺きt0.5	
ﾊﾞﾗﾝﾀﾞ	笠木	防水ﾓﾙﾀﾙ鍍仕上げ	X2	水洗いの上 塗膜防水(X-2)密着工法	
〃	立上り	ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水	X2	既存撤去の上 塗膜防水(X-2)密着工法	●
陸屋根	平場(排水溝)・立上	ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水	X2	既存撤去の上 塗膜防水(X-2)密着工法	●
軒裏		ｺﾝｸﾘｰﾄ化粧打放し吹付ﾀｲﾙ仕上げ ※ｱｽﾍﾞｽﾄ含む(見込)	W2	水洗いの上 軒天塗替え用仕上塗材〔つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾊﾟｲﾝﾄ〕	
外壁	壁	ｺﾝｸﾘｰﾄ化粧打放し吹付ﾀｲﾙ仕上げ ※ｱｽﾍﾞｽﾄ含む	W1	水洗いの上 可とう形改修塗材RE[ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞｼﾘｺﾝ(ﾊﾙｽ)](ﾛｰﾗｰ)	済み
〃	巾木	ﾓﾙﾀﾙ金網仕上げ	Z	既存のまま	
〃	目地	ｼｰﾘﾝｸﾞ	O2	既存撤去の上 シｰﾘﾝｸﾞ 打25×10(MS-2)	●
ｶﾞｰﾅｰ		ﾓﾙﾀﾙ鍍仕上げ	Z	既存のまま	
犬走り		ﾓﾙﾀﾙ鍍仕上げ	Z	既存のまま	
建具		ｱﾙﾐｻｯｼ	Z・C1	既存のまま・周囲:ｼｰﾘﾝｸﾞ 打替え10×10(MS-2)	●
〃	窓面台	ｱﾙﾐ製	Z・C1	既存のまま・周囲:ｼｰﾘﾝｸﾞ 打替え10×10(MS-2)	●
〃	面格子	無し			
〃	〃	鋼製ﾄﾞｱ	DPR	DP塗替え(両面)枠共	
植	壁植	VP100(ｶﾗｰ)	T1	下地処理の上 ｳﾚﾀﾝ塗装	
〃	〃	VP75(ｶﾗｰ)	T1	下地処理の上 ｳﾚﾀﾝ塗装	
〃	軒植	塩ビ製箱植 前高165	T2	既存撤去の上 内植A=120新設(落ち葉除け付)	
検査号標		ｽﾃﾝﾚｽ製 1,000×450(両妻)	Y	取外し・再取付	
金物	ﾌﾞﾚｯｷﾝｸﾞﾏｽﾄ	垂鉛ﾏｯｷﾞ鋼管φ33	Z	既存のまま	
〃	受金物	垂鉛ﾏｯｷﾞﾊﾟﾝﾄ	Z	既存のまま	
階段室	屋根	ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水	X2	既存撤去の上 塗膜防水(X-2)密着工法	●
〃	〃	ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水一部撤去済み	X2	水洗いの上 塗膜防水(X-2)密着工法	
〃	ｽﾗﾌﾞ下	ｺﾝｸﾘｰﾄ化粧打放し吹付ﾀｲﾙ仕上げ ※ｱｽﾍﾞｽﾄ含む	W2	水洗いの上 軒天塗替え用仕上塗材〔つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾊﾟｲﾝﾄ〕	済み
〃	壁	ｺﾝｸﾘｰﾄ化粧打放し吹付ﾀｲﾙ仕上げ ※ｱｽﾍﾞｽﾄ含む(見込)	W1	水洗いの上 可とう形改修塗材RE[ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞｼﾘｺﾝ(ﾊﾙｽ)](ﾛｰﾗｰ)	
〃	巾木	H=100 化粧目地切	Z	既存のまま	
〃	踊場	防水ﾓﾙﾀﾙ金網の上防滑仕上げ(木履)	Z	既存のまま	
〃	蹴上	防水ﾓﾙﾀﾙ金網仕上げ	Z	既存のまま	
〃	踊場	防水ﾓﾙﾀﾙ金網の上防滑仕上げ(木履)目地切り	Z	既存のまま	
〃	段鼻	ﾌｨﾅｼｮﾝﾀｲﾙ W=60	Z	既存のまま	
〃	金物	ｽﾃﾝﾚｽ製ｸﾗｯﾌﾟ	Z	既存のまま	
〃	〃	ｽﾃﾝﾚｽ製ﾏﾝﾄﾙ&ﾙｰﾏ(釦付)	Z	既存のまま	
〃	〃	ｽﾃﾝﾚｽ製手摺	Z	既存のまま	
〃	〃	ｽﾃﾝﾚｽ製格柵示板	Y	取外し・再取付	
〃	〃	集合郵便受け(6戸用)	Y	取外し・再取付	
〃	〃	ｽｲｯﾁ・ﾌﾞﾗﾝｸﾞﾌﾟﾚｰﾄ	Z	既存のまま	
〃	排水溝(平場・立上)	防水ﾓﾙﾀﾙ W=100	Z	既存のまま	
〃	消火器表示板	塩ビ製	▼	撤去 新設	
〃	目地	ｼｰﾘﾝｸﾞ	O4	既存撤去の上 シｰﾘﾝｸﾞ 打15×10(MS-2)	●
〃	〃	ｼｰﾘﾝｸﾞ	O5	既存撤去の上 シｰﾘﾝｸﾞ 打20×10(MS-2)	●
ﾊﾞﾗﾝﾀﾞ	屋根	ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水	X1	既存撤去の上 塗膜防水(X-1)絶縁工法	●
〃	ｽﾗﾌﾞ下	ｺﾝｸﾘｰﾄ化粧打放し吹付ﾀｲﾙ仕上げ ※ｱｽﾍﾞｽﾄ含む(見込)	W2	水洗いの上 軒天塗替え用仕上塗材〔つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾊﾟｲﾝﾄ〕	
〃	壁	ｺﾝｸﾘｰﾄ化粧打放し吹付ﾀｲﾙ仕上げ ※ｱｽﾍﾞｽﾄ含む(見込)	W1	水洗いの上 可とう形改修塗材RE[ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞｼﾘｺﾝ(ﾊﾙｽ)](ﾛｰﾗｰ)	
〃	巾木	H=100 化粧目地切	X2	水洗いの上 塗膜防水(X-2)密着工法	
〃	床	防水ﾓﾙﾀﾙ鍍仕上げ(木履)目地切り	X2	水洗いの上 塗膜防水(X-2)密着工法	
〃	金物	ｱﾙﾐ製物干し金物	Y	取外し・再取付	
〃	〃	ｱﾙﾐ製手摺(1Fのみ扉付)	Z	既存のまま	
〃	〃	ｽﾃﾝﾚｽ製手摺	Z	既存のまま	
〃	〃	2・3Fｽﾃﾝﾚｽ製避難ﾊｯﾁ	Z	既存のまま	
〃	平場(排水溝)・立上	防水ﾓﾙﾀﾙ W=100	X2	水洗いの上 塗膜防水(X-2)密着工法	
その他	ﾙｰﾌﾄﾚｲﾝ		RD	既存撤去の上 改修用ﾄﾞﾚｲﾝ新設	
〃	ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚｲﾝ		DT	ﾄﾞﾚｲﾝﾀｰﾐﾅﾙﾓｼﾞﾈﾘ	
〃	天井換気孔	塩ビ製	Z	既存のまま	
〃	ｽﾃﾝﾚｽ製ﾌｫｰﾄﾞ		Z	既存のまま	
〃	ﾊﾞﾝﾁｬﾚｰﾀﾞ	鋼製	DP	DP塗り	
〃	〃	塩ビ製	Z	既存のまま	
〃	ﾊﾞﾝﾄﾞｷｬｯﾌﾟ	塩ビ製	Z	既存のまま	
〃	空調室外機		Z	既存のまま	
〃	衛星ｱﾝﾅﾅ(CS・BS)		Sa	取外し再取付(受信調整)	
〃	設備ﾎﾞｯｸｽ	ｽﾃﾝﾚｽ製	Z	既存のまま	
〃	〃	銅板製	DP	DP塗り	
〃	ｶﾞｽ配管(SGP)	垂鉛ﾏｯｷﾞ	DP	DP塗り	
〃	照明器具	壁掛け	X	撤去・LED新設	
〃	〃	天井直付け	X	撤去・LED新設	
〃	電気設備	防水型ｺﾝｾﾝﾄ・防水型ﾌｧｸﾄﾚｯﾄ	Z	既存のまま	
〃	電線保護管	塩ビ製	DP	DP塗り	
〃	設備受け金物	垂鉛ﾏｯｷﾞ	DP	DP塗り	
〃	〃	ｽﾃﾝﾚｽ製金物	Z	既存のまま	

備考

特記なき限り下記の通りとする。

注1) 建具周囲は全てｼｰﾘﾝｸﾞ 打替とする。

注2) 鉄部は全てDP塗替えとする。

注3) ｱﾙﾐ・ｽﾃﾝﾚｽ以外の外部設備配管、収納函は全てDP塗替えとする。

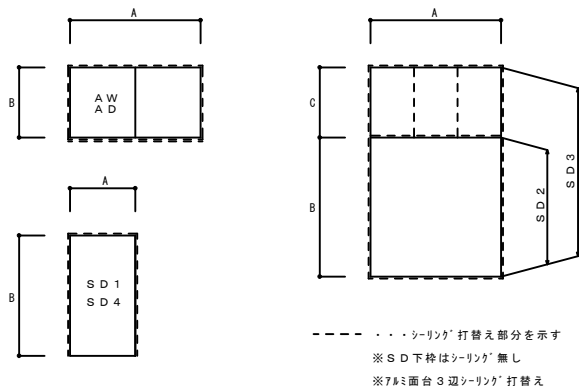
注4) 吹付ﾀｲﾙ仕上塗材が付着しているｼｰﾘﾝｸﾞ 材等を除去した物はｱｽﾍﾞｽﾄ含有材(見込) [ﾚﾊﾞﾙ3]として処分すること。

注5) ※ｱｽﾍﾞｽﾄ含む(見込) 記載は、事前の分析で含有であった仕上材と同一のか所を見込んで含有扱いとする。

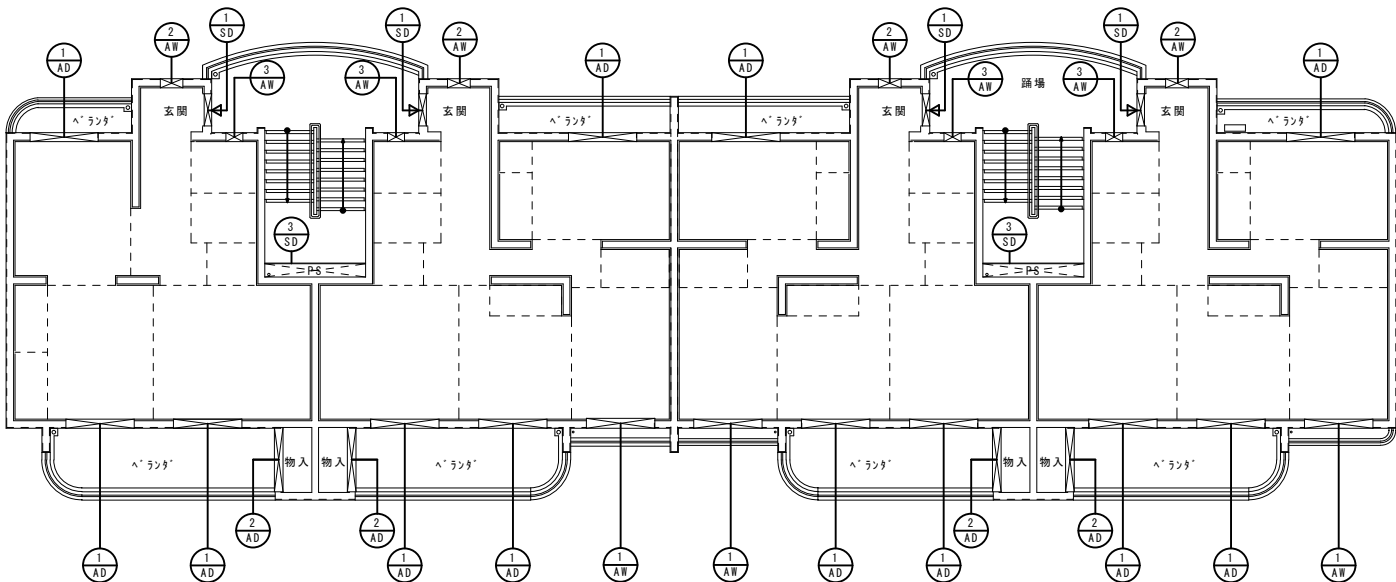
注6) ｱｽﾍﾞｽﾄ調査予定の ● 印の内から、同種の仕上材で3か所(1検体)を任意に採取・分析すること。

3棟 建具リスト

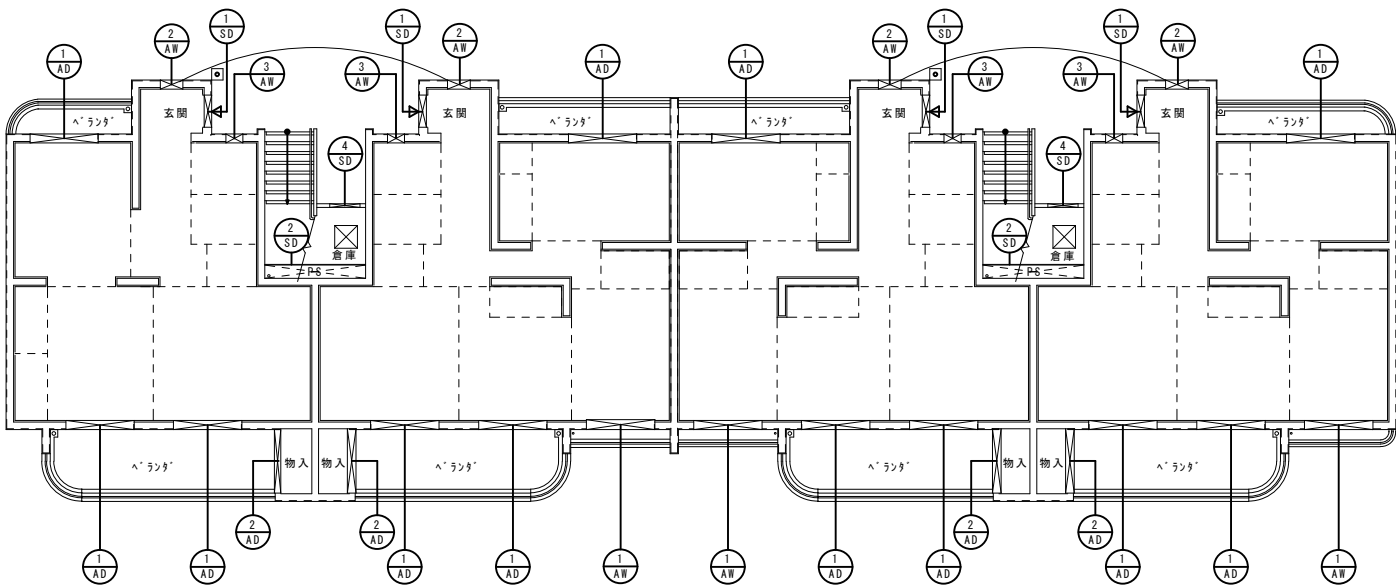
記号	寸法				7/6ミ面台 取外・取付 番付子 網戸	数量	ｼｰﾘﾝｸﾞ 打替 (MS-2)	DP塗替 (両面)
	A	×	B	C				
AD-1	1,800	×	1,800		○		36	○
AD-2	1,620	×	1,800		○		12	○
AW-1	1,800	×	915		○		9	○
AW-2	600	×	600		○	○	12	○
AW-3	450	×	600		○	○	12	○
SD-1	850	×	1,900				12	○
SD-2	2,500	×	2,300				2	○
SD-3	2,500	×	2,300	1,700			2	○
SD-4	800	×	1,100				2	○



※S D 下枠はｼｰﾘﾝｸﾞ 無し
※7/6ミ面台3辺ｼｰﾘﾝｸﾞ 打替え

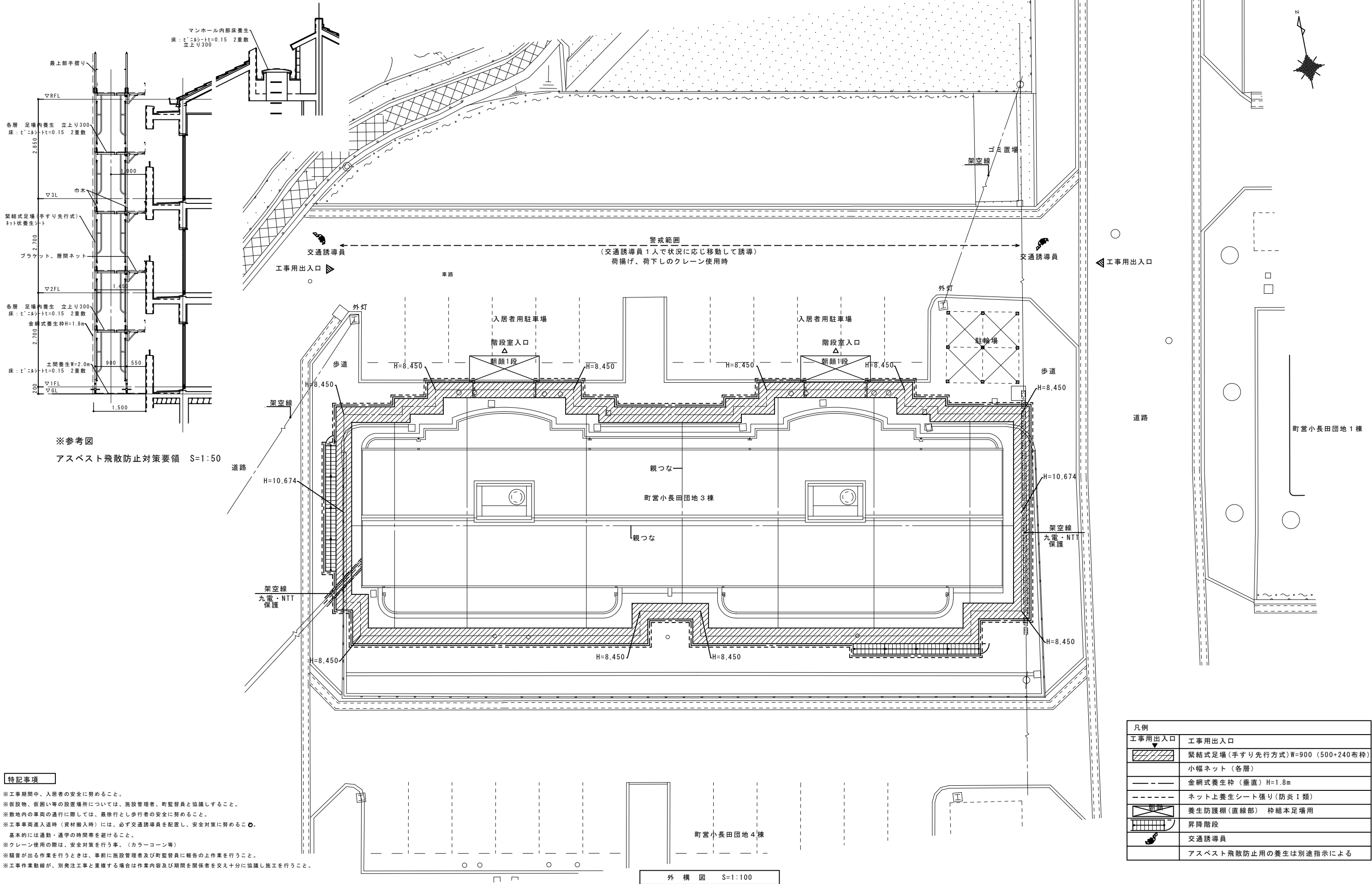


2階～3階 建具キープラン S=1/100



1階 建具キープラン S=1/100

特記事項		(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大田登録第223559号	工事名称 令和7年度 小長田団地改修工事(3棟)	図面名称 仕上表 建具表	縮尺 A1:S=1/100 A3:S=1/200	製図年月日 2025年06月			A-08
						所長	検図	作図	

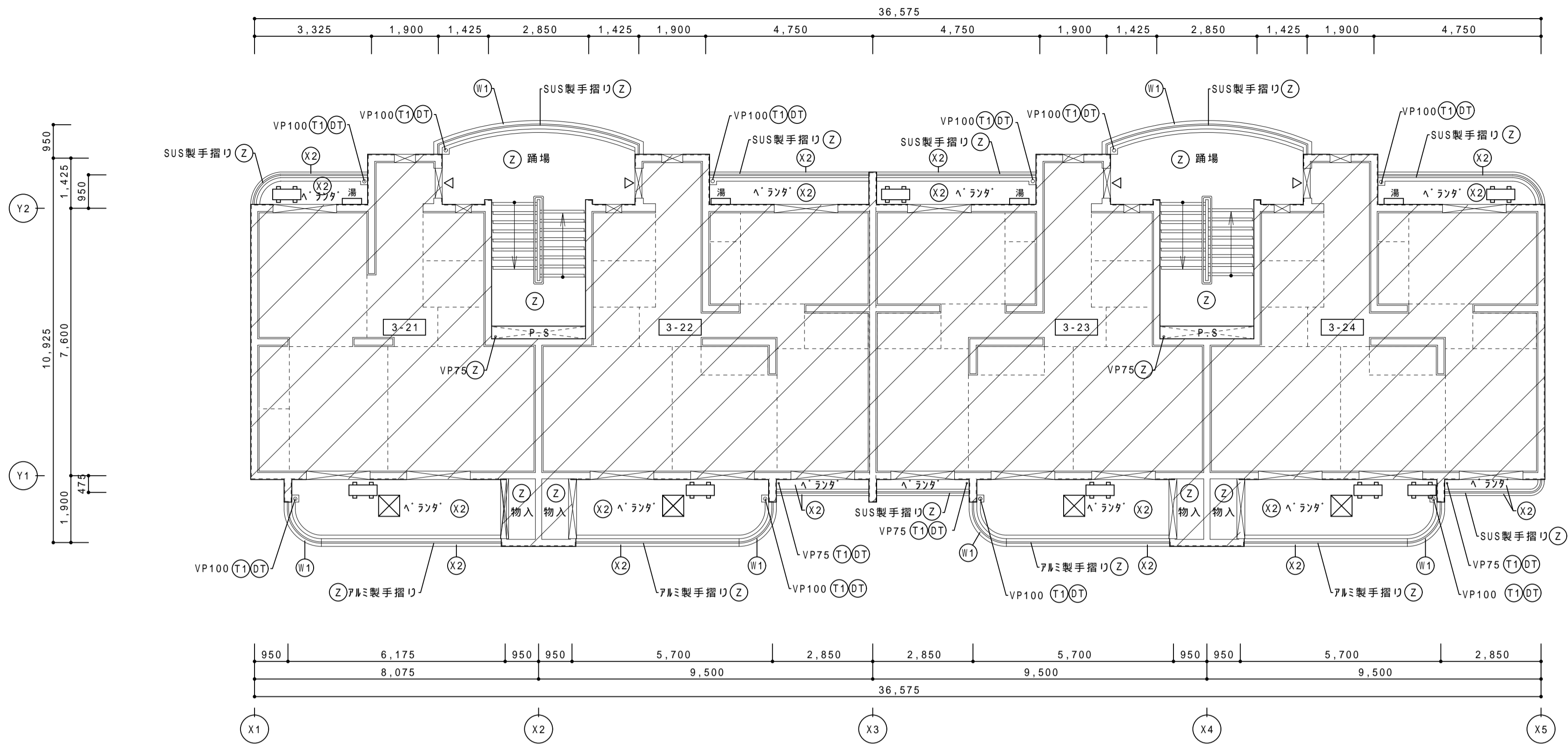
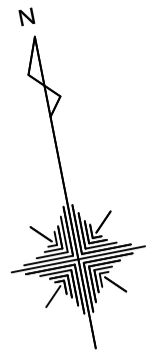


特記事項

※工事期間中、入居者の安全に努めること。
※仮設物、仮囲い等の設置場所については、施設管理者、町監督員と協議すること。
※敷地内の車両の通行に際しては、最後行とし歩行者の安全に努めること。
※工事車両進入退場（資材搬入時）には、必ず交通誘導員を配置し、安全対策に努めること。
基本的には通勤・通学の時間帯を避けること。
※クレーン使用の際は、安全対策を行う事。（カラーコーン等）
※騒音が出る作業を行うときは、事前に施設管理者及び町監督員に報告の上作業を行うこと。
※工事作業動線が、別発注工事と重複する場合は作業内容及び期間を関係者を交え十分に協議し施工を行うこと。

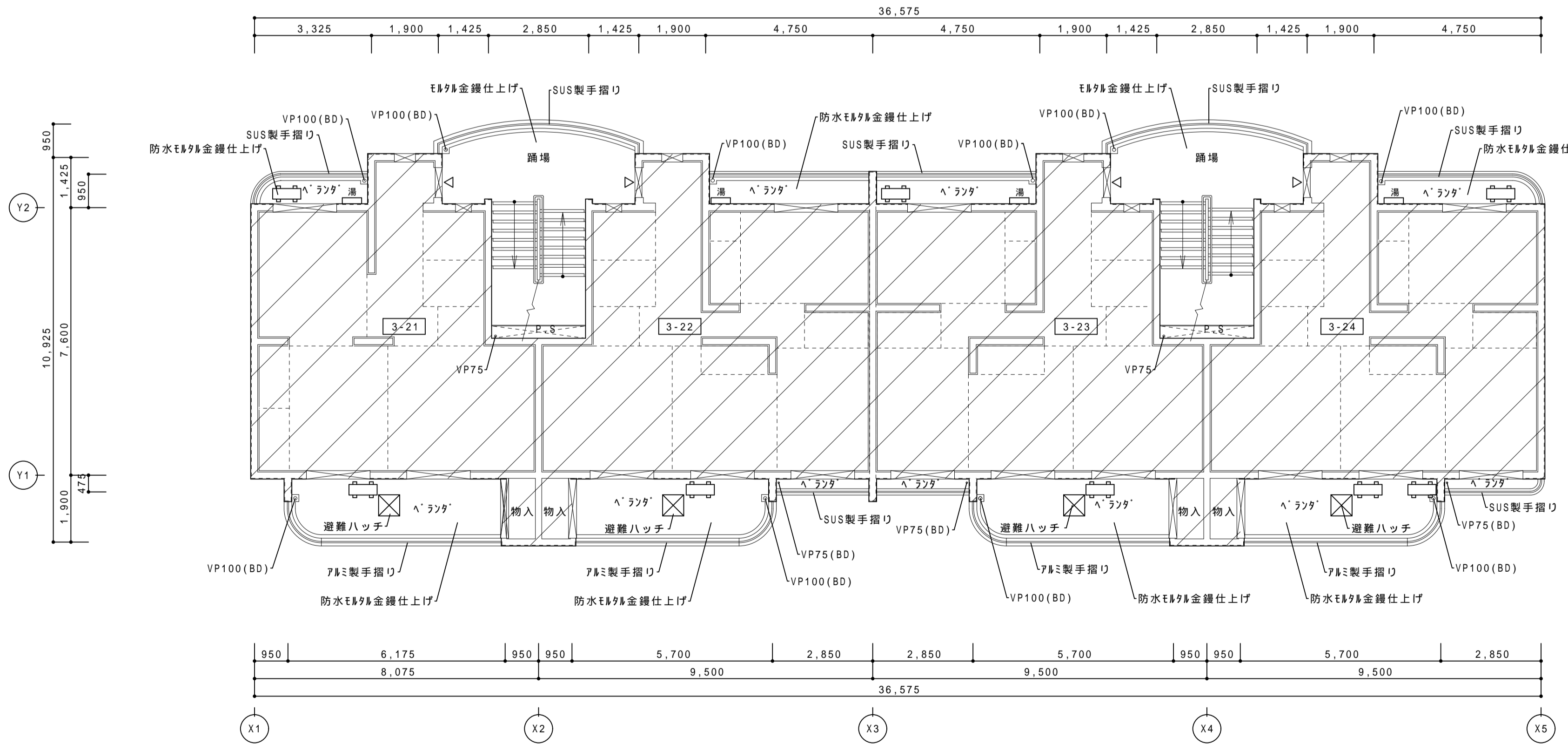
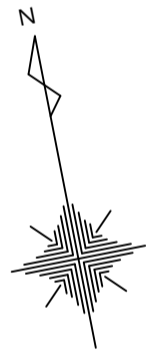
凡例	
工事用出入口	工事用出入口
	緊結式足場（手すり先行方式）W=900（500+240布枠）
	小幅ネット（各層）
	金網式養生枠（垂直）H=1.8m
	ネット上養生シート張り（防災Ⅰ類）
	養生防護柵（直線部） 枠組本足場用
	昇降階段
	交通誘導員
	アスベスト飛散防止用の養生は別途指示による

改修後 2階平面図 S=1:100

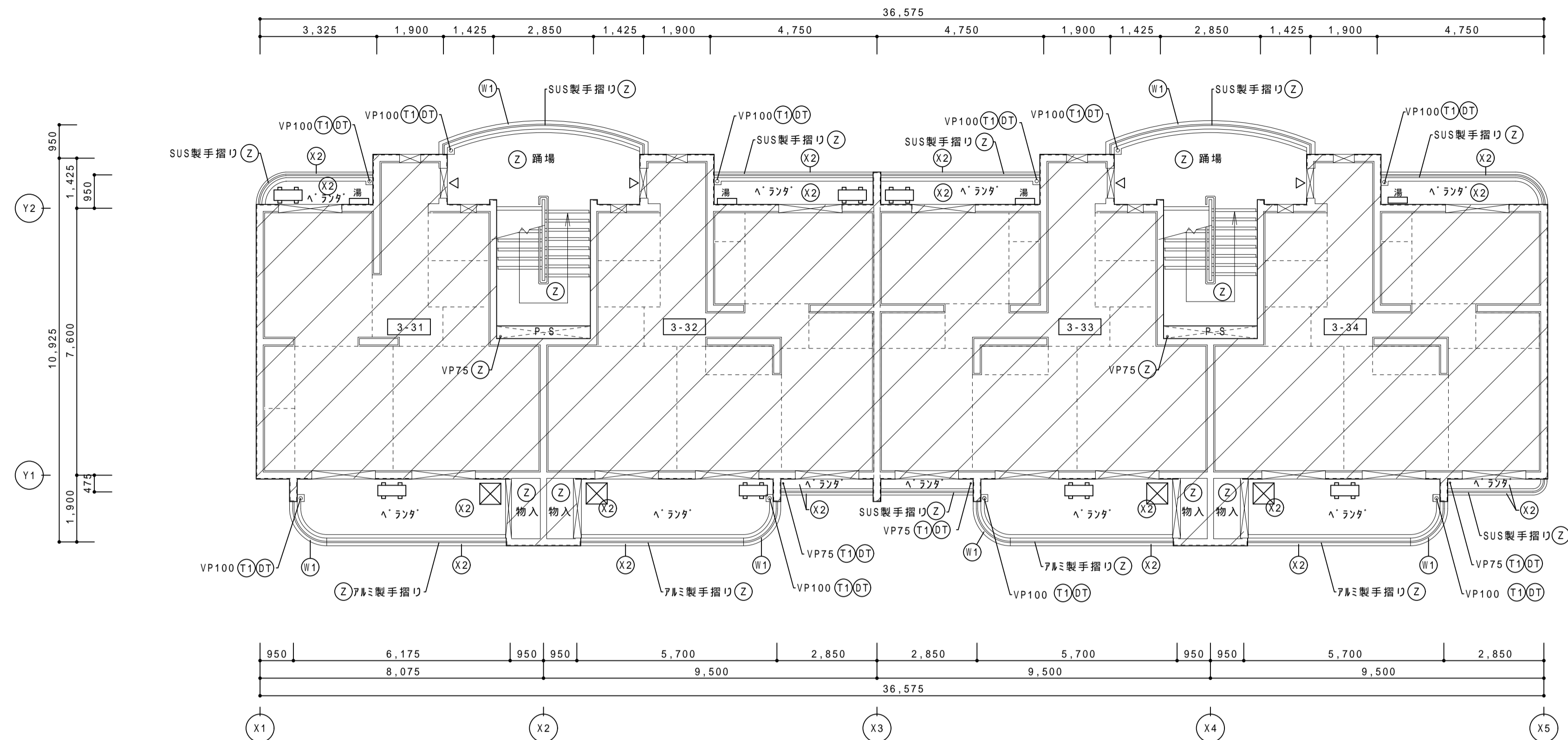
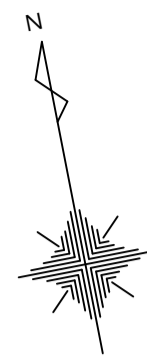


凡例	
(X2)	水洗いの上 塗膜防水(X-2)密着工法
(T1)	下地処理の上 珪藻土塗装
(OT)	ドレンターミナル付塗り
(W1)	水洗いの上 可とう形改修塗材RE[R12'リット'シロコシ(R&S)](D-ラー)
(Z)	既存のまま

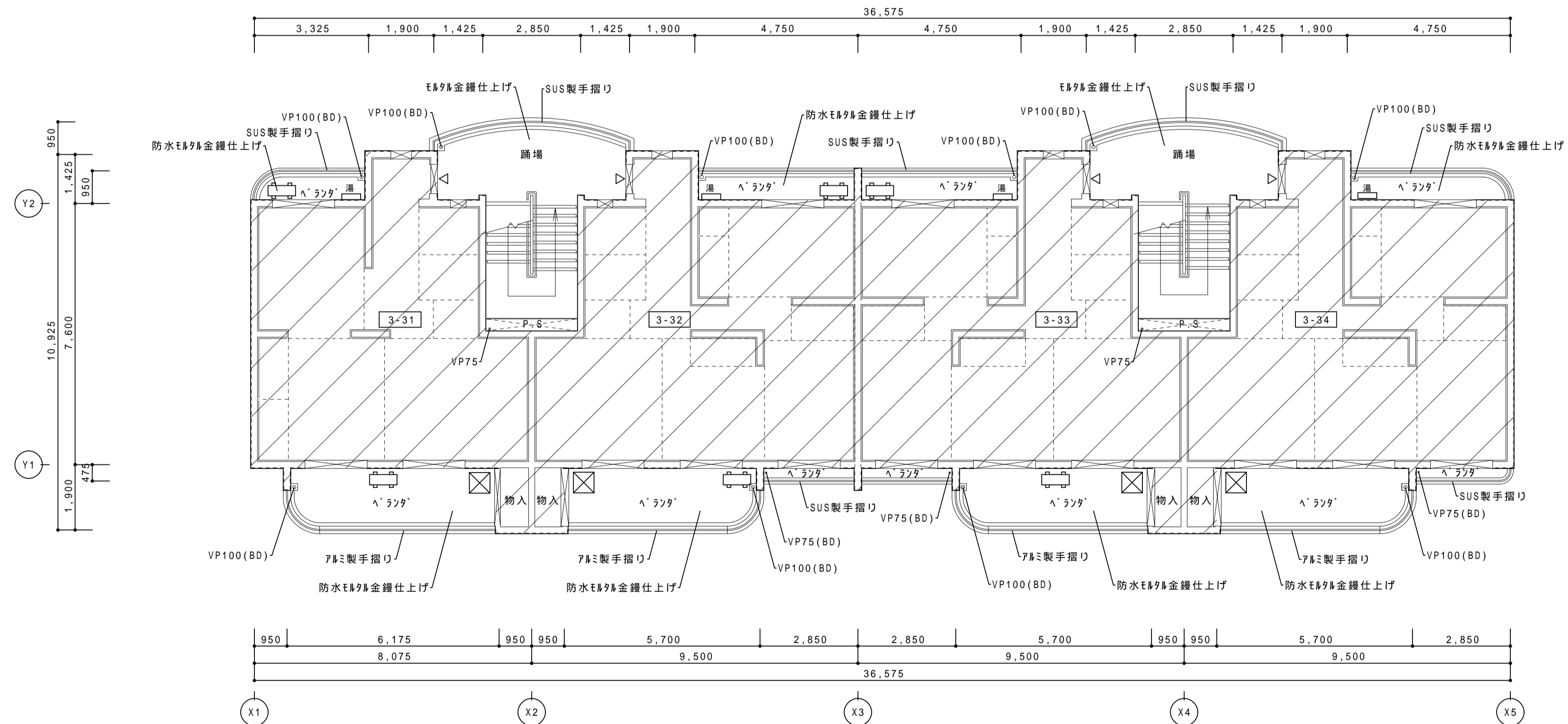
改修前 2階平面図 S=1:100



凡例	
	空調室外機
	ガス給湯器
	消火器表示板
	避難ハッチ

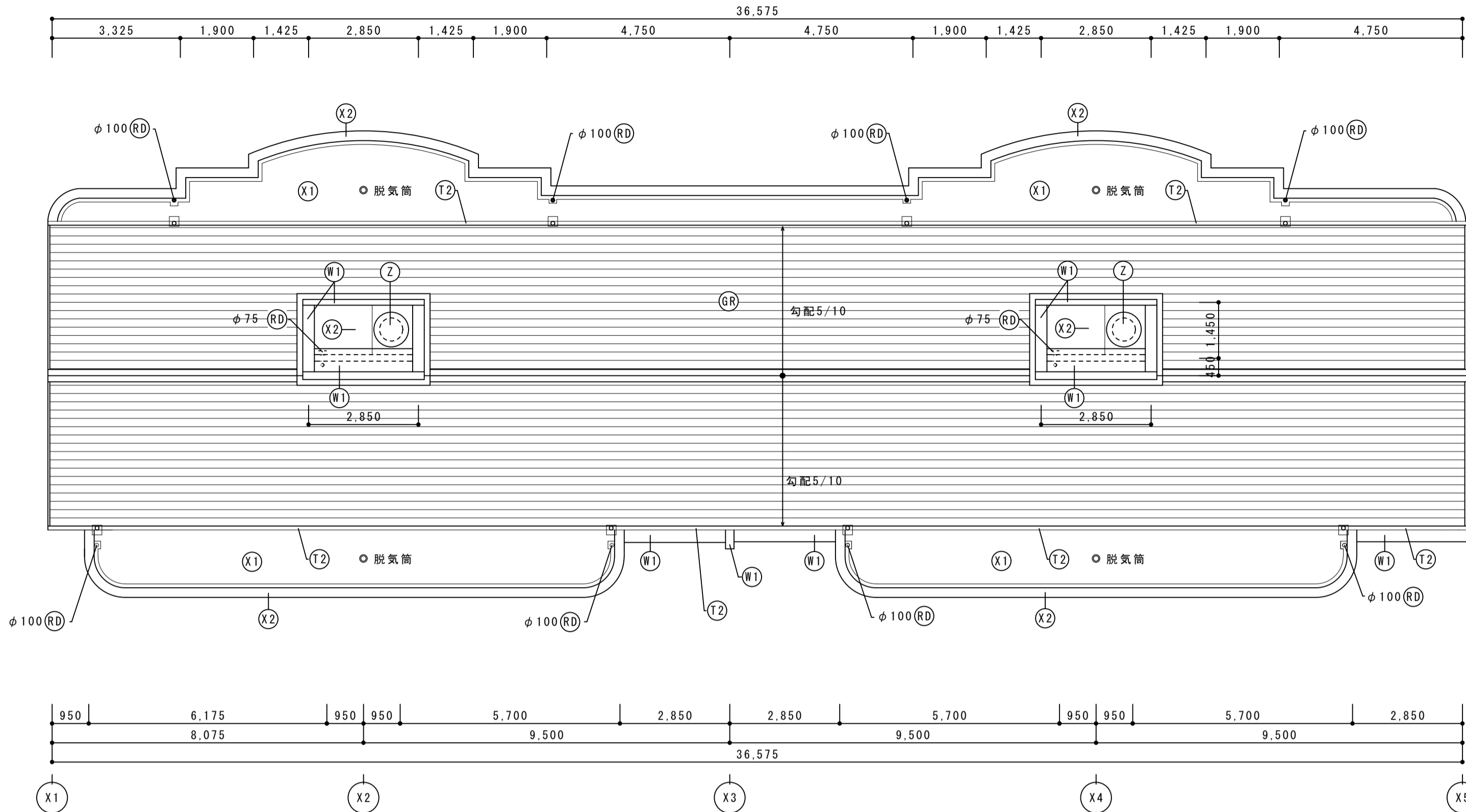
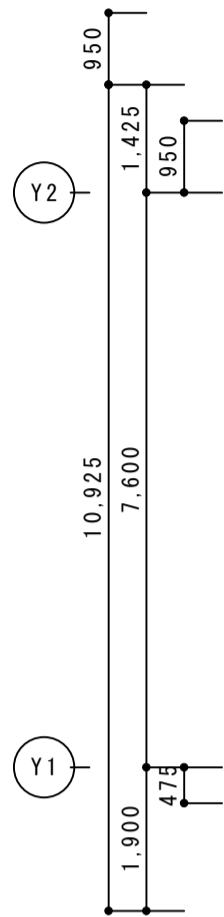
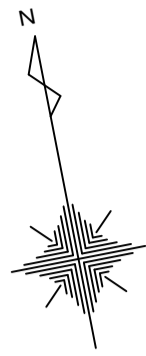


凡例	
(X2)	水洗いの上 塗膜防水(X-2)密着工法
(T1)	下地処理の上 ウレタン塗装
(D7)	ドレインテープ® 貼り渡し
(E1)	水洗いの上 可とう形改修塗材RE【ハイテッドシリコン(ハルスイ)】(ローラー)
(Z)	既存のまま



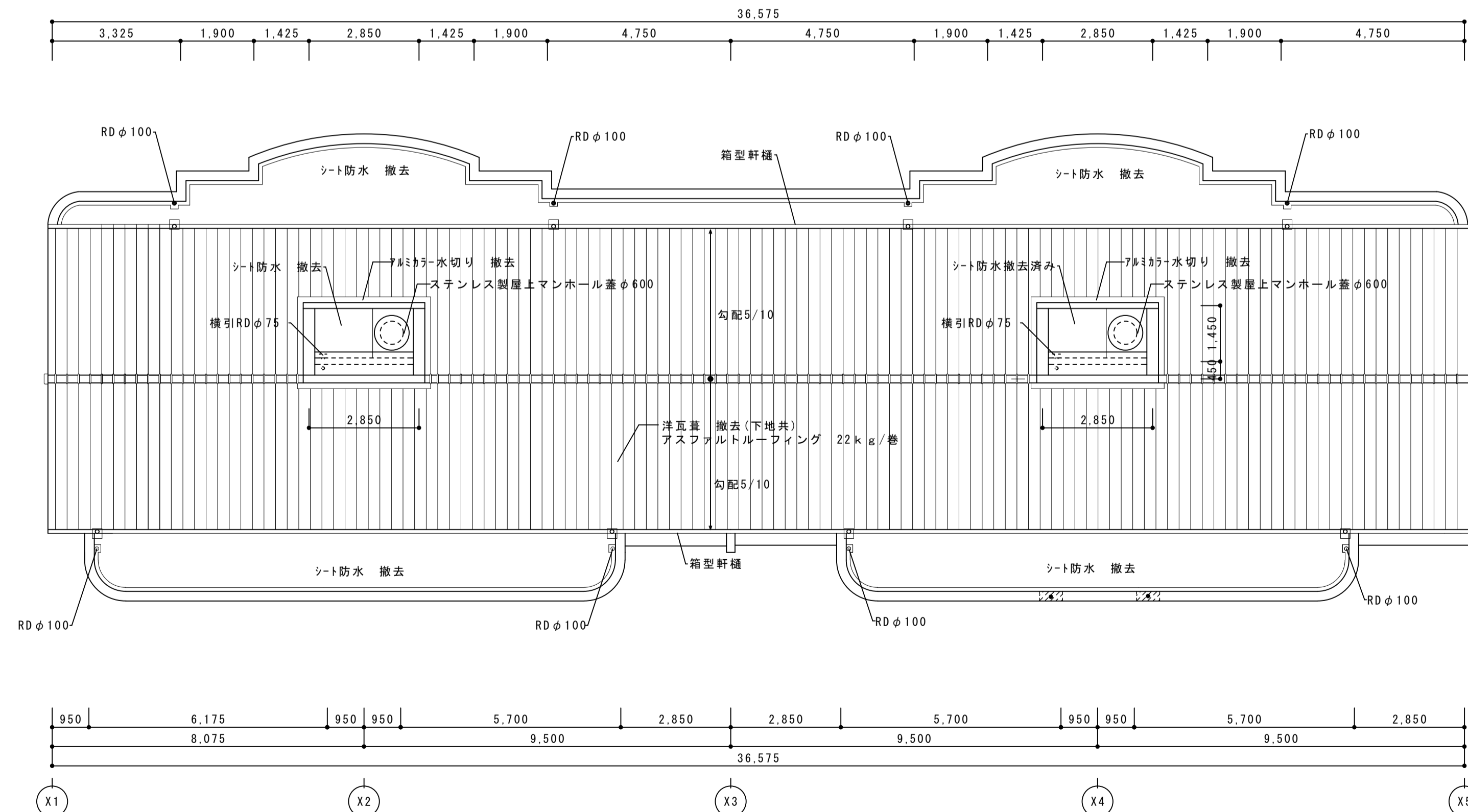
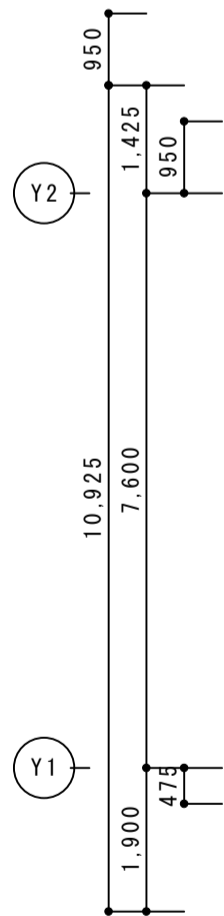
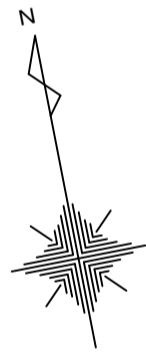
凡例	
	空調室外機
消 	ガス検漏器
	消火器表示板
	避難ハッチ

改修後 屋根伏図 S=1:100

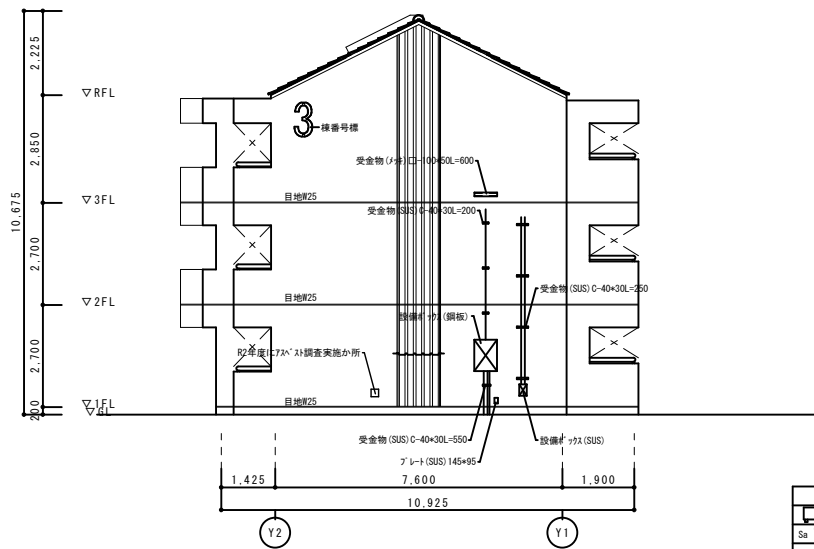
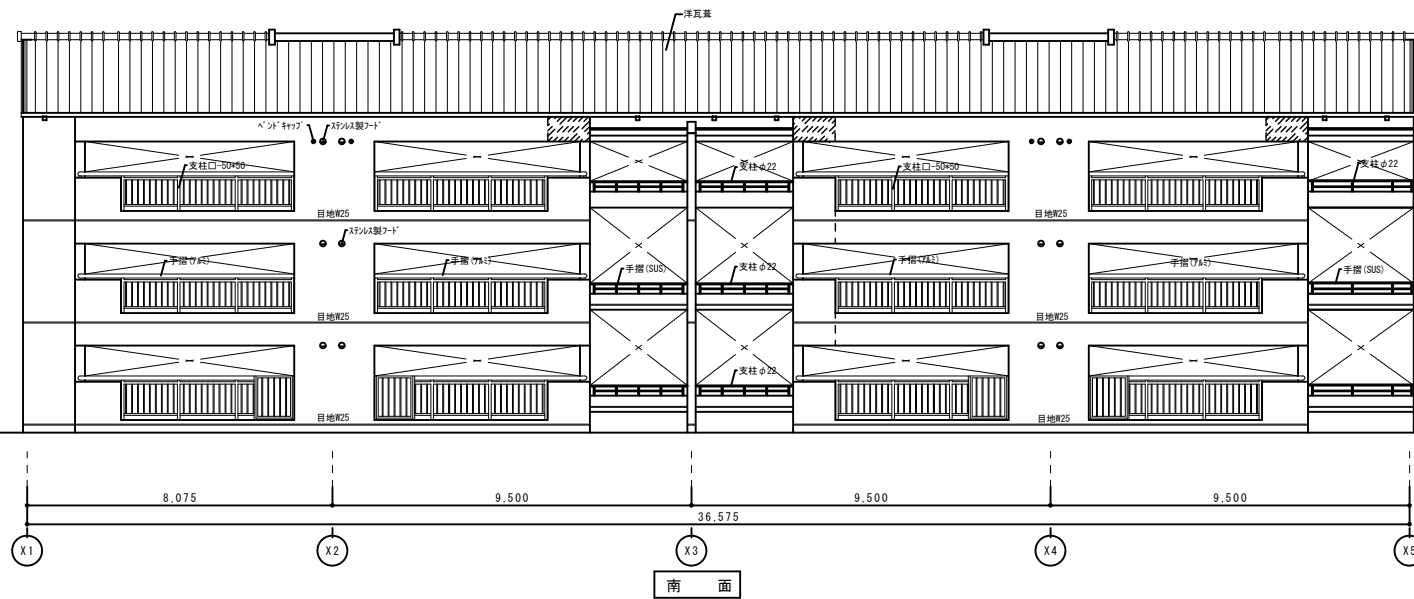
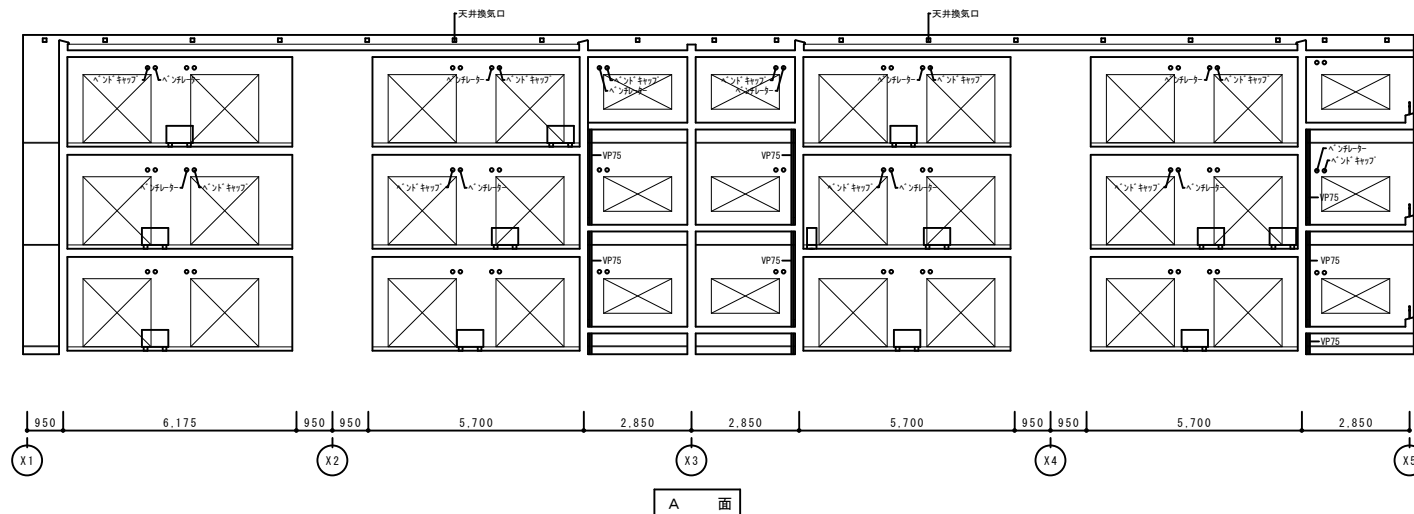
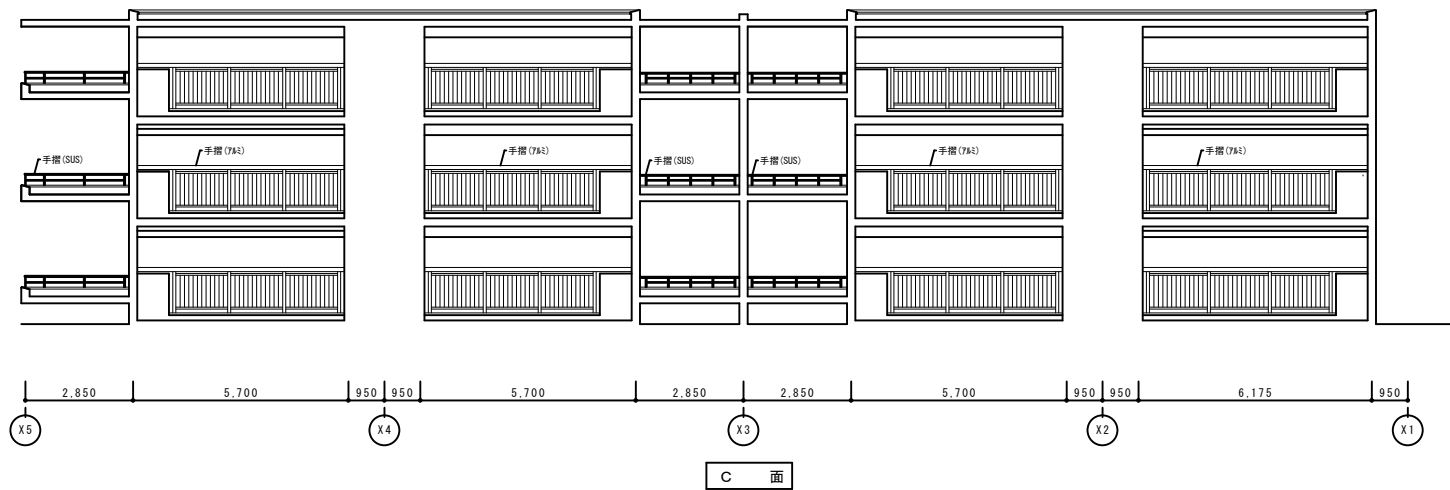
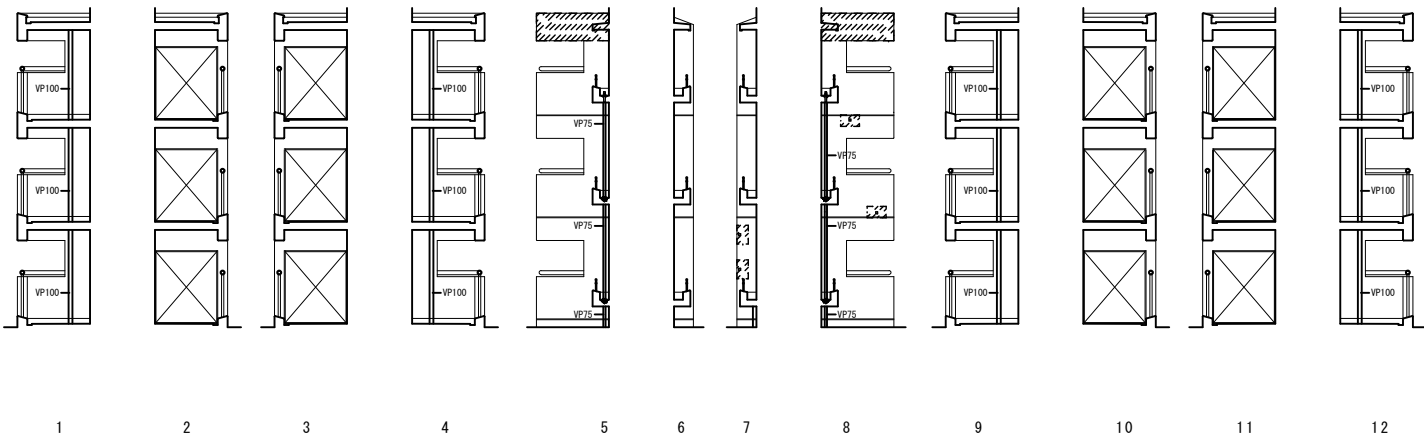
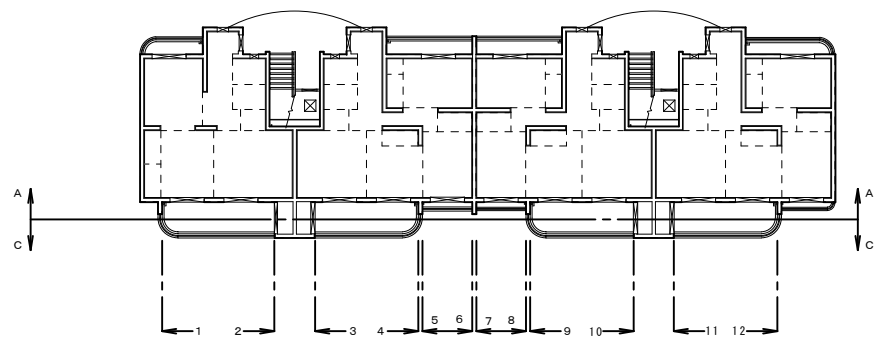


凡例	
(GR)	既存瓦撤去の上 ガルハナリ鋼板横置きt0.5
(T2)	既存撤去の上 内樋A=120新設(落ち葉除け付)
(X1)	水洗いの上 塗膜防水(X-1)絶縁工法
(X2)	水洗いの上 塗膜防水(X-2)密着工法
(RD)	撤去の上 改修用ドレイン新設
(W1)	水洗いの上 可とう形改修塗材RE[niフ'リット'シリコン(n&s)](ローラー)
(Z)	既存のまま

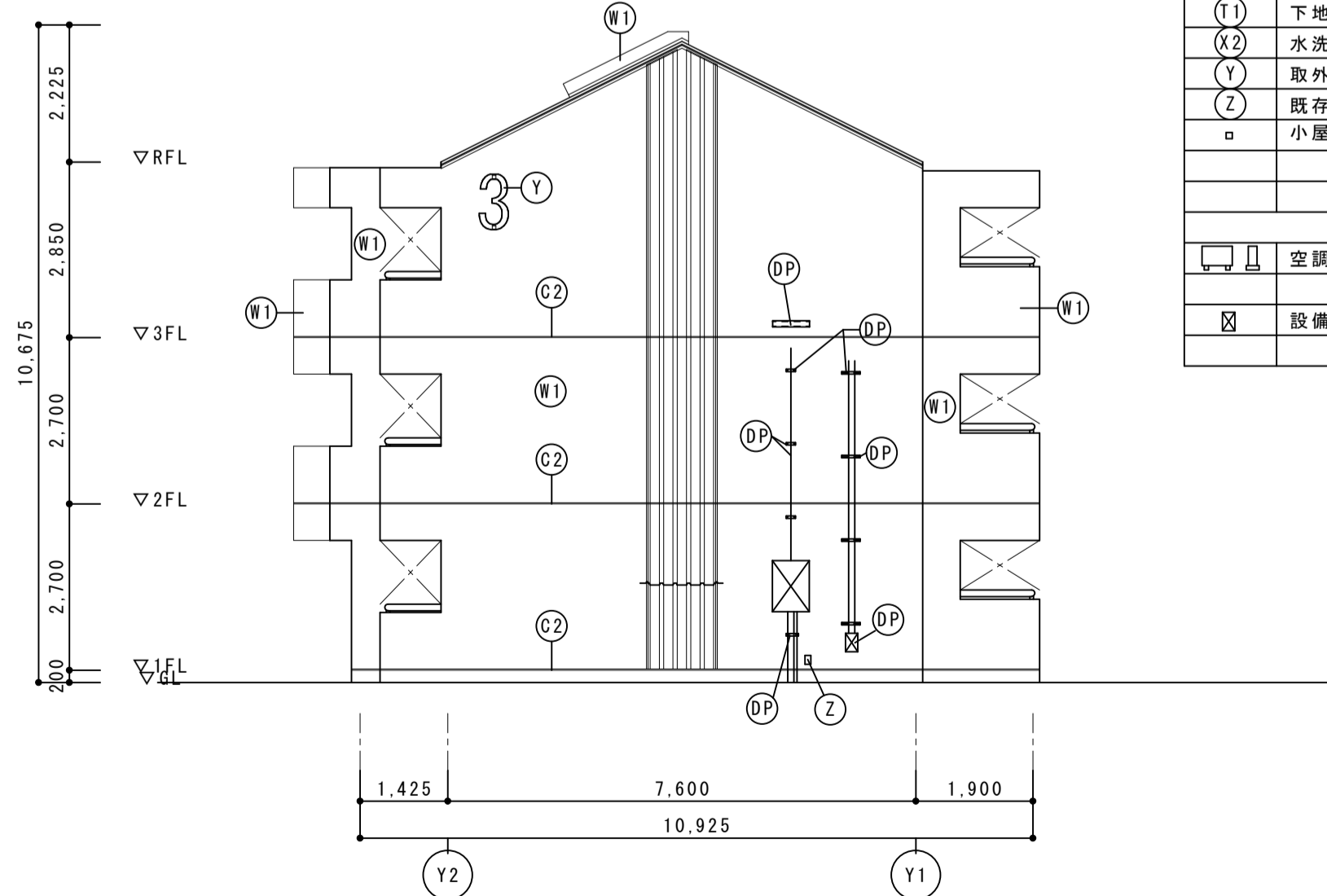
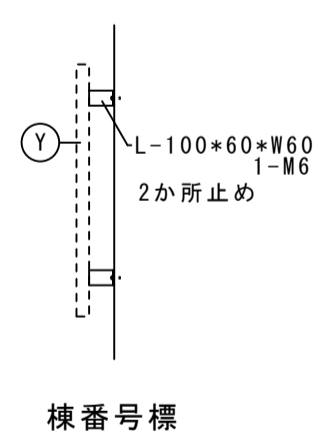
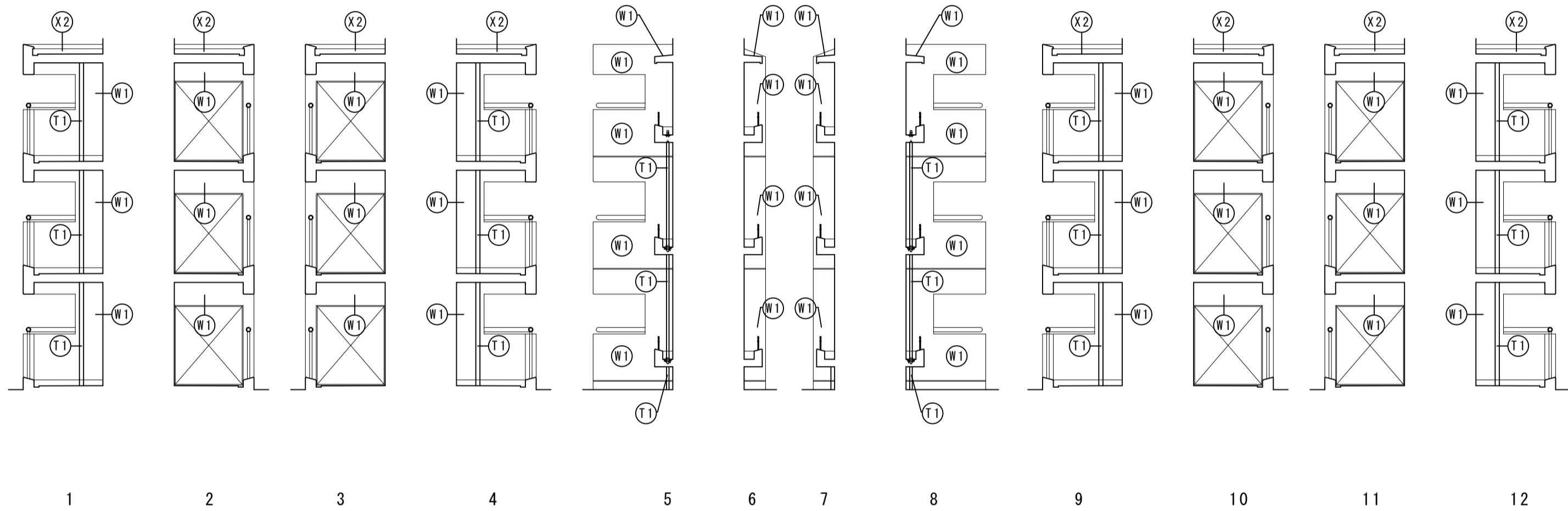
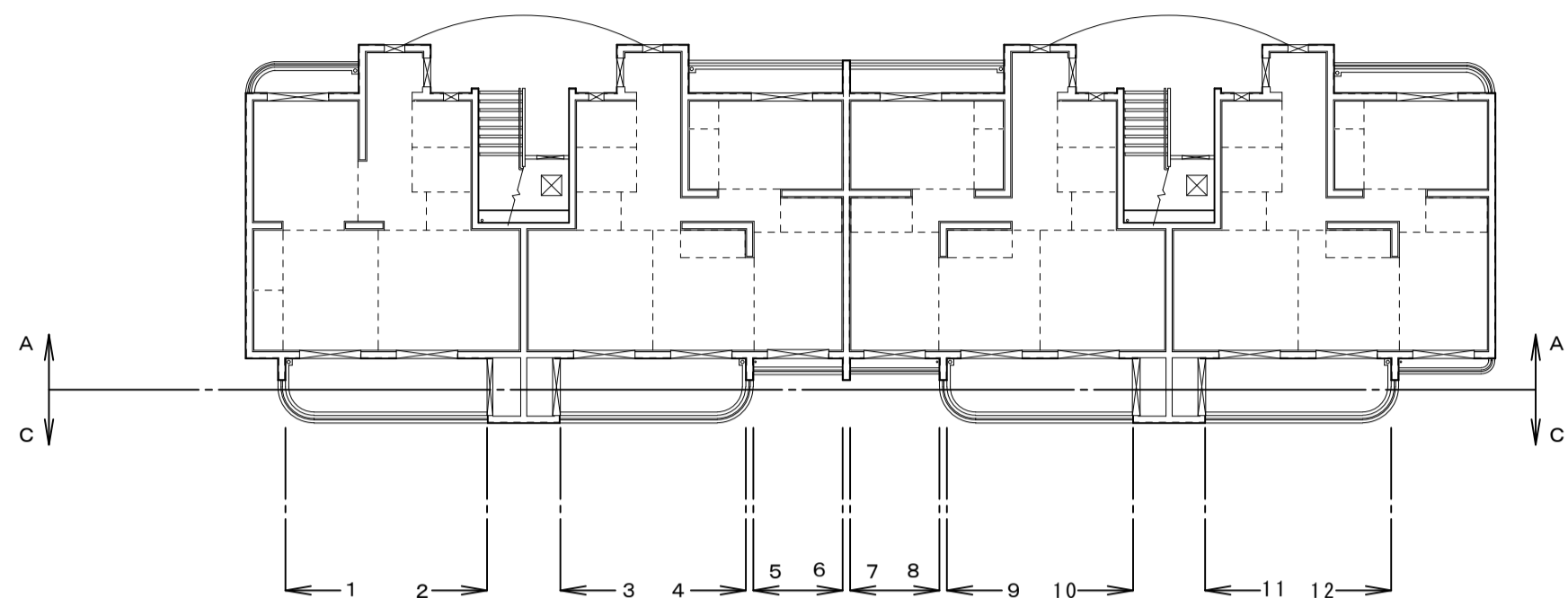
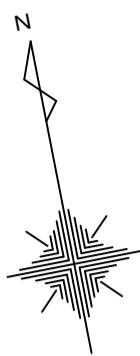
改修前 屋根伏図 S=1:100



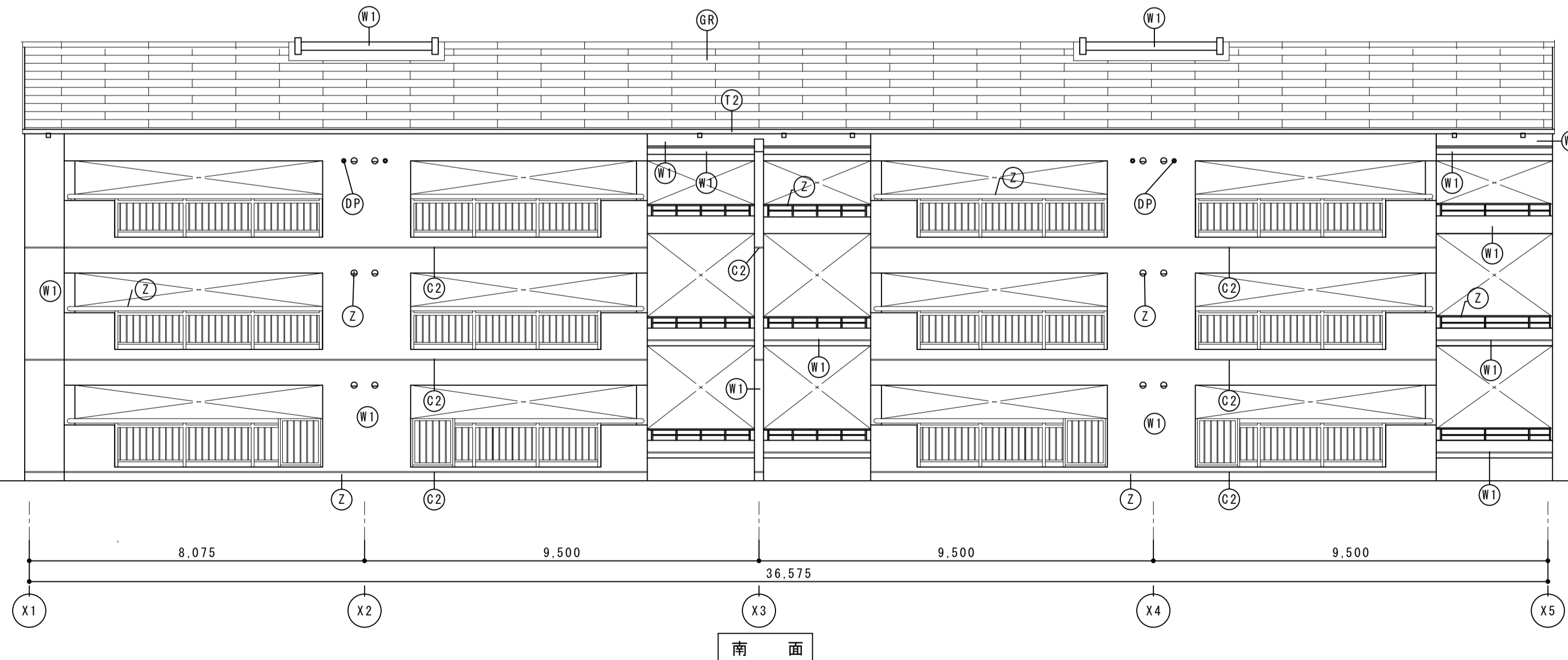
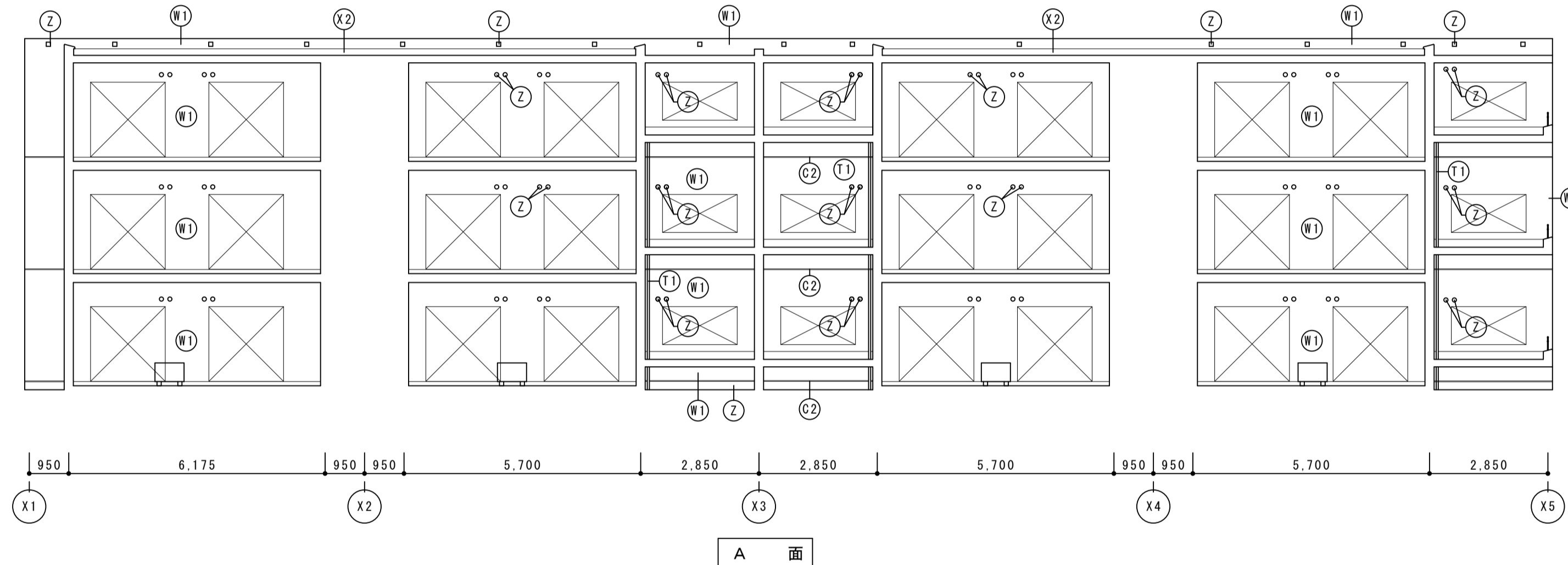
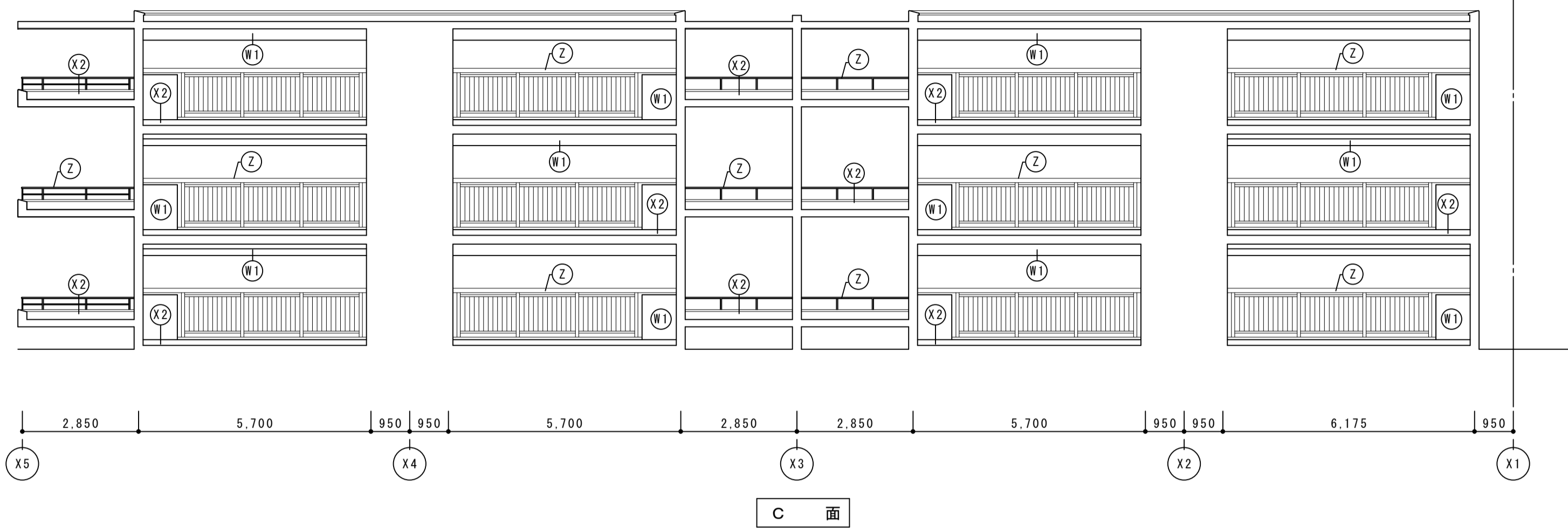
凡例	
(C)	屋上マンホール
	既存塗膜剥離 + 下地調整(C-2)

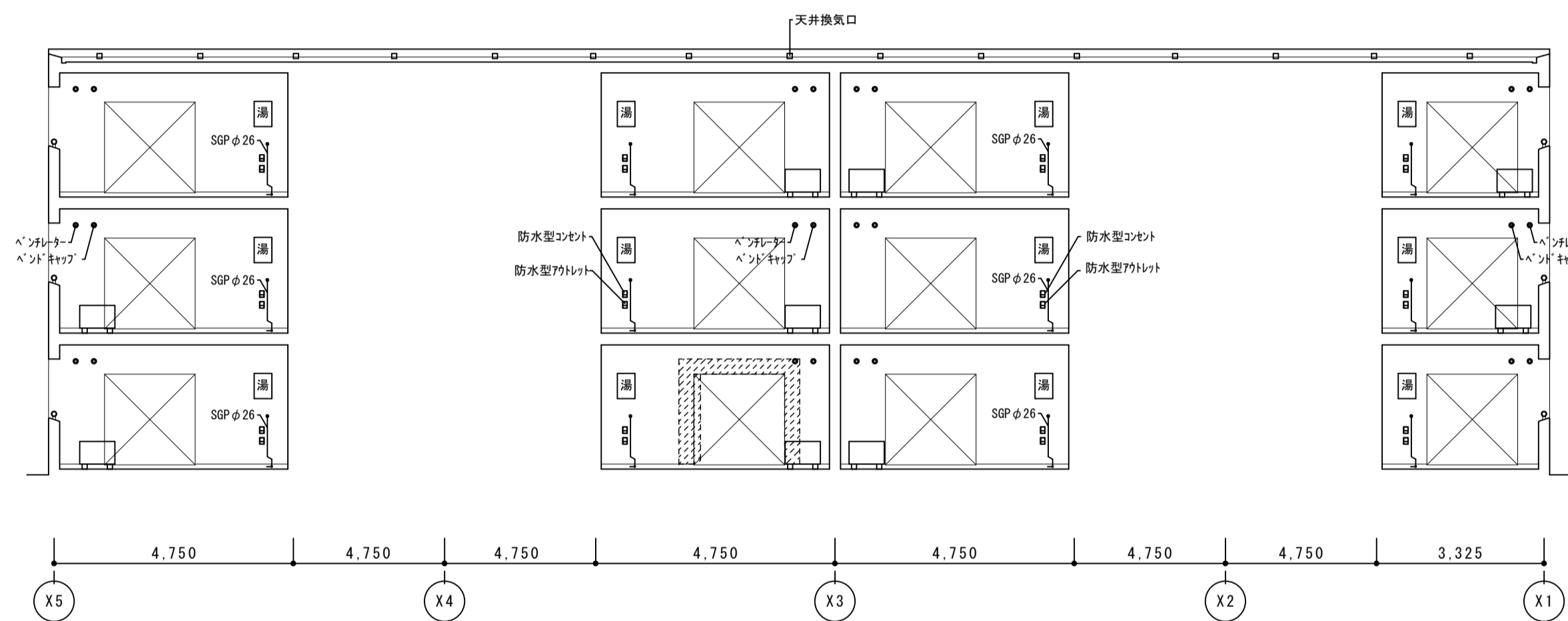
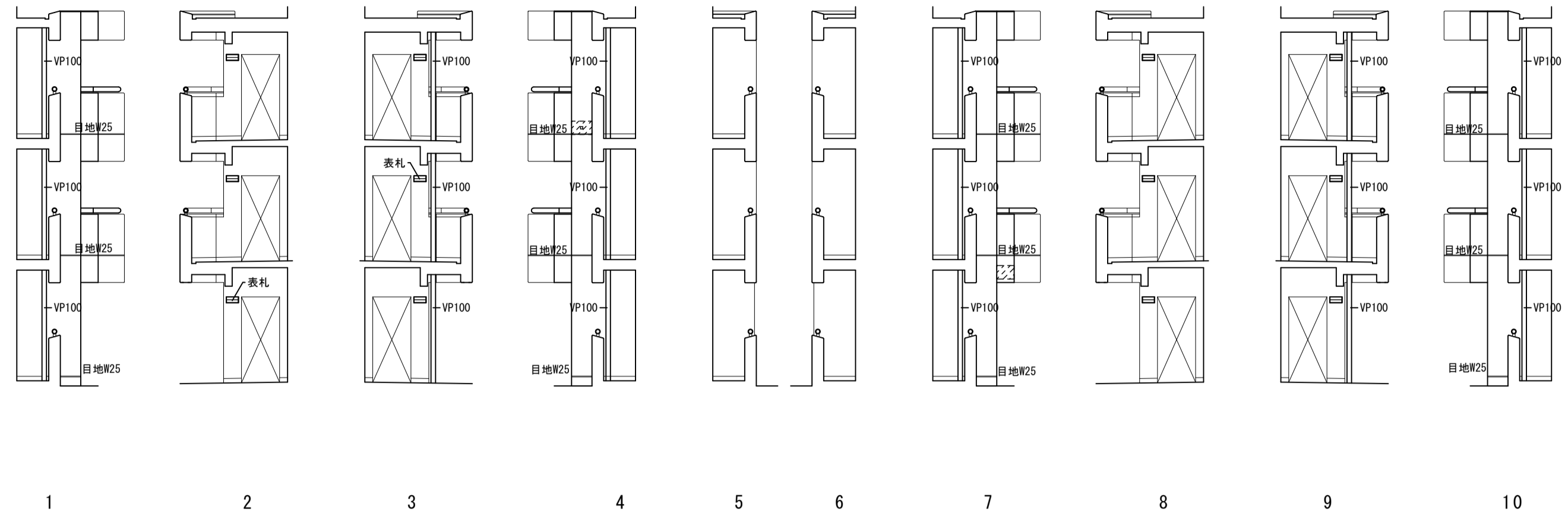
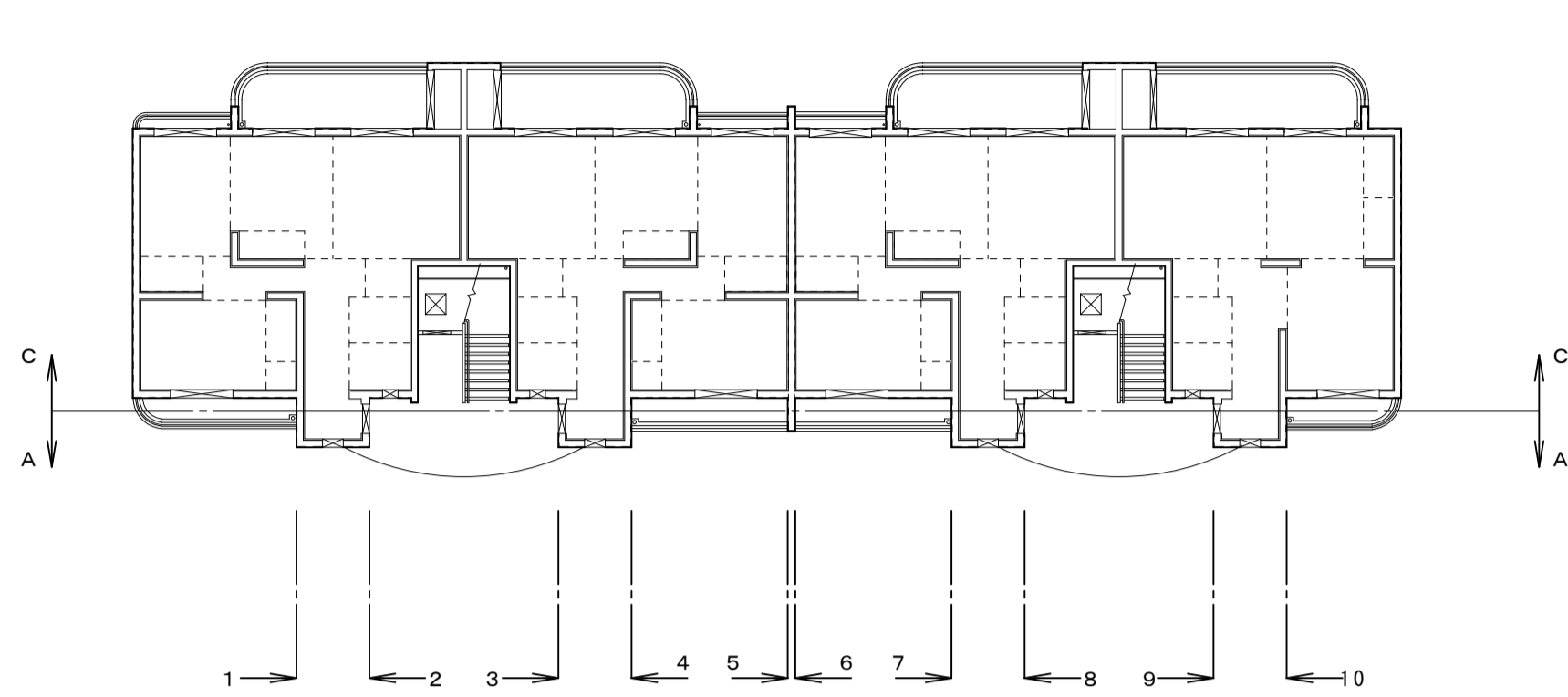


凡例	
	空調室外機
	衛星アンテナ
	設備ボックス
	既存塗膜剥離 * 下地調整 (G-2)

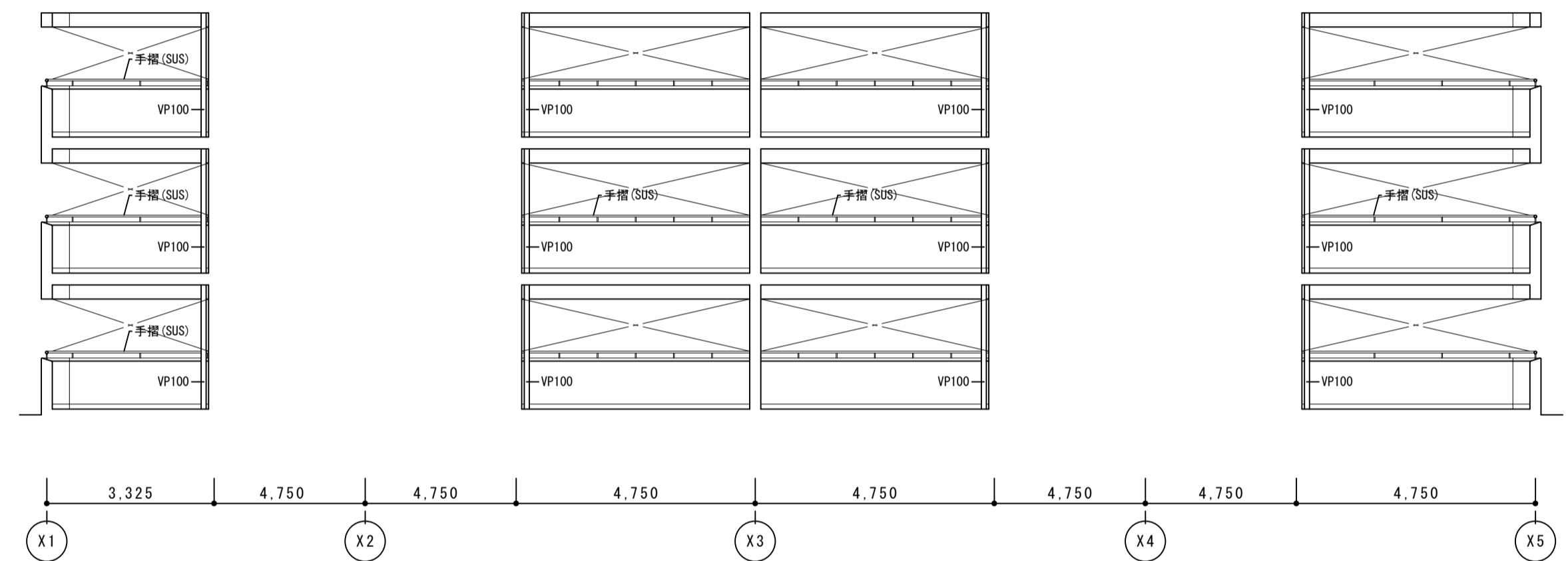


凡例	
(C2)	撤去の上 ケーリング 打25×10 (MS-2)
(GR)	撤去の上 ガラス 鋼板横置きt0.5
(W1)	水洗いの上 可とう形改修建材RE[nイフ'リット'シリコン(n&ス)] (ローラー)
(DP)	DP塗り
(T1)	下地処理の上 ウレタン塗装
(X2)	水洗いの上 塗膜防水 (X-2) 密着工法
(Y)	取外し再取付
(Z)	既存のまま
□	小屋裏換気口 ※工事中破損した場合は現状復旧をすること。
	空調室外機
	設備マーク

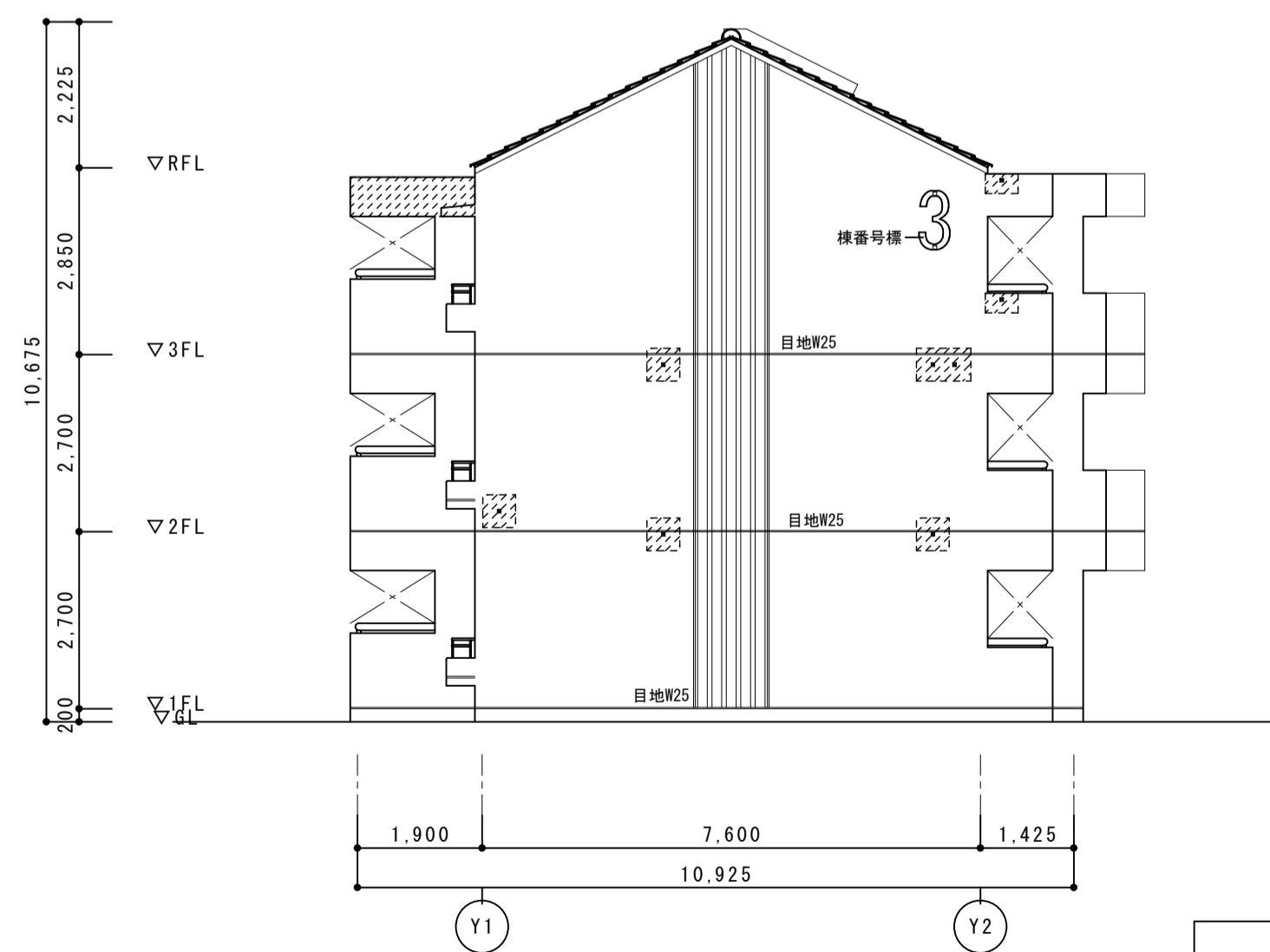




C 面

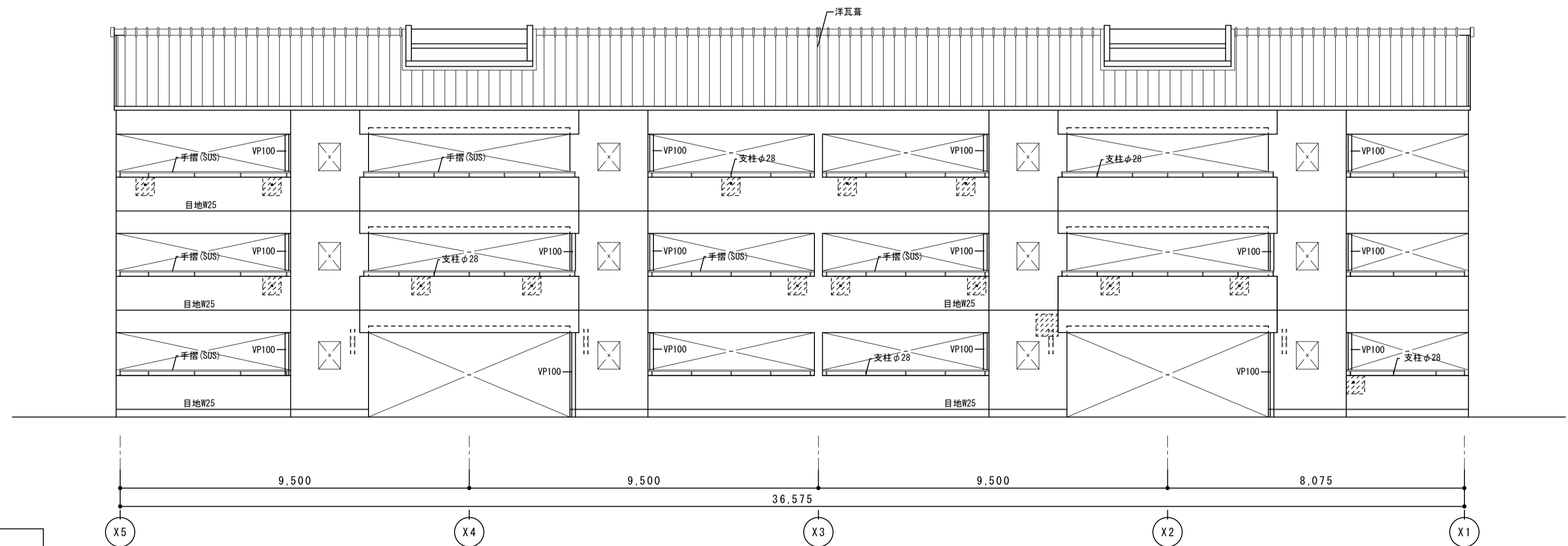


A 面

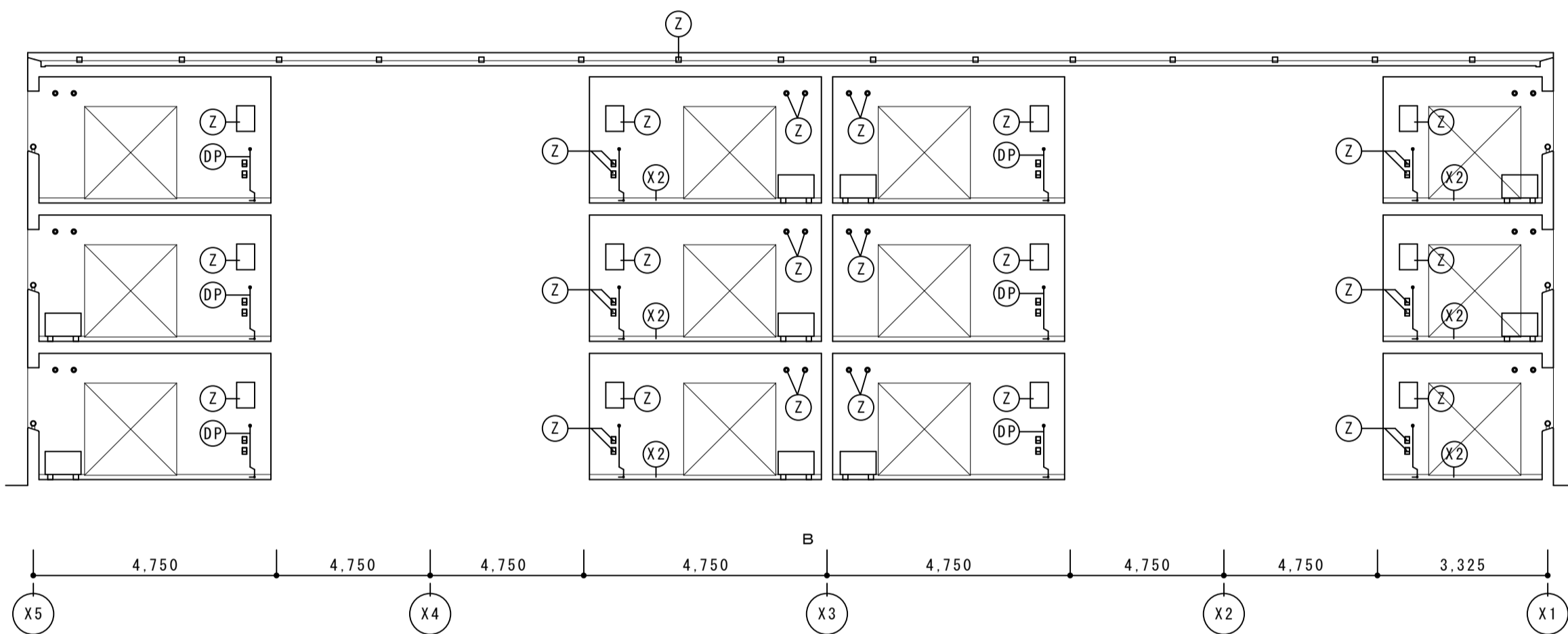
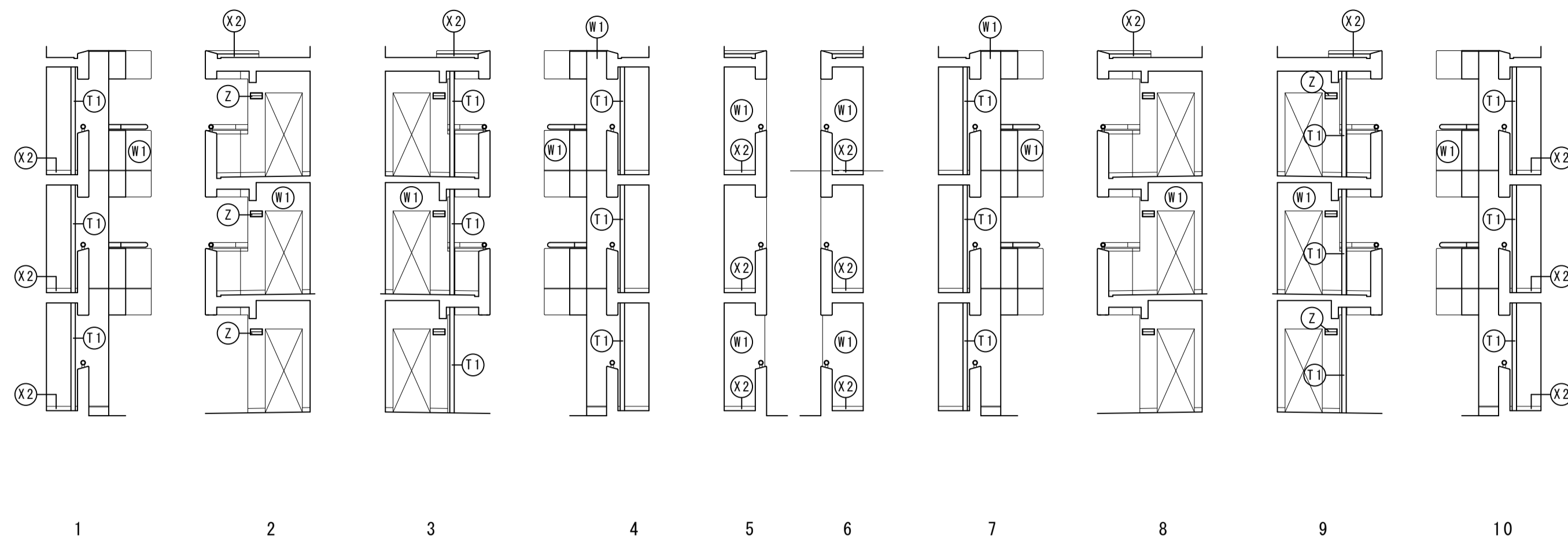
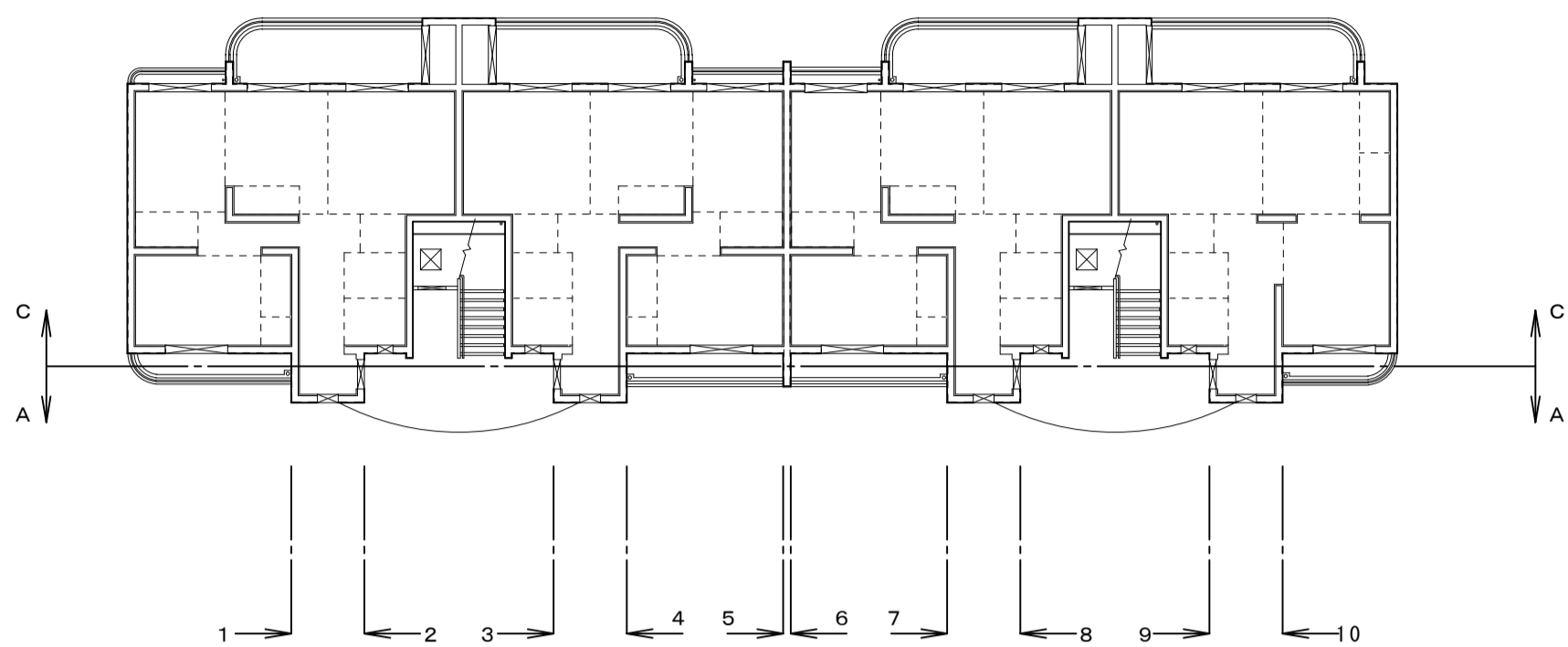


東西

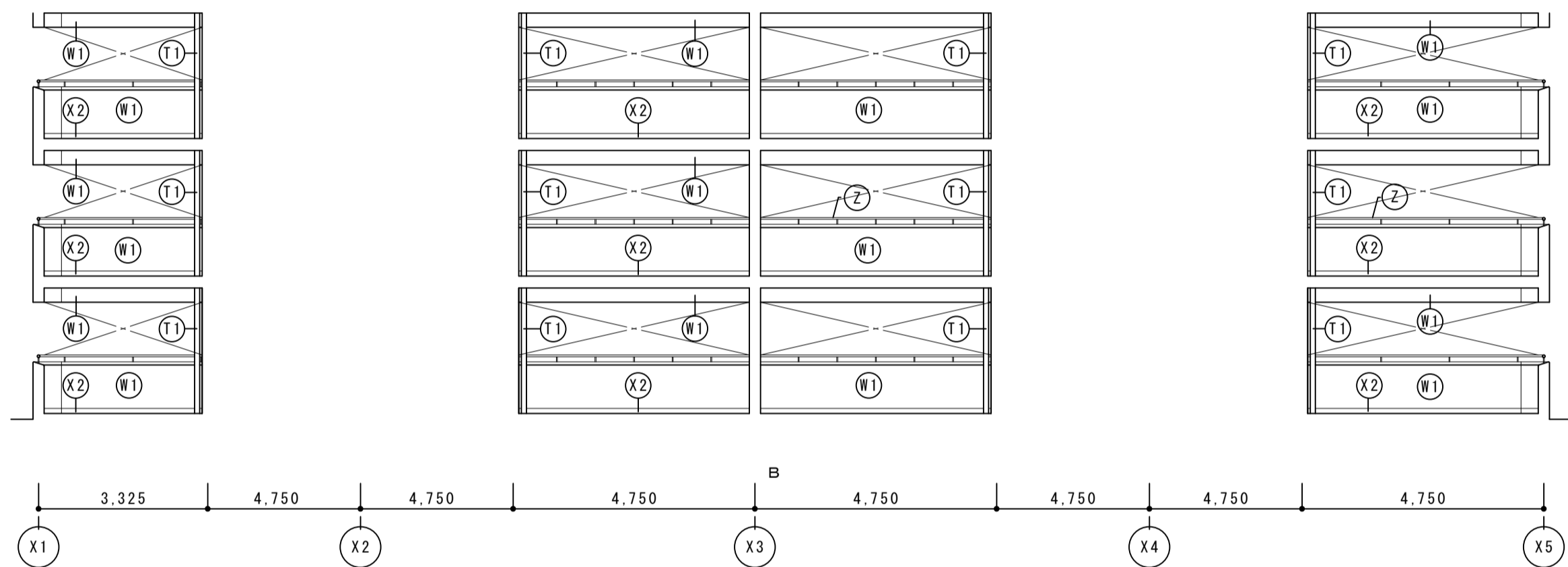
凡例	
	空調室外機
	ガス給湯器
	壁掛け照明
	既存壁撤去・下地調整 (C-2)



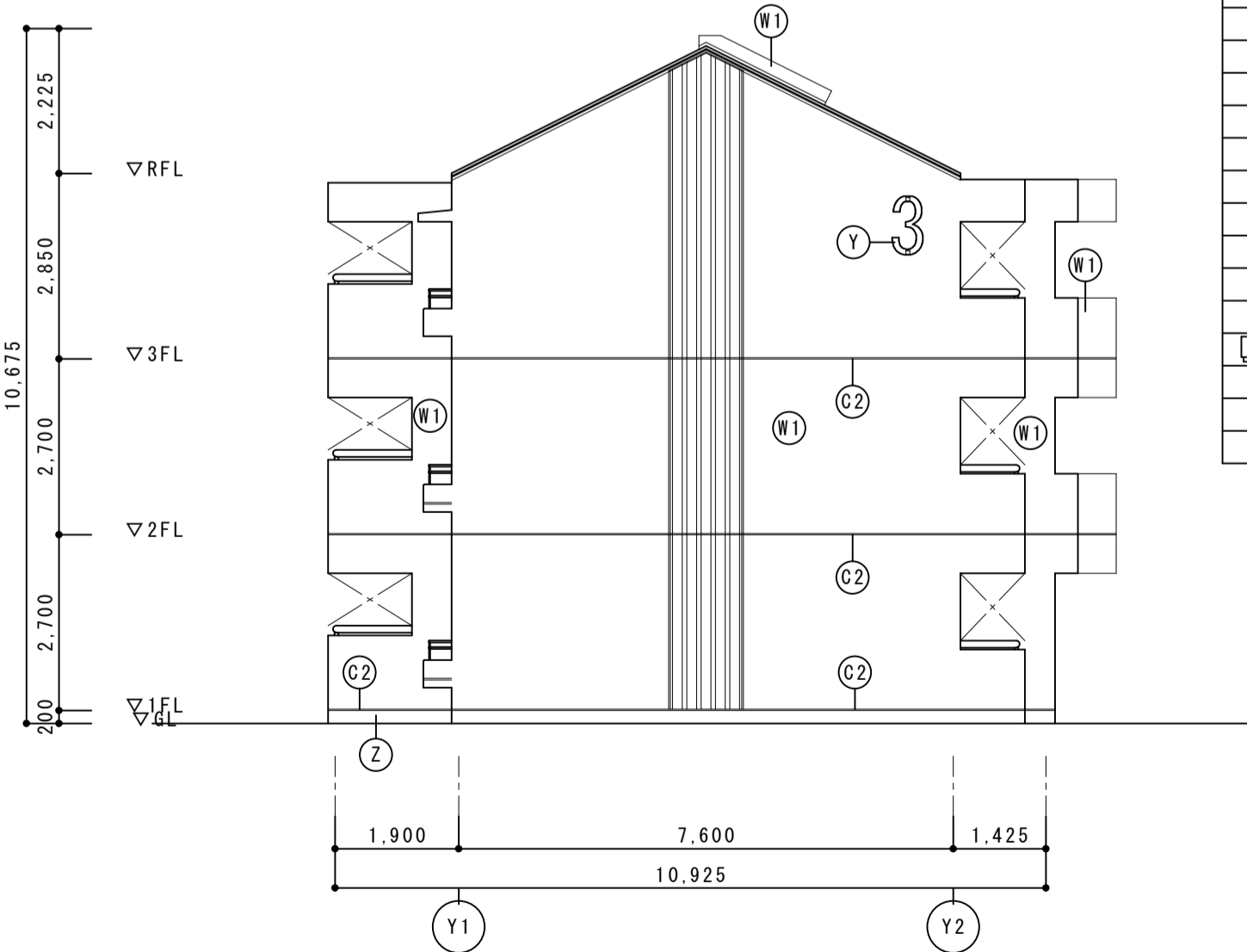
北面



C 面

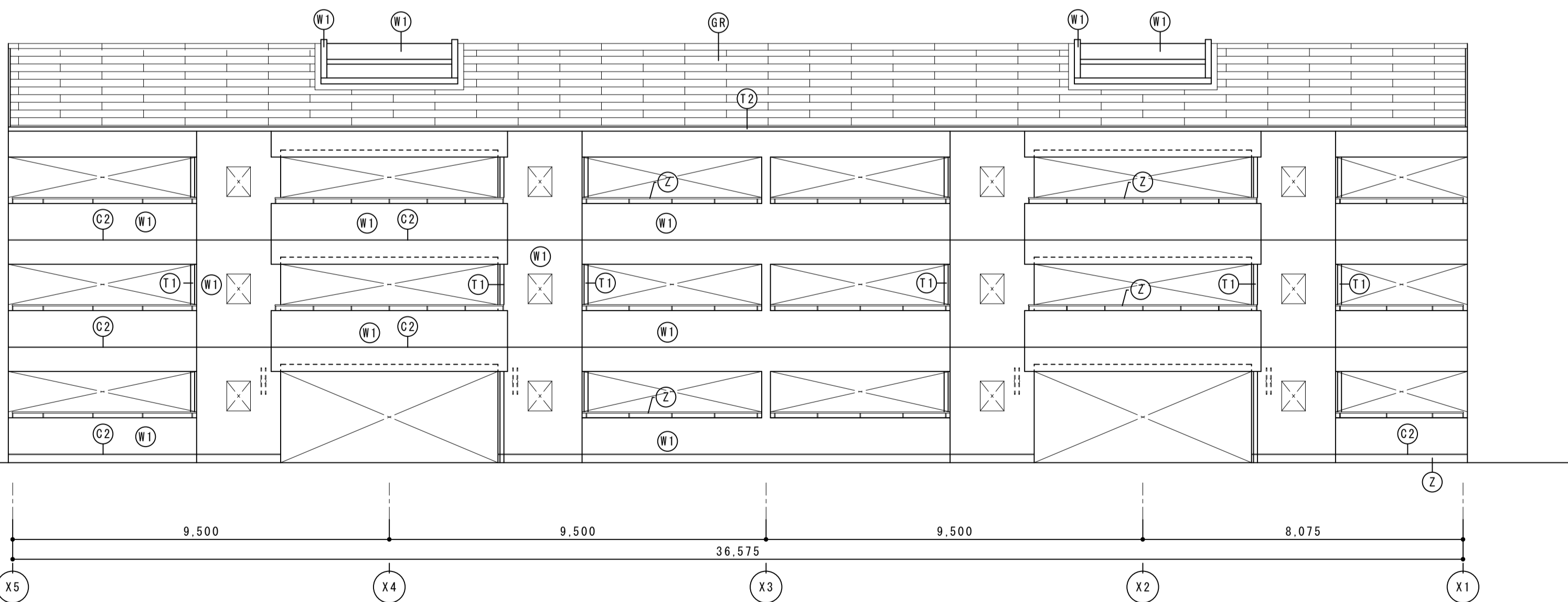


A 面



東 面

凡例	
(C2)	撤去の上 シーリング 打25×10 (MS-2)
(GR)	撤去の上 カ'ルバ'リウム鋼板横置きt0.5
(W1)	水洗いの上 可とう形改修塗材RE[ハイフ'リット'シリコン(n&s)] (ローラー)
(DP)	DP塗り
(T1)	下地処理の上 クレタ塗装
(X2)	高圧洗浄の上 塗膜防水 (X-2) 密着工法
(X)	既存撤去・LED照明取付け
(Y)	取外し再取付
(Z)	既存のまま
□	小屋裏換気口 ※工事中破損した場合は現状復旧をすること。
⌚	空調室外機
⌚	ガス給湯器
⌚	壁掛け照明【電気工事】



北 面

特記事項

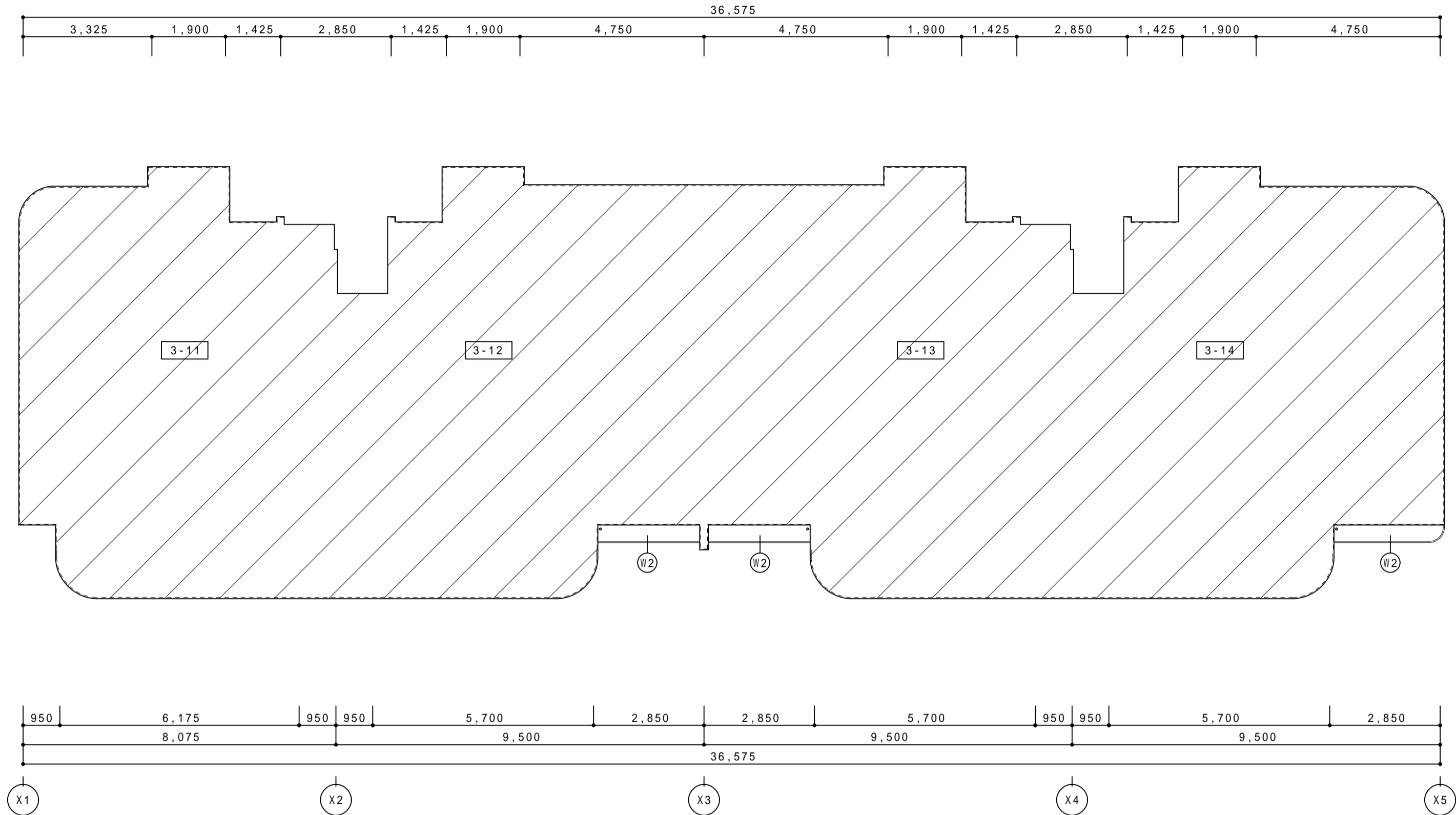
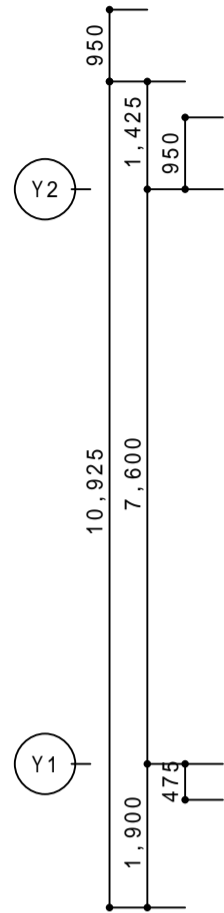
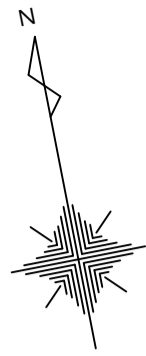
(株) エム・ビー・アイ 一般建築士事務所
福岡県知事登録第1-20757号
福岡県行橋市行事8丁目8-10
TEL 0930-26-1101
代表取締役 松尾 真也
一般建築士 大臣登録第223559号

工 事 名 称
令和7年度 小長田団地改修工事 (3棟)

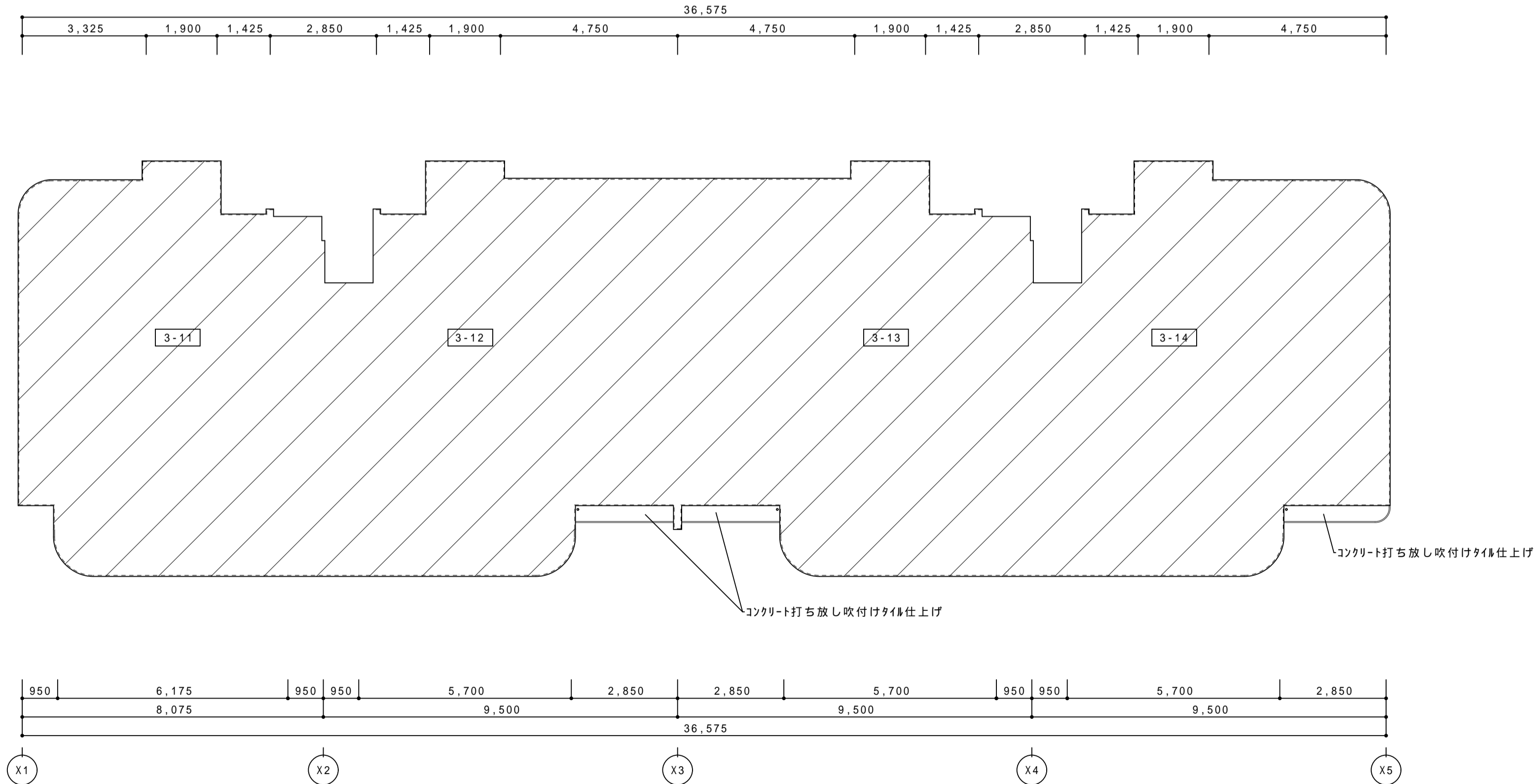
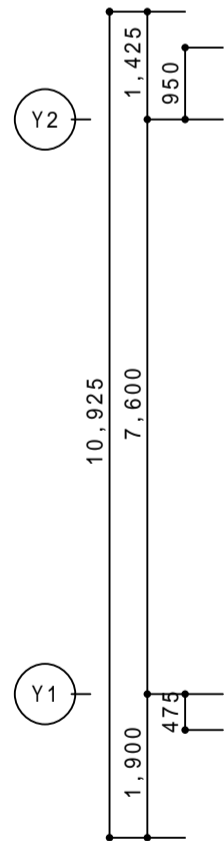
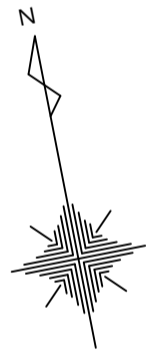
図 面 名 称
改修後
東側立面図
北側立面図

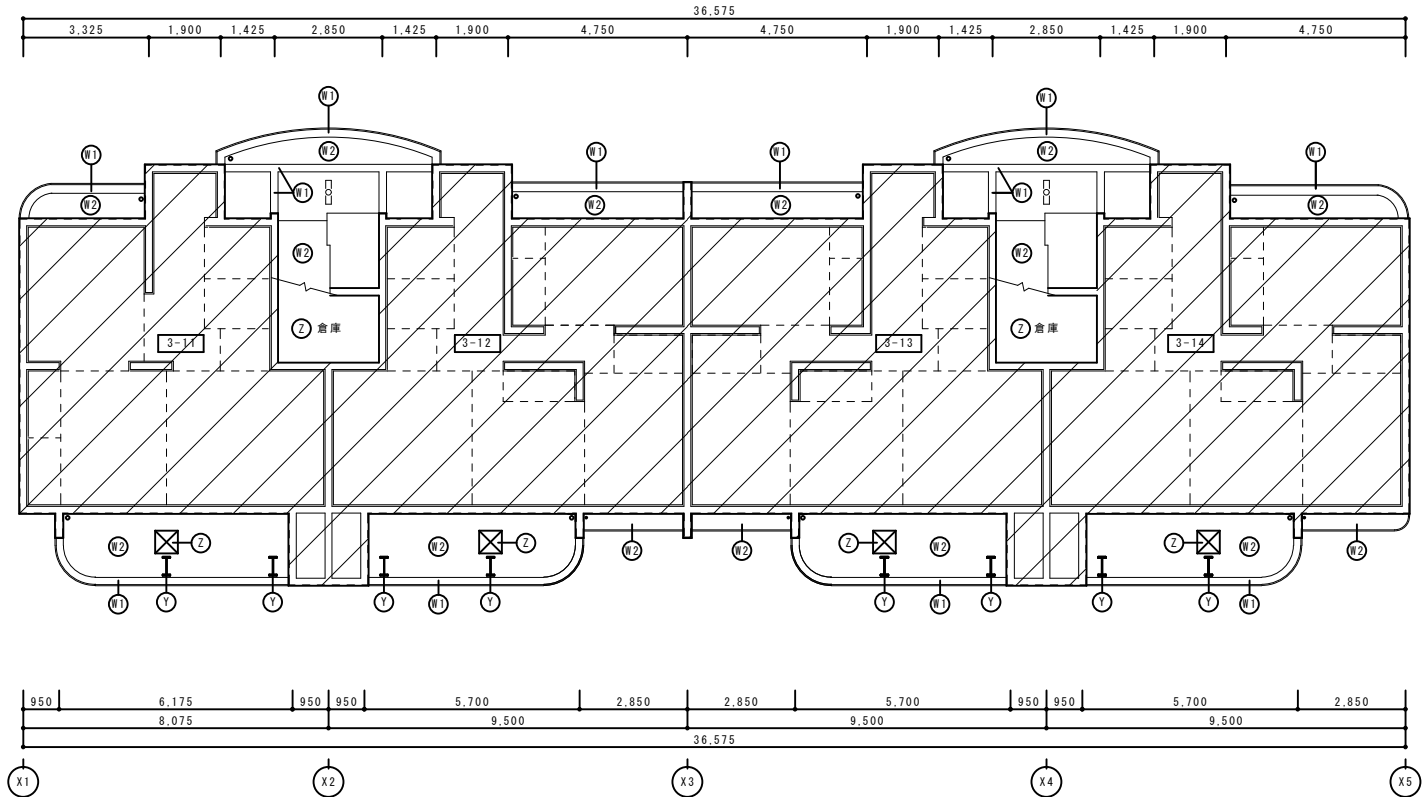
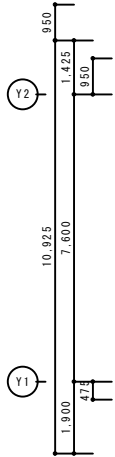
縮 尺
A1:S=1/100
A3:S=1/200

製図年月日	2025年6月		
	所 長	検 図	作 図

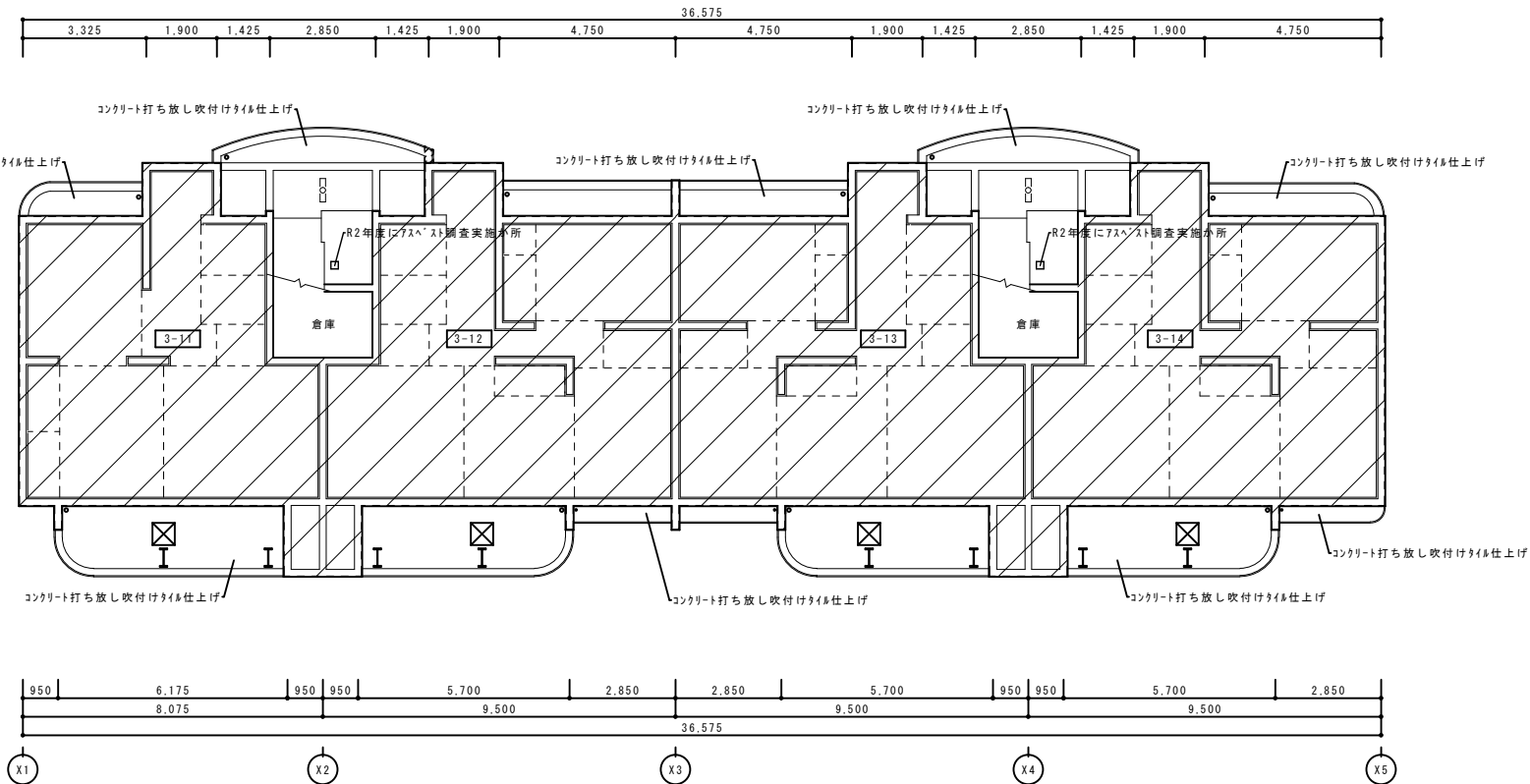
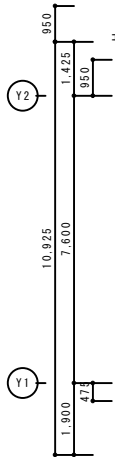


凡例	
②	水洗いの上 軒天塗替え用仕上塗材 [つや有合成樹脂エポキシソフゝイット]

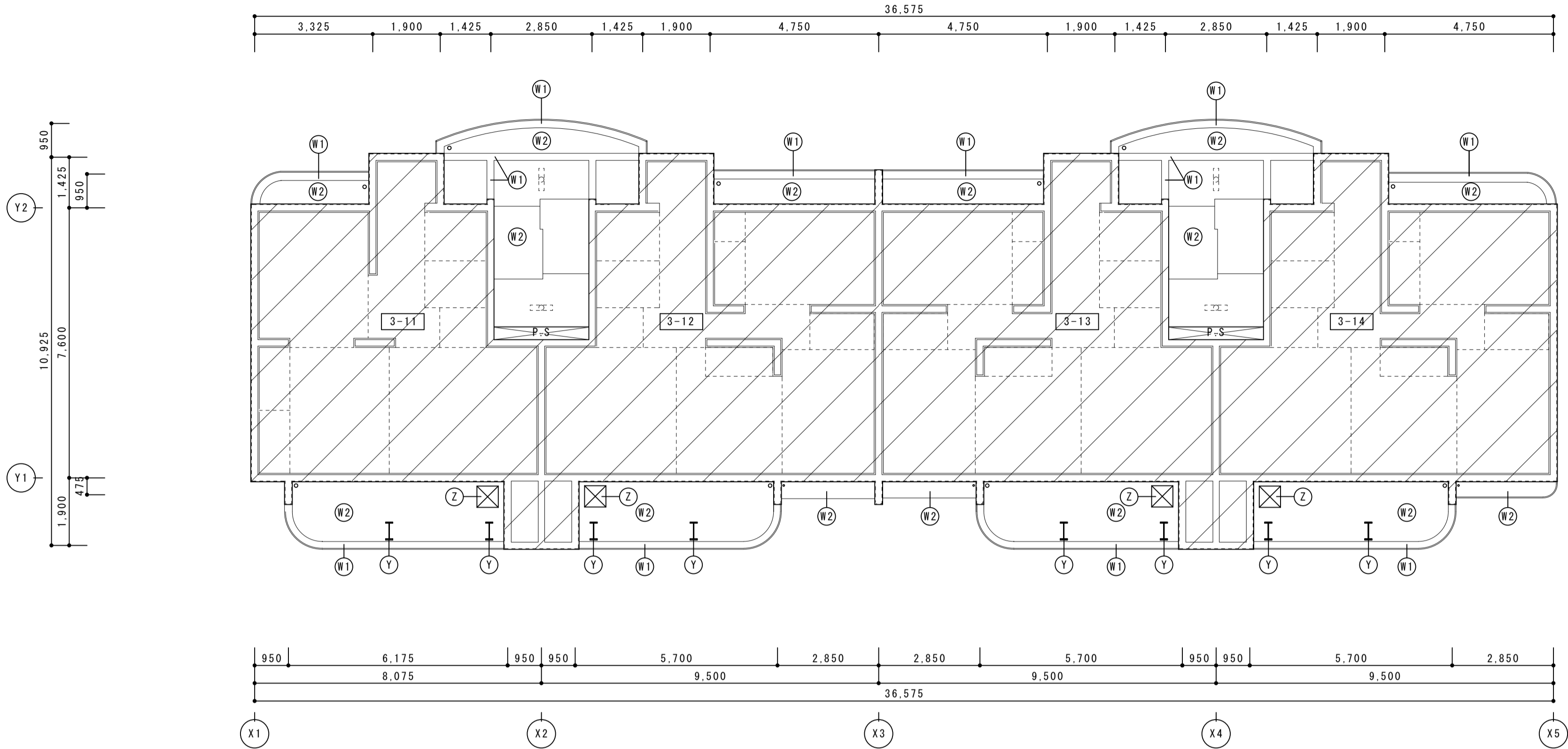
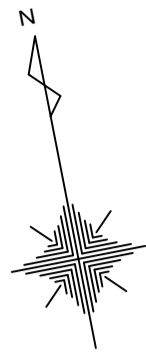




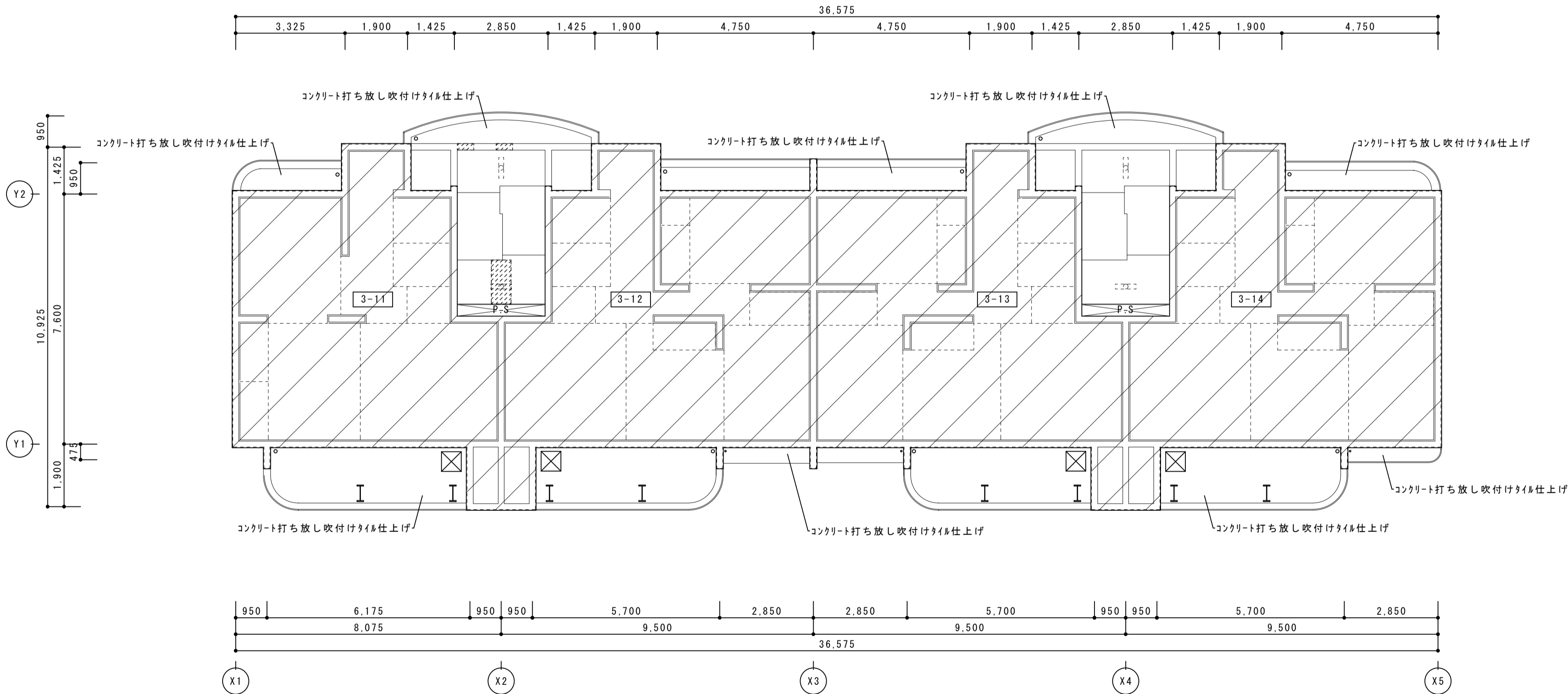
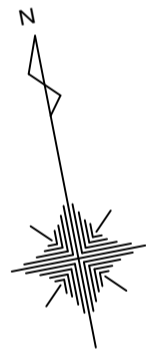
凡例	
①	水洗いの上 可とう形改修塗材RE[ハイグ'リット'シリコン(ハ&ス)](B-ラー)
②	水洗いの上 軒天差替え用仕上塗材 [つや有合成樹脂エポキシ樹脂(ハ&ス)]
③	取外し・再取付
④	既存のまま



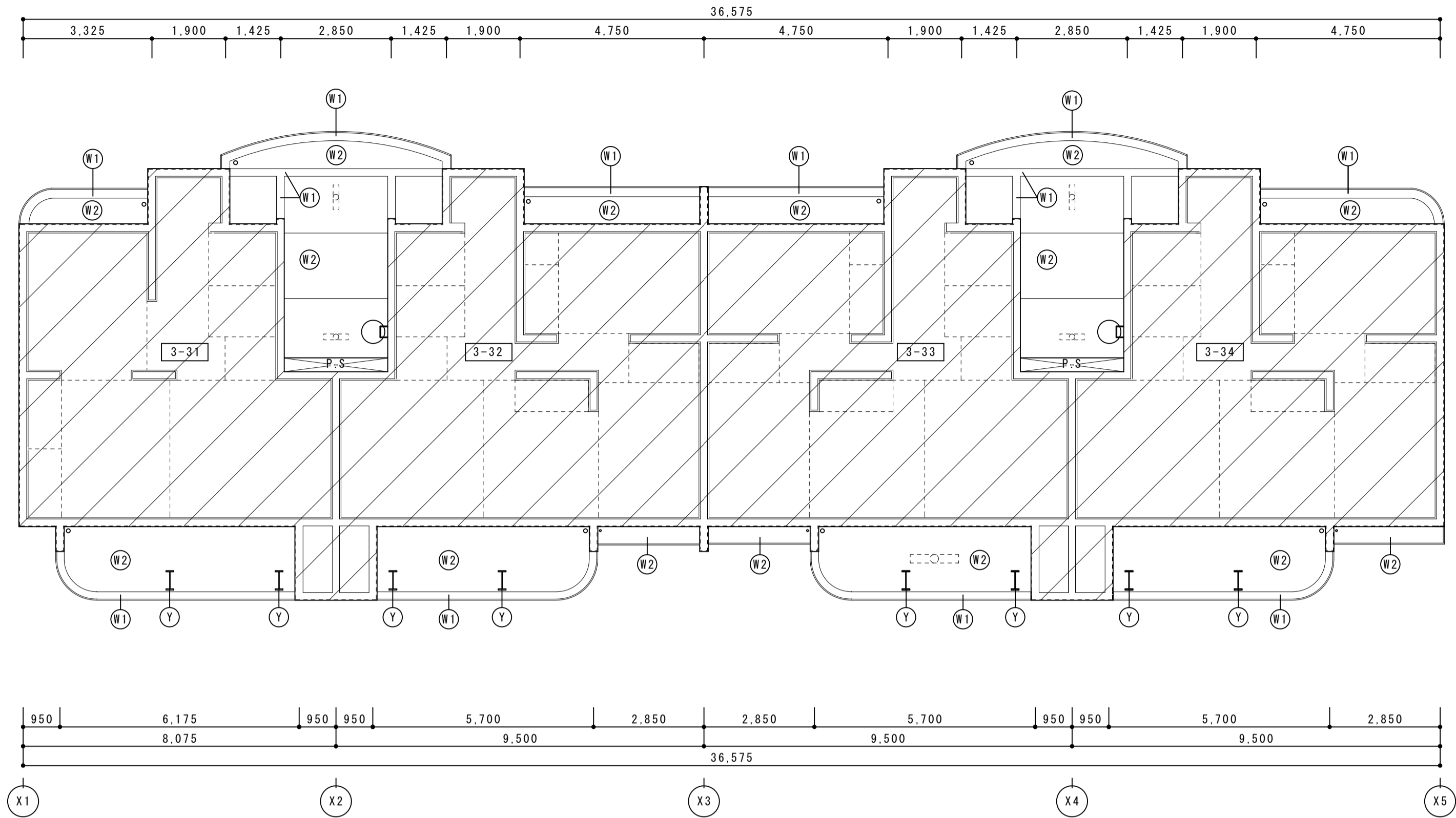
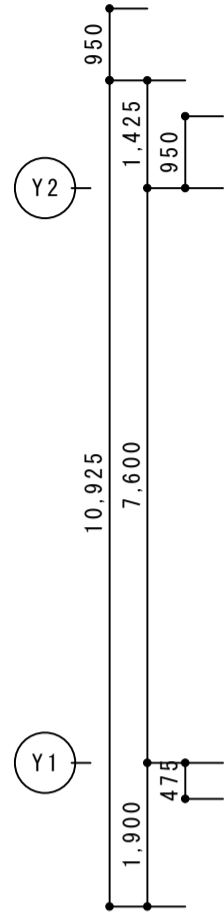
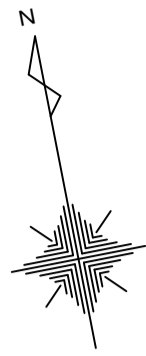
凡例	
□	物干し金物
■	避難ハッチ
■	既存塗膜剥離 + 下地調整 (C-2)



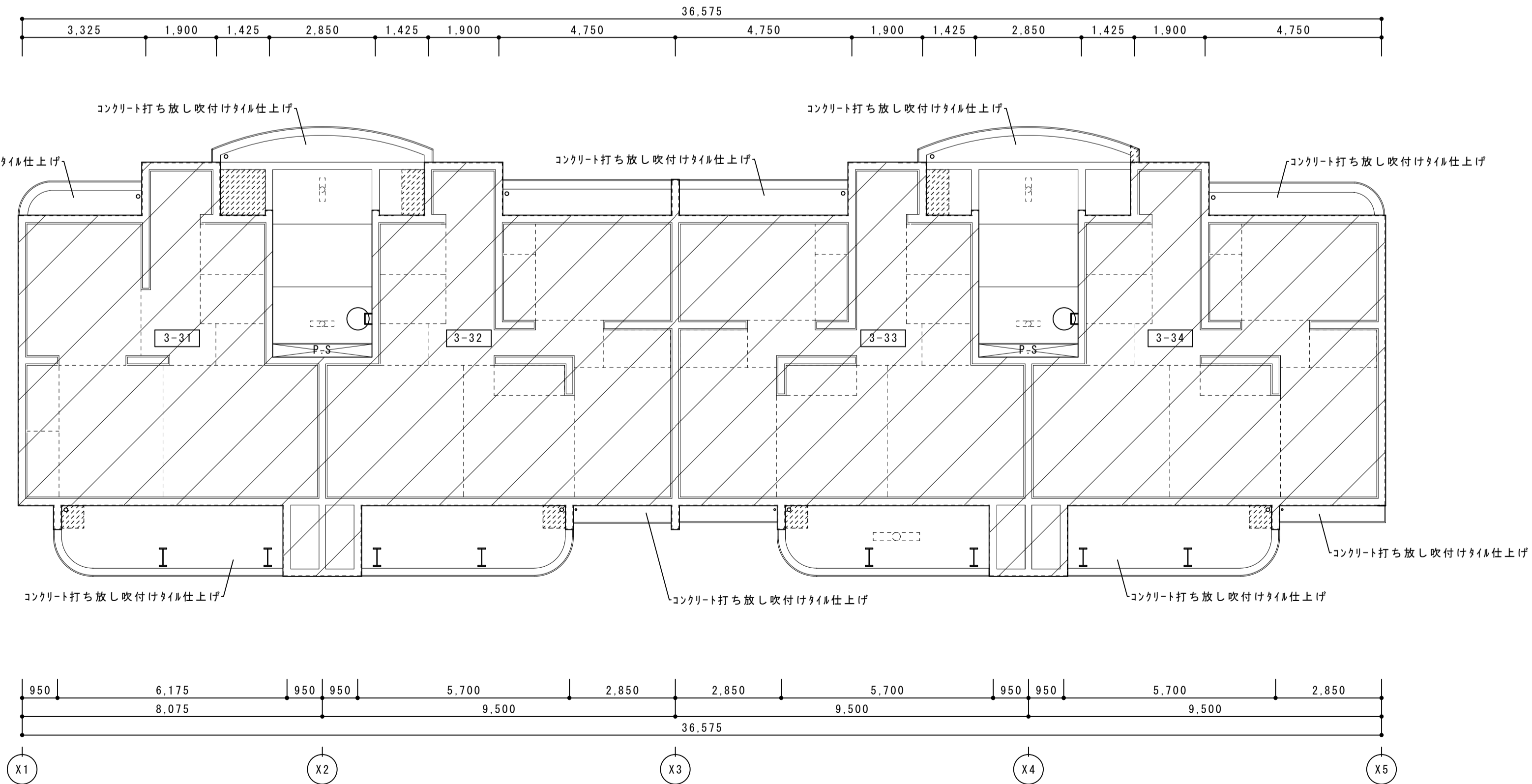
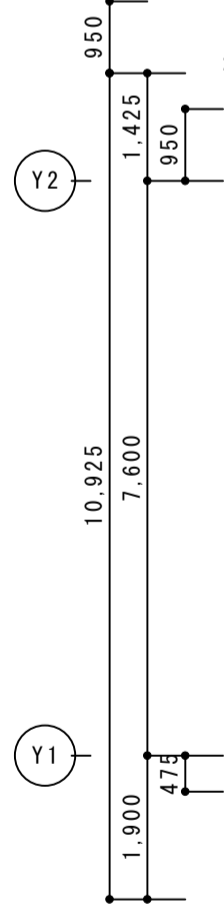
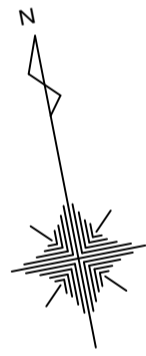
凡例	
W1	水洗いの上 可とう形改修塗材RE[ハイリットシリコン(ハズ)](ローラー)
W2	水洗いの上 軒天塗替え用仕上塗材 [つや有合成樹脂エマルジョンペイント]
Y	取外し・再取付
Z	既存のまま



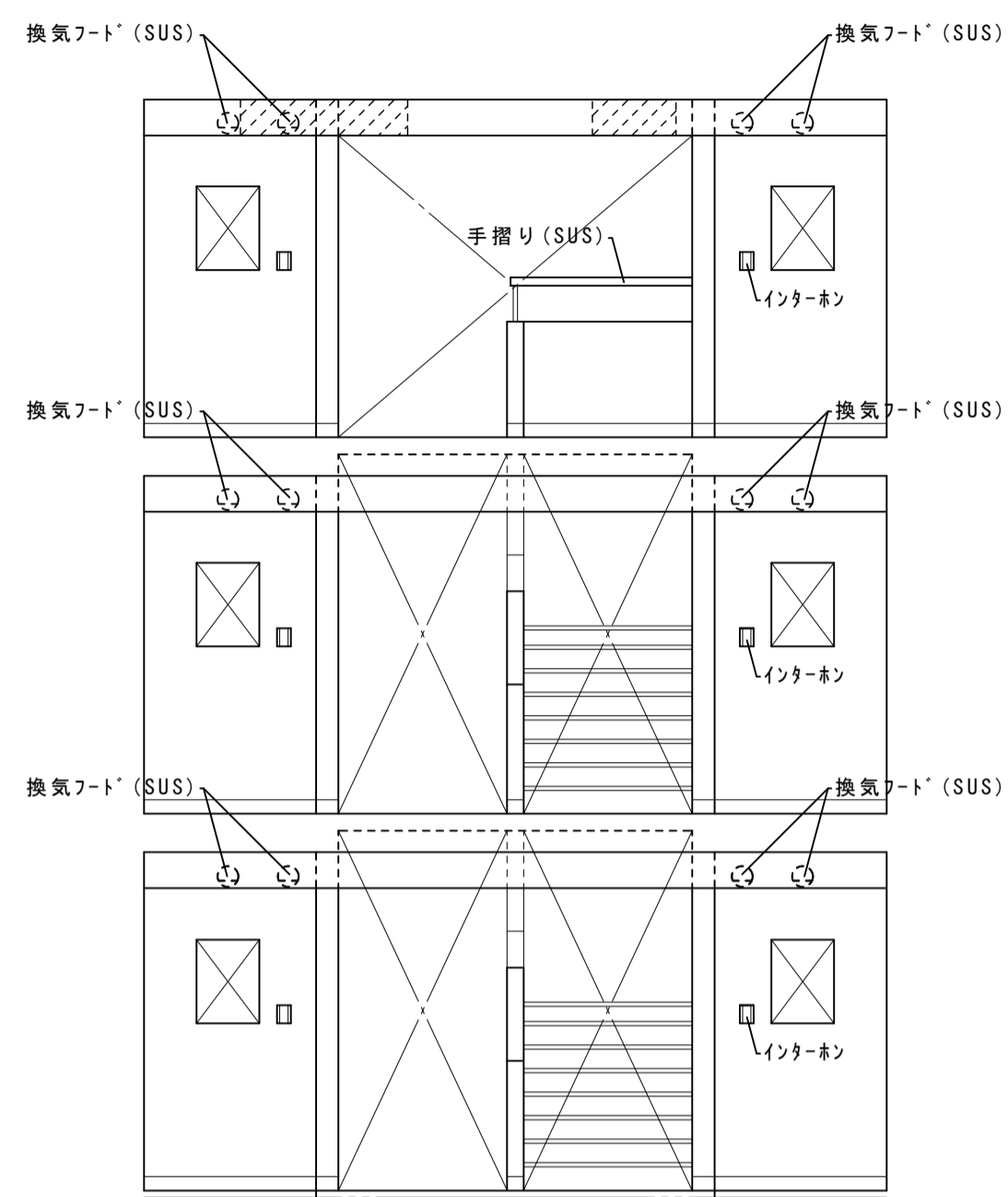
凡例	
—	物干し金物
⊗	避難ハッチ
///	既存塗膜剥離 + 下地調整 (C-2)



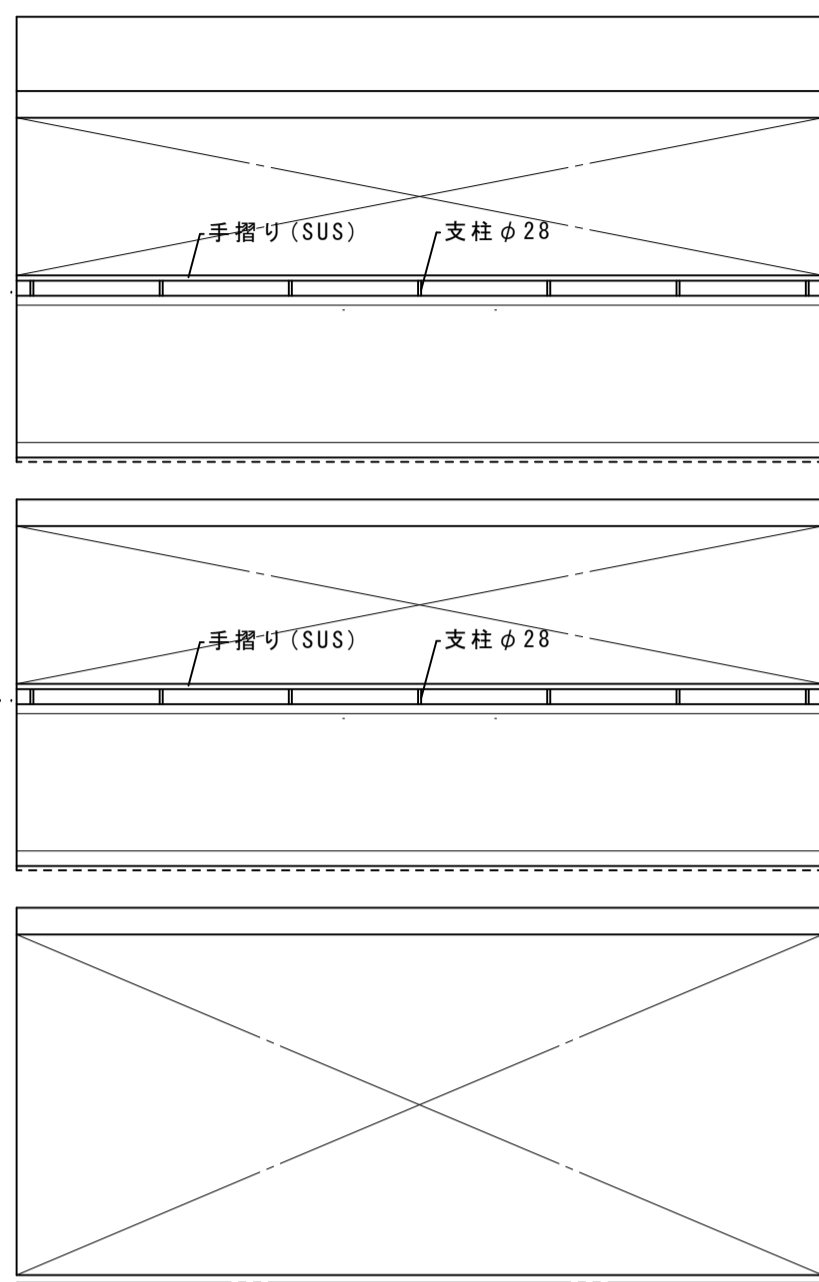
凡例		
(W1)	水洗いの上	可とう形改修塗材RE[ハイブリッドシリコン(ハルス)](ローラー)
(W2)	水洗いの上	軒天塗替え用仕上塗材〔つや有合成樹脂エポキシ樹脂〕(イン)
(Y)	取外し・再取付	
(Z)	既存のまま	



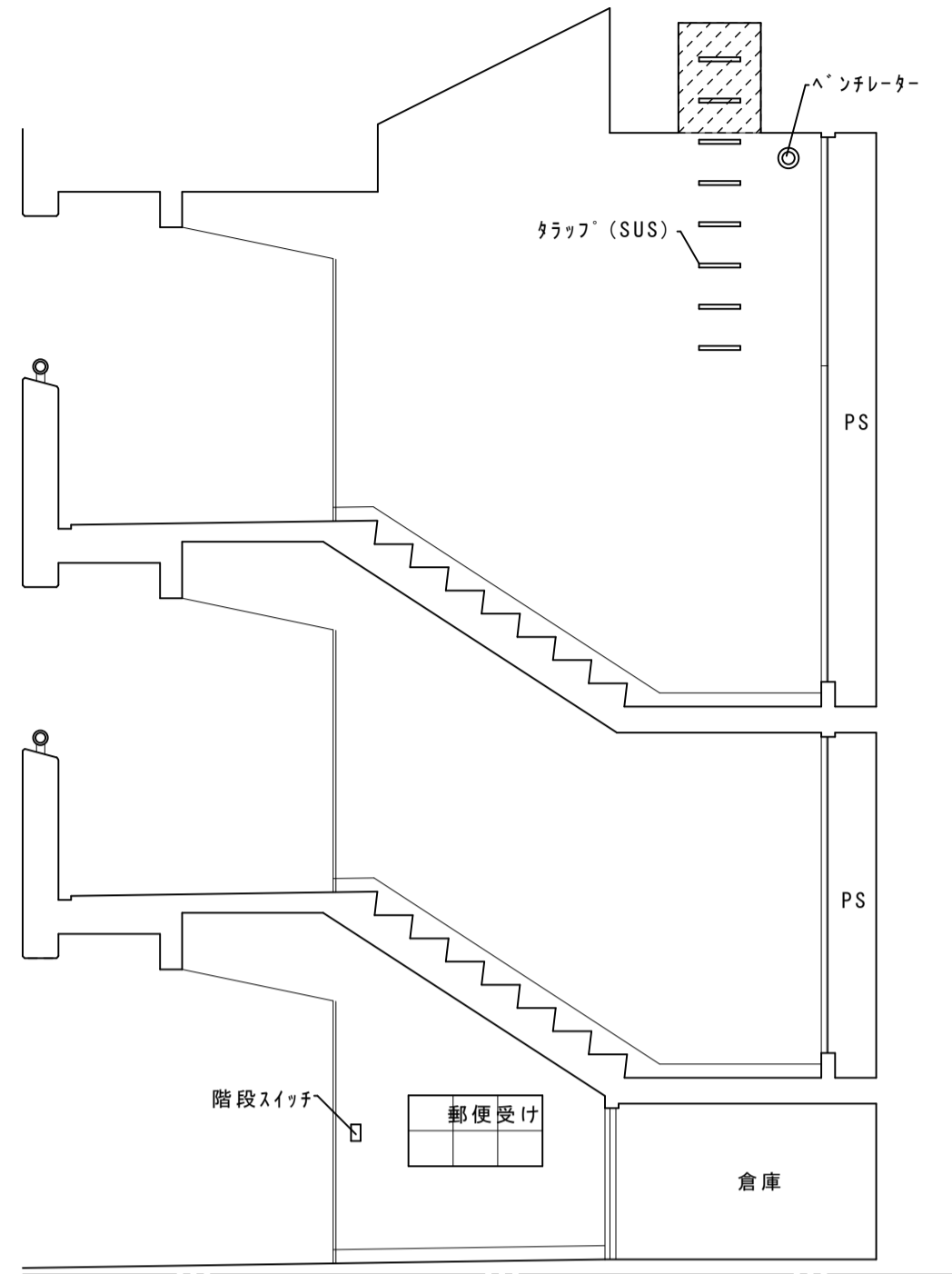
凡例		
→	物干し金物	
☒	避難ハッチ	



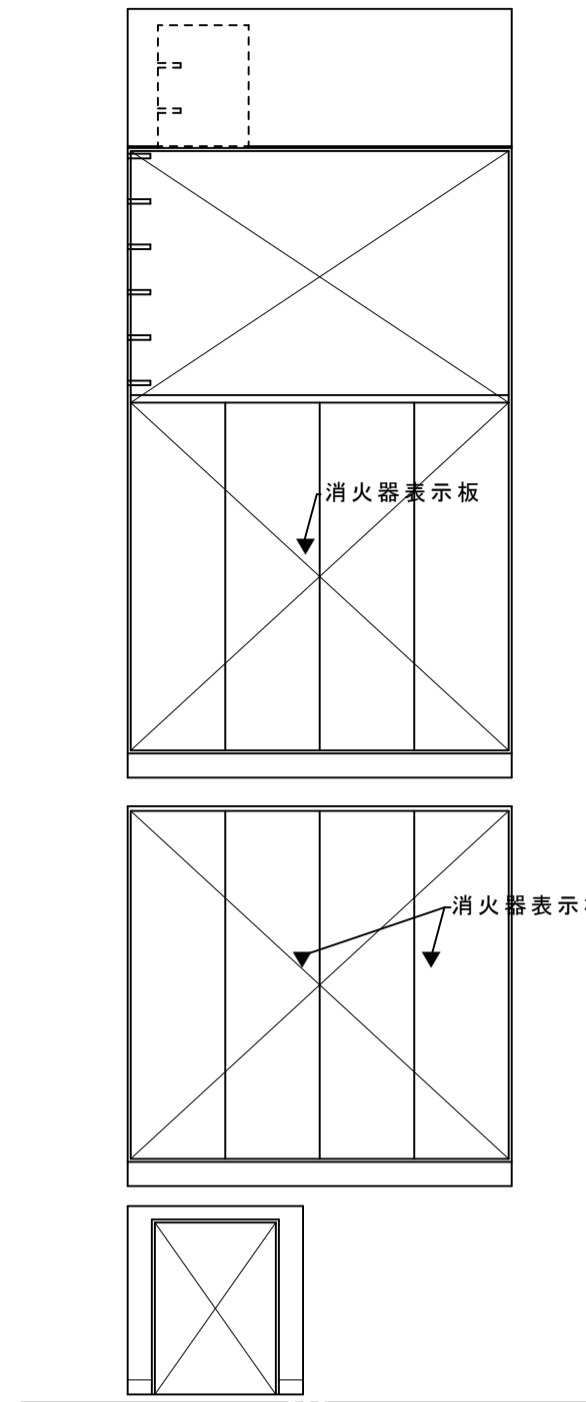
C 面



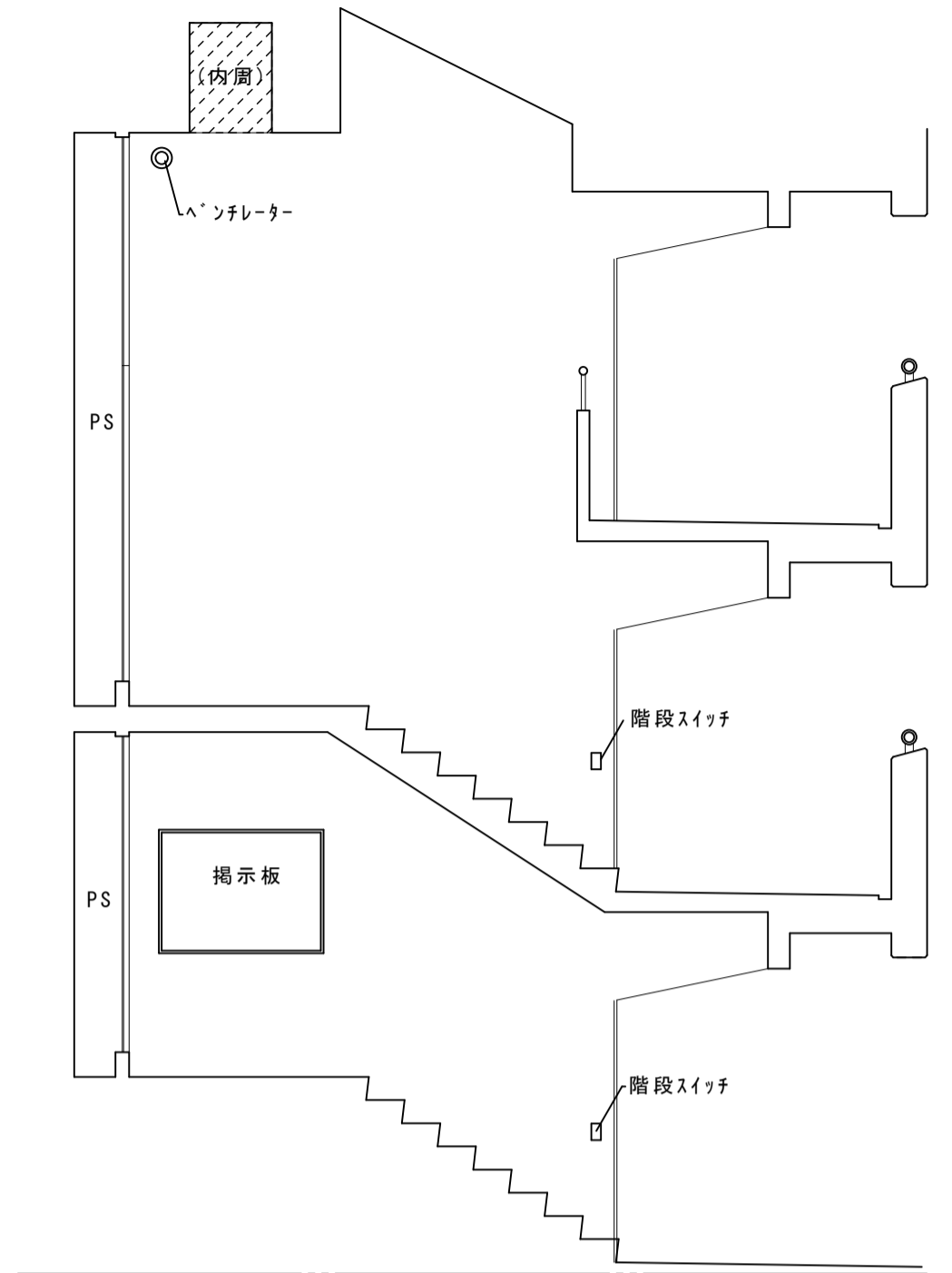
A 面



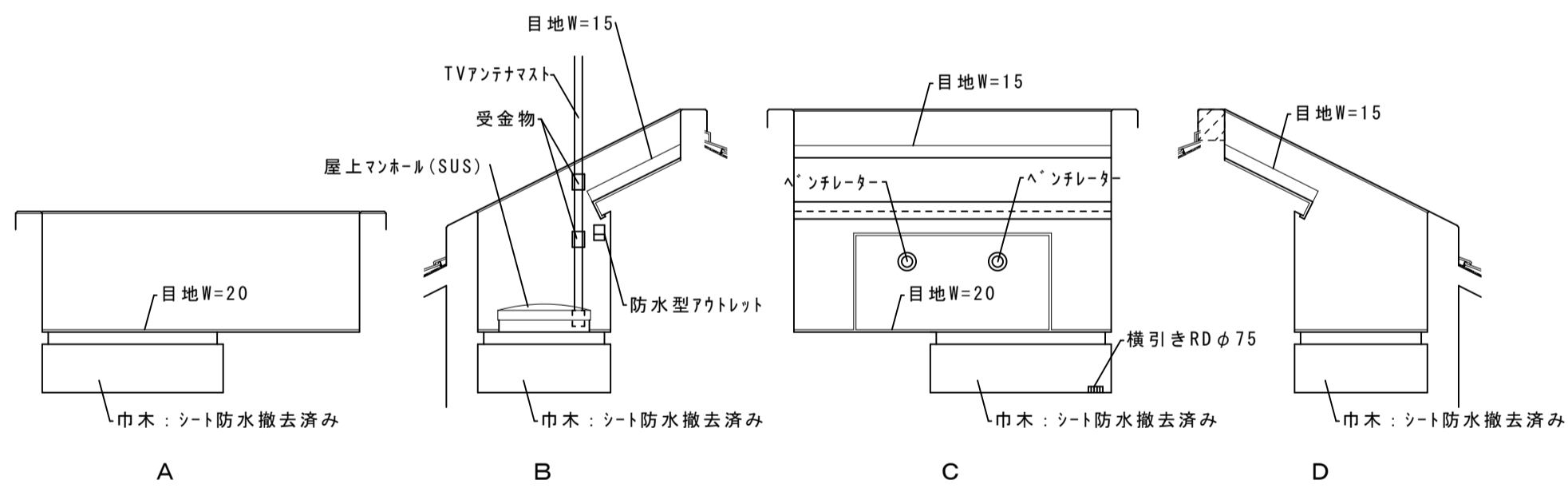
B 面



C 面

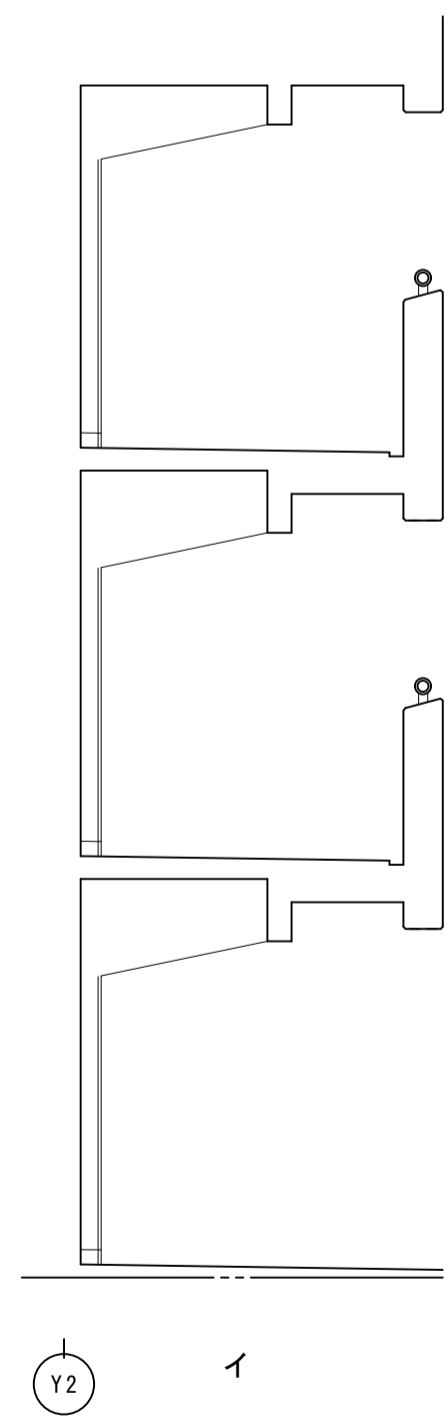


D 面

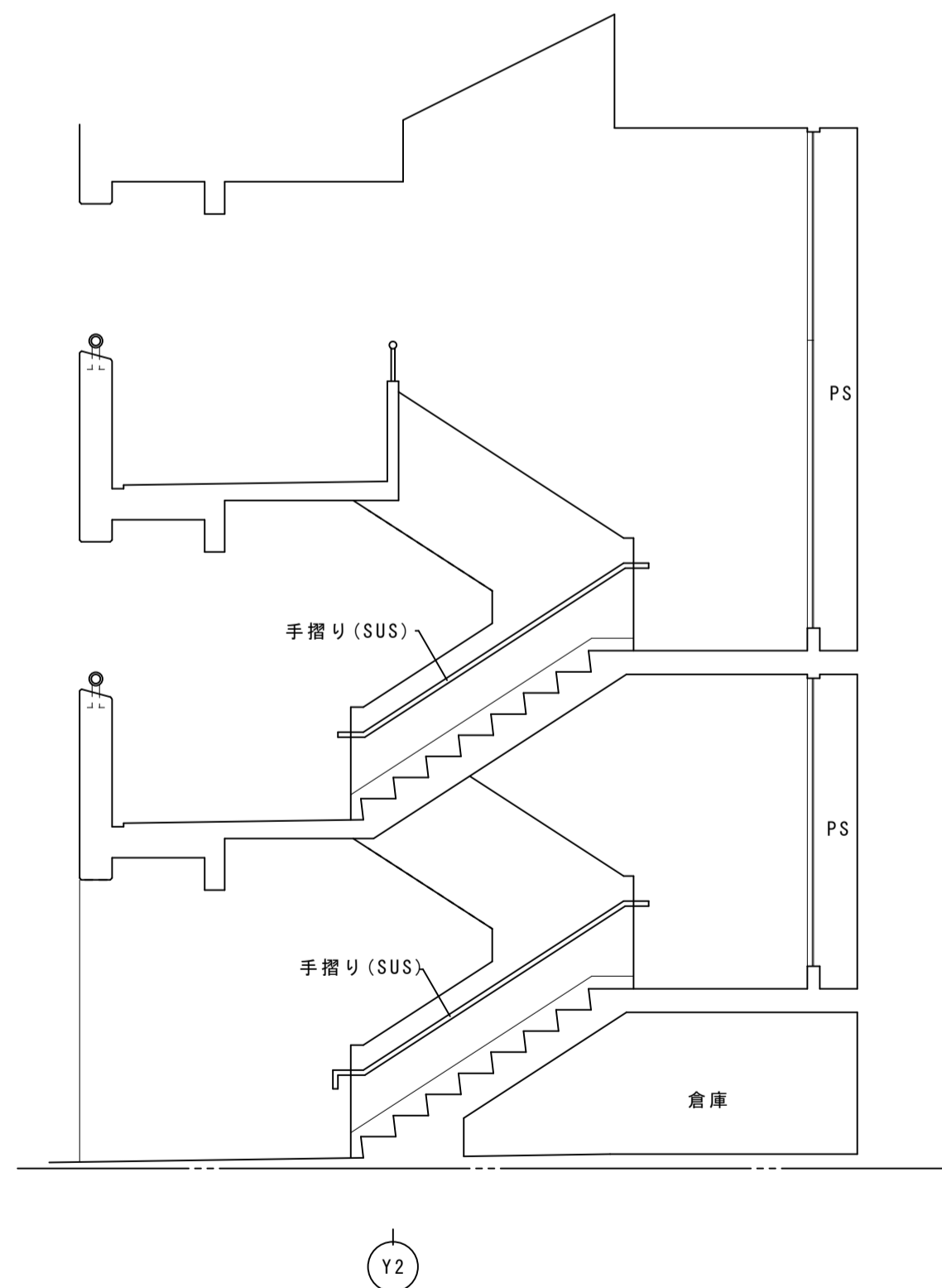


マンホール

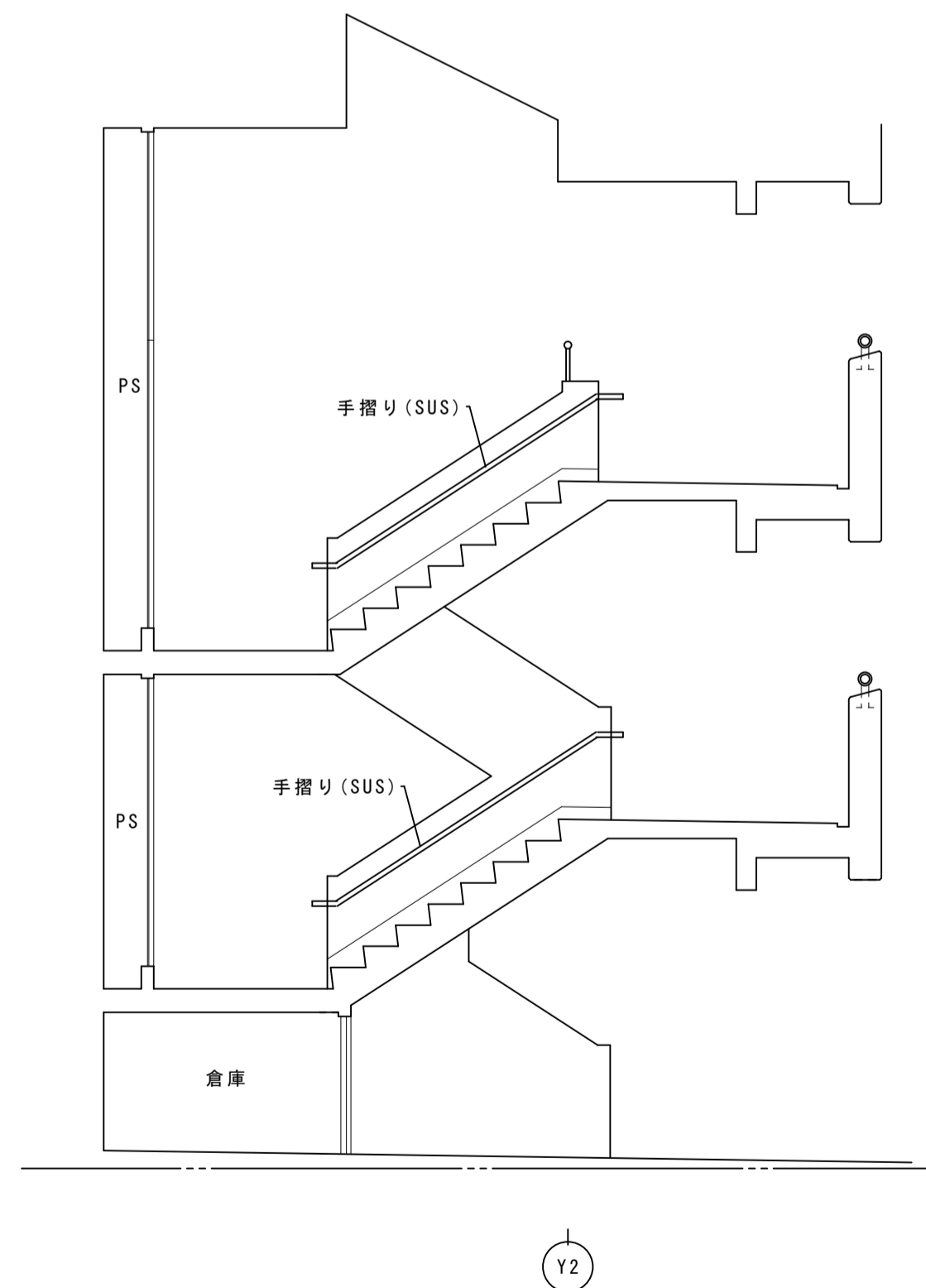
凡例	
	既存塗膜剥離 + 下地調整 (C-2)



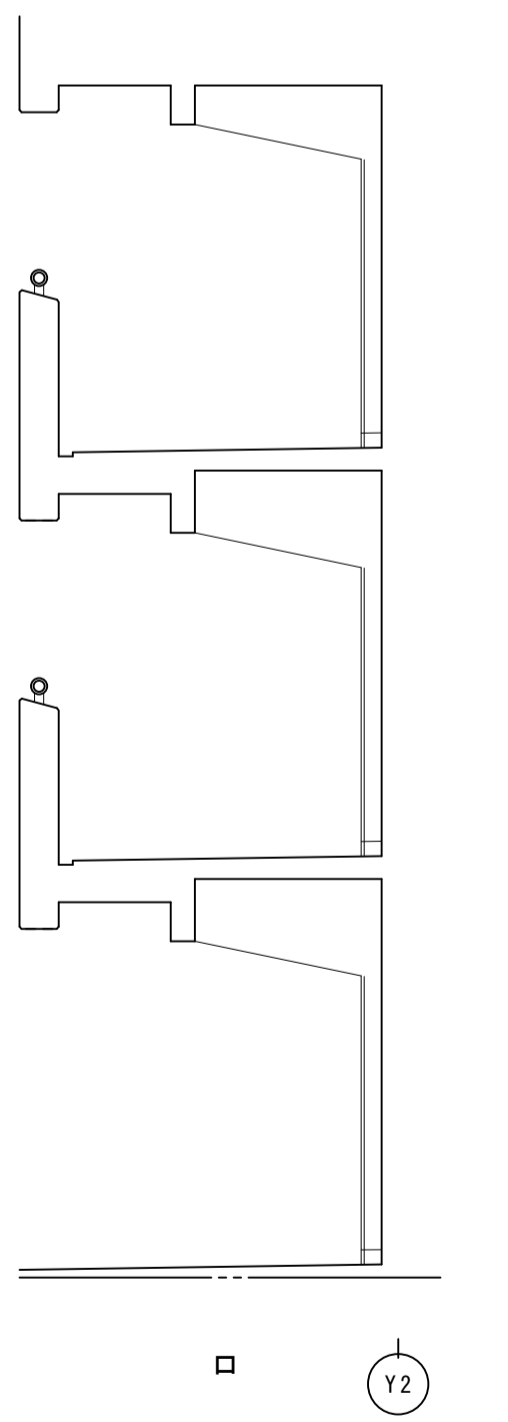
Y2 イ



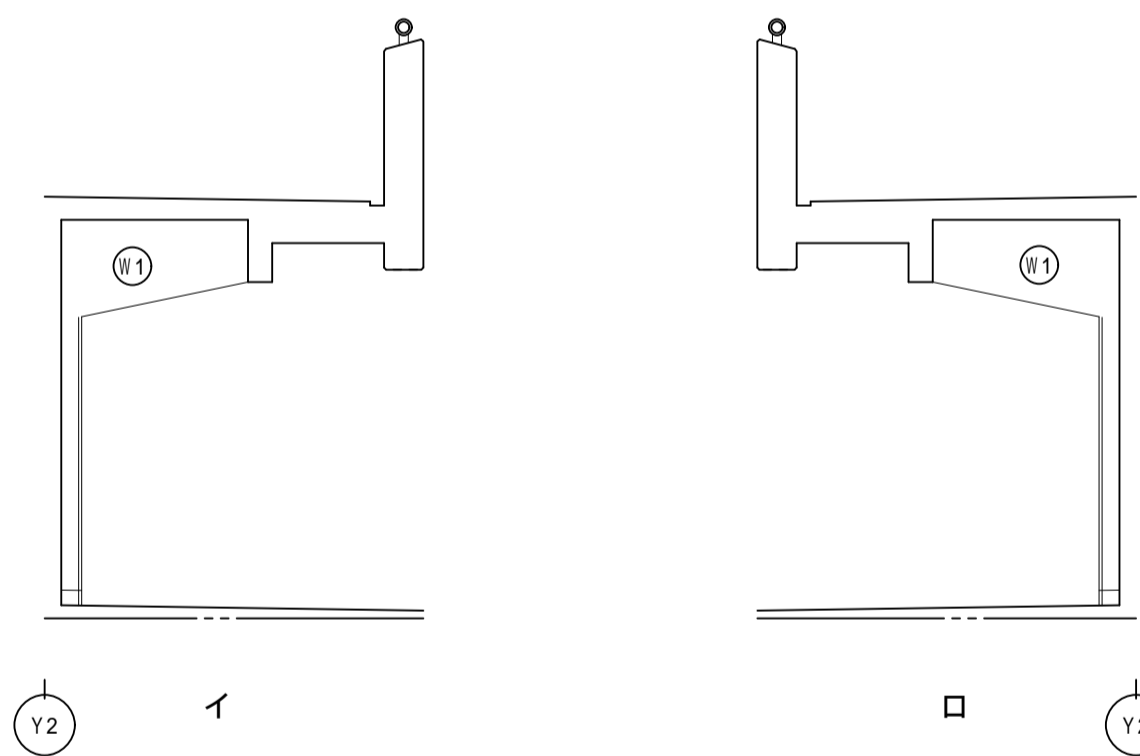
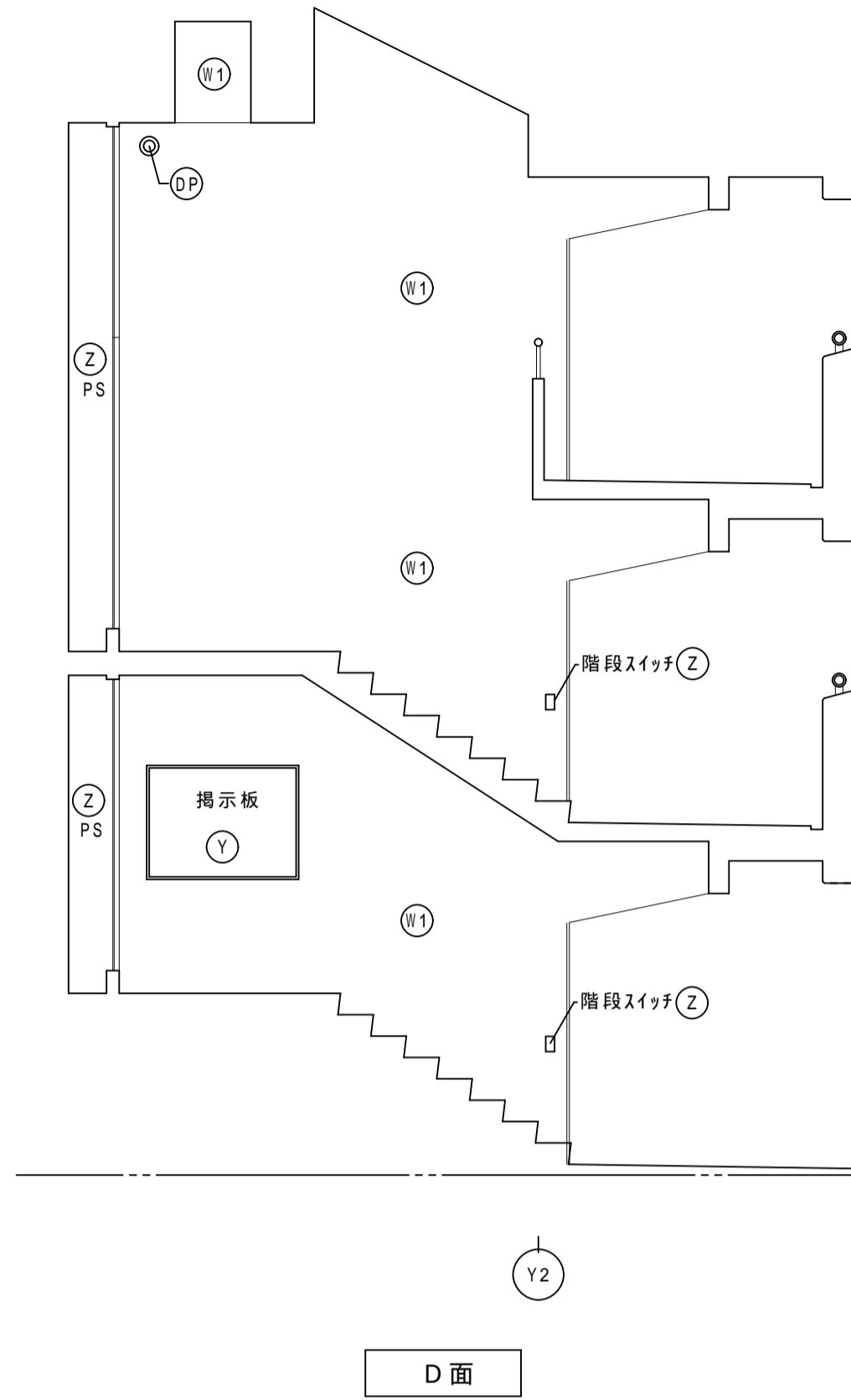
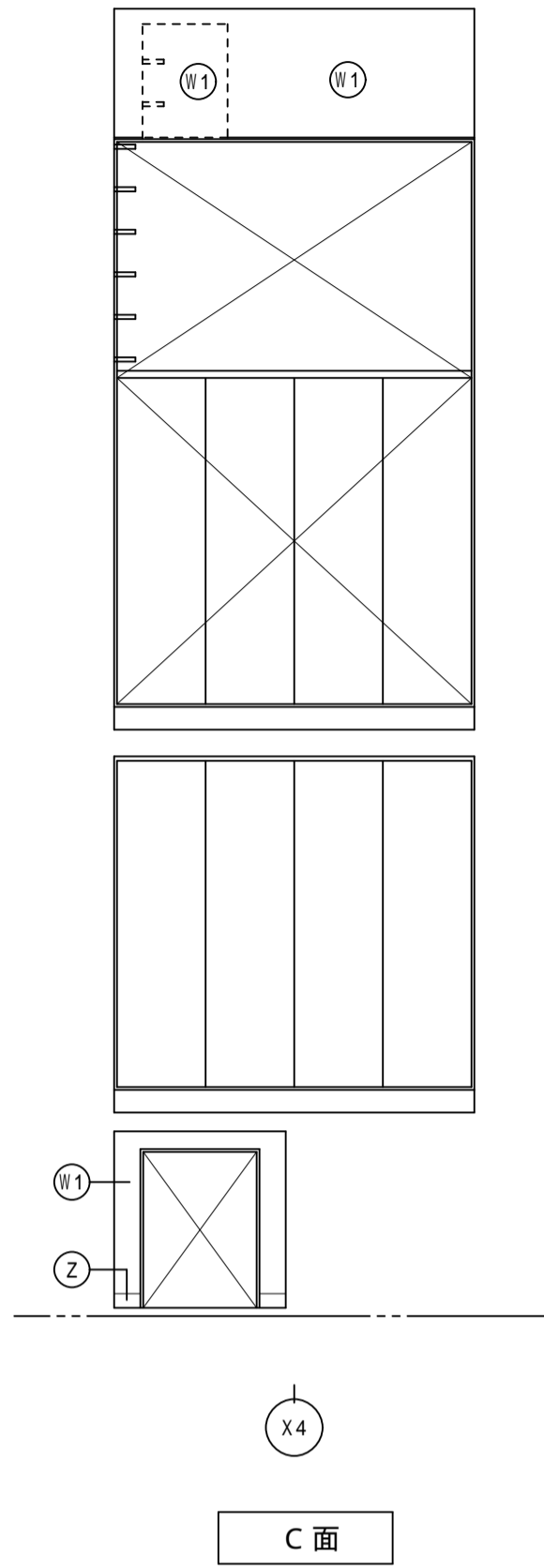
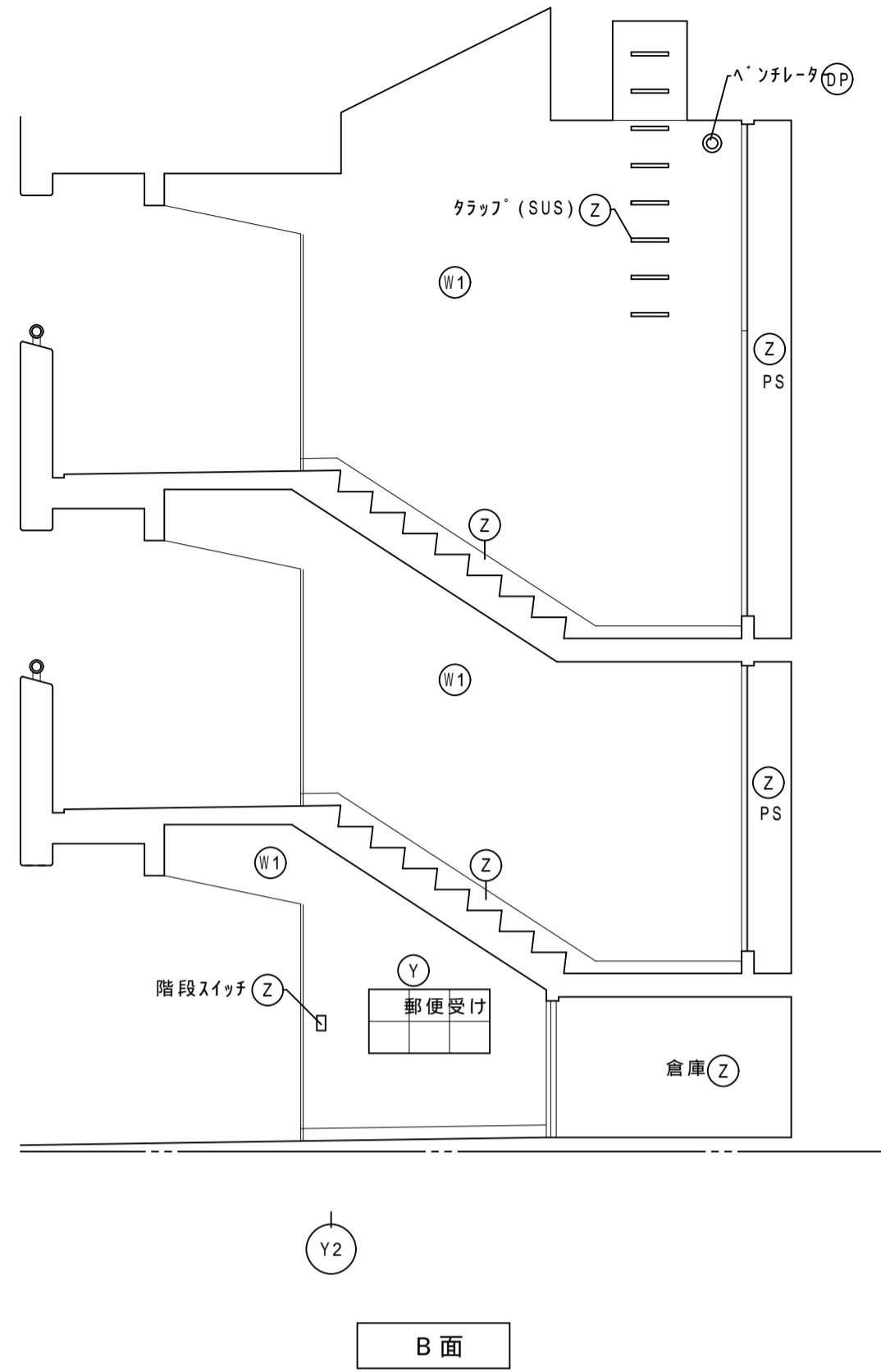
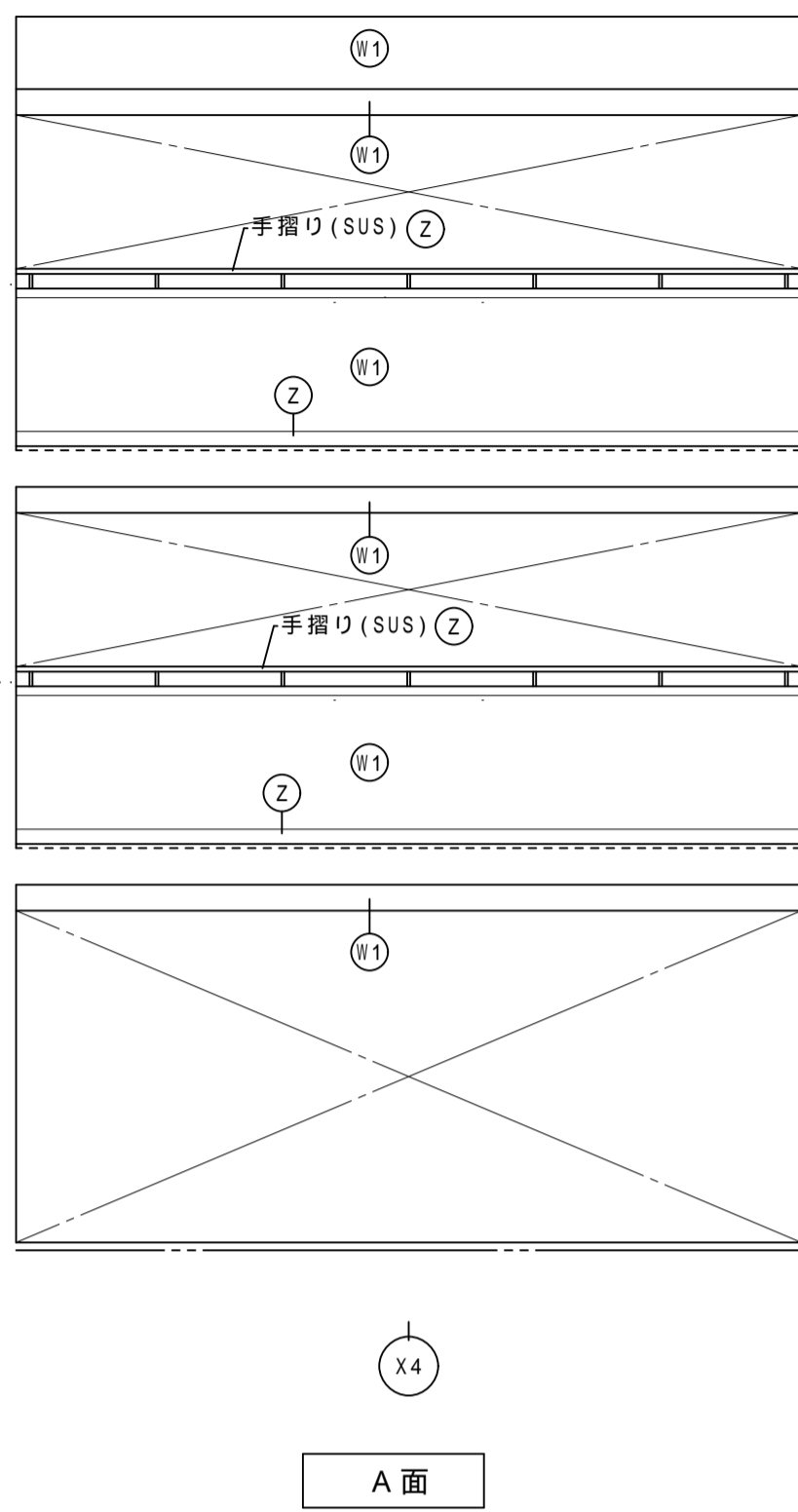
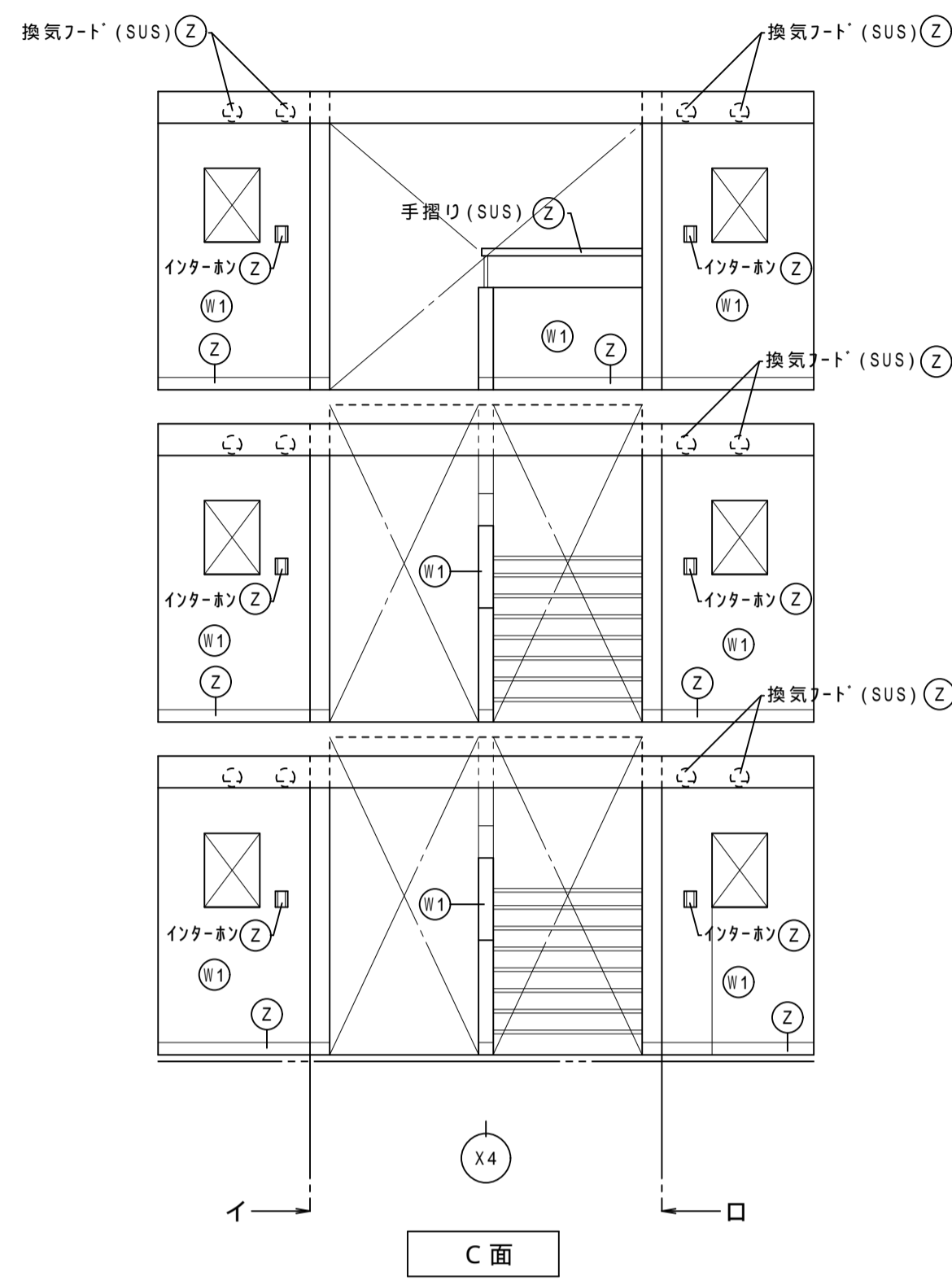
Y2 B 中面



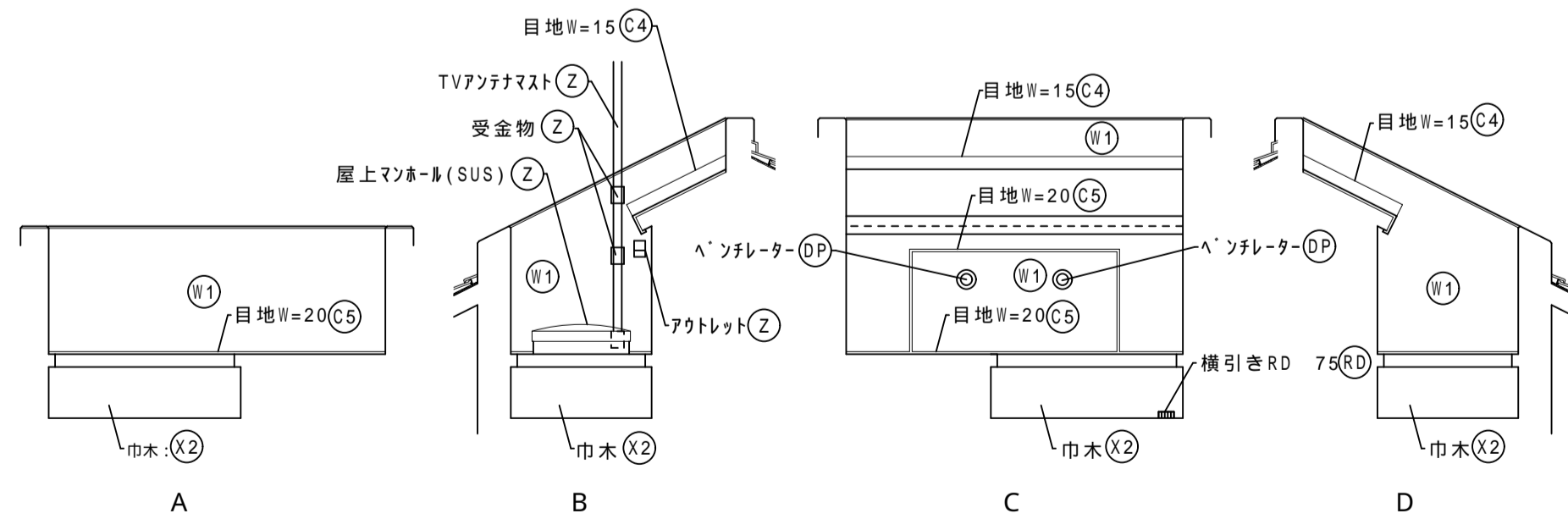
Y2 D 中面



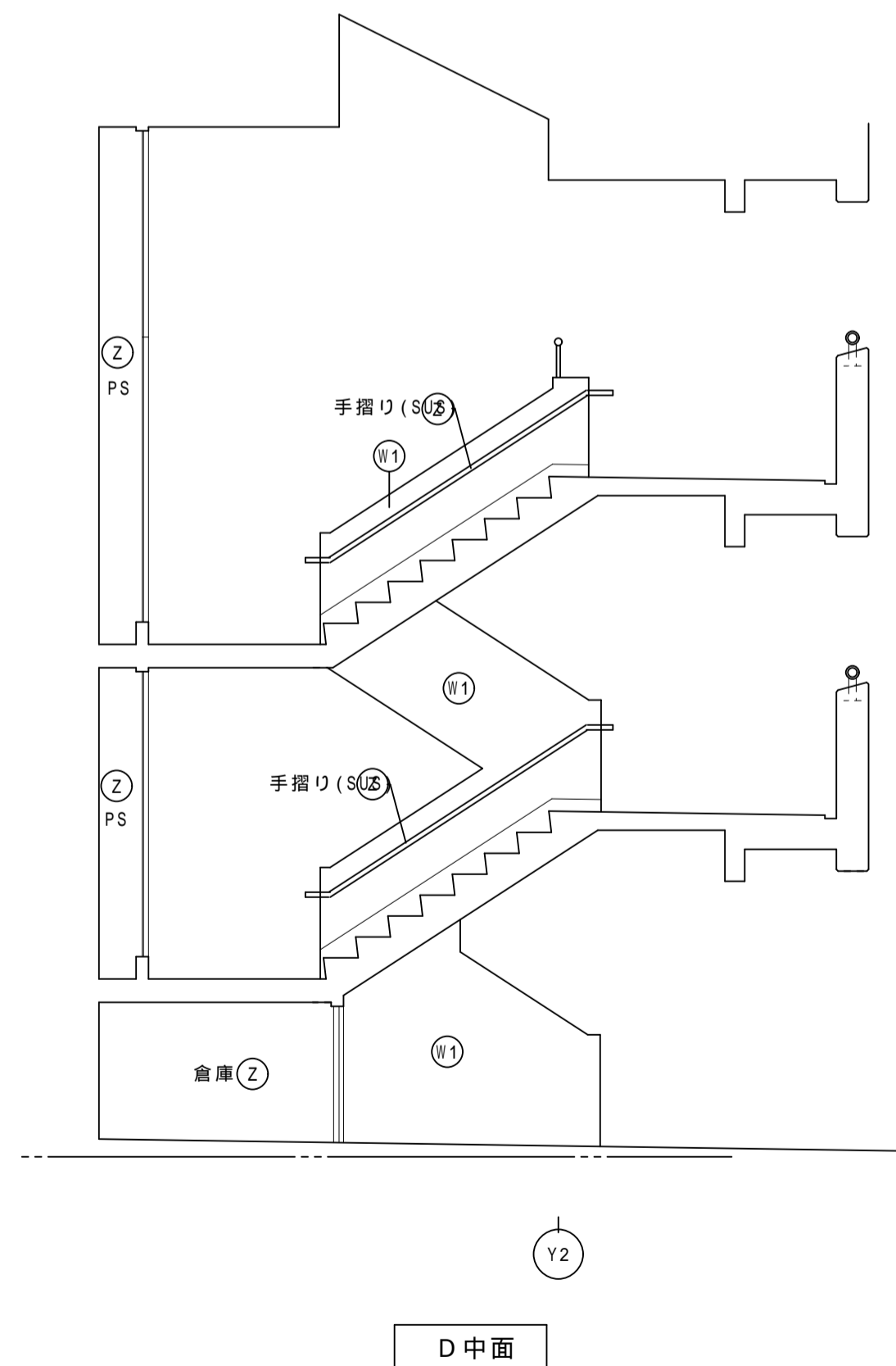
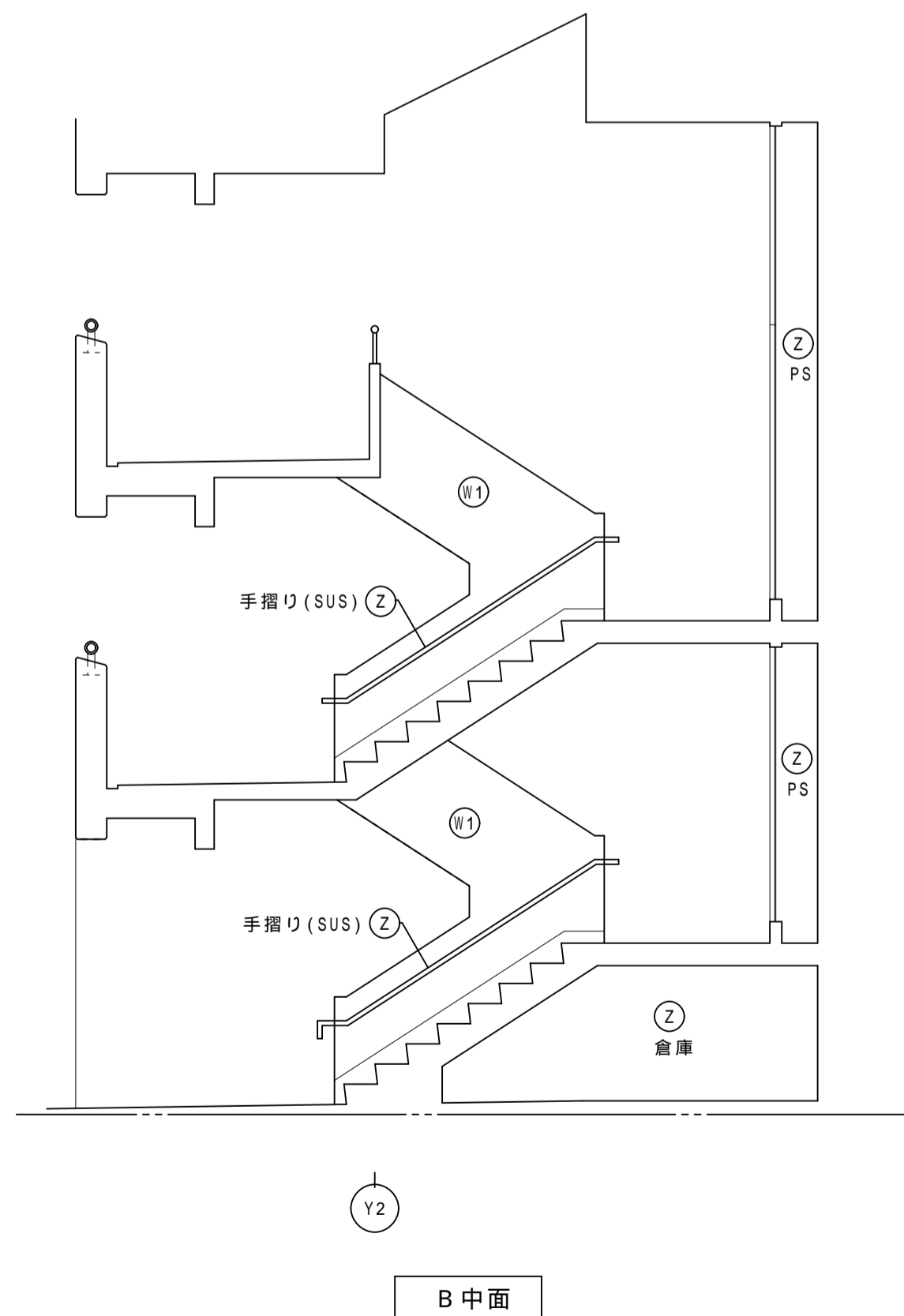
Y2 ロ

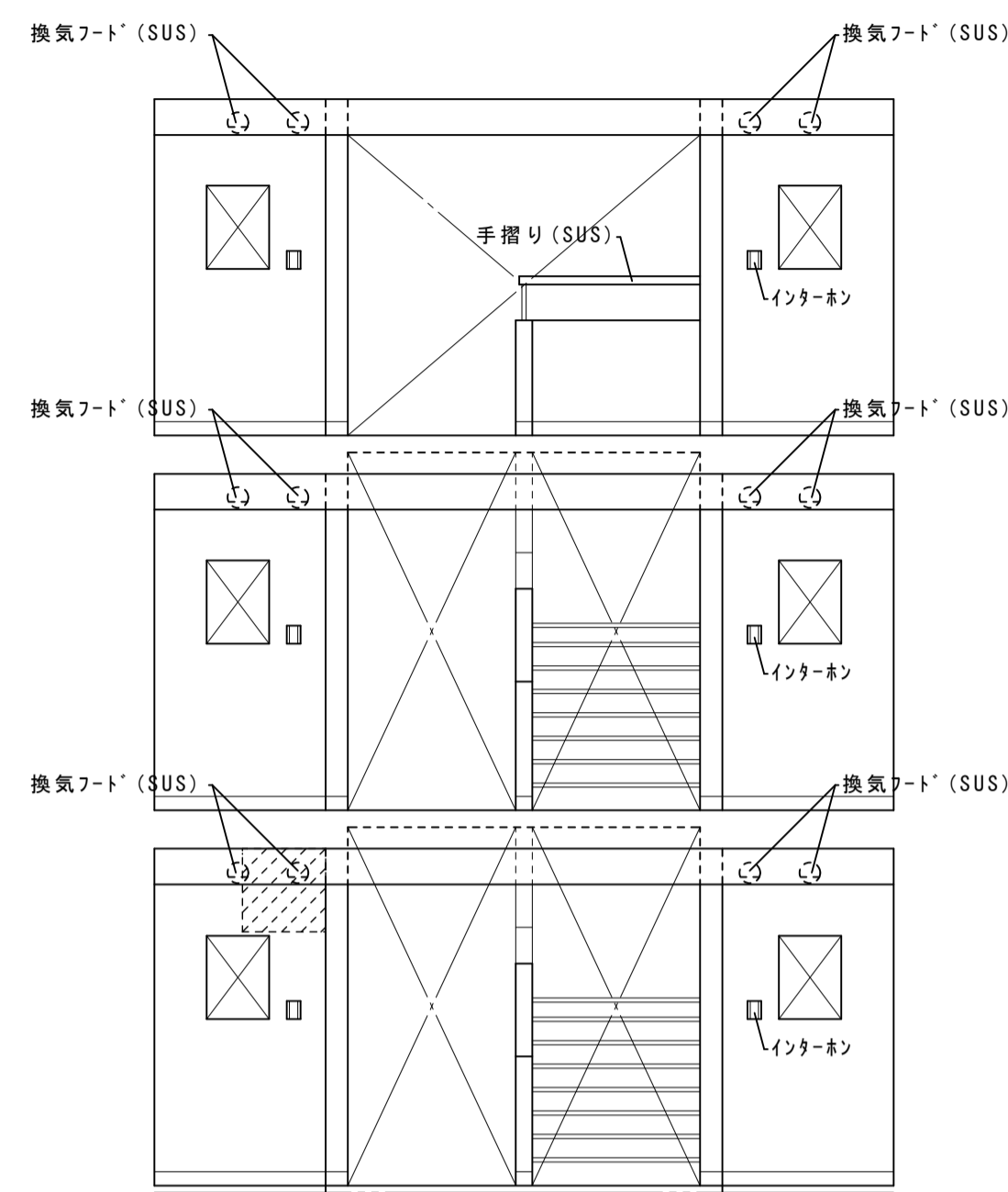


凡例	
(W1)	水洗いの上 可とう形改修塗材RE[ハイブリッドシリコン(RES)] (ローラー)
(X2)	撤去の上 塗膜防水(X-2)密着工法
(RD)	撤去の上 改修用ドレイン新設
(DP)	DP塗り
(C4)	撤去の上 シーリング 打15°10(MS-2)
(C5)	撤去の上 シーリング 打20°10(MS-2)
(Y)	取外し・再取付
(Z)	既存のまま
撤去 新設 (消火器表示板)	

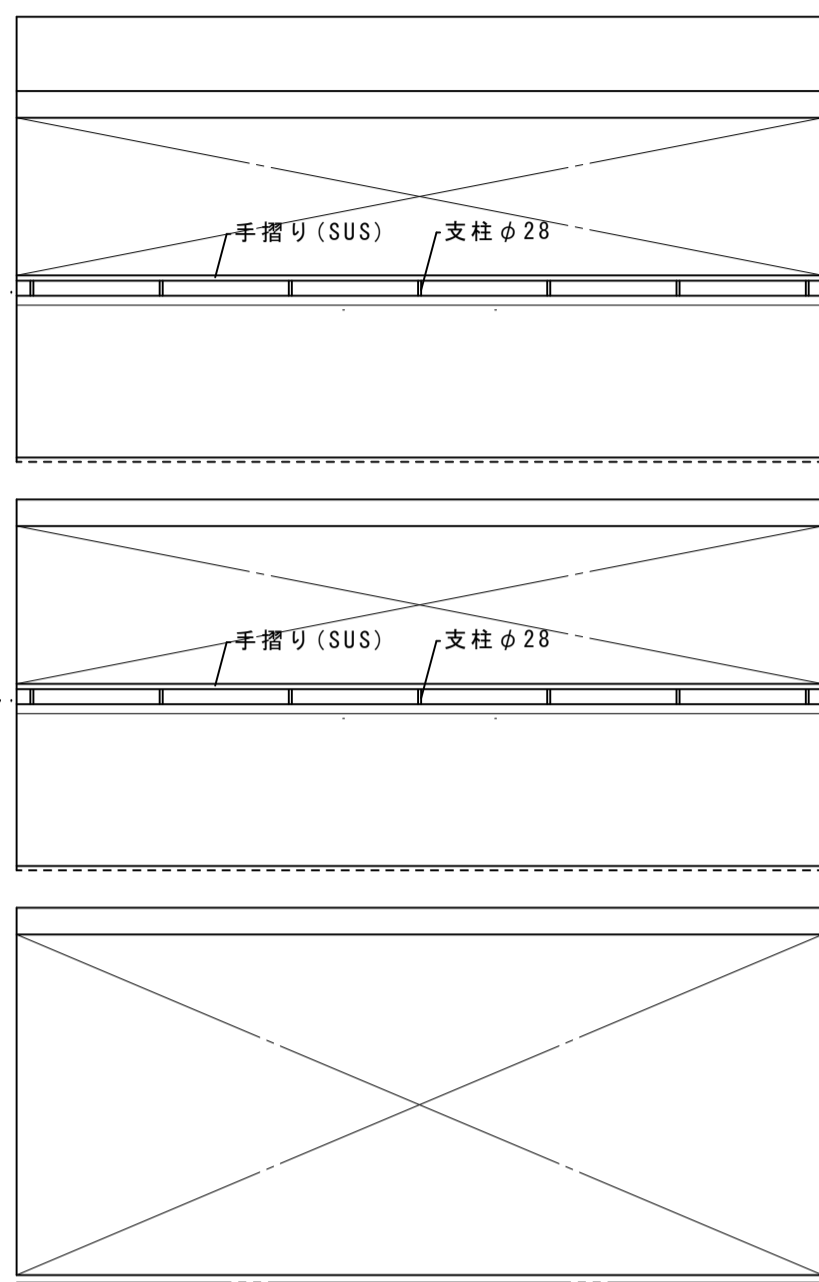


マンホール

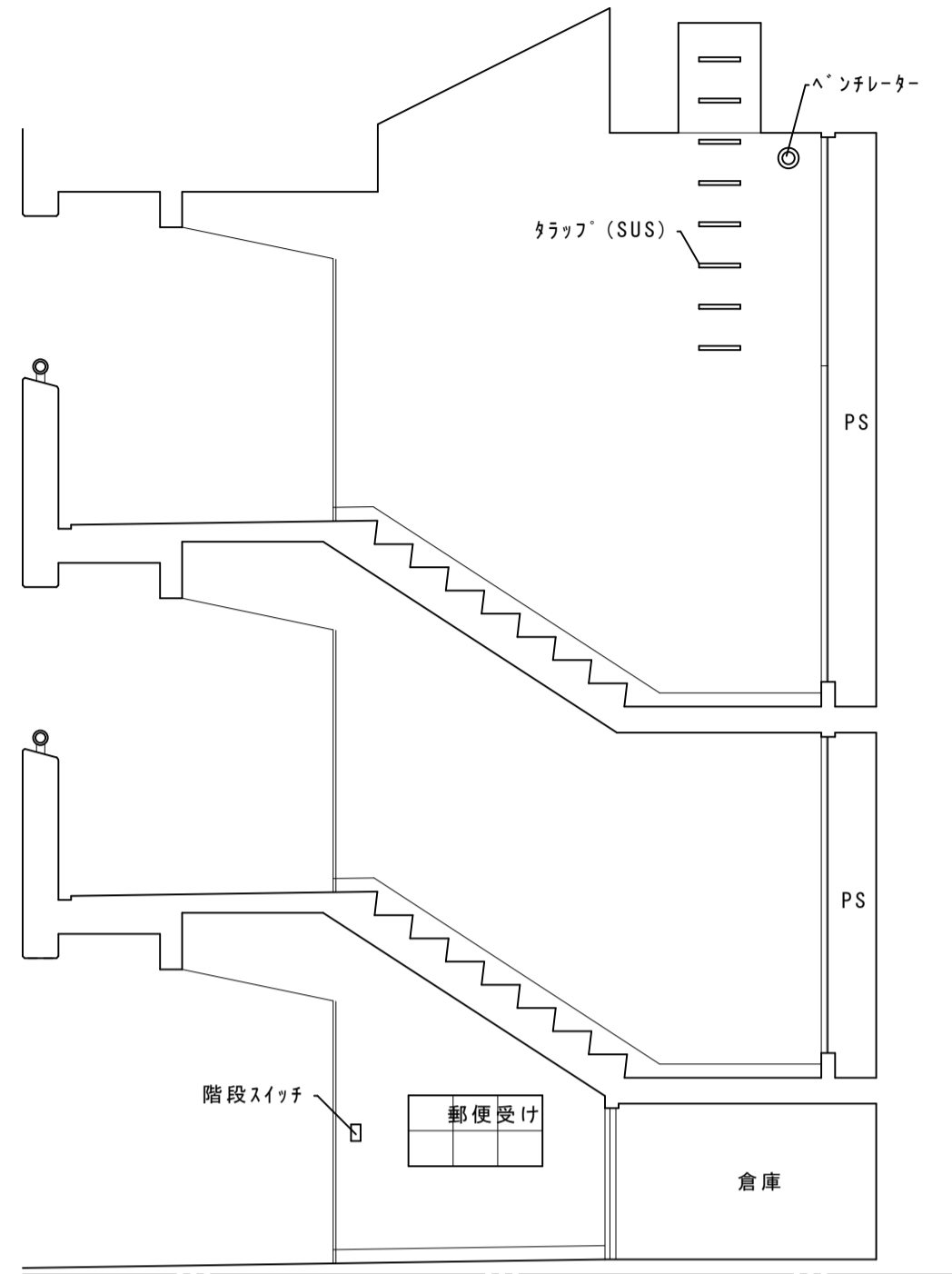




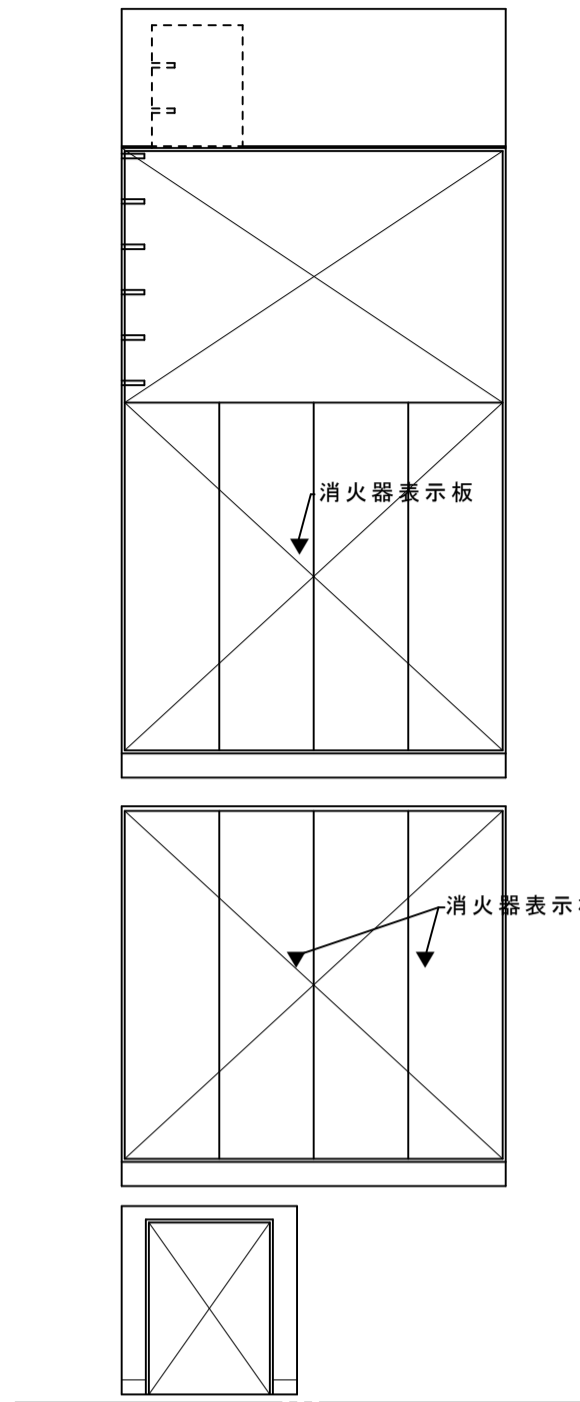
C 面



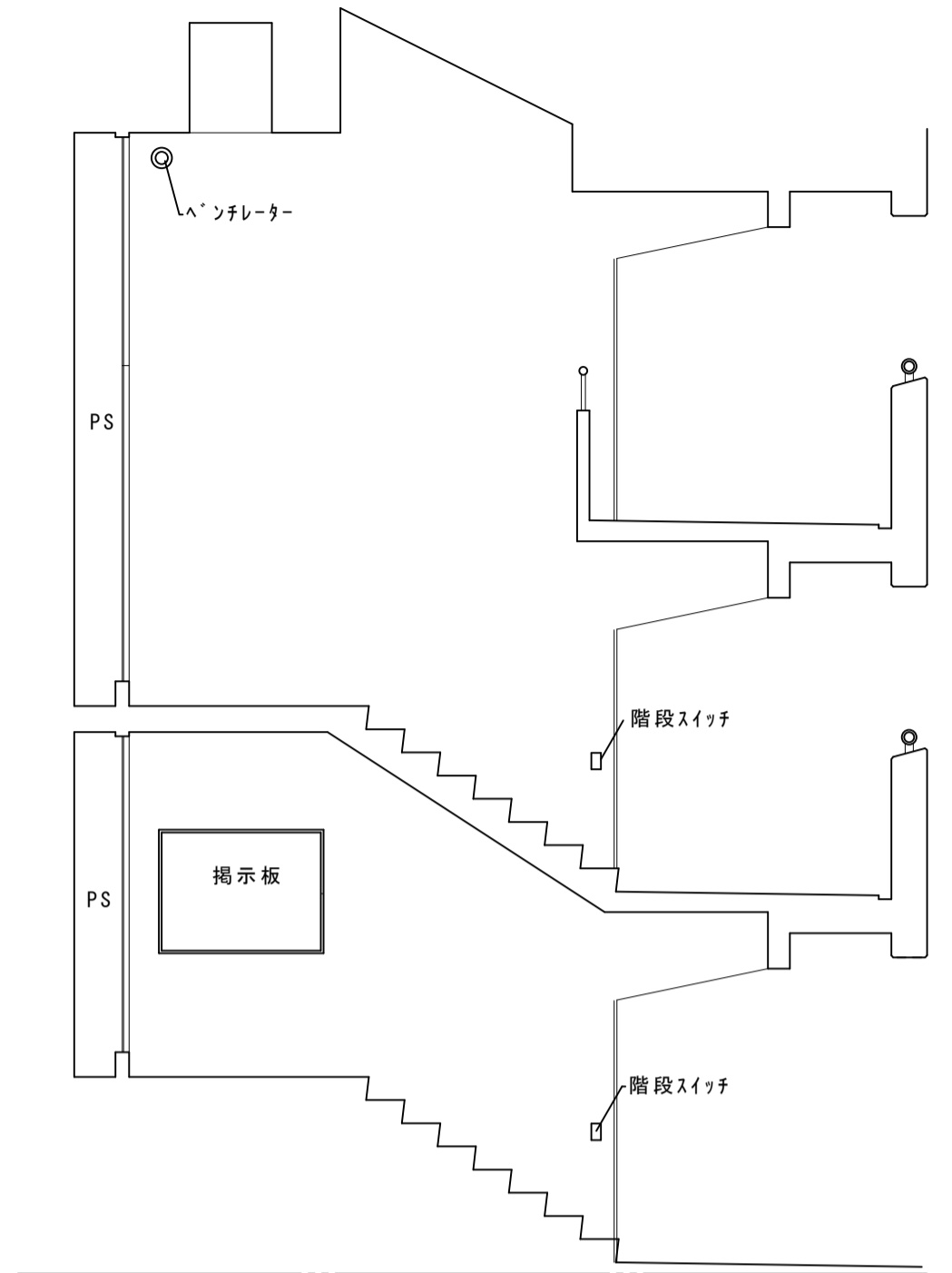
A 面



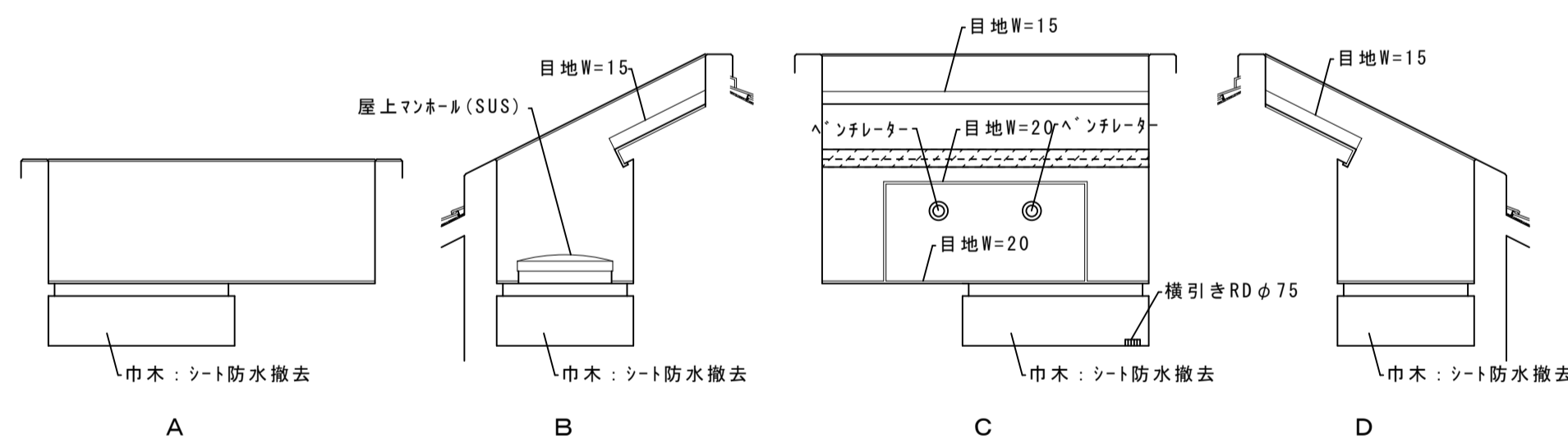
B 面



C 面

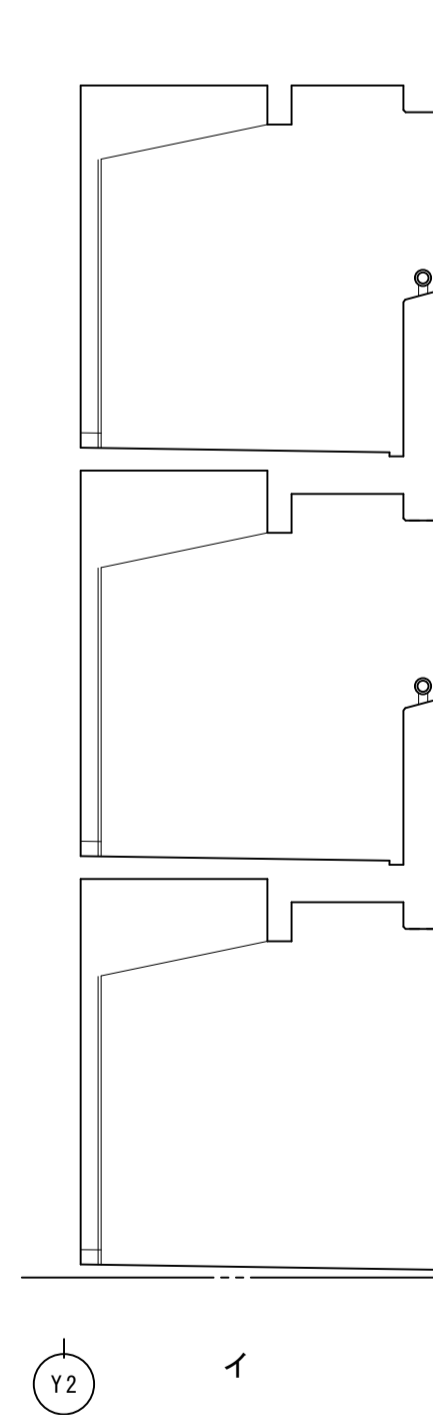


D 面

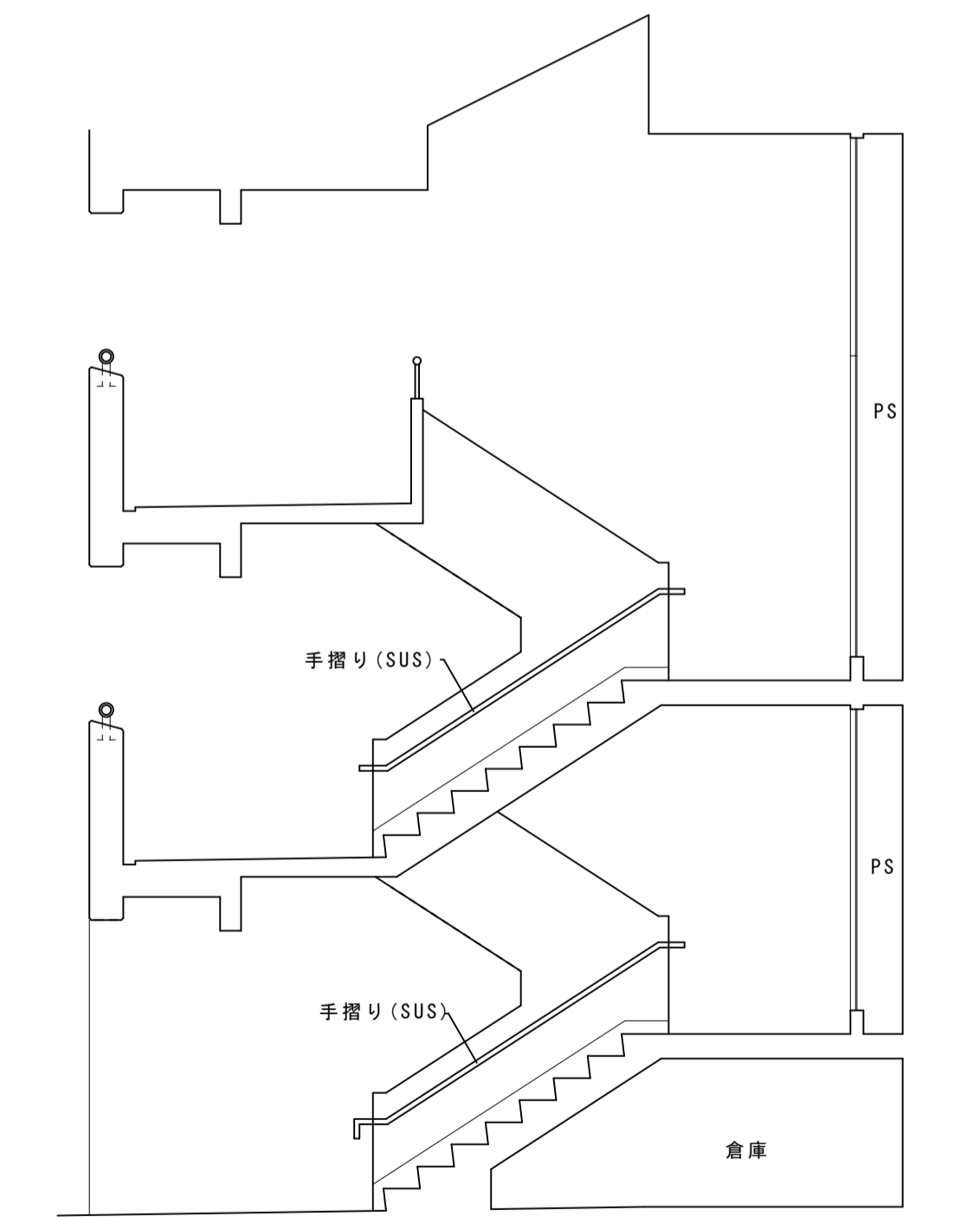


マンホール

凡例	
	既存塗膜剥離 + 下地調整 (C-2)

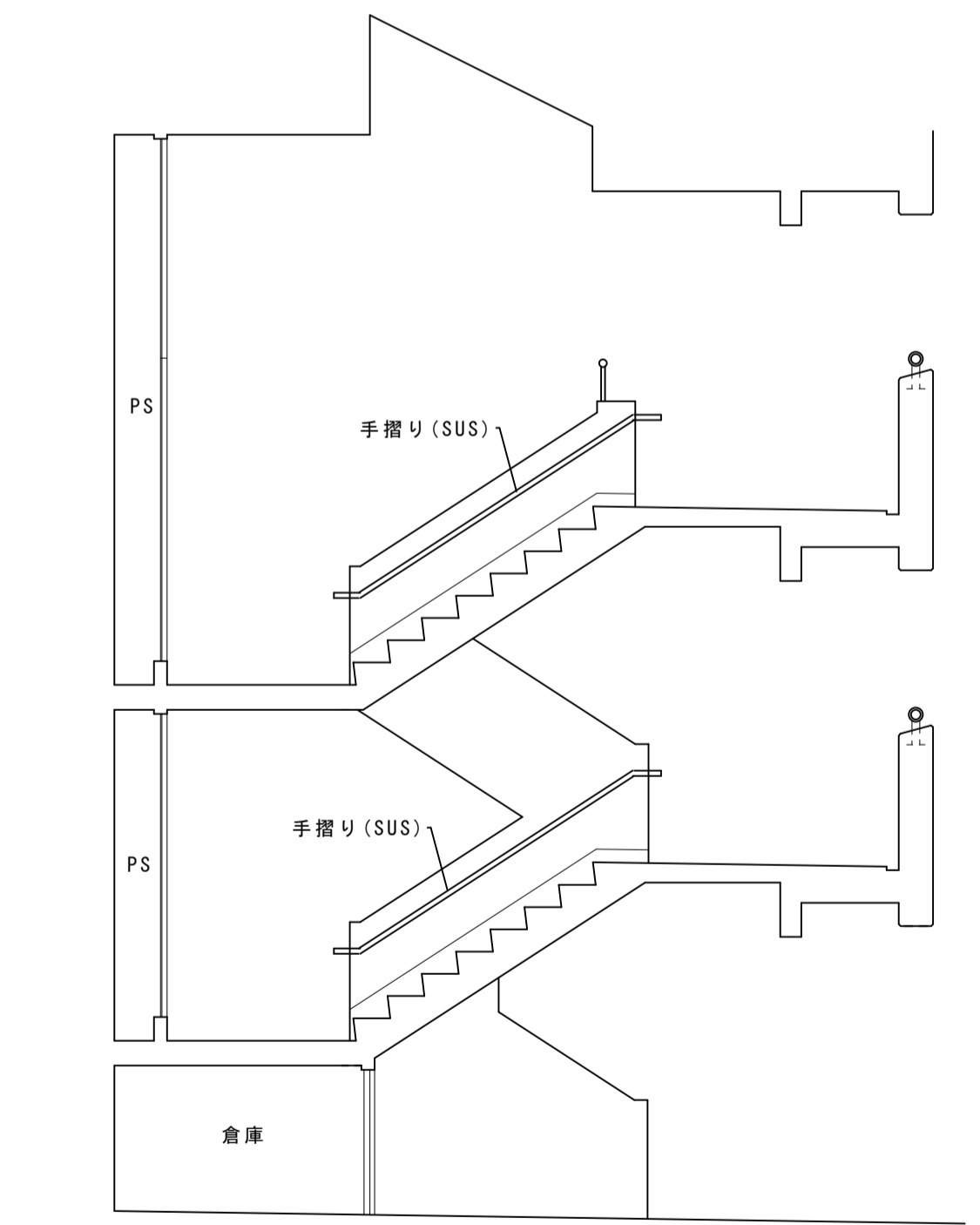


イ



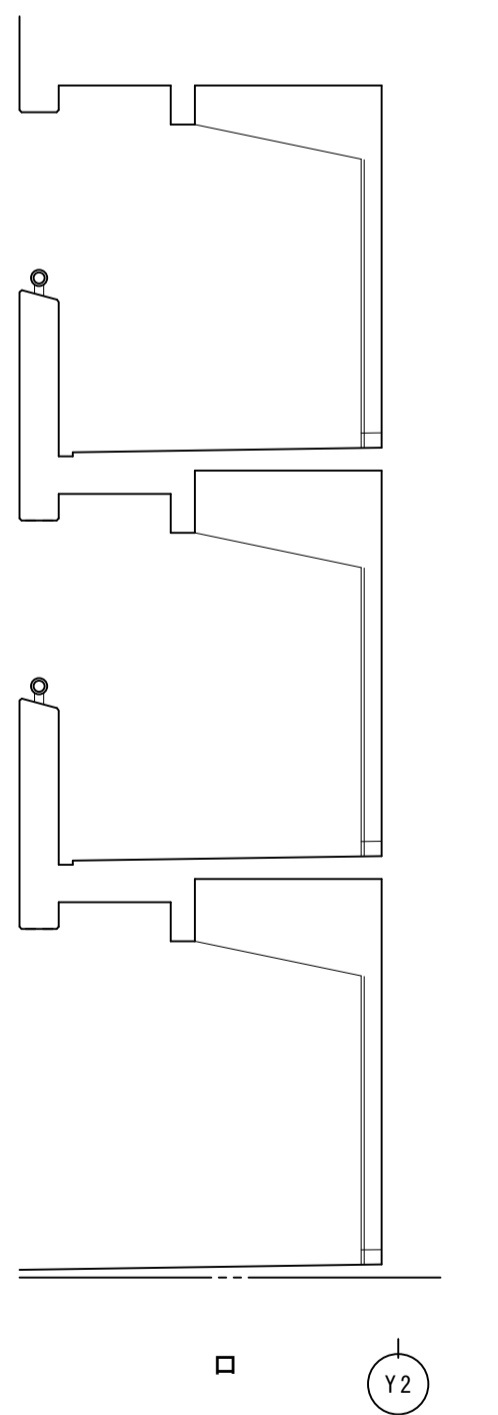
Y2

B 中面

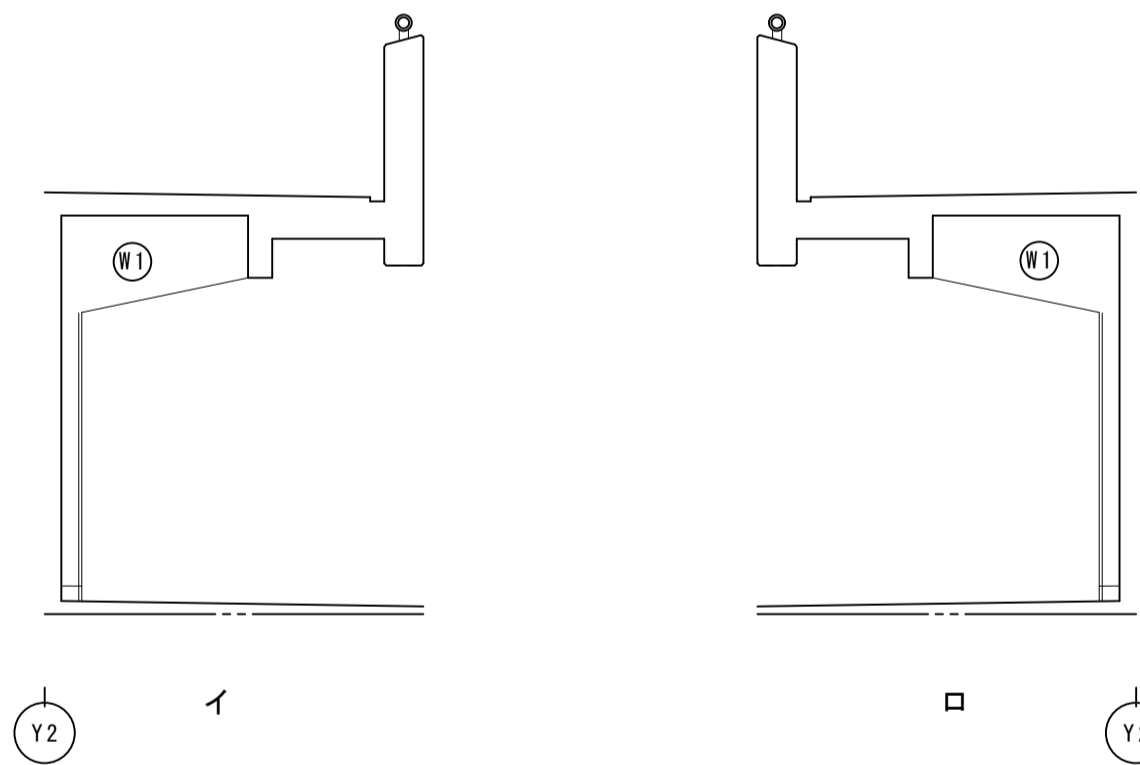
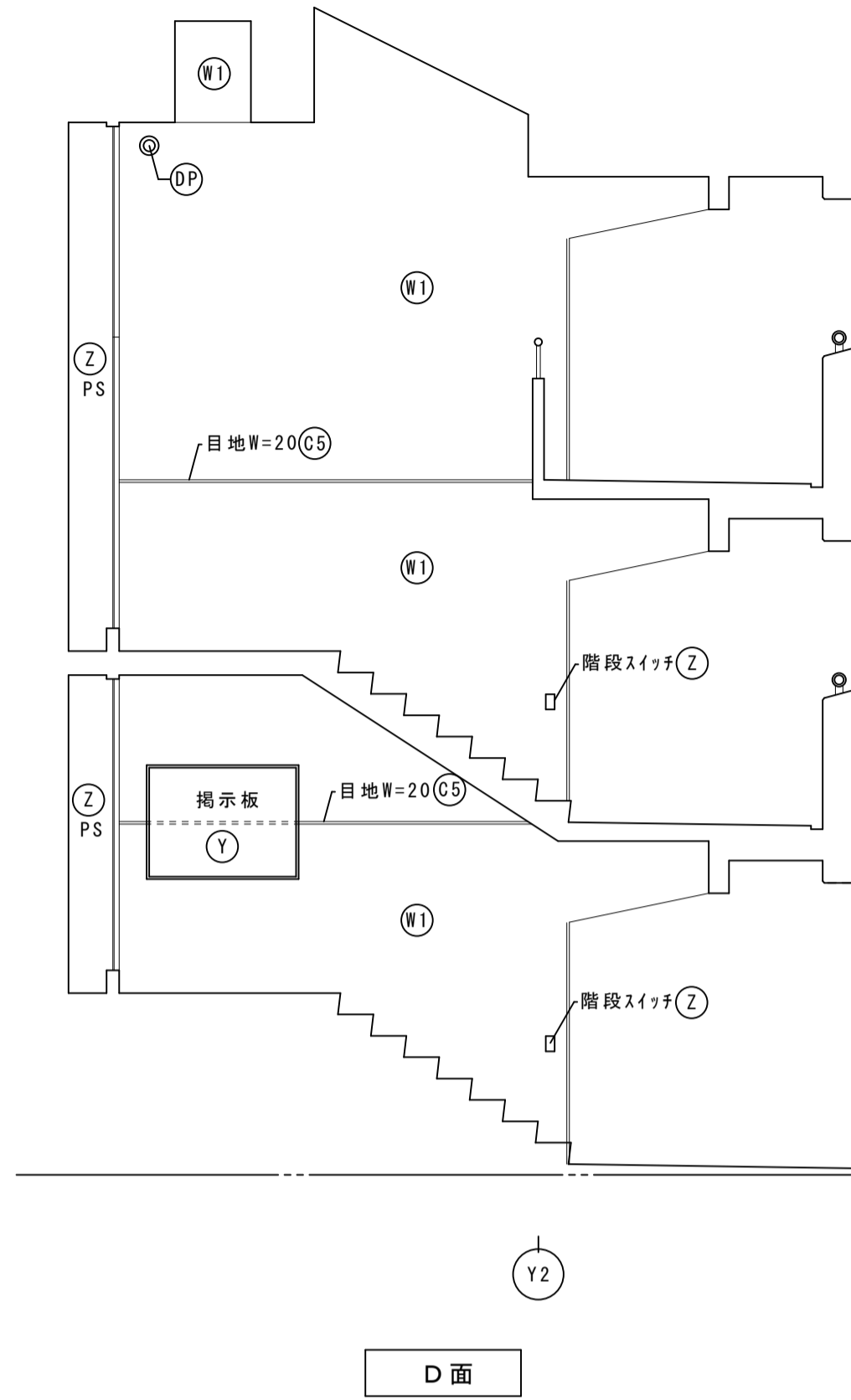
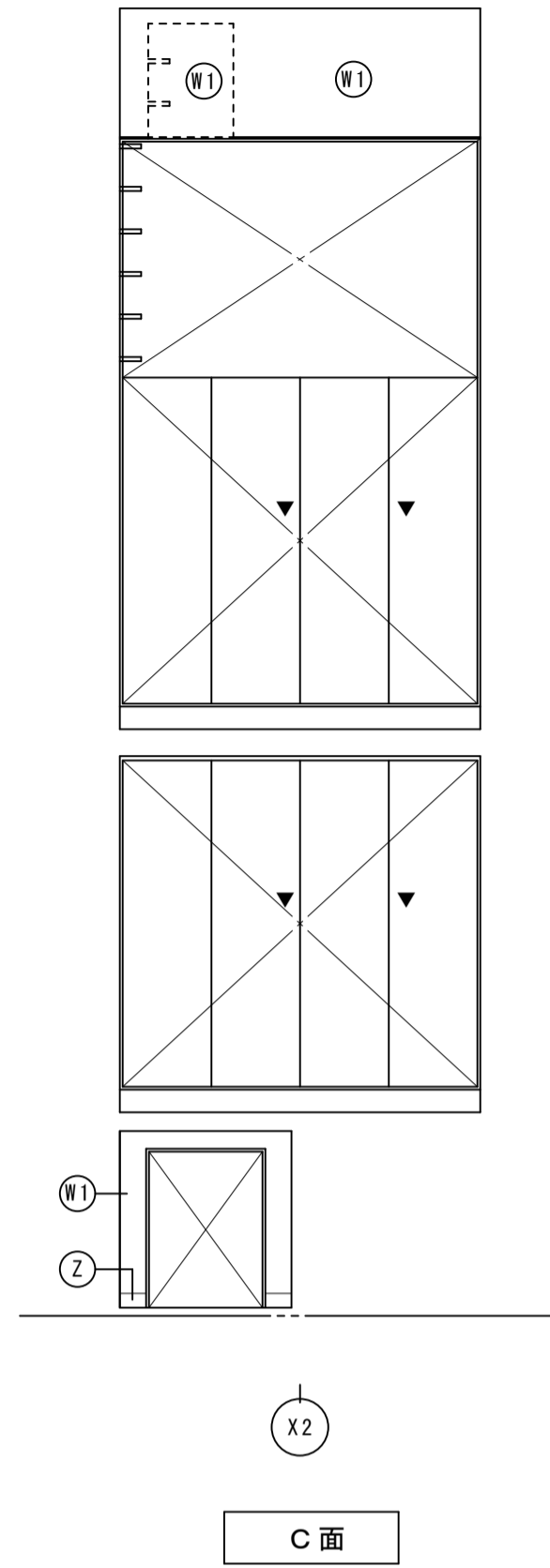
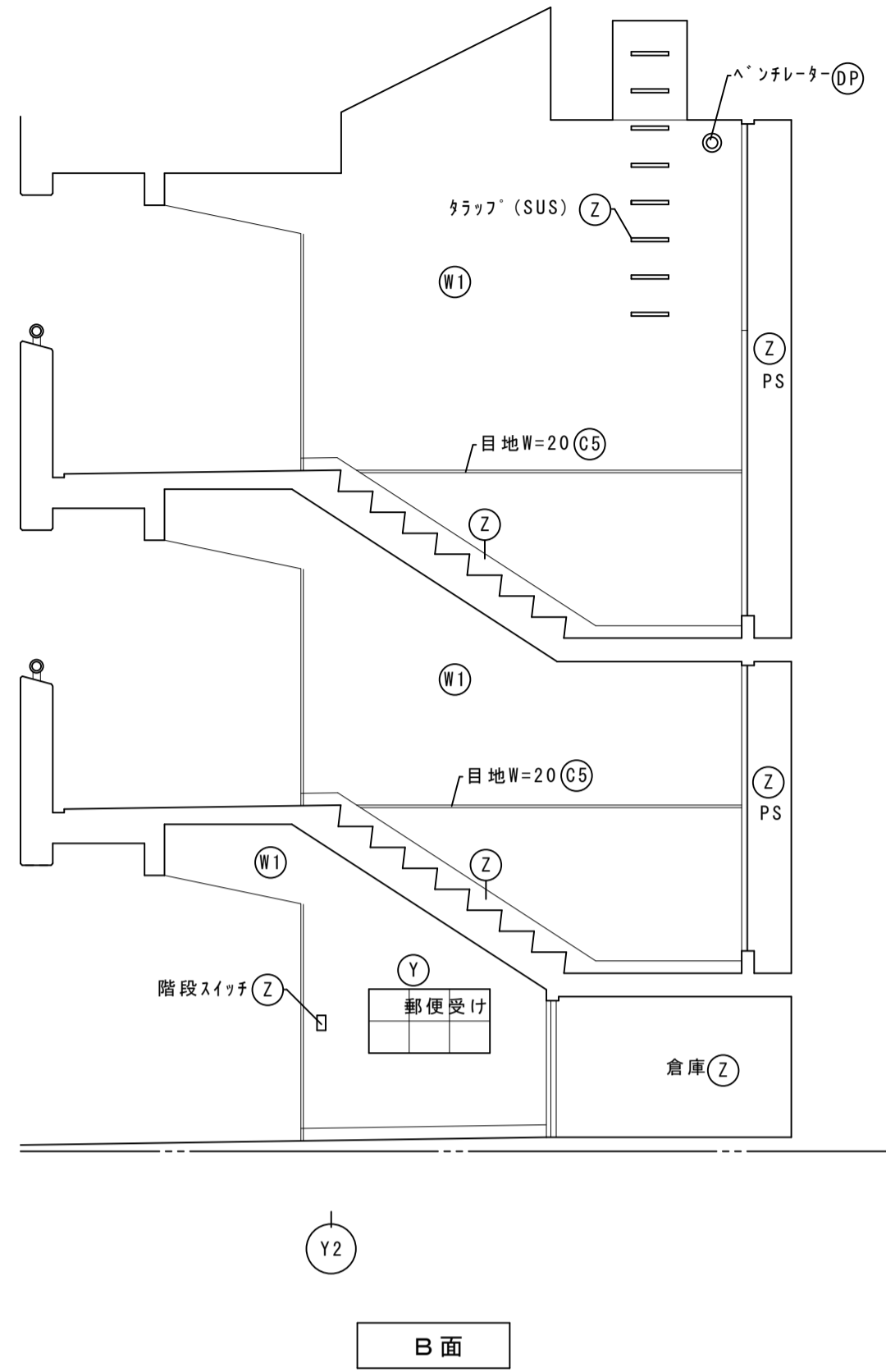
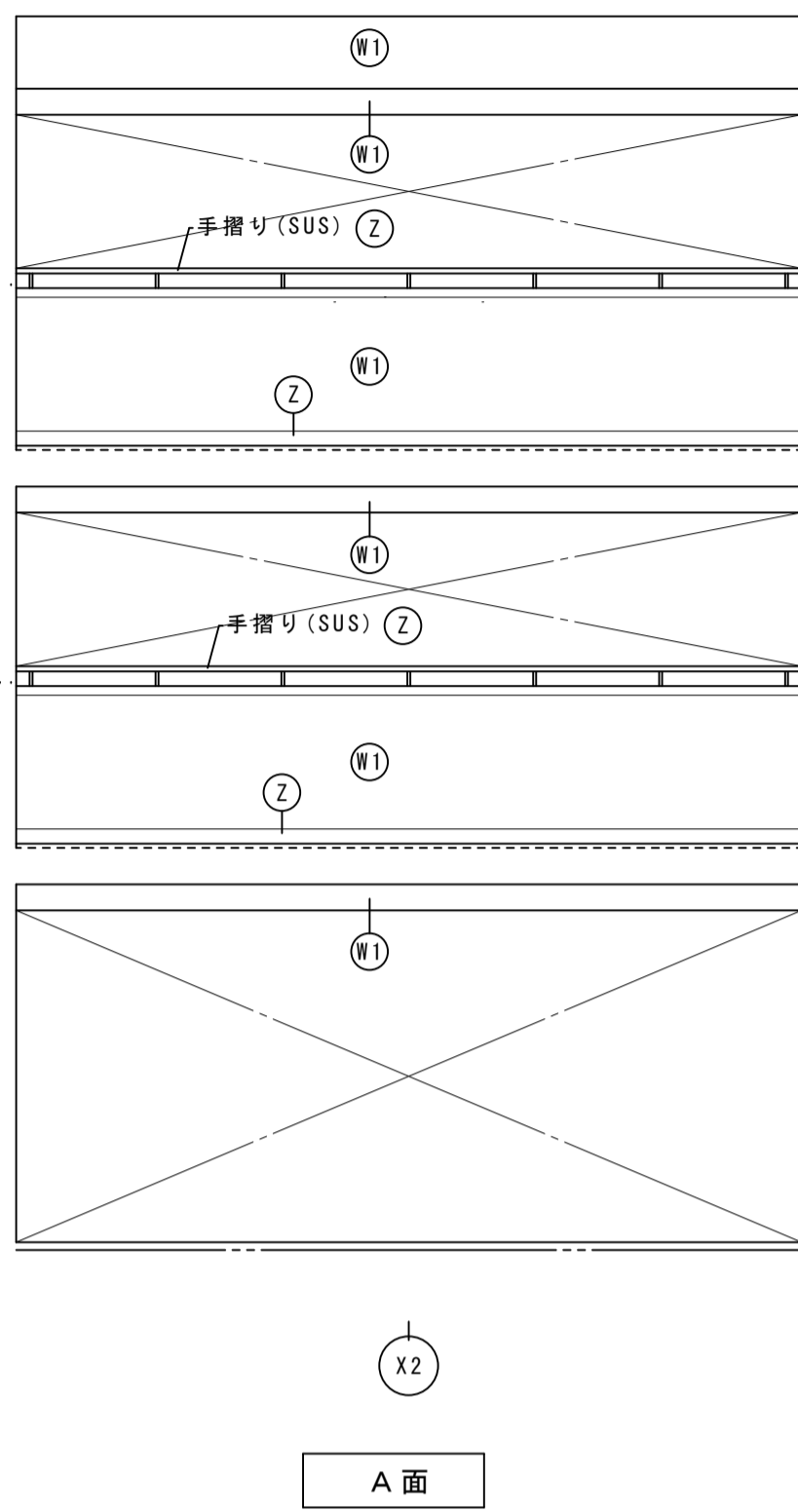
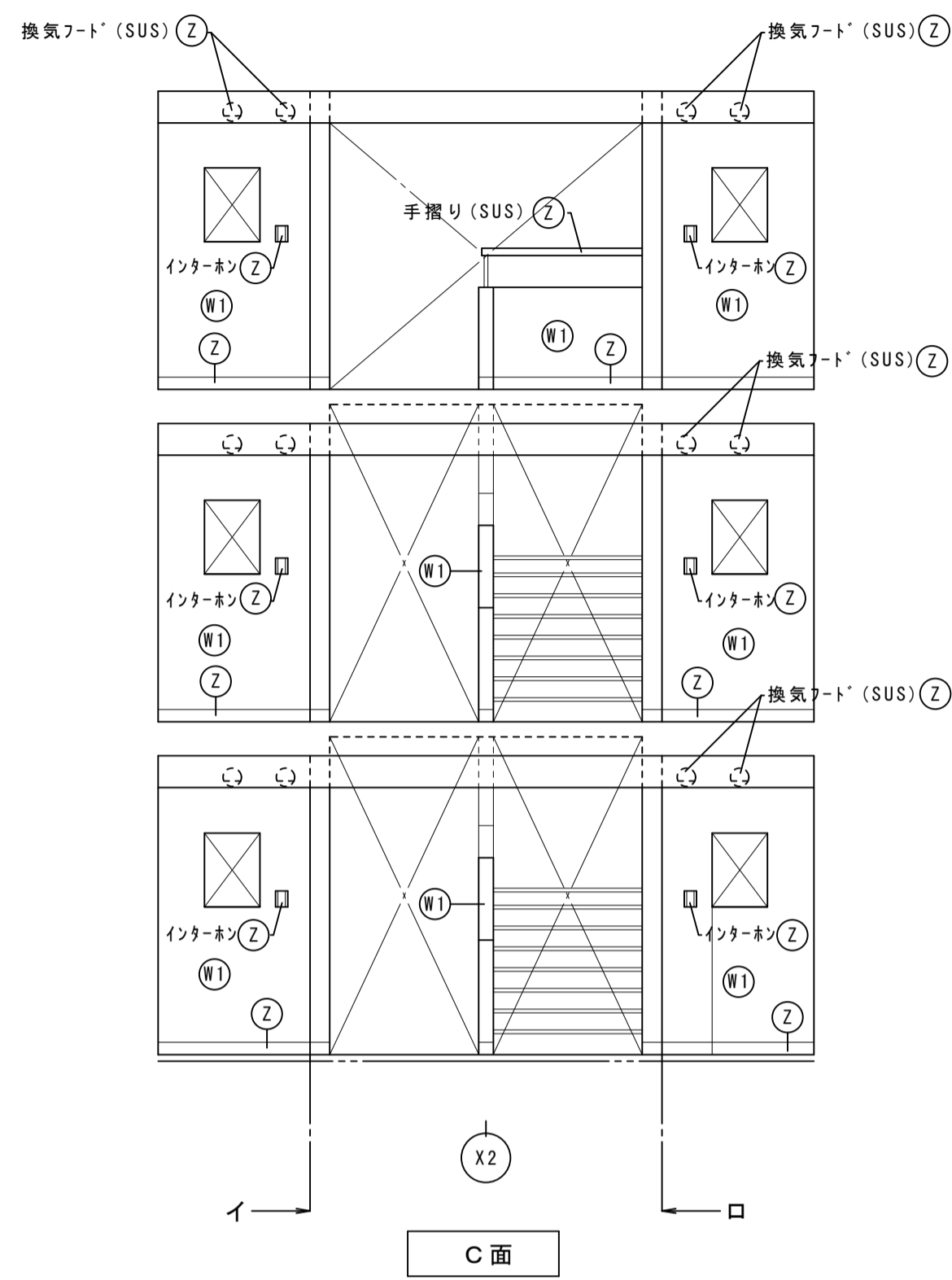


Y2

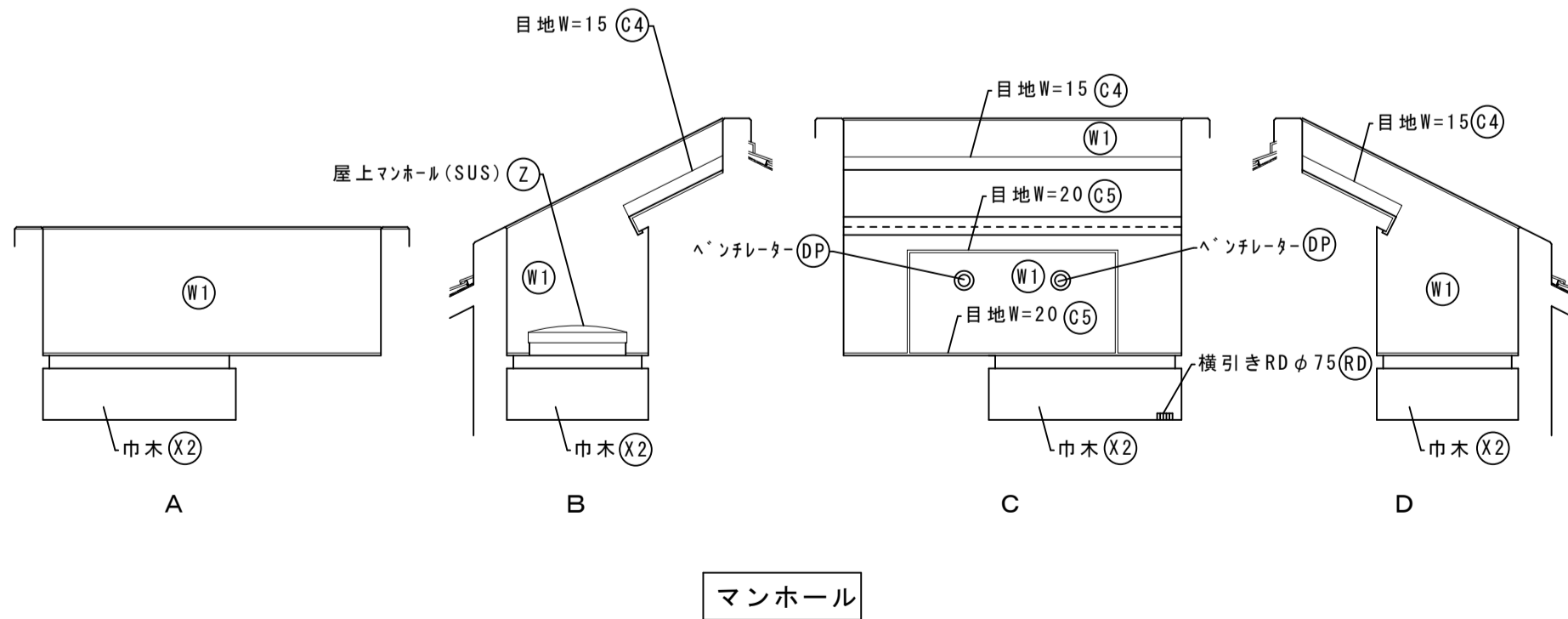
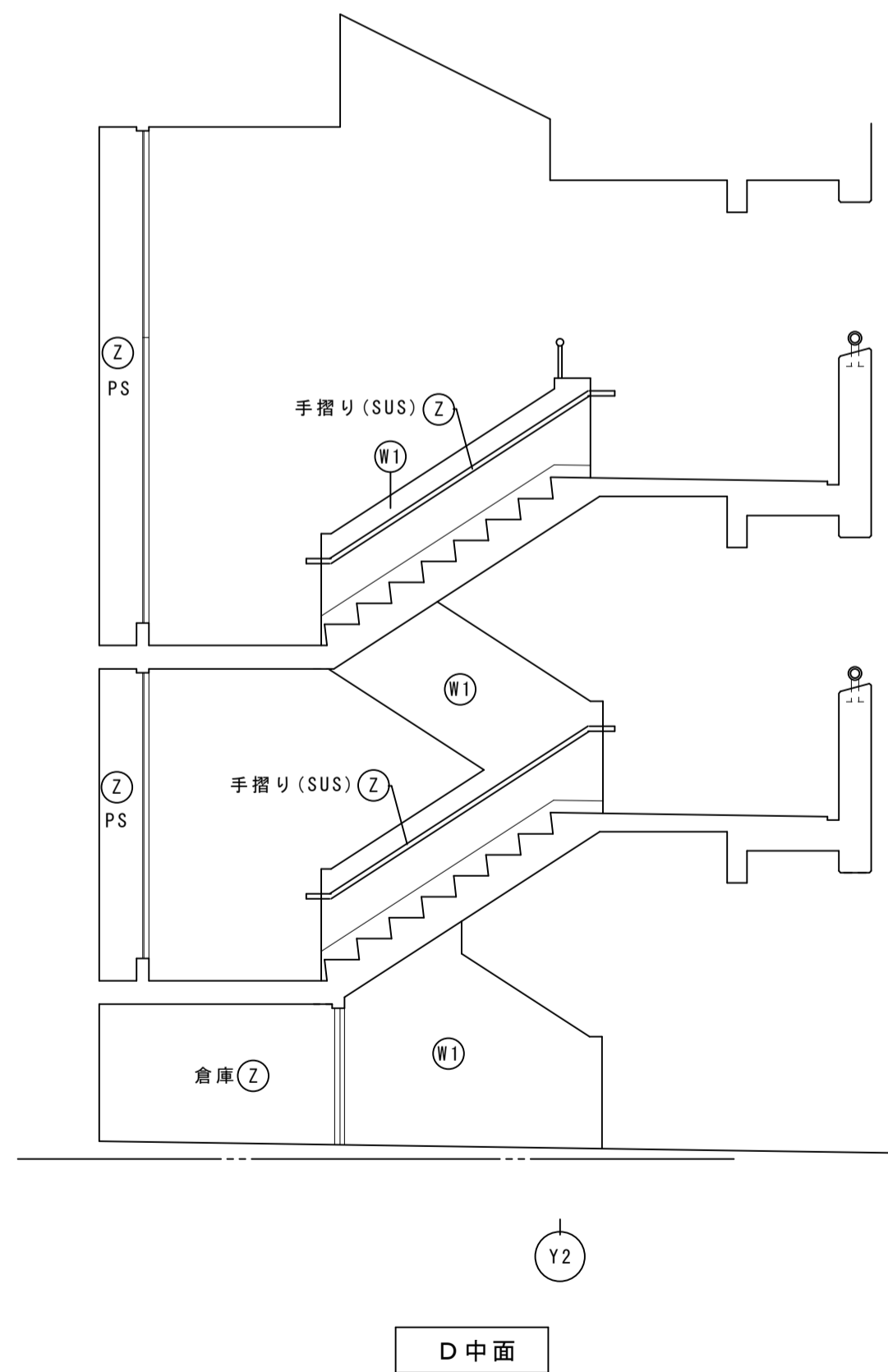
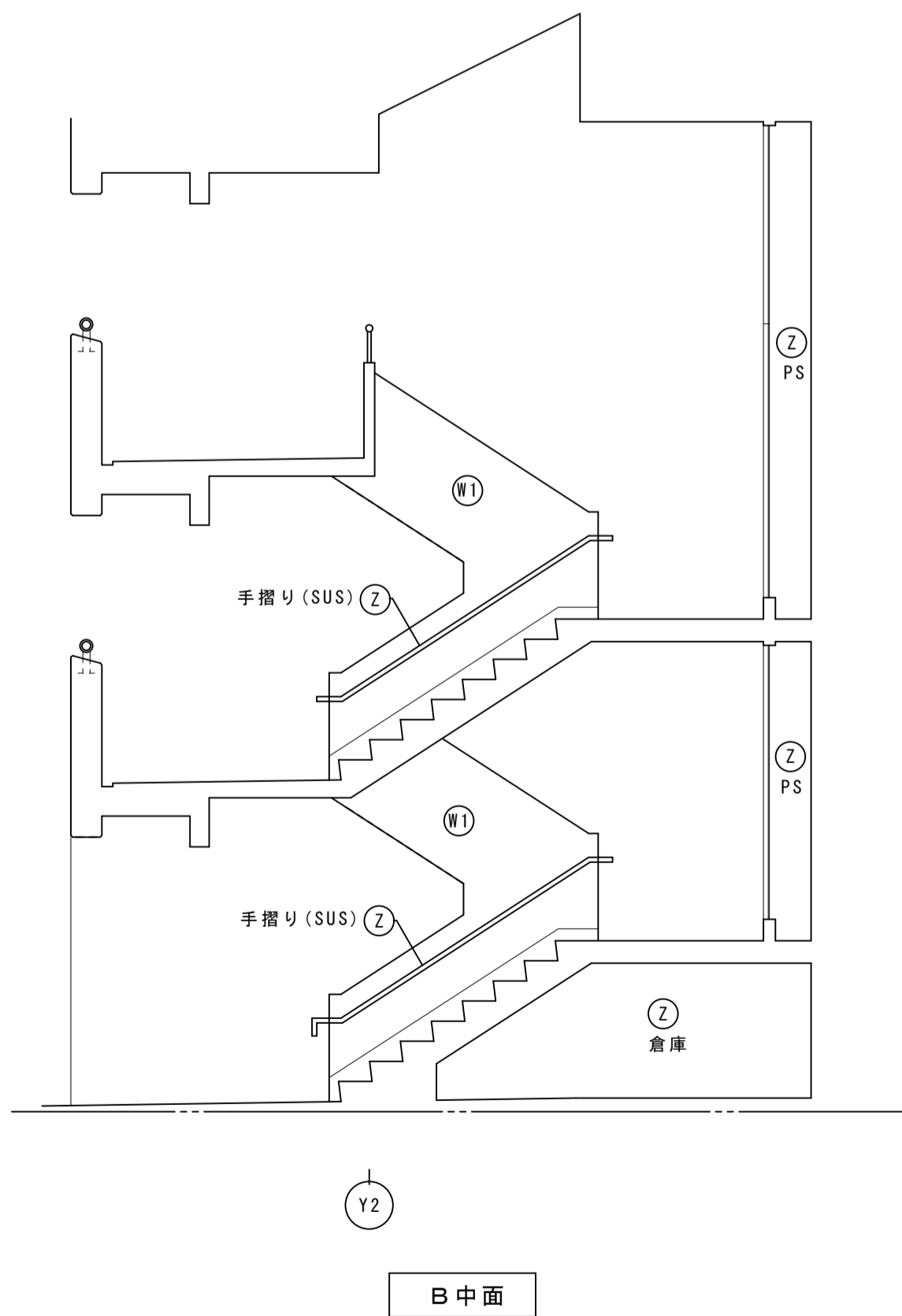
D 中面



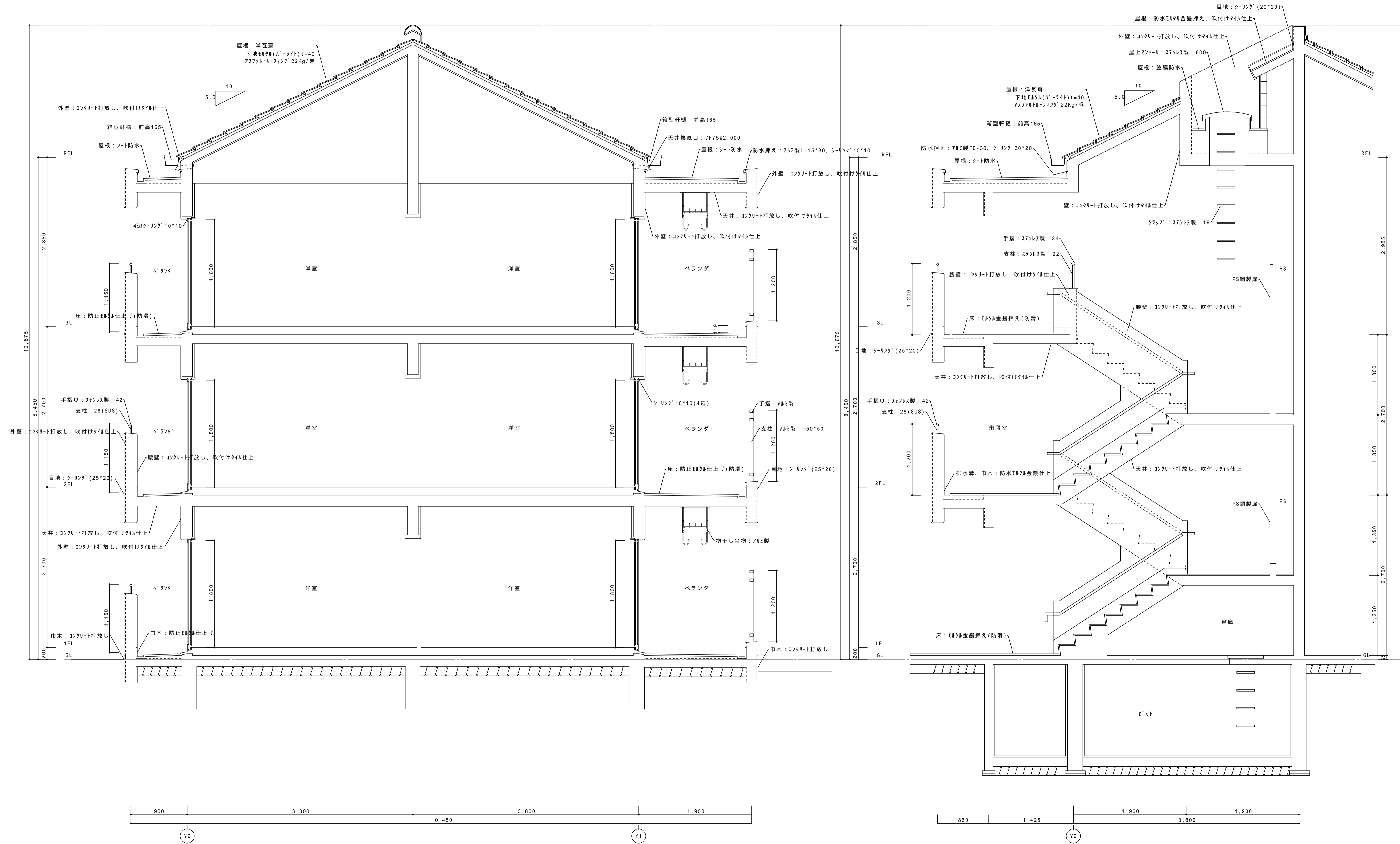
ロ



凡例	
(W1)	水洗いの上 可とう形改修塗材RE[ハイグ'リット'シリコン(nls)](ローラ)
(X2)	撤去の上 塗膜防水(X-2)密着工法
(R0)	撤去の上 改修用ドレイン新設
(DP)	DP塗り
(C4)	撤去の上 シーリング 打15×10(MS-2)
(C5)	撤去の上 シーリング 打20×10(MS-2)
(Y)	取外し・再取付
(Z)	既存のまま
▼	撤去 新設 (消火器表示板)

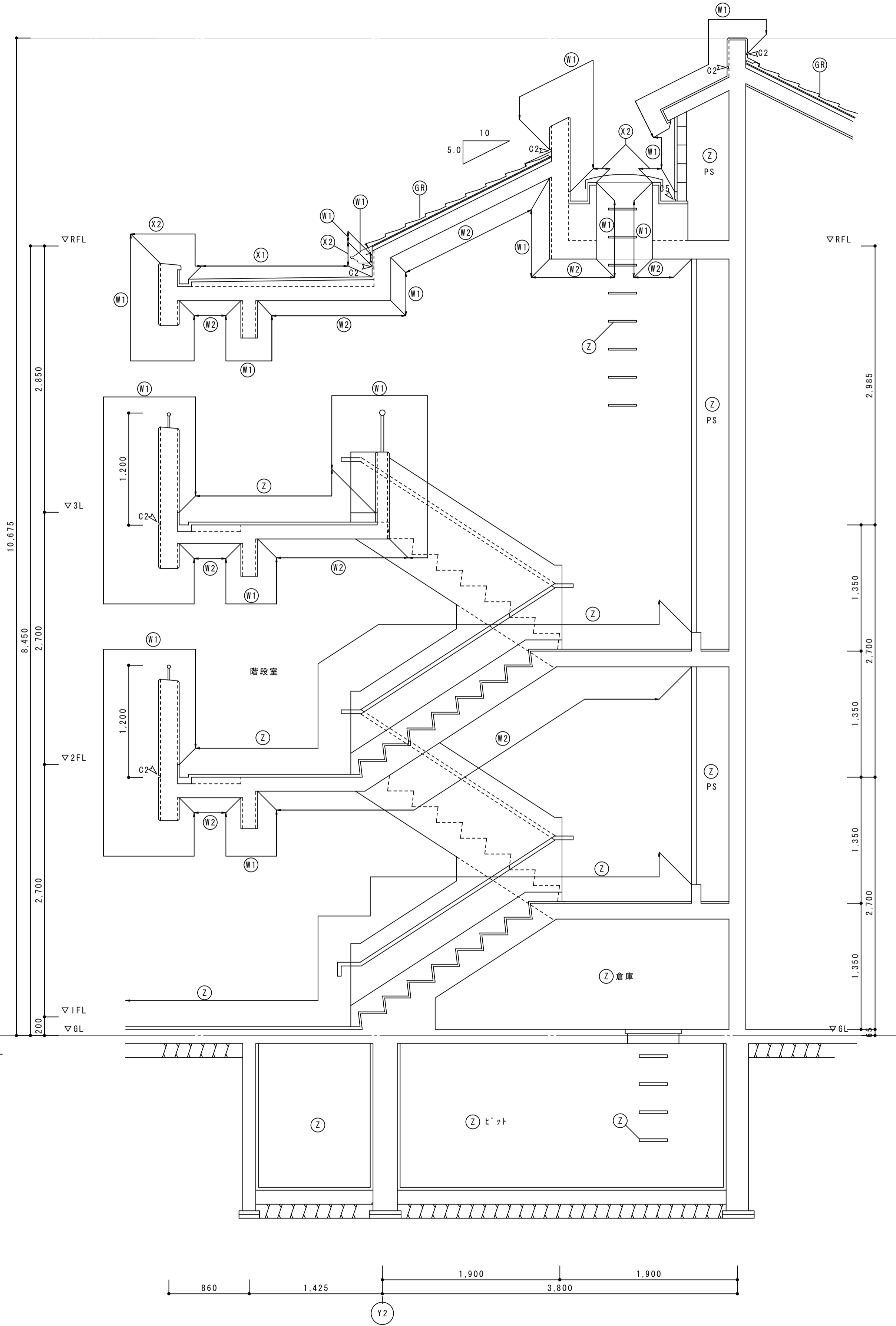
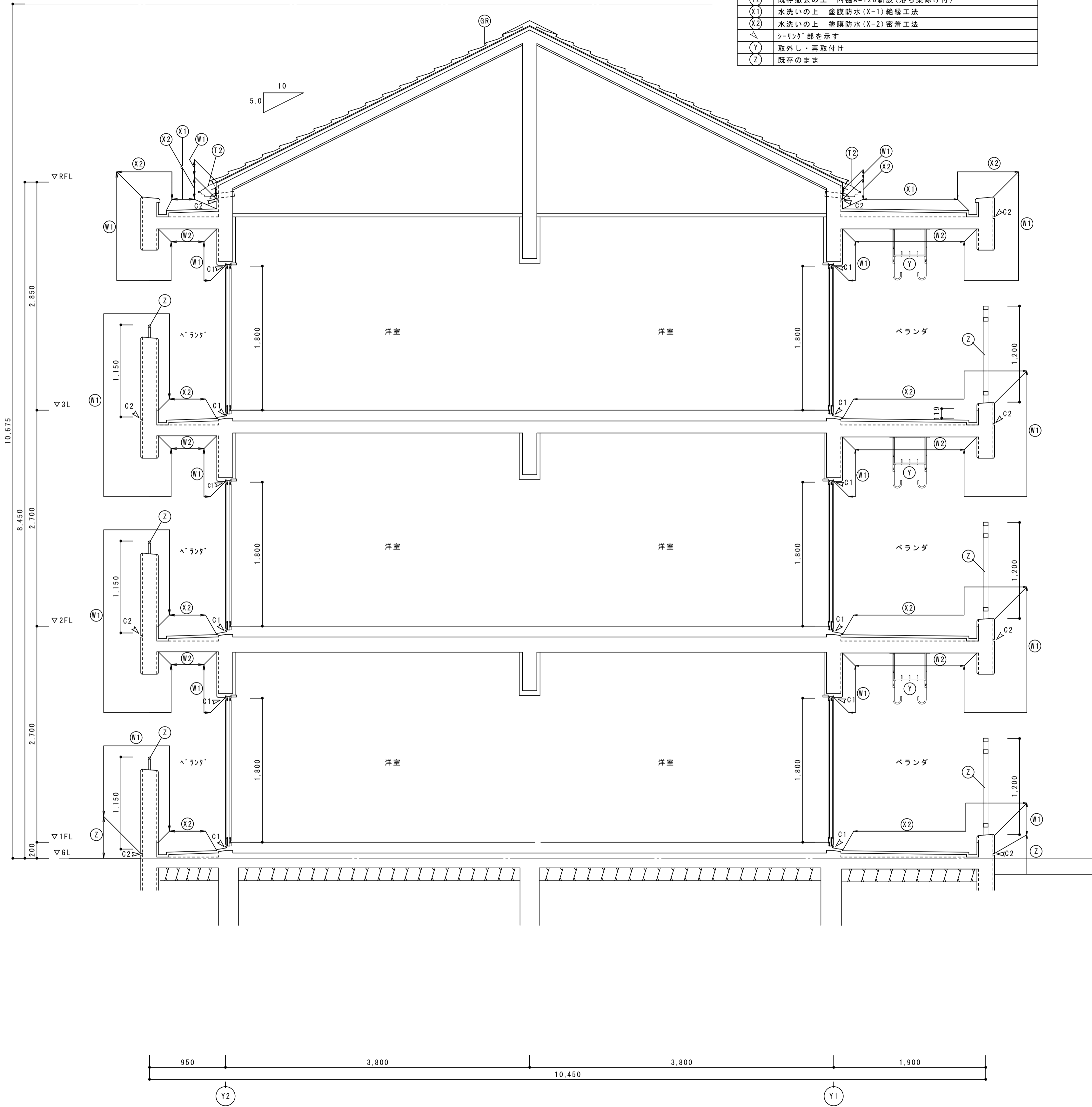


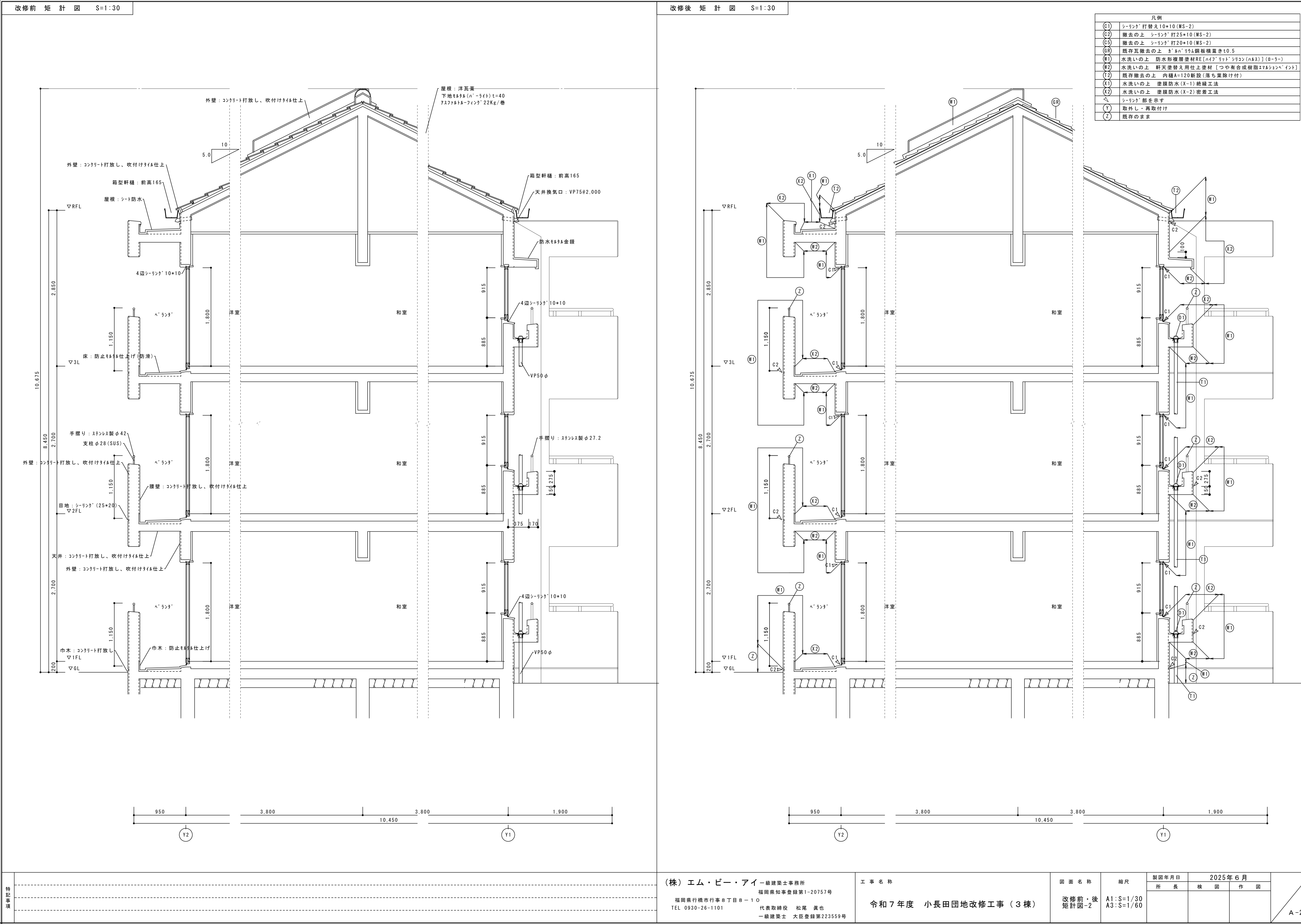
マンホール

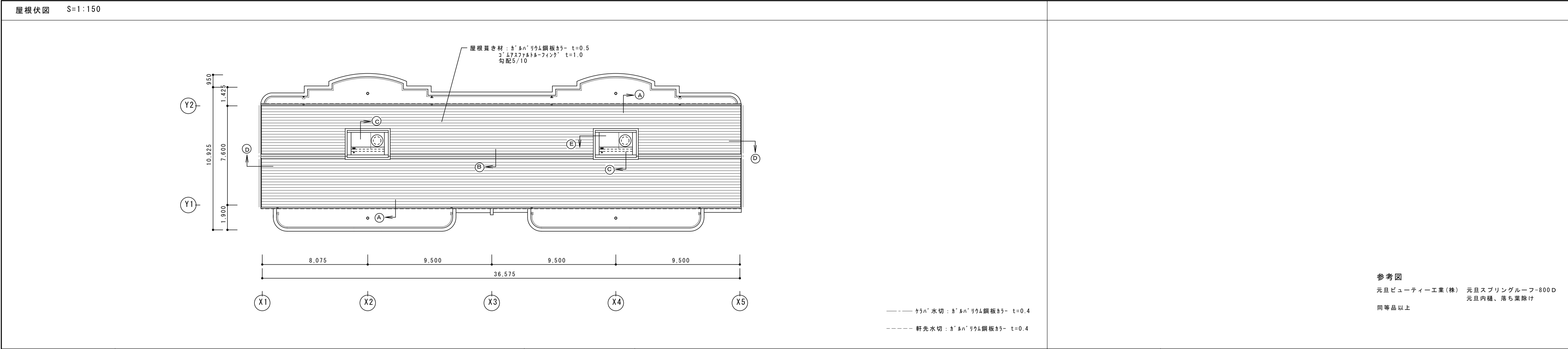


特記事項		(株)エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事 8 丁目 8 - 1 0 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号	工 事 名 称 令和 7 年度 小長田団地改修工事（ 3 棟 ）	図 面 名 称 改修前 矩計図	縮 尺 A1:S=1/30 A3:S=1/60	製図年月日	2025年 6 月		A - 2
	所 長					検 図	作 図		

凡 例	
(C1)	シーリング 打替え10×10 (MS-2)
(C2)	撤去の上 シーリング 打25×10 (MS-2)
(C5)	撤去の上 シーリング 打20×10 (MS-2)
(GR)	既存瓦撤去の上 カ'ルハ'リウム鋼板横置きt0.5
(W1)	水洗いの上 防水形複層塗材RE[ハイ'リット'シリコン (n&s)] (ローラー)
(W2)	水洗いの上 軒天塗替え用仕上塗材 [つや有合成樹脂エマルジョンペ'イント]
(T2)	既存撤去の上 内樋A=120新設 (落ち葉除け付)
(X1)	水洗いの上 塗膜防水 (X-1) 総縁工法
(X2)	水洗いの上 塗膜防水 (X-2) 密着工法
<	シーリング 部を示す
Y	取外し・再取付け
Z	既存のまま

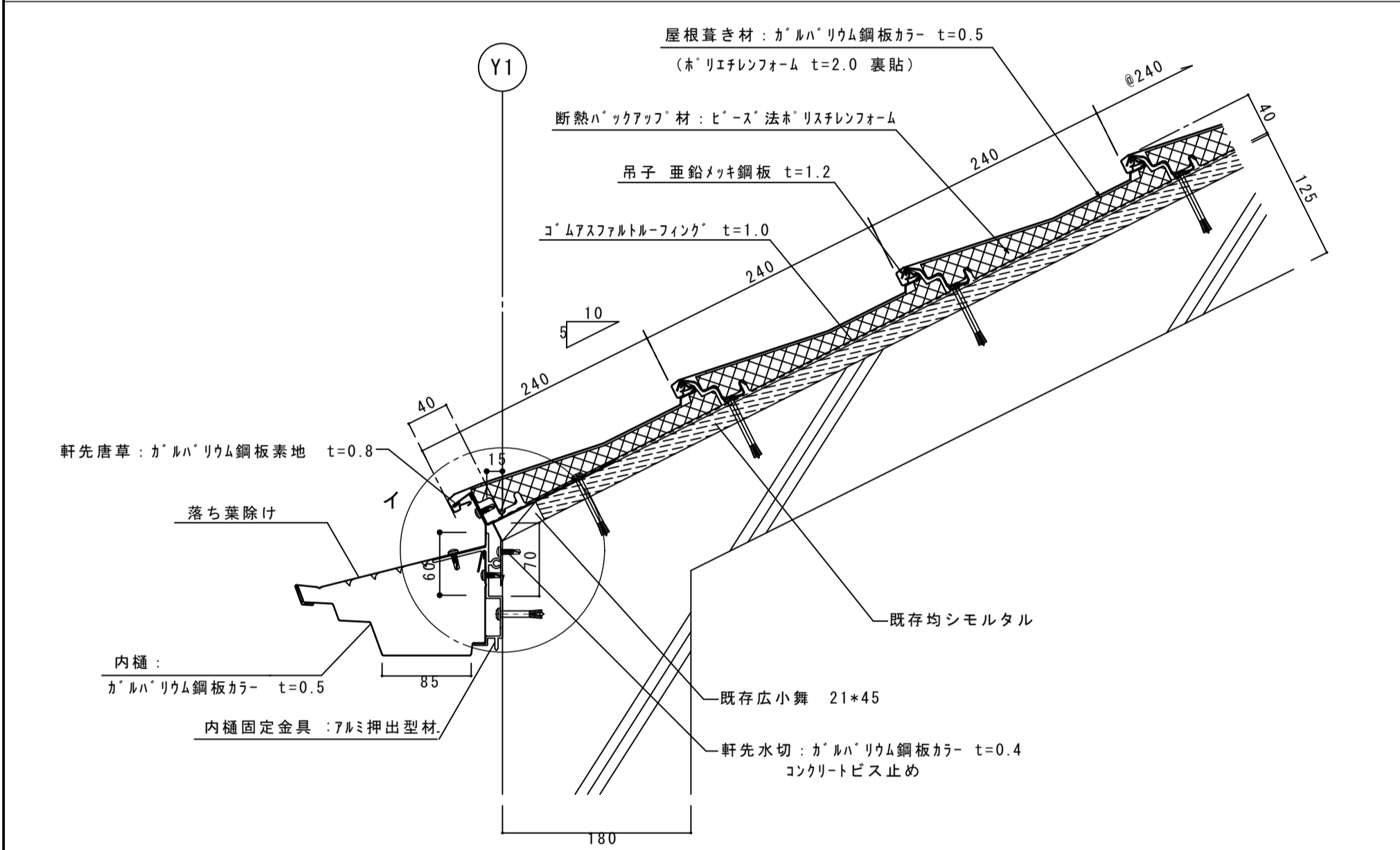




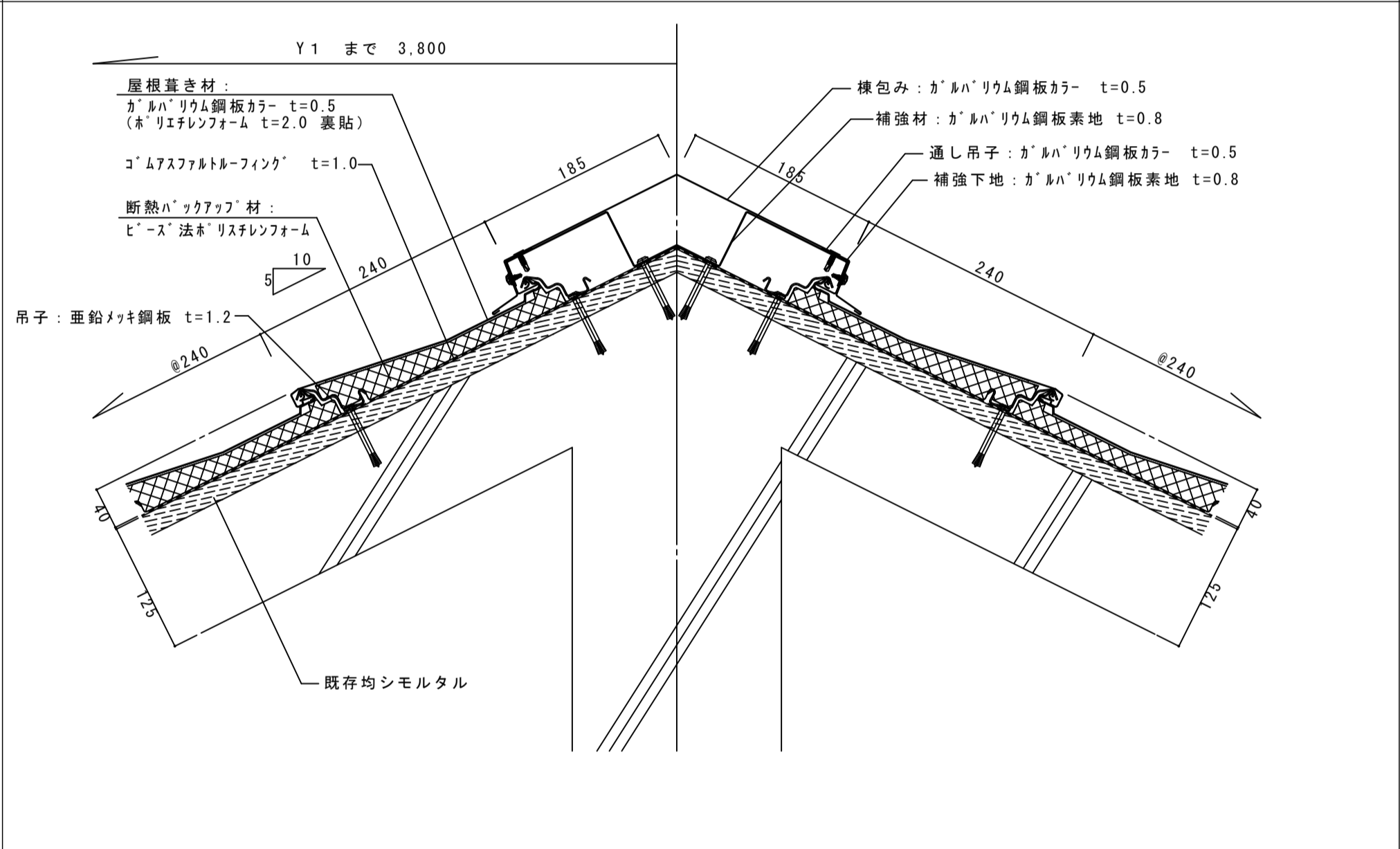


参考図
元旦ビューティー工業(株) 元旦スプリングルーフ-800D
元旦内樋、落ち葉除け
同等品以上

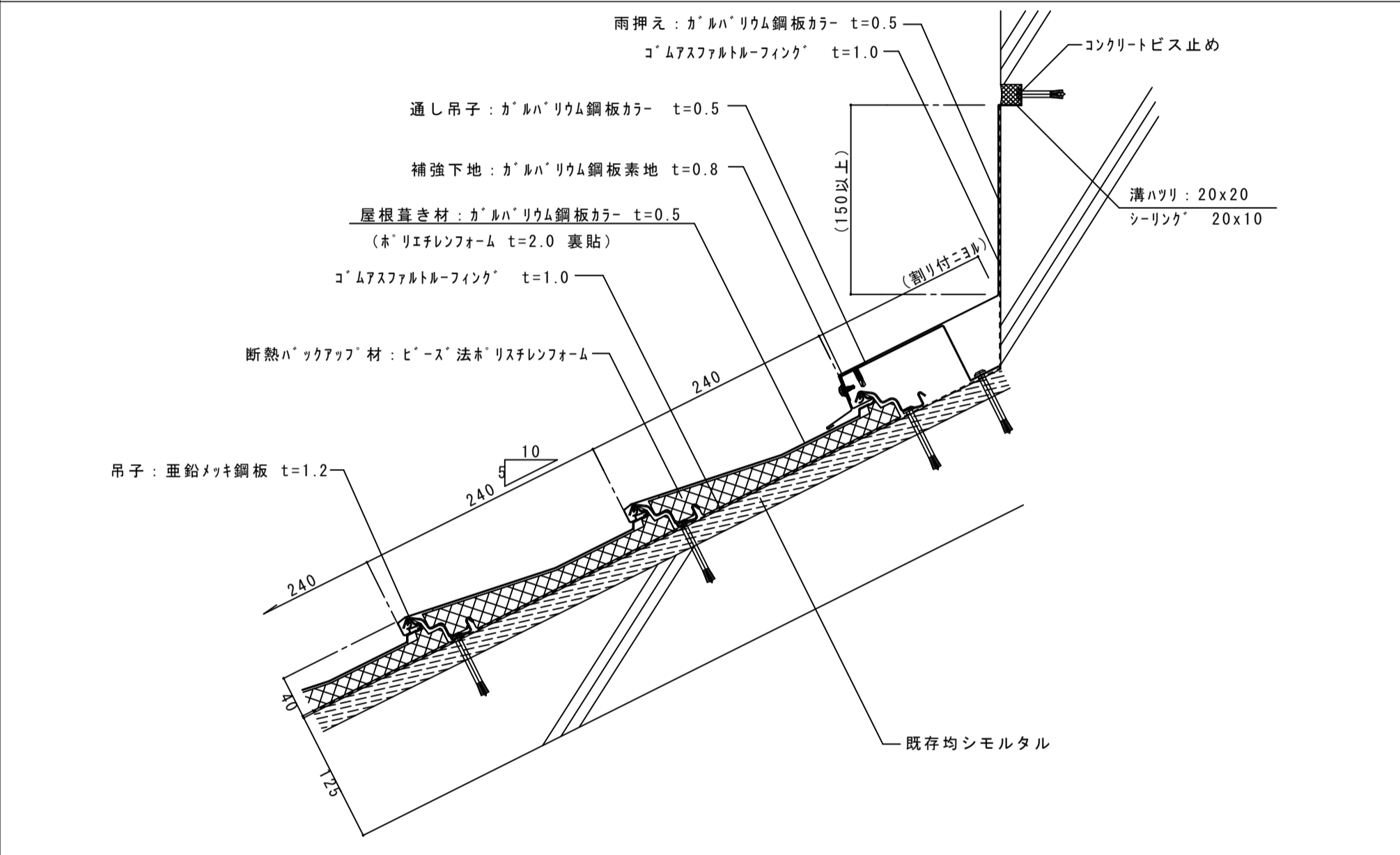
Ⓐ 水下 詳細図 1/6



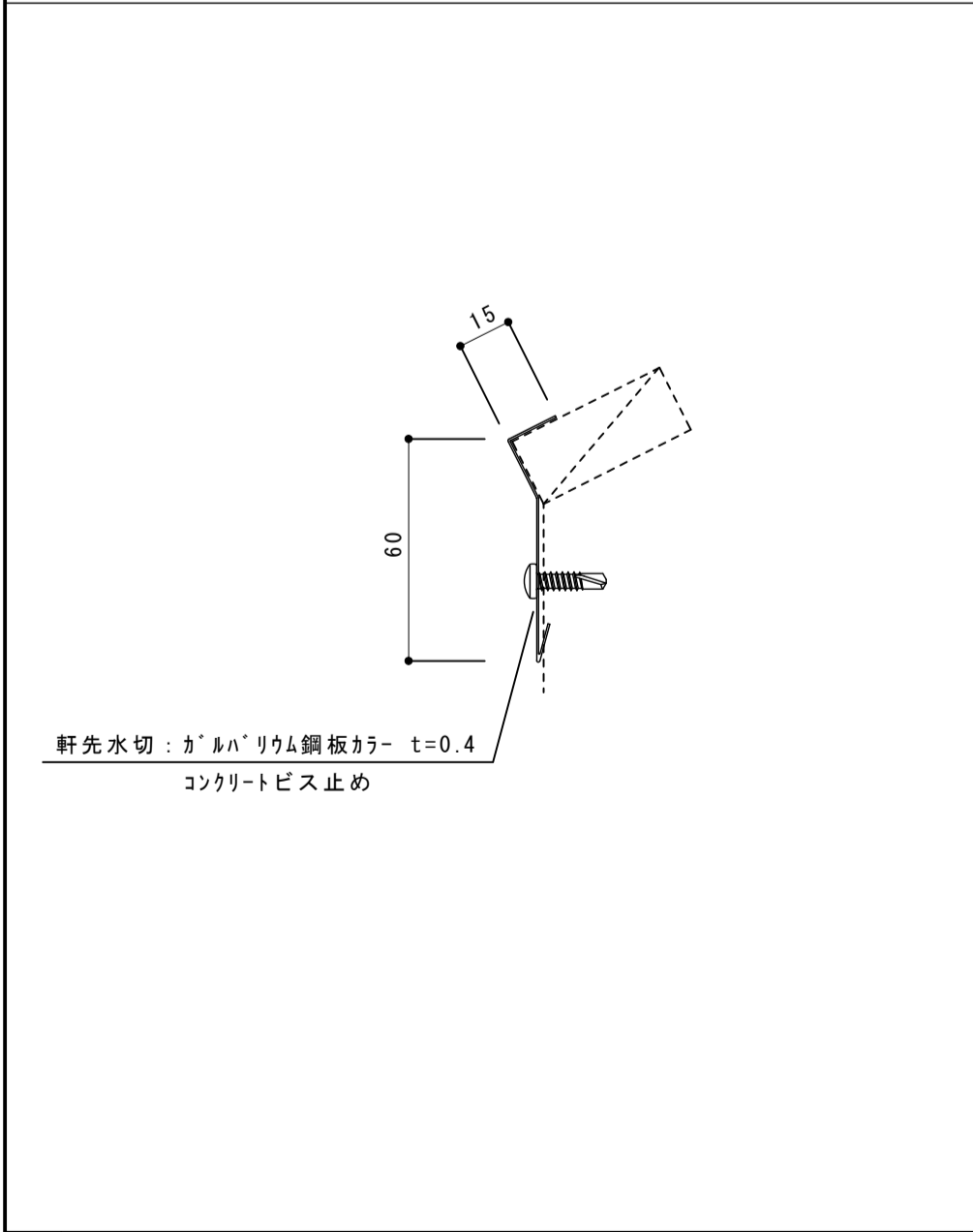
Ⓑ 棟 詳細図 1/6



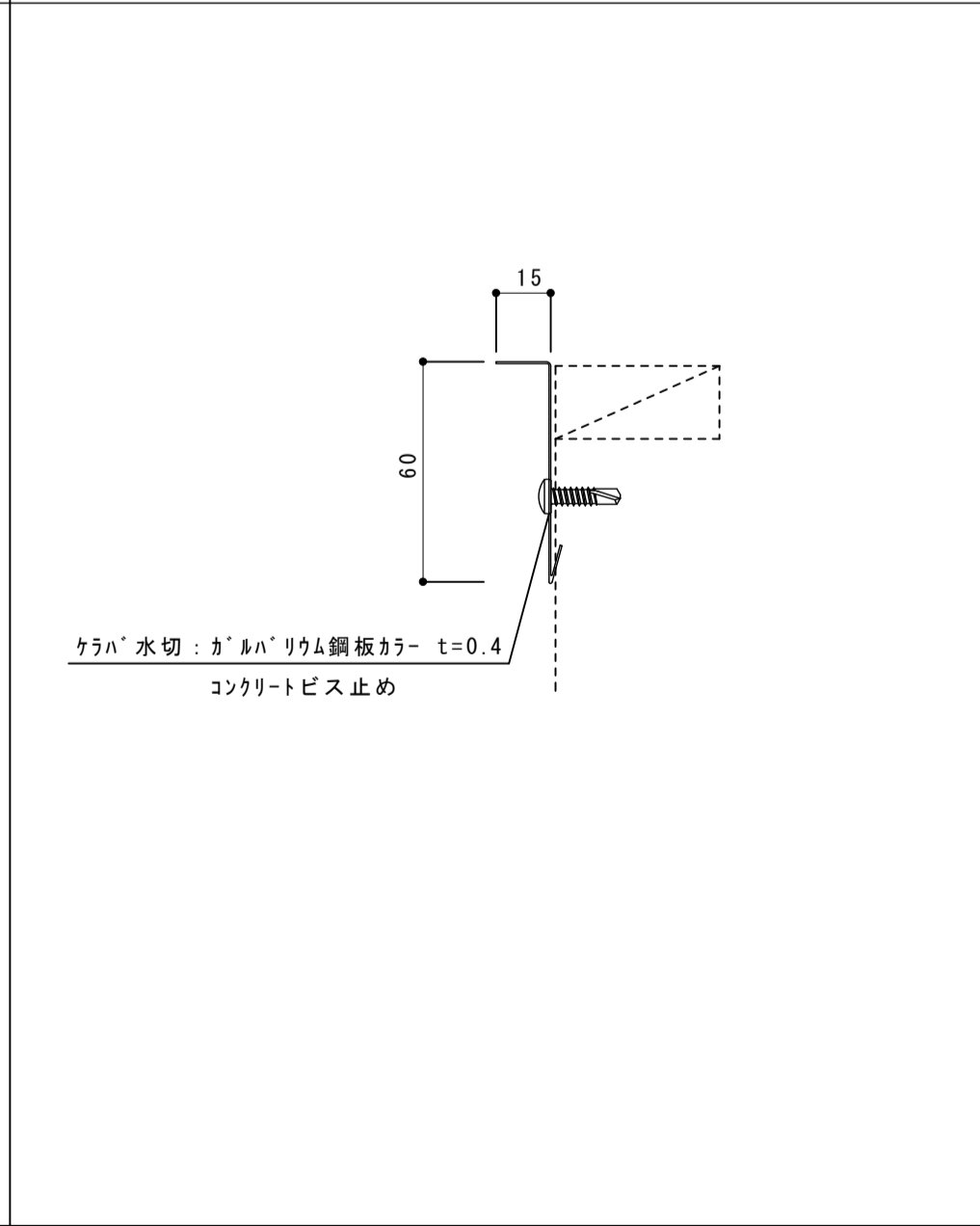
Ⓒ 水上壁立上り 詳細図 1/6



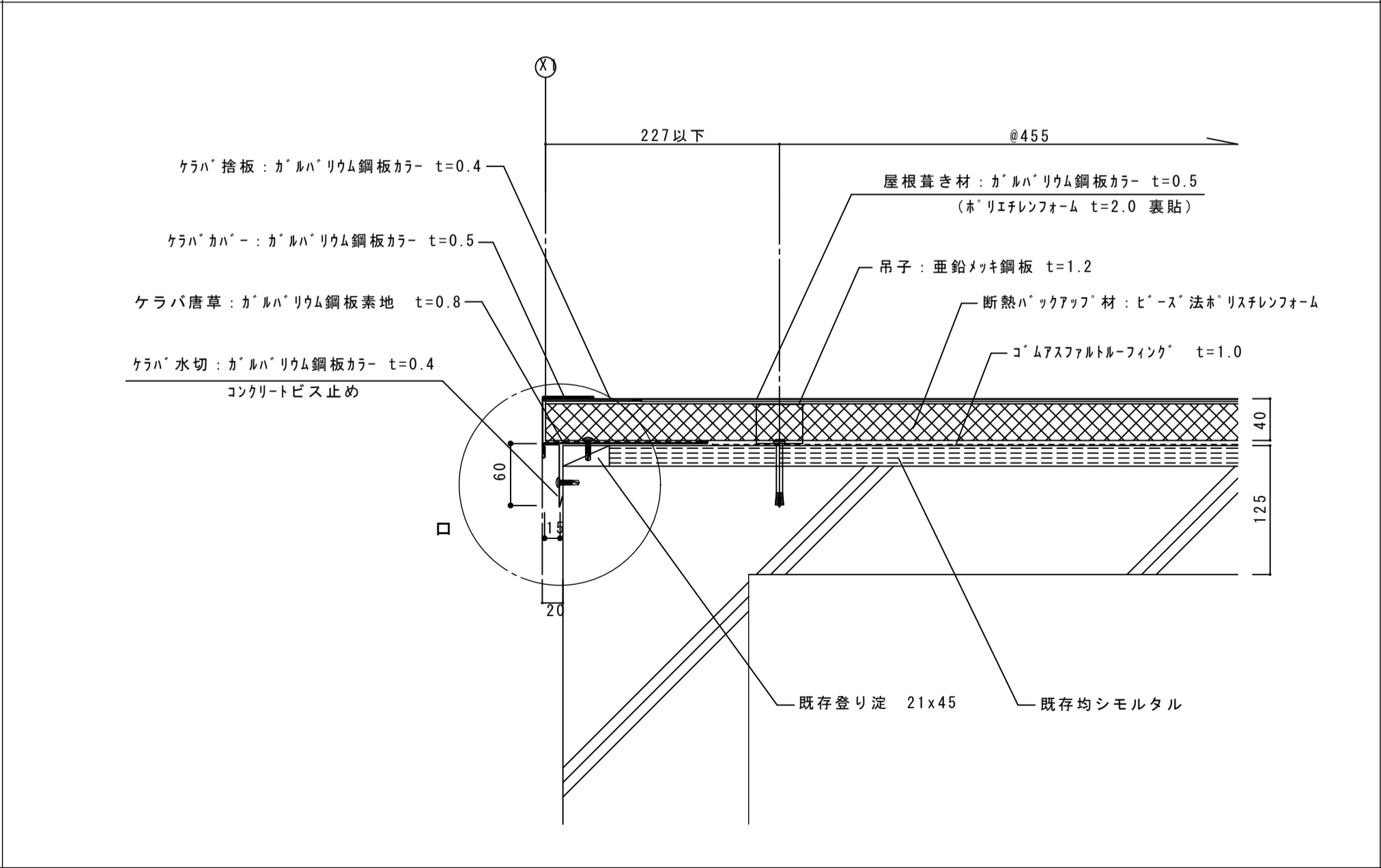
Ⓐ 軒先水切り 詳細図 1/2



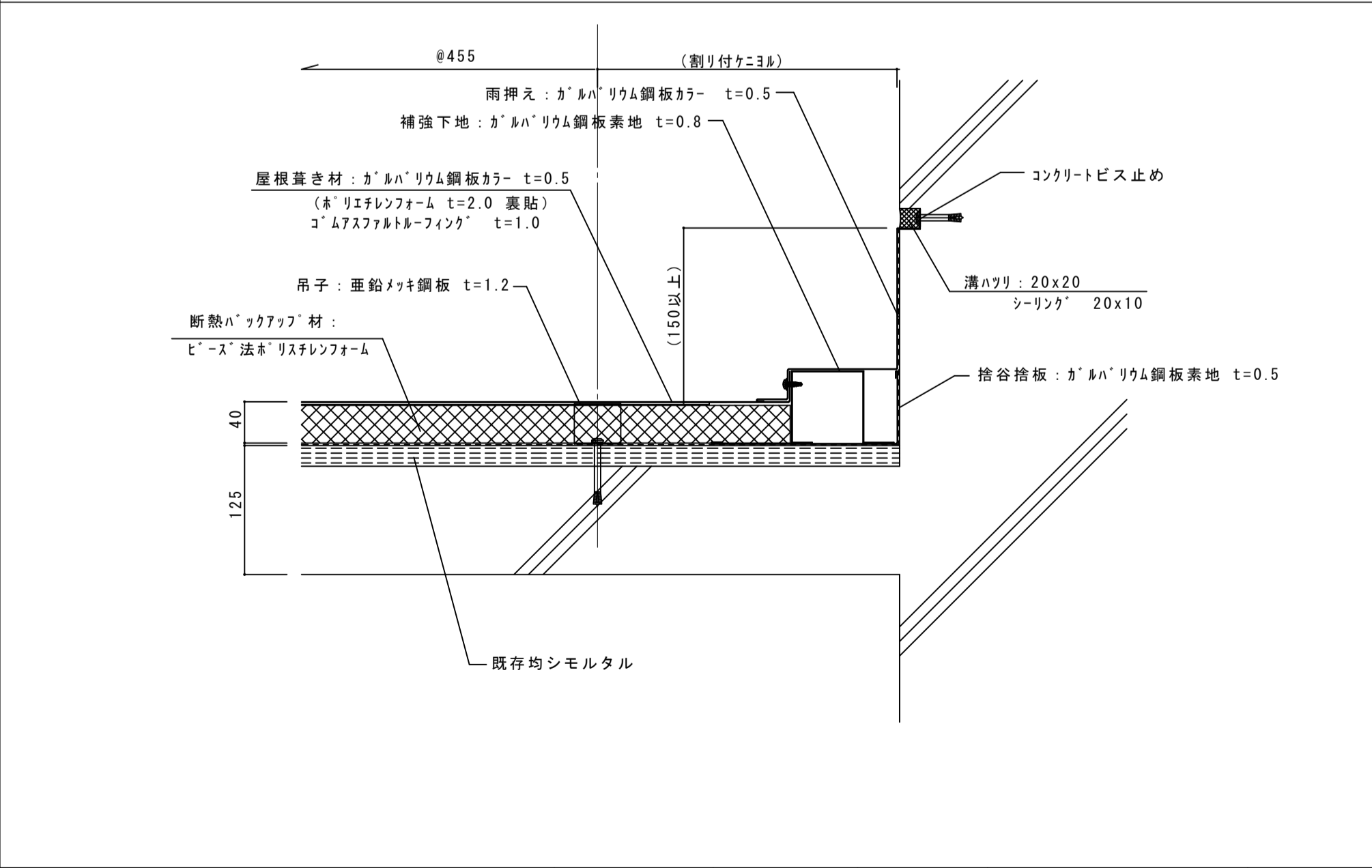
Ⓑ ケラバ水切り 詳細図 1/2



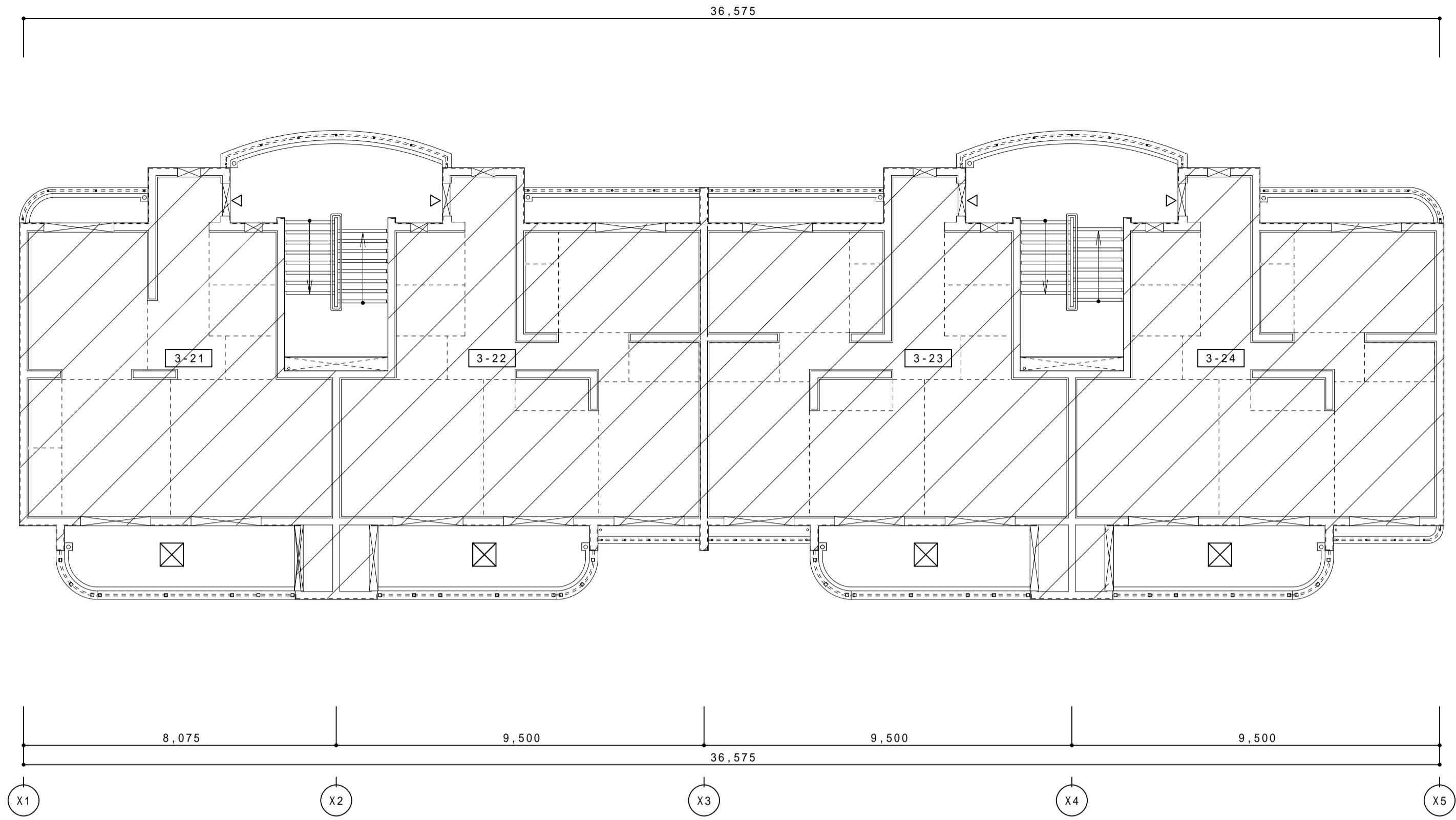
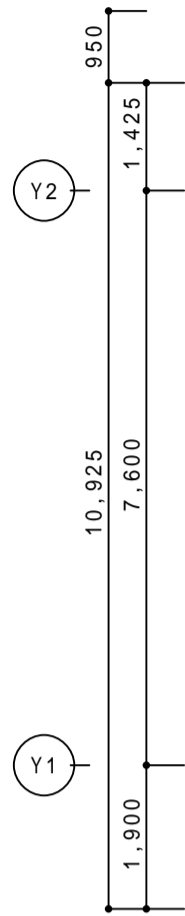
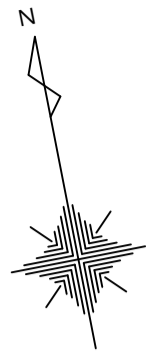
Ⓒ ケラバ 詳細図 1/6



Ⓓ 妻側壁立上り 詳細図 1/6

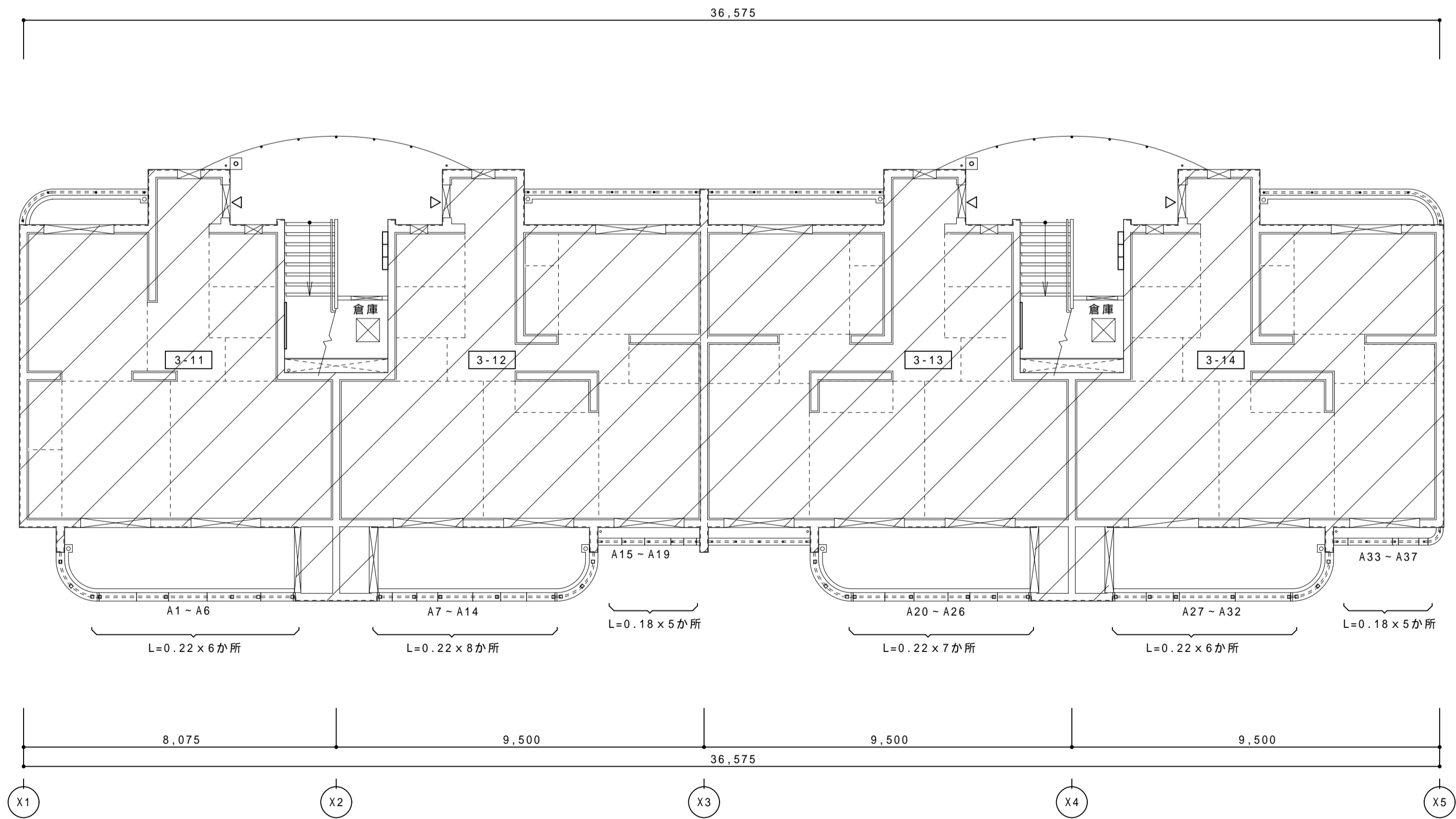
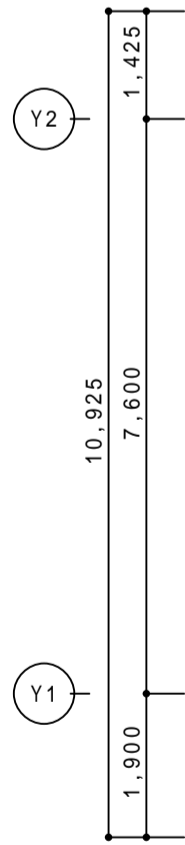
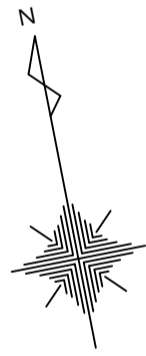


(欠損) 2階平面図 S=1:100



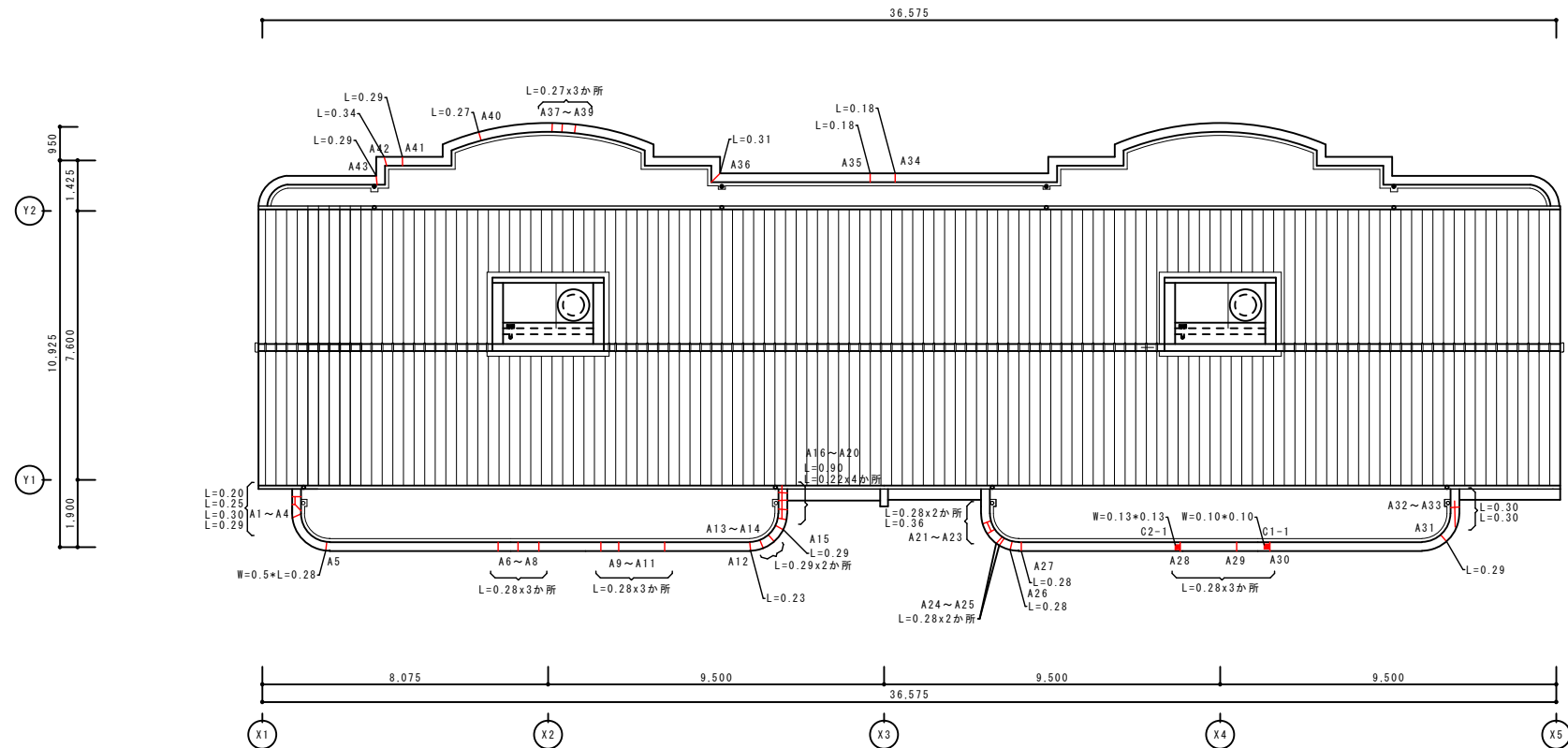
名 称	記 号	符 号
亀 裂		A
浮 き		B
		C
欠 損	100×100 0.01㎡以下	C1
	200×200 0.04㎡以下	C2
	300×300 0.09㎡以下	C3
	400×400 0.16㎡以下	C4
	500×500 0.25㎡以下	C5
	600×600 0.36㎡以下	C6
	700×700 0.49㎡以下	C7

(欠損) 1階平面図 S=1:100



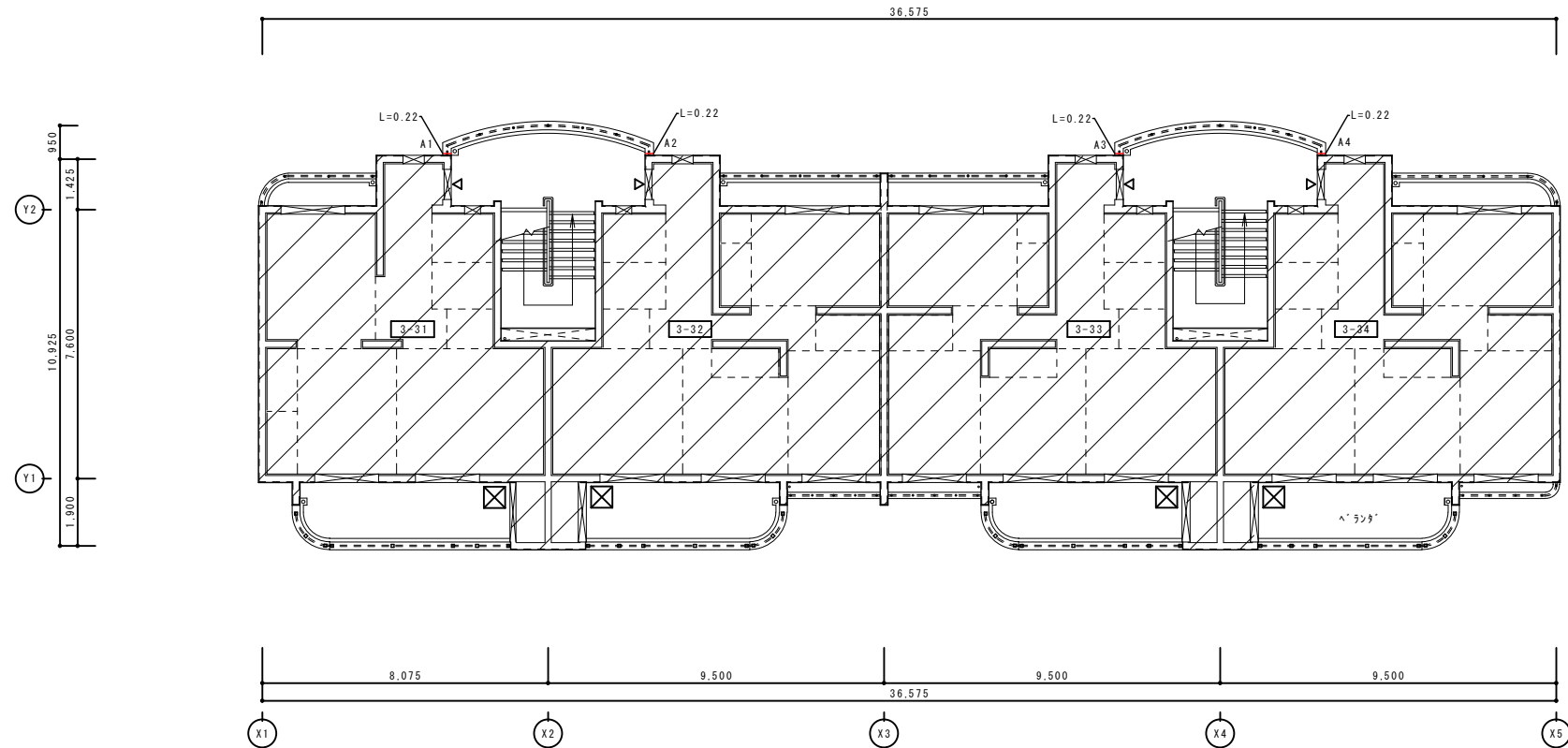
名 称	記 号	符 号
亀 裂		A
浮 き		B
		C
欠 損	100×100 0.01㎡以下	C1
	200×200 0.04㎡以下	C2
	300×300 0.09㎡以下	C3
	400×400 0.16㎡以下	C4
	500×500 0.25㎡以下	C5
	600×600 0.36㎡以下	C6
	700×700 0.49㎡以下	C7

(欠損) 屋根伏図 S=1:100

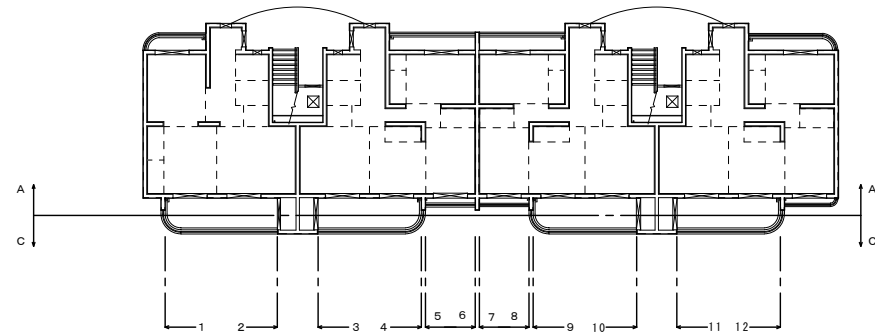


名 称	記 号	符 号
亀 裂	—	A
浮 き	///	B
	XXX	C
欠 損	100×100 0.01㎡以下	C1
	200×200 0.04㎡以下	C2
	300×300 0.09㎡以下	C3
	400×400 0.16㎡以下	C4
	500×500 0.25㎡以下	C5
	600×600 0.36㎡以下	C6
	700×700 0.49㎡以下	C7

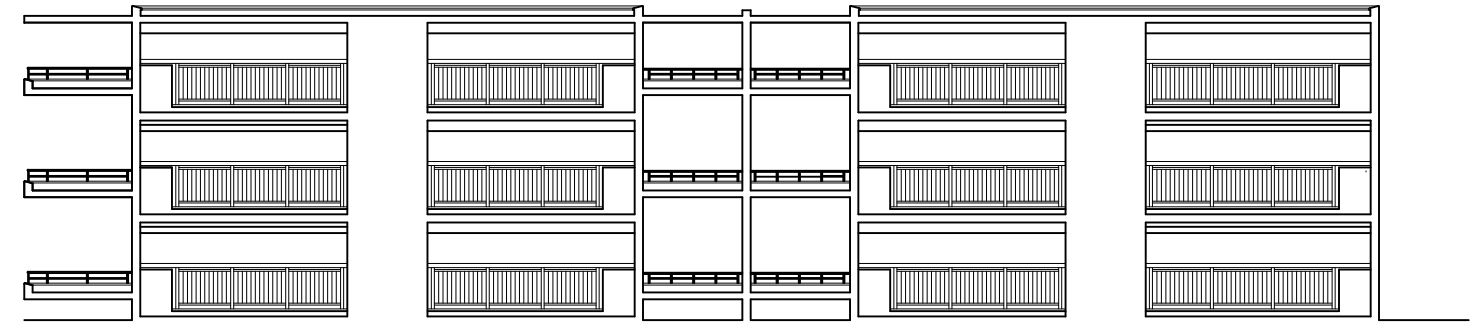
(欠損) 3 階平面図 S=1:100



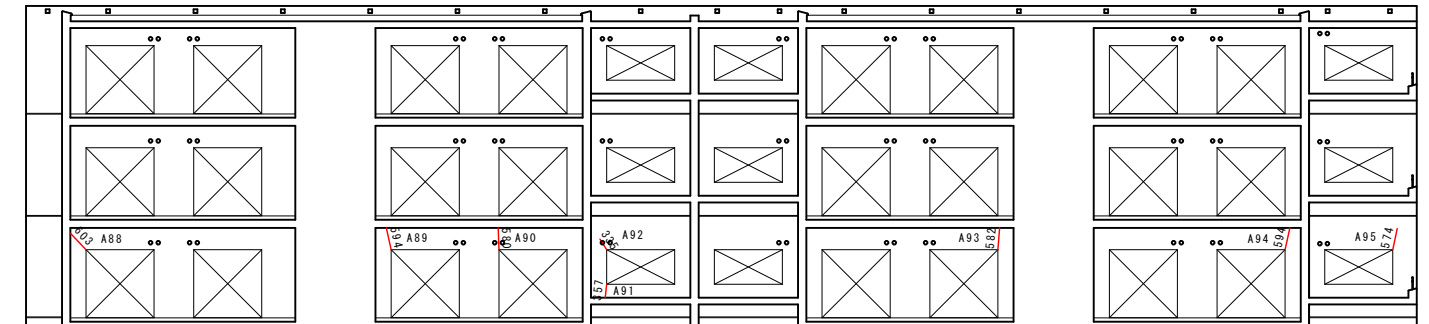
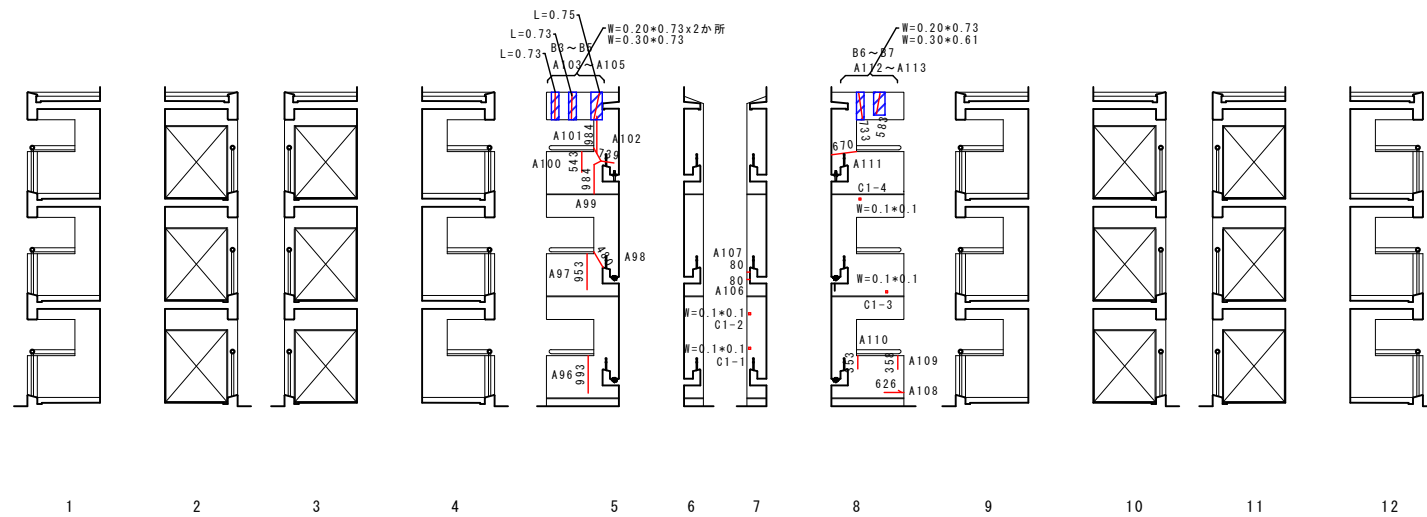
名 称	記 号	符 号
亀 裂	—	A
浮 き	///	B
	XXX	C
欠 損	100×100 0.01㎡以下	C1
	200×200 0.04㎡以下	C2
	300×300 0.09㎡以下	C3
	400×400 0.16㎡以下	C4
	500×500 0.25㎡以下	C5
	600×600 0.36㎡以下	C6
	700×700 0.49㎡以下	C7



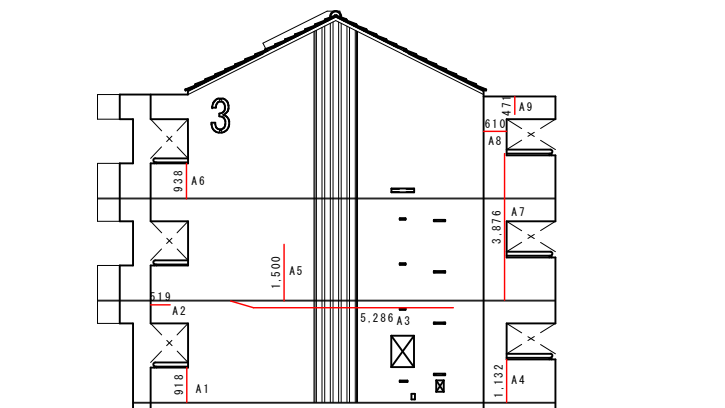
名称	記号	符号
亀裂	—	A
浮き	〓	B
	〓	C
欠損	100×100 0.01㎡以下	C1
	200×200 0.04㎡以下	C2
	300×300 0.09㎡以下	C3
	400×400 0.16㎡以下	C4
	500×500 0.25㎡以下	C5
	600×600 0.36㎡以下	C6
	700×700 0.49㎡以下	C7
露筋	100×100 0.01㎡未満	D1
	100×300 0.03㎡未満	D2
	100×800 0.08㎡未満	D3
	800以上	D4



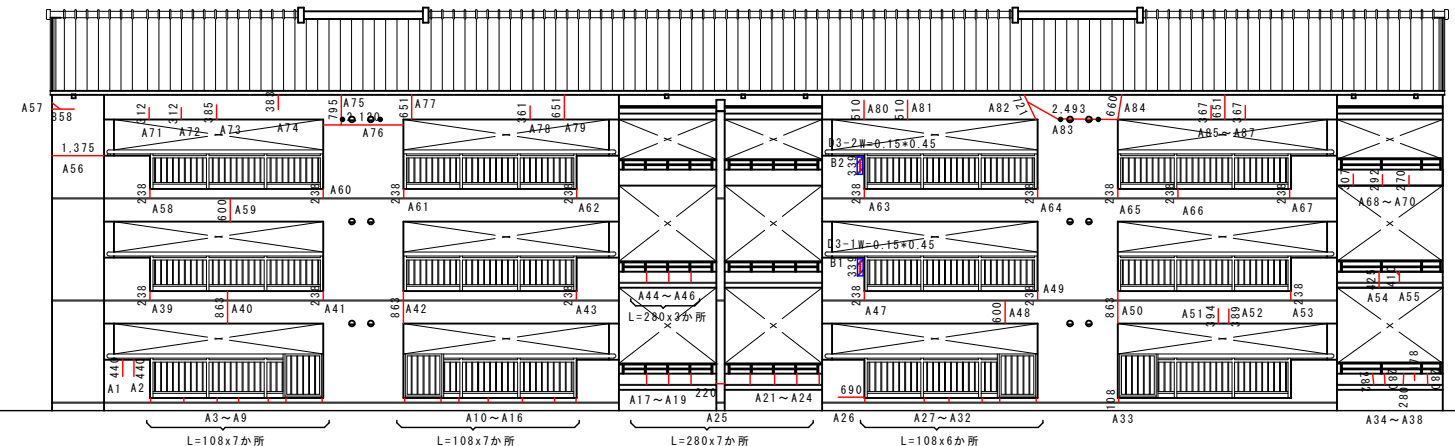
C 面



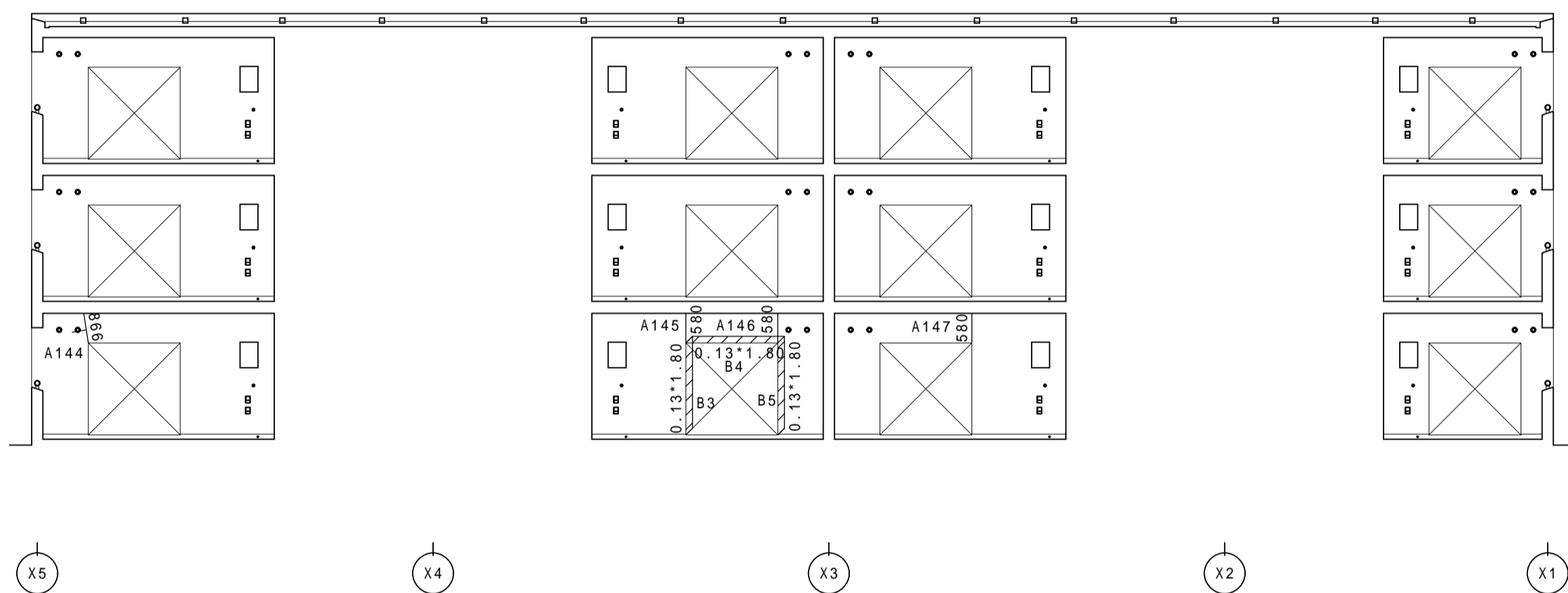
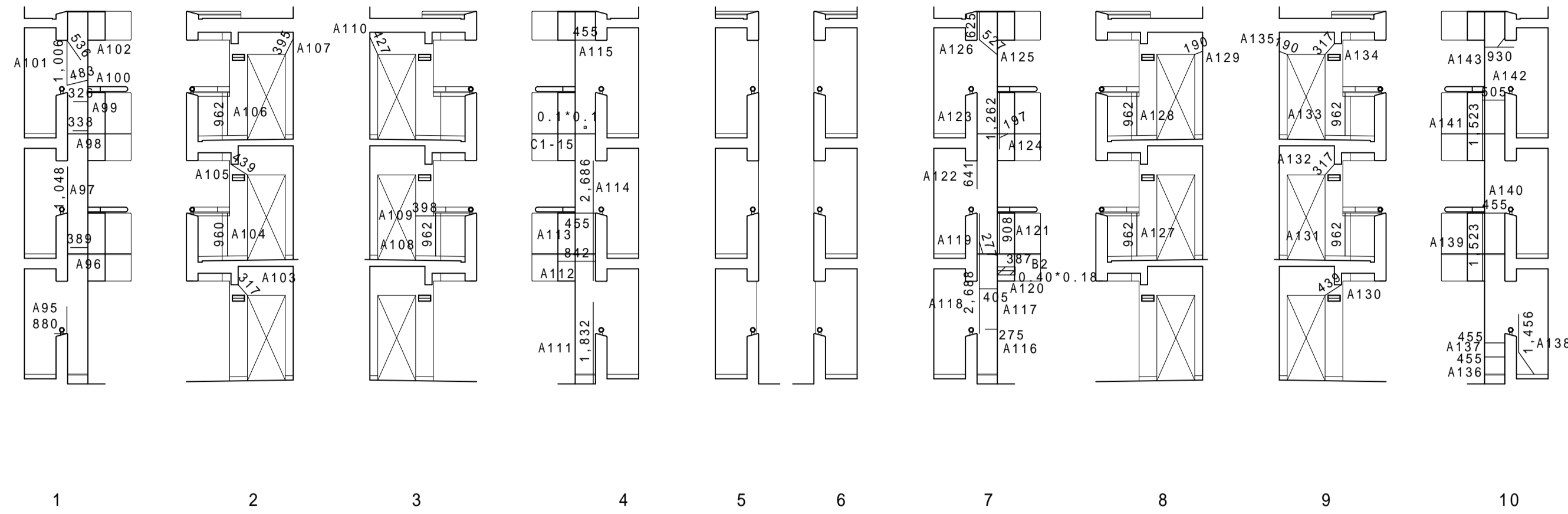
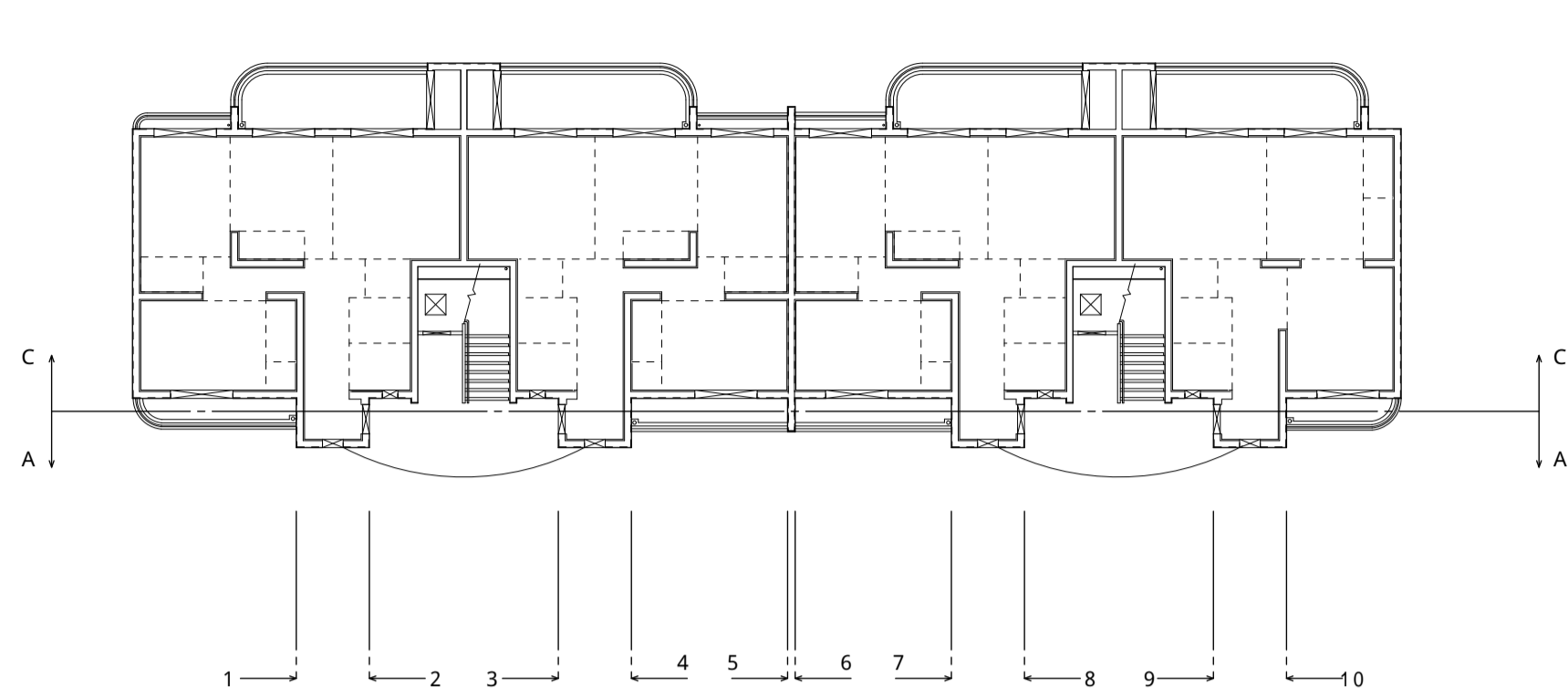
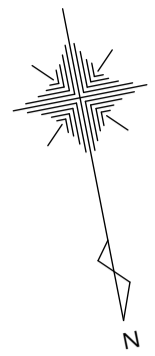
A 面



西 面

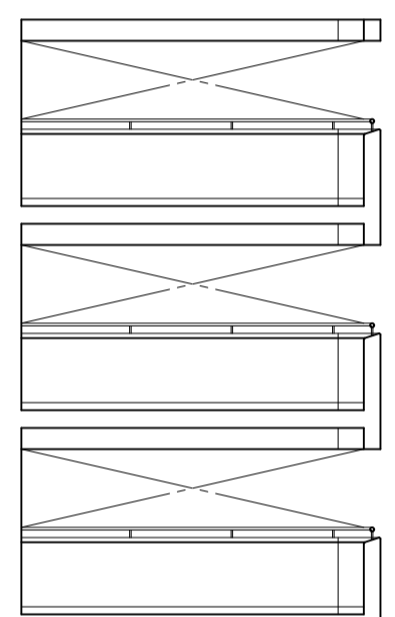
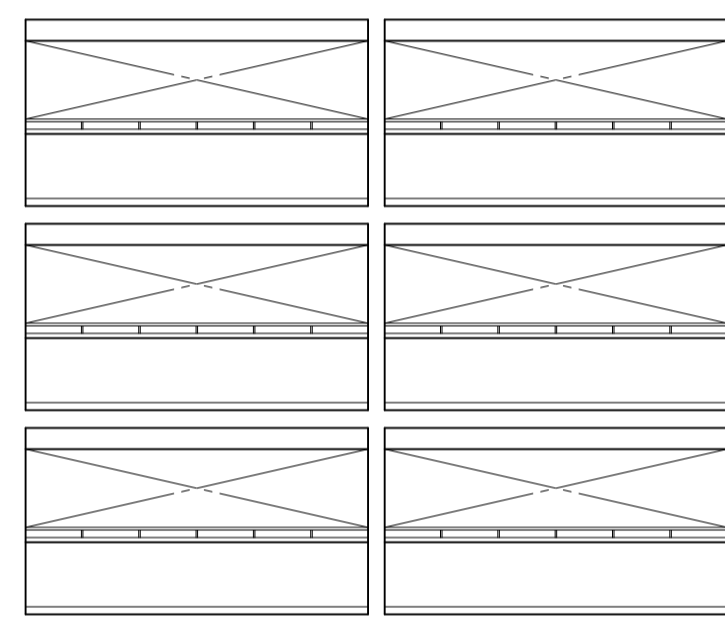
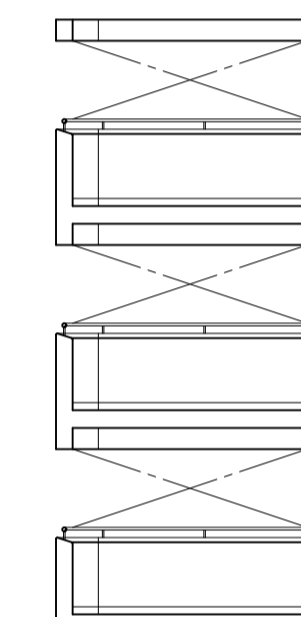


南 面

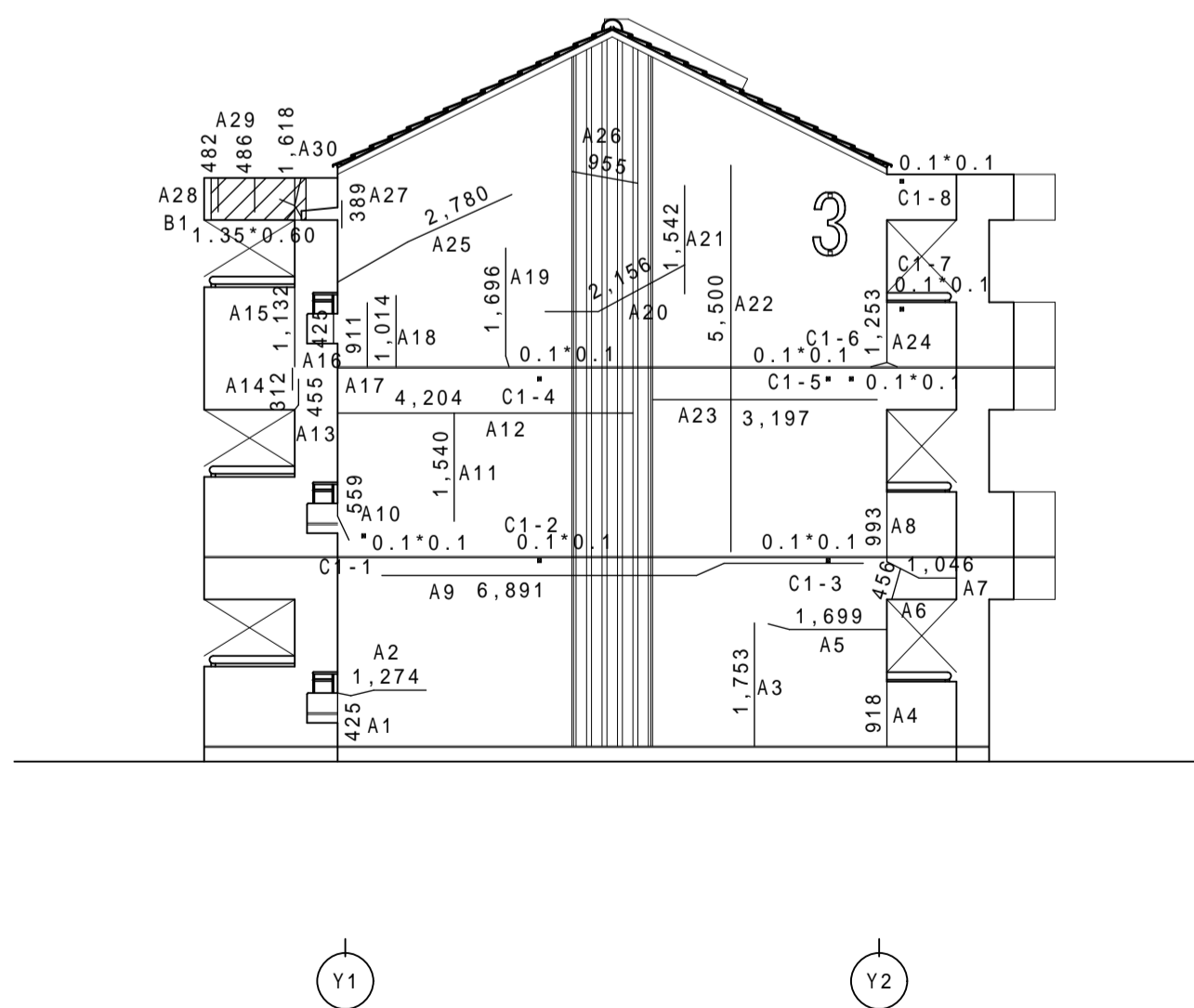


C 面

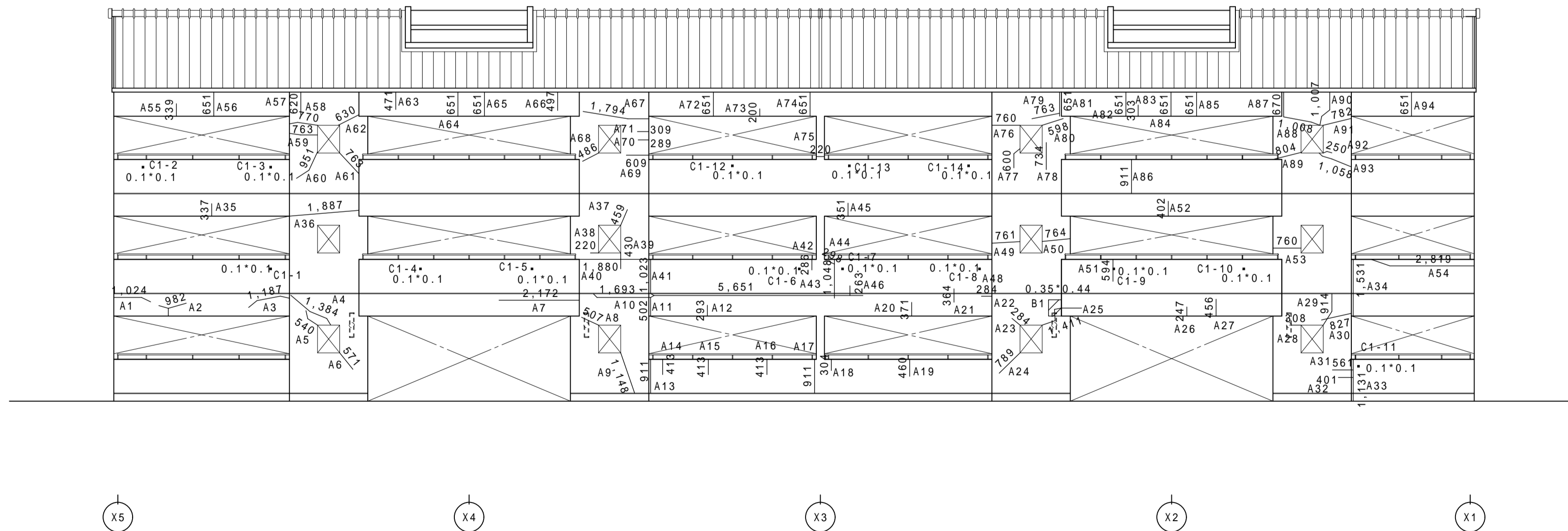
名称	記号	符号
亀裂		A
浮き		B
		C
欠損	100×100 0.01m以下	C1
	200×200 0.04m以下	C2
	300×300 0.09m以下	C3
	400×400 0.16m以下	C4
	500×500 0.25m以下	C5
	600×600 0.36m以下	C6
	700×700 0.49m以下	C7



A 面

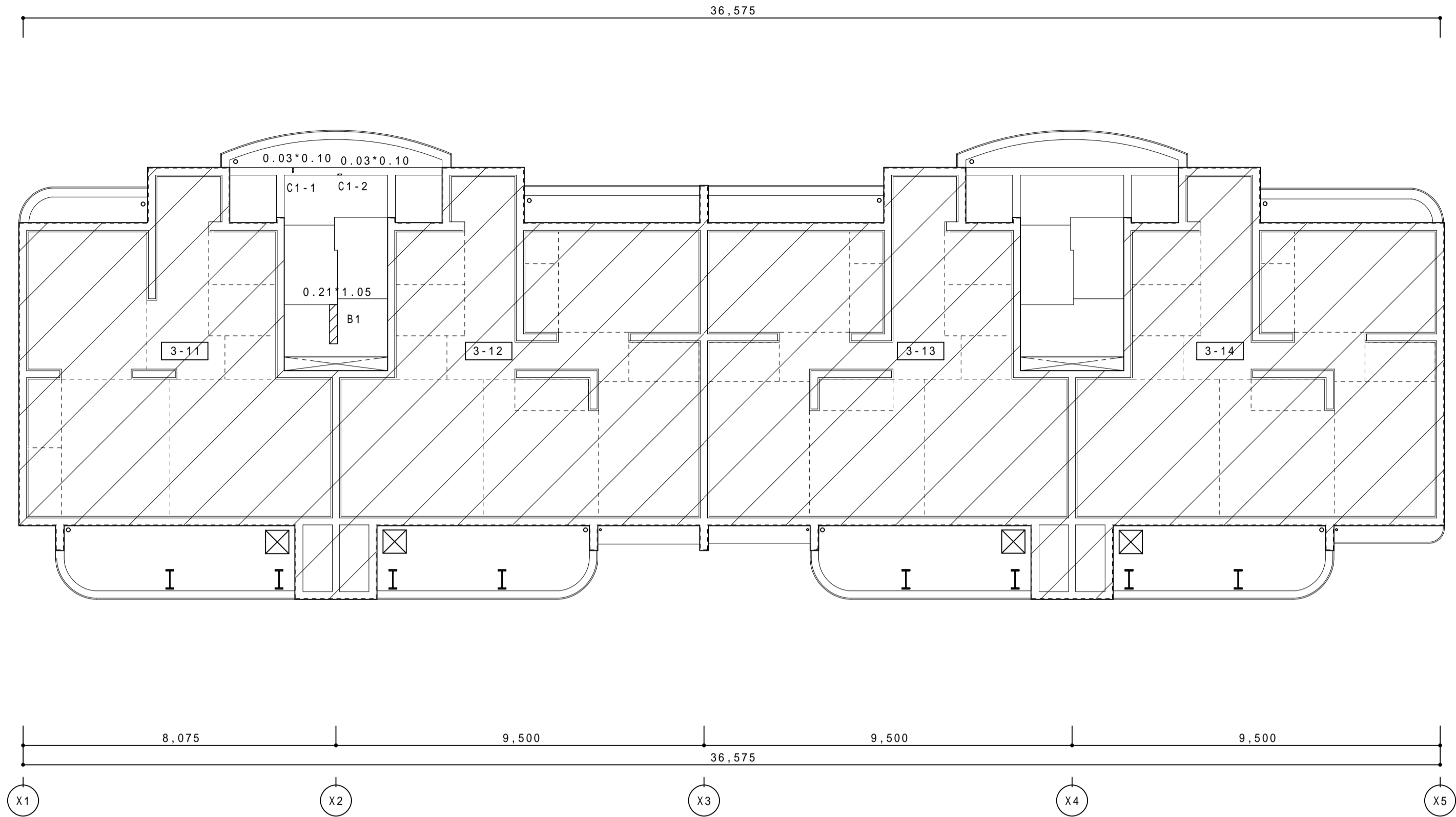
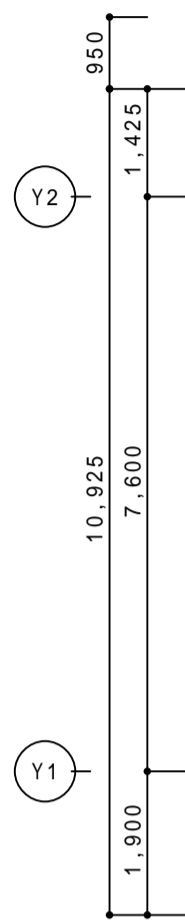
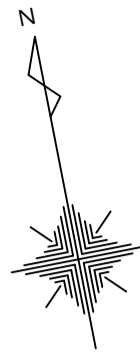


東 面



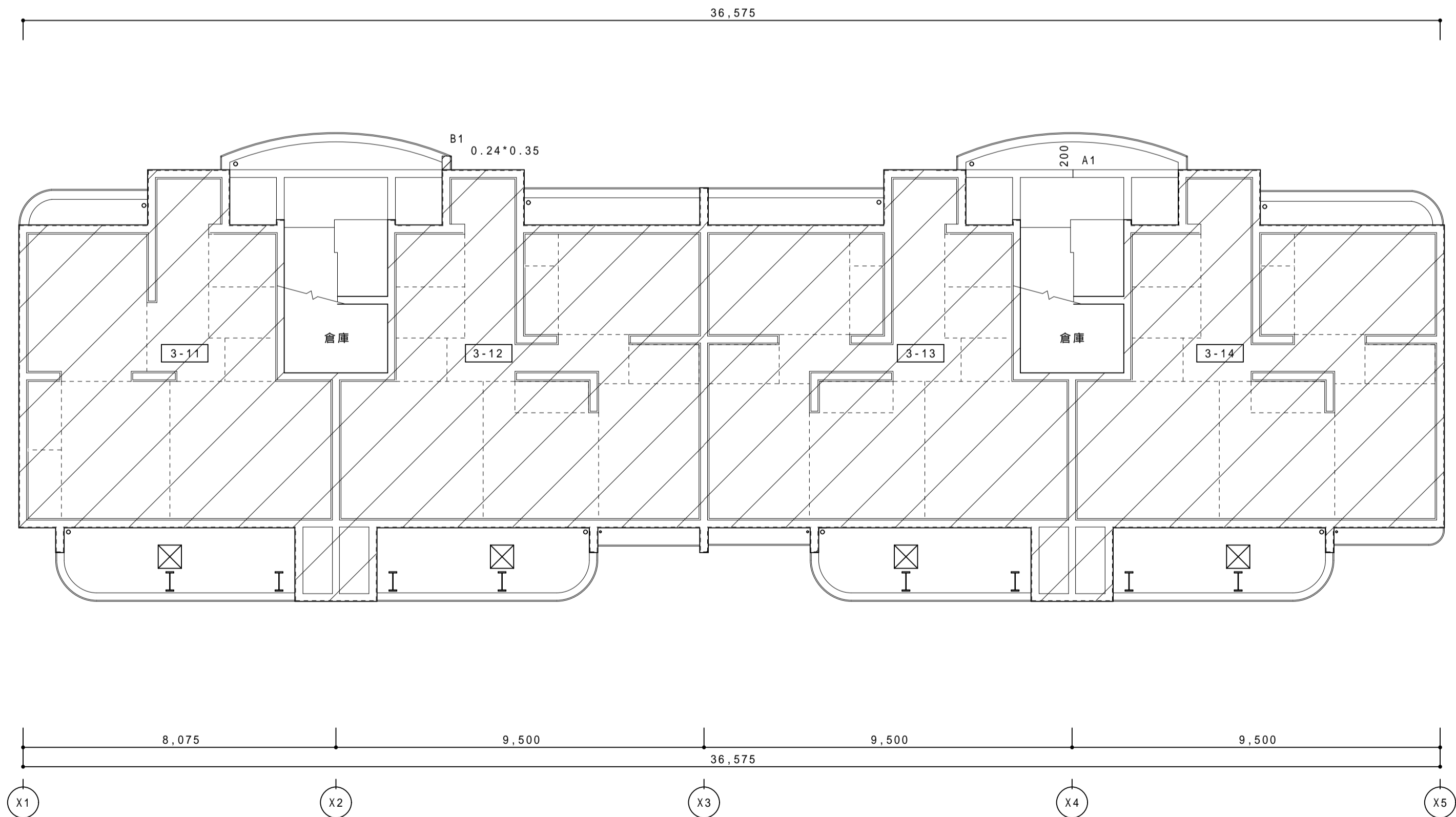
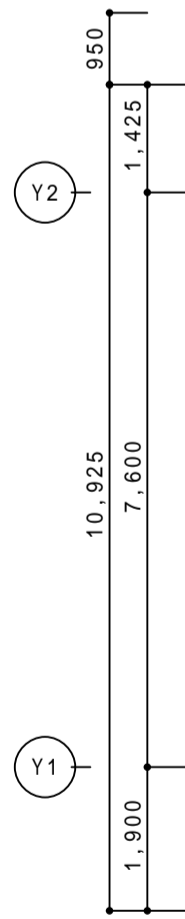
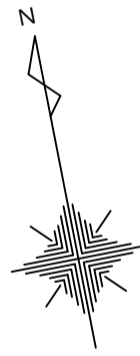
北 面

(欠損) 2 階天井伏図 S=1:100

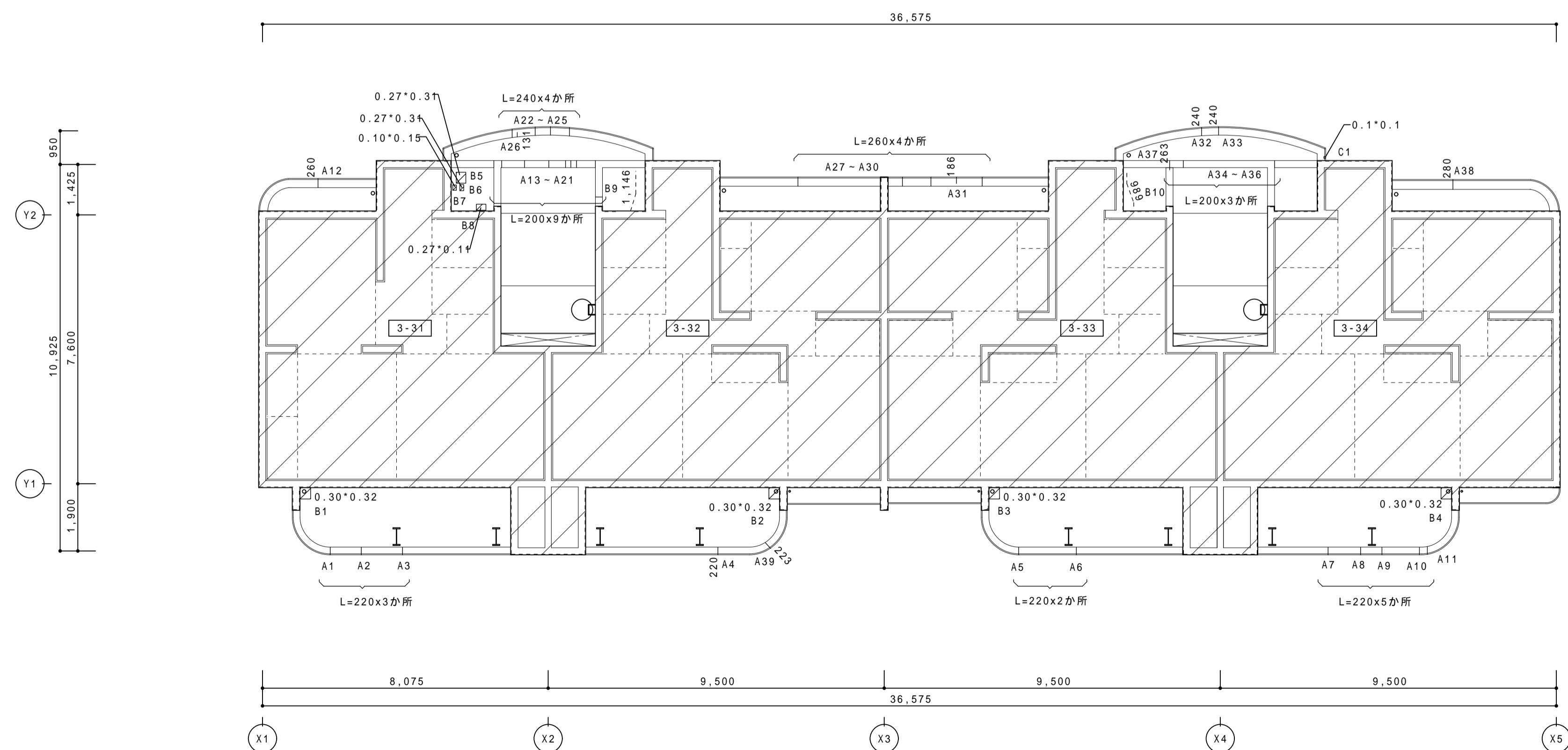
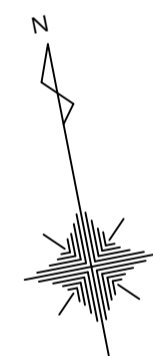




名 称	記 号	符 号
亀 裂	—	A
浮 き	▨	B
	▩	C
欠 損	100×100 0.01m以下	C1
	200×200 0.04m以下	C2
	300×300 0.09m以下	C3
	400×400 0.16m以下	C4
	500×500 0.25m以下	C5
	600×600 0.36m以下	C6
	700×700 0.49m以下	C7

(欠損) 1 階天井伏図 S=1:100



名 称	記 号	符 号
亀 裂	—	A
浮 き	▨	B
	▩	C
欠 損	100×100 0.01m以下	C1
	200×200 0.04m以下	C2
	300×300 0.09m以下	C3
	400×400 0.16m以下	C4
	500×500 0.25m以下	C5
	600×600 0.36m以下	C6
	700×700 0.49m以下	C7



名 称	記 号	符 号
龜 裂	——	A
浮 き		B
白 華	----	
		C
欠 損	100×100 0.01m以下	C 1
	200×200 0.04m以下	C 2
	300×300 0.09m以下	C 3
	400×400 0.16m以下	C 4
	500×500 0.25m以下	C 5
	600×600 0.36m以下	C 6
	700×700 0.49m以下	C 7



特記事項	本図は、地盤面より2.5m程度を打診し、全体を目視による観察結果を記録した、暫定結果である。
	したがって、実際に補修工事を行う時は全体を詳細に調査をして、結果を記録したものを基に監督員と協議の上補修工法を決定すること。



(株)エム・ピー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也	工 事 名 称	令 和 7 年 度 小 長 田 団 地 改 修 工 事 (3 棟)	図 面 名 称	(参考図) (欠損)東側階段室 (欠損)西側階段室	縮 尺	A1:S=1/100 A3:S=1/200	製図年月日	2025年6月		
							所 長	棟 図	作 図	

外壁調査 数量集計表											
	塗膜浮き B	浮き	ひび割れ 0.2未満	ひび割れ 0.2以上	欠損 C1	欠損 C2	欠損 C3	欠損 C4	欠損 C5	露筋 D3	露筋 D4
	m ²	m ²	m	m	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所
外部											
南面	0.98		48.08							2	
北面	0.93		105.49								
東面	0.81		48.06								
西面			15.25								
天井	1.08		8.84								
階段室	0.81		40.04								
外部					31	1					
見下げ			20.94								
マンホール西側											1
集計	4.60		286.71		31	1				2	1
前回集計											
集計-前回											

見下げ 面											
ひび割れ A				O. 2mm未満							
番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ
	1階ﾍﾞﾗﾝﾀﾞ		3階踊り場		屋上ﾍﾞﾗﾝﾀﾞ		屋上ﾍﾞﾗﾝﾀﾞ				
1	0.220	1	0.220	1	0.200	40	0.270				
2	0.220	2	0.220	2	0.250	41	0.290				
3	0.220	3	0.220	3	0.300	42	0.340				
4	0.220	4	0.220	4	0.290	43	0.290				
5	0.220			5	0.280						
6	0.220			6	0.280						
7	0.220			7	0.280						
8	0.220			8	0.280						
9	0.220			9	0.280						
10	0.220			10	0.280						
11	0.220			11	0.280						
12	0.220			12	0.230						
13	0.220			13	0.290						
14	0.220			14	0.290						
15	0.180			15	0.290						
16	0.180			16	0.900						
17	0.180			17	0.220						
18	0.180			18	0.220						
19	0.180			19	0.220						
20	0.220			20	0.220						
21	0.220			21	0.280						
22	0.220			22	0.280						
23	0.220			23	0.360						
24	0.220			24	0.280						
25	0.220			25	0.280						
26	0.220			26	0.280						
27	0.220			27	0.280						
28	0.220			28	0.280						
29	0.220			29	0.280						
30	0.220			30	0.280						
31	0.220			31	0.290						
32	0.220			32	0.300						
33	0.180			33	0.300						
34	0.180			34	0.180						
35	0.180			35	0.180						
36	0.180			36	0.310						
37	0.180			37	0.270						
				38	0.270						
				39	0.270						
小計	7.740	小計	0.880	小計	11.130	小計	1.190	小計	0.000		
計									20.940		

外壁 南 面											
ひび割れ A				O. 2mm未満							
番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ
	外部面								ﾍﾞﾗﾝﾀﾞA面		ﾍﾞﾗﾝﾀﾞ南外
1	0.440	41	0.863	80	0.510	88	0.603	96	0.993		
2	0.440	42	0.863	82	0.721	89	0.594	97	0.953		
3	0.108	43	0.238	83	2.493	90	0.580	98	0.480		
4	0.108	44	0.280	84	0.660	91	0.357	99	0.989		
5	0.108	45	0.280	85	0.367	92	0.335	100	0.543		
6	0.108	46	0.280	86	0.651	93	0.582	101	0.984		
7	0.108	47	0.238	87	0.367	94	0.594	102	0.739		
8	0.108	48	0.600			95	0.574	103	0.730		
9	0.108	49	0.238					104	0.730		
10	0.108	50	0.863					105	0.750		
11	0.108	51	0.394					106	0.080		
12	0.108	52	0.389					107	0.080		
13	0.108	53	0.238					108	0.626		
14	0.108	54	0.425					109	0.358		
15	0.108	55	0.410					110	0.353		
16	0.108	56	1.375					111	0.670		
17	0.280	57	0.858					112	0.733		
18	0.280	58	0.238					113	0.583		
19	0.280	59	0.600								
20	-	60	0.238								
21	0.280	61	0.238								
22	0.280	62	0.238								
23	0.280	63	0.238								
24	0.280	64	0.238								
25	0.220	65	0.238								
26	0.690	66	0.238								
27	0.108	67	0.238								
28	0.108	68	0.307								
29	0.108	69	0.292								
30	0.108	70	0.270								
31	0.108	71	0.312								
32	0.108	72	0.312								
33	0.108	73	0.385								
34	0.282	74	0.383								
35	0.280	75	0.795								
36	0.280	76	2.120								
37	0.178	77	0.651								
38	0.280	78	0.361								
39	0.238	79	0.651								
小計	7.556	小計	18.651	小計	6.279	小計	4.219	小計	11.374		
計									48.079		

外壁 北 面											
ひび割れ A				O. 2mm未満							
番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ
	外部面								ベランダ 北		
1	1.024	41	1.880	80	0.598				34	0.317	
2	0.982	42	1.023	81	0.651	95	0.880	135	0.190		
3	1.187	43	0.286	82	0.651	96	0.389	136	0.455		
4	1.187	43	1.048	83	0.303	97	1.048	137	0.455		
4	1.384	44	0.298	84	0.651	98	0.338	138	1.456		
5	0.540	45	0.351	85	0.651	99	0.326	139	1.523		
6	0.571	46	0.263	86	0.911	100	0.483	140	0.455		
7	2.172	47	-	87	0.670	101	1.006	141	1.523		
8	0.507	48	0.284	88	1.007	102	0.536	142	0.505		
9	1.148	49	0.761	89	0.804	103	0.317	143	0.930		
10	1.693	50	0.764	90	1.007	104	0.960				
11	0.502	51	0.594	91	0.782	105	0.439		ベランダ C面		
12	0.293	52	0.402	92	0.250	106	0.962	144	0.998		
13	0.911	53	0.760	93	1.058	107	0.395	145	0.580		
14	0.413	54	2.819	94	0.651	108	0.962	146	0.580		
15	0.413	55	0.339			109	0.398	147	0.580		
16	0.413	56	0.651			110	0.427				
17	0.911	57	0.620			111	1.832				
18	0.304	58	0.770			112	0.842				
19	0.460	59	0.763			113	0.455				
20	0.371	60	0.951			114	2.686				
21	0.364	61	0.762			115	0.455				
22	0.284	62	0.630			116	0.275				
23	0.284	63	0.471			117	0.405				
24	0.789	64	0.651			118	2.688				
25	0.411	65	0.651			119	0.277				
26	0.247	66	0.497			120	0.387				
27	0.456	67	1.794			121	0.908				
28	0.308	68	0.486			122	0.641				
29	0.914	69	0.609			123	1.262				
30	0.827	70	0.289			124	0.197				
31	0.561	71	0.309			125	0.527				
32	0.401	72	0.651			126	0.625				
33	1.131	73	0.200			127	0.962				
34	1.310	74	0.651			128	0.962				
35	0.337	75	0.220			129	0.190				
36	1.887	76	0.760			130	0.439				
37	0.459	77	0.600			131	0.962				
38	0.220	78	0.734			132	0.317				
39	0.430	79	0.763			133	0.962				
小計	27.819	小計	27.355	小計	10.645	小計	29.122	小計	10.547		
計										105.488	

外部						欠損					
番号	縦	横	符号	面積	備考	番号	縦	横	符号	面積	備考
欠損C1											
屋上						外壁南					
1	0.10	0.10	C1-1	0.01		1	0.10	0.10	C1-1	0.01	
						2	0.10	0.10	C1-2	0.01	
						3	0.10	0.10	C1-3	0.01	
天井2階						C1-4					
1	0.03	0.10	C1-1	0.003		4	0.10	0.10	C1-4	0.01	
2	0.03	0.10	C1-2	0.003							
						外壁北					
						1	0.10	0.10	C1-1	0.01	
マンホール東側						2	0.10	0.10	C1-2	0.01	
1	0.05	0.10	C1-1	0.005		3	0.10	0.10	C1-3	0.01	
						4	0.10	0.10	C1-4	0.01	
						5	0.10	0.10	C1-5	0.01	
						6	0.10	0.10	C1-6	0.01	
						7	0.10	0.10	C1-7	0.01	
						8	0.10	0.10	C1-8	0.01	
						9	0.10	0.10	C1-9	0.01	
						10	0.10	0.10	C1-10	0.01	
						11	0.10	0.10	C1-11	0.01	
						12	0.10	0.10	C1-12	0.01	
						13	0.10	0.10	C1-13	0.01	
						14	0.10	0.10	C1-14	0.01	
						ベランダ外					
						15	0.10	0.10	C1-15	0.01	
						外壁東					
						1	0.10	0.10	C1-1	0.01	
						2	0.10	0.10	C1-2	0.01	
						3	0.10	0.10	C1-3	0.01	
						4	0.10	0.10	C1-4	0.01	
						5	0.10	0.10	C1-5	0.01	
						6	0.10	0.10	C1-6	0.01	
						7	0.10	0.10	C1-7	0.01	
						8	0.10	0.10	C1-8	0.01	
小計				0.02		小計					
計										0.27	
										0.28	1.00 か

外部											
欠損C2					欠損						
番号	縦	横	符号	面積	備考	番号	縦	横	符号	面積	備考
屋上											
1	0.10	0.10	C2-1	0.01							
小計				0.01		小計					0.00
計										0.01	0.00 か所

外壁				塗膜浮き			
浮きB				一般部			
番号	縦	横	面積	番号	縦	横	面積
1	0.45	0.15	0.07	1	0.44	0.35	0.15
2	0.45	0.15	0.07	2	0.18	0.40	0.07
3	0.73	0.20	0.15	3	1.80	0.13	0.23
4	0.73	0.20	0.15	4	1.80	0.13	0.23
5	0.73	0.30	0.22	5	1.80	0.13	0.23
6	0.73	0.20	0.15				
7	0.61	0.30	0.18				
小計			0.98	小計			0.93
計			0.98	計			0.93

東 面		塗膜浮き	
浮きB		一般部	
番号	縦	横	面積
外壁			
1	0.60	1.35	0.81
小計			0.81
計			0.81

天井 面				塗膜浮き			
浮き B				一般部			
番号	縦	横	面積	番号	縦	横	面積
1階				3階			
1	0.24	0.35	0.08	1	0.30	0.32	0.10
				2	0.30	0.32	0.10
				3	0.30	0.32	0.10
				4	0.30	0.32	0.10
2階				5	0.27	0.31	0.08
1	0.21	1.05	0.22	6	0.27	0.31	0.08
				7	0.10	0.15	0.02
				8	0.27	0.11	0.03
				9	0.10	1.15	0.11
				10	0.10	0.69	0.07
小計			0.30	小計			0.78
計							1.08

[illegible][illegible]

電 気 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

Ⅰ．工 事 名 称 小長田団地（３棟）改修工事

Ⅱ．工 事 概 要

- １．総合発注の有無 本工事は、以下の工事を含む。（詳細は、図面参照のこと）
- ・ 建築工事
 - ・ 機械設備工事
 - ・

２．工 事 場 所 福岡県京都郡みやこ町勝山黒田（小長田団地 内）

３．建 物 概 要

建 物 名 称	構 造	階 数	延面積（㎡）	防火対象物の種別	備 考
町営住宅	R C	3	934.86	五項（ロ）	

４．工 事 種 目 （ 印を付けたものを適用する ）

工 事 種 目	建 物 別				
	階段室	工 事 種 別			備 考
○ 電 灯 設 備	改修	一式	一式	一式	改修 一式
・ 動 力 設 備		一式	一式	一式	
・ 避 雷 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 受 変 電 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 静 止 形 電 源 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 発 電 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 構内情報通信網設備	一式	一式	一式	一式	
・ 構 内 交 換 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 情 報 表 示 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 映 像 ・ 音 響 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 拡 声 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 誘 導 支 援 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 呼 出 し 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ テ レ ビ 共 同 受 信 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 防 犯 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 自 動 火 災 報 知 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 中 央 監 視 制 御 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 遠 隔 水 器 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ デマンド監視・制御設備	一式	一式	一式	一式	
・ 太 陽 光 発 電 設 備	一式	一式	一式	一式	
・	一式	一式	一式	一式	
・ 構 内 配 電 線 路	一式	一式	一式	一式	一式
・ 構 内 通 信 線 路	一式	一式	一式	一式	一式
・	一式	一式	一式	一式	

Ⅲ．工 事 仕 様

１ 適用仕様等

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の仕様書による。

- （１）「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編 平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （２）「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編 平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （３）「公共建築工事標準仕様書（建築工事編 平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （４）「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編 平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （５）「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編 平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （６）「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編 平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （７）「公共住宅建設工事共通仕様書（平成26年版）」 国土交通省住宅局住宅総合整備課監修

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。

ただし、改定内容で発注仕様の変更又は工事価格の変更が生じる場合は、県担当者と協議すること。

２ 補足基準等

適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準図等による。

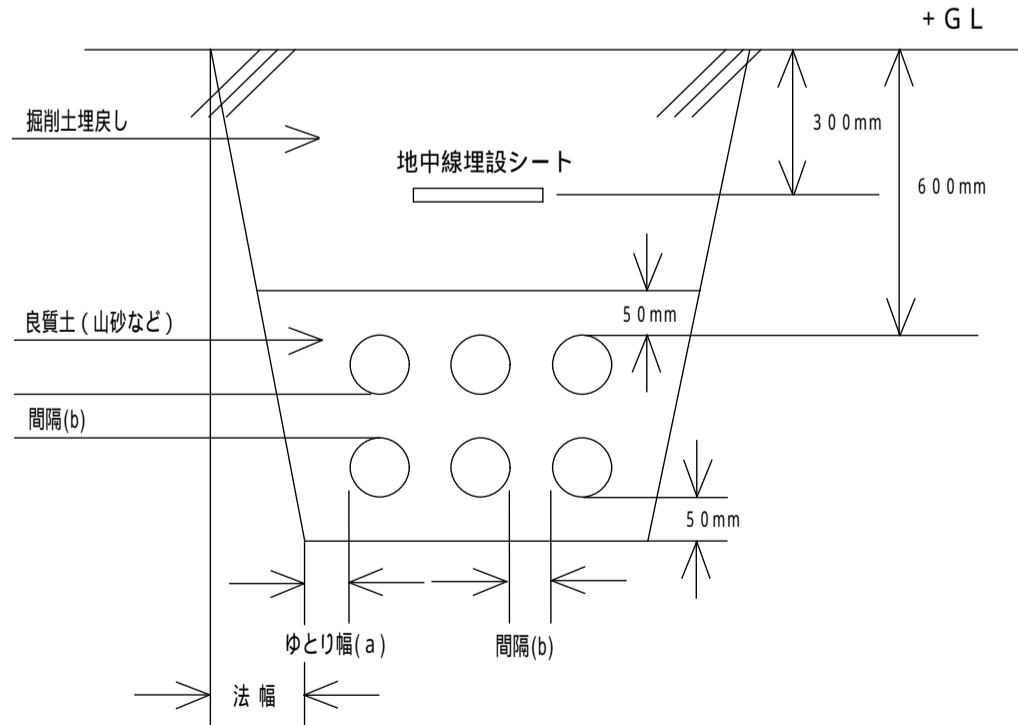
- （１）「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編 平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
- （２）「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編 平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
- （３）「建築工事標準詳細図（建築工事編 平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
- （４）「電気設備工事監理指針（平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （５）「機械設備工事監理指針（平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （６）「建築工事監理指針（平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （７）「建築改修工事監理指針（平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （８）「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」 独立行政法人 建築研究所監修
- （９）「建築工事安全施工技術指針・同解説」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
- （10）「建設廃棄物処理指針」 厚生労働省生活衛生局
- （11）「建築物解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」 環境省大気保全局（環境省アスベスト飛散防止対策研究会）
- （12）「建築工事の手引き」 福岡県建築都市部編集

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。

ただし、改定内容で発注仕様の変更、又は工事価格の変更が生じる場合は、県担当者と協議すること。

３ 特 記 仕 様

- （１）項目は、 印のついたものを適用する。
- （２）特記事項のうち選択する事項は、 印のついたものを適用する。

項 目	特 記 事 項																													
機 材	この工事に使用する機材は、監督職員の承諾を受ける。 なお、材料及び製品については、地域産材の使用に努めること。 また、機材の選定に当たっては、グリーン購入法に適合したものを優先すること。																													
電 気 工 作 物	・ 一般用電気工作物 ・ 事業用電気工作物																													
電 気 保 安 技 術 者	事業用電気工作物に係る工事においては、電気保安技術者を置くものとする。																													
工事に必要な資格 (建設業法に関するものを除く)	・ 第 1 種電気工事士 ○ 第 2 種電気工事士(もしくは上位資格) ・ 特種電気工事資格者(非常用予備発電装置) ・ 工事担任者 第 一 種(もしくは上位資格) ・ 消防設備士甲種 類 ・ あと施工アンカー 第 一 種施工士(もしくは上位資格)																													
官公庁その他への手続き	この工事に必要な官公署その他の関係機関への諸手続等は、これに必要な資機材、労務、及び費用を請負者の負担にて速やかにおこない、その検査に合格すること。 本工事に必要な工事用電力（仮設電力及び試運転調整用電力等を含む）・水及び諸手続等の費用は、すべて請負者の負担とする。																													
工 事 用 電 力 ・ 水 その他	・ 構内指示の場所に数均し ・ 構内指示の場所に堆積 ○ 構外搬出適切処理																													
残 土 処 分																														
他工事との取合い	・ 施工区分表による ○ 図面詳細による																													
再 使 用 機 器	取外し再使用機器は、原則として清掃並びに絶縁抵抗測定を取外し前後で行った後、取り付けること。 但し、絶縁劣化等再使用に耐えない場合は、監督職員に報告すること。																													
耐 震 施 工	設備機器の固定は、すべて「建築設備耐震設計・施工指針」（２０14年版）によるものとする。 （１）設計用標準震度（Ks） 機器等の耐震安全性の分類及び設置場所により下表より求める。																													
	<table><tr><th rowspan="2">設 置 場 所</th><th colspan="4">耐震安全性の分類</th></tr><tr><th colspan="2">特定の施設</th><th colspan="2">一般の施設</th></tr><tr><td></td><td>重要機器</td><td>一般機器</td><td>重要機器</td><td>一般機器</td></tr><tr><td>上 層 階、 屋上及び塔屋</td><td>2.0 (2.0)</td><td>2.0 (2.0)</td><td>1.5 (2.0)</td><td>1.0 (1.5)</td></tr><tr><td>中 間 階</td><td>1.5 (1.5)</td><td>1.0 (1.5)</td><td>1.0 (1.5)</td><td>0.6 (1.0)</td></tr><tr><td>地階及び1階</td><td>1.0 (1.0)</td><td>0.6 (1.0)</td><td>0.6 (1.0)</td><td>0.4 (0.6)</td></tr></table> （ ）書きの数値は防振支持の機器の場合に適用する。	設 置 場 所	耐震安全性の分類				特定の施設		一般の施設			重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上 層 階、 屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)	中 間 階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)	地階及び1階	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)
設 置 場 所	耐震安全性の分類																													
	特定の施設		一般の施設																											
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																										
上 層 階、 屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)																										
中 間 階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)																										
地階及び1階	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)																										
	（２）耐震安全性の分類 ○特定の施設 ・一般の施設																													
	（３）地域係数（Z） 地域係数（Z）は、1.0とする。																													
合成樹脂製可とう 電 線 管	環境対応型合成樹脂製可とう管（P F 管）の一重管とする。なお、打込配管として使用する場合、原則として呼び径を22までとする。 また鉄筋等への結束には樹脂被覆を施したバインド線を用いること。																													
プレートの材質	・ 金属製（防水形配線器具を除く） ・ 樹脂製																													
フロアプレート	ベースは、水平高低調整付（空転防止リング付）とする。 ・ 砲金製 ・ アルミ製																													
ハイテンション	・ 上下動形 ・ 外部固定形 ・ 内部固定形																													
露出配管等の塗装	屋内においては特記がなければ、F 製品とし、屋外においても低VOC塗料の使用に努めること。																													
呼 び 線	長さ 1 m 以上入線しない電線管には電線太さ 1 ． 2 mm 以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。																													
表 示	スイッチ・コンセント及びブルボックスで用途の判別し難いものは、表示する。																													
地中線埋設シート	地下埋設の線路には、標識シートを2倍長以上重ね合わせて布設するものとする。																													
地 中 埋 設 線	電力用（矢指色：赤色） ・ 樹脂製 ・ コンクリート製 ・ 鉄製 通信用（矢指色：黄色） ・ 樹脂製 ・ コンクリート製 ・ 鉄製																													
地 中 埋 設 配 管 (G L - 6 0 0 の 場 合)																														
	・ 根切り深さが1.5m未満の場合は直掘工法とし、1.5m以上の場合には法付工法とする。 法付工法の法幅は、根切り深さに0.3を乗じたものとする。 ・ 床掘幅は、埋設管類などの外径（底面）の寸法にゆとり幅×2を加えたものとする。 ゆとり幅（a）及び埋設管相互の間隔（b）は、下表を参照のこと。																													
	<table><tr><th>ゆとり幅（a）</th><th>根切り深さ 1未満</th><th>根切り深さ 1以上1.5未満</th><th>根切り深さ 1.5m以上</th><th>埋設管の 呼び径</th><th>間隔（b） （左右・上下）</th></tr><tr><td>地 中 電 線 管 類</td><td>0 ． 2 m</td><td>0 ． 4 m</td><td>0 ． 3 m</td><td>5 0 以下</td><td>50mm</td></tr><tr><td>地下埋設物</td><td>0 ． 5 m</td><td>0 ． 5 m</td><td>0 ． 5 m</td><td>1 5 0 φ</td><td>70mm</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2 0 0 φ</td><td>100mm</td></tr></table>	ゆとり幅（a）	根切り深さ 1未満	根切り深さ 1以上1.5未満	根切り深さ 1.5m以上	埋設管の 呼び径	間隔（b） （左右・上下）	地 中 電 線 管 類	0 ． 2 m	0 ． 4 m	0 ． 3 m	5 0 以下	50mm	地下埋設物	0 ． 5 m	0 ． 5 m	0 ． 5 m	1 5 0 φ	70mm					2 0 0 φ	100mm					
ゆとり幅（a）	根切り深さ 1未満	根切り深さ 1以上1.5未満	根切り深さ 1.5m以上	埋設管の 呼び径	間隔（b） （左右・上下）																									
地 中 電 線 管 類	0 ． 2 m	0 ． 4 m	0 ． 3 m	5 0 以下	50mm																									
地下埋設物	0 ． 5 m	0 ． 5 m	0 ． 5 m	1 5 0 φ	70mm																									
				2 0 0 φ	100mm																									

21. 接 地 極

強電配線・弱電配線・その他配管等について、定められた離隔を考慮すること。

多条敷設により埋設管同士を密着させる場合は、「JIS C 3653（附属書含む）」及び「電気設備に関する技術基準を定める省令」における関連事項に適合した資材の使用、及び施工を行うこと。

また、電線相互の接近により誘導障害が生じるおそれがある場合は、多条敷設は行わないこと。

接地極の材料は下表による。接地極の近くに接地極埋設標90×140×1．5t（黄銅製・刻印）を設置すること。なお、接地極 EB（14）の長さは1,500mm以上とし、10×14は、W=40として差し支えない。

接 地 の 種 別	記 号	接地抵抗値	接 地 極
・ 共 同	E _{A+D}	以下	
・ 共 同	E _{A+D}	以下	
・ A 種	E _A	10 以下	
・ B 種	E _B	以下	
・ C 種	E _C	10 以下	
・ D 種	E _D	100 以下	E B () × 1 (L=1,500mm)
・ 避 雷 設 備	E _L	10 以下	
・ 高 圧 避 雷 器	E _{LH}	10 以下	
・ 低 圧 避 雷 器	E _{LL}	10 以下	
・ 交 換 機 用	E _I	10 以下	
・ 通 信 用	E _{At}	10 以下	
・ 通 信 用	E _{Ct}	100 以下	E B (10) × 1 (L=1,500mm)
・ 測 定 用	E _O		E B (10) × 1 (L=1,500mm)

避雷設備の接地抵抗値は、総合抵抗とする。

本工事における構内交換設備の工事範囲は、以下のとおりとする。

- ・ 構内交換装置
- ・ 電話機取付け (台)
- ・ 配管配線まで本工事
- ・ 配管のみ本工事
- ・ 配線のみ本工事

電話機1台につき次のものを見込む。

- ・ T1VF(T1VE) 0.65-2C m
- ・ EM-T1EF(T1EE) 0.65-2C m
- ・ EBT 0.4-2P m
- ・ EM-BTIEE 0.4-2P m
- ・ 2号ワイヤプロテクタ m

本工事における構内情報通信網設備の工事範囲は、以下のとおりとする。

- ・ 構内情報通信網装置
- ・ ネットワーク管理装置
- ・ 配管配線まで本工事
- ・ 配管のみ本工事

・ 幹線LAN：赤色
・ 校務LAN：黄色
・ 生徒LAN：水色
・ 認証ネットワーク：指定なし
・ その他：指定なし

拡声設備において、増幅器などの入出力線と配線との接続は、コネクタなどを取付けて行うこと。

自動火災報知設備において、感知器が作動した場合に受信機及び運動制御機と運動して空調

機並びに送排風機を停止させる。

・ 単 独 (・ 自立形 ・ 壁掛形)

・ 液化石油ガス用
・ 都市ガス用

・ 配管のみ本工事

・ 機器取付調整まで本工事

躯体貫通箇所においては探査機を使用し、コンクリート内配筋を避け貫通すること。

発電機回路に接続されるコンセントは、回路種別が識別できるものとする。

蓋中央部に県章を刻印すること。また、用途別に「高圧」「電気」「弱電」の刻印をすること。

屋外に設置するものには、事前に水抜き穴を設けること。

35. 建築副産物の処理について

資源の有効利用・環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発

生抑制・再利用・適正処理を推進する。

現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所

を設置し集積すること。

また、「再生資源の利用の促進に関する法律」・「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律

」・「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほ

か、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。

工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。

指定副産物（原則として、再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物
・ が れ き 類 (コンクリート塊) (アスファルト コンクリート塊) ・ 木 く ず ・ 建 設 発 生 土 ・ 汚 泥	○ 廃 プ ラ ス チ ッ ク ・ ガラス・陶磁器くず ・ 廃 石 こ う ボ ー ド ○ 産 廃 く ず ・ 織 維 く ず

特別管理産業廃棄物

・ 廃 石 綿 等

「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」（環境省大気保全局）に従い、収集・運搬・処分を行うこと。

・ 廃 P C B 等

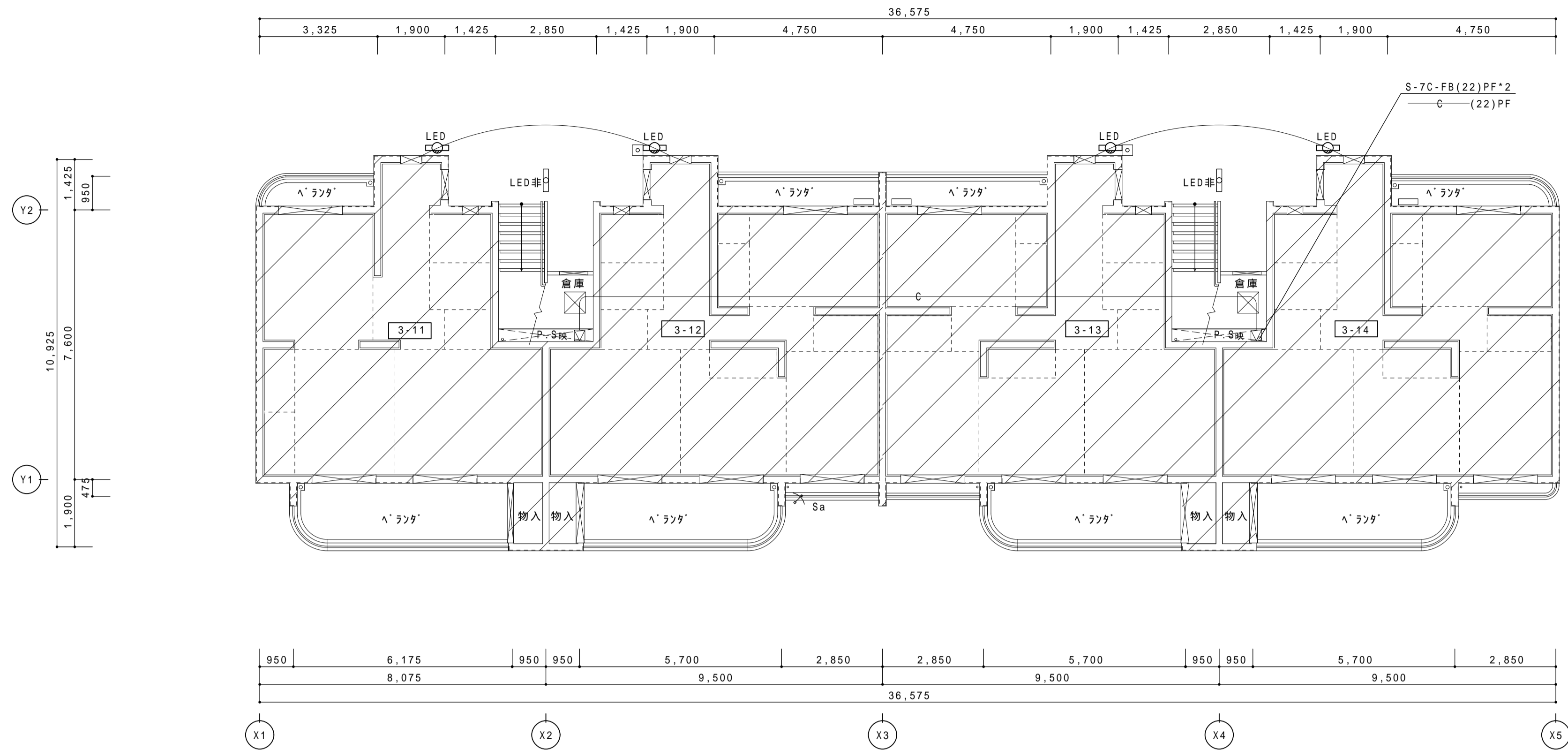
「電気事業法：電気関係報告規則」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・届出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

参考受入場所は、現場説明書による。

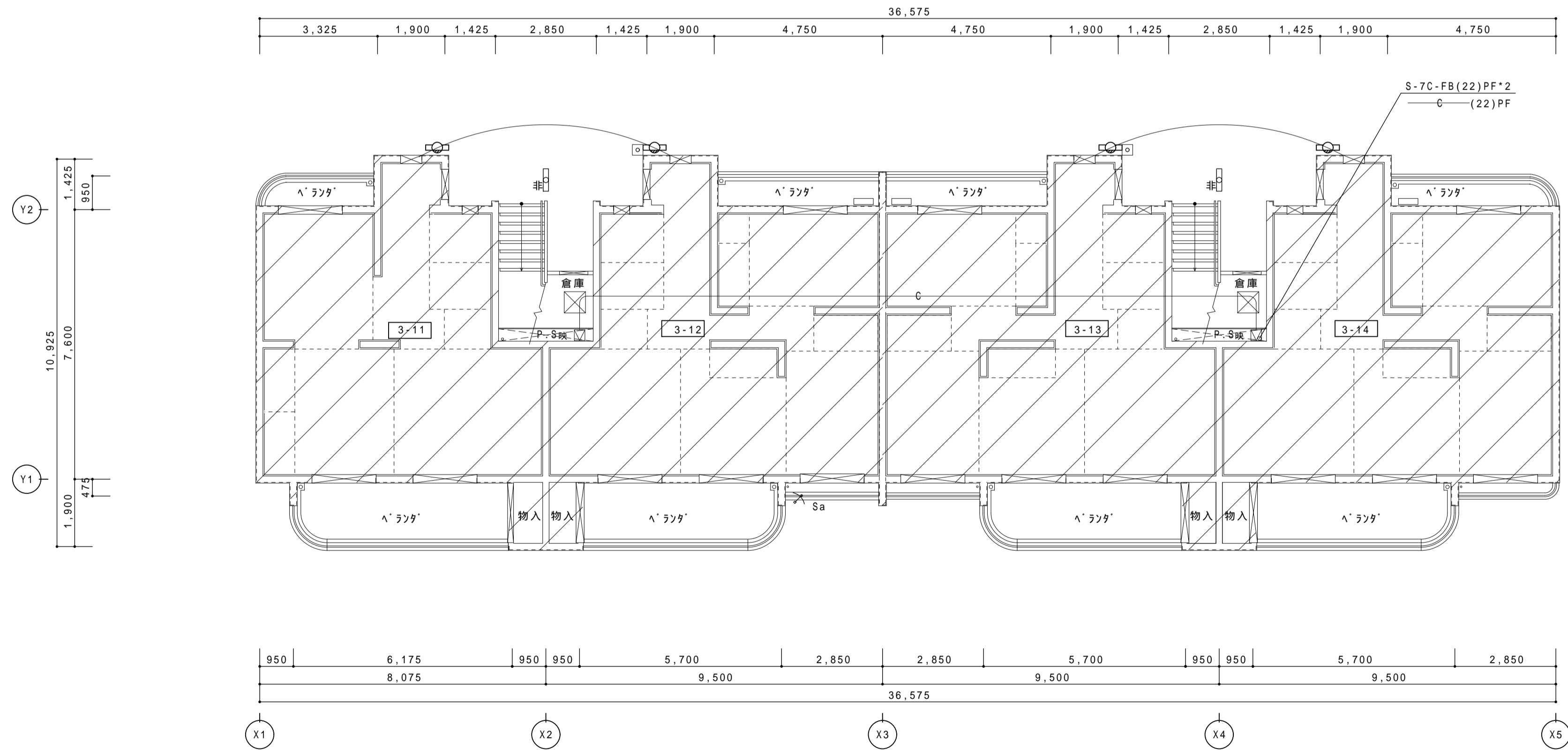
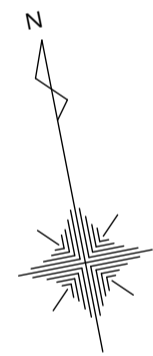
処 理 内 容	備 考
現場内における分別現場内分別保管場所の設置	
現場内分別保管場所までの運搬	
分別保管場所からの精込み・運搬・処分	
「建設副産物の処置計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要

36. そ の 他

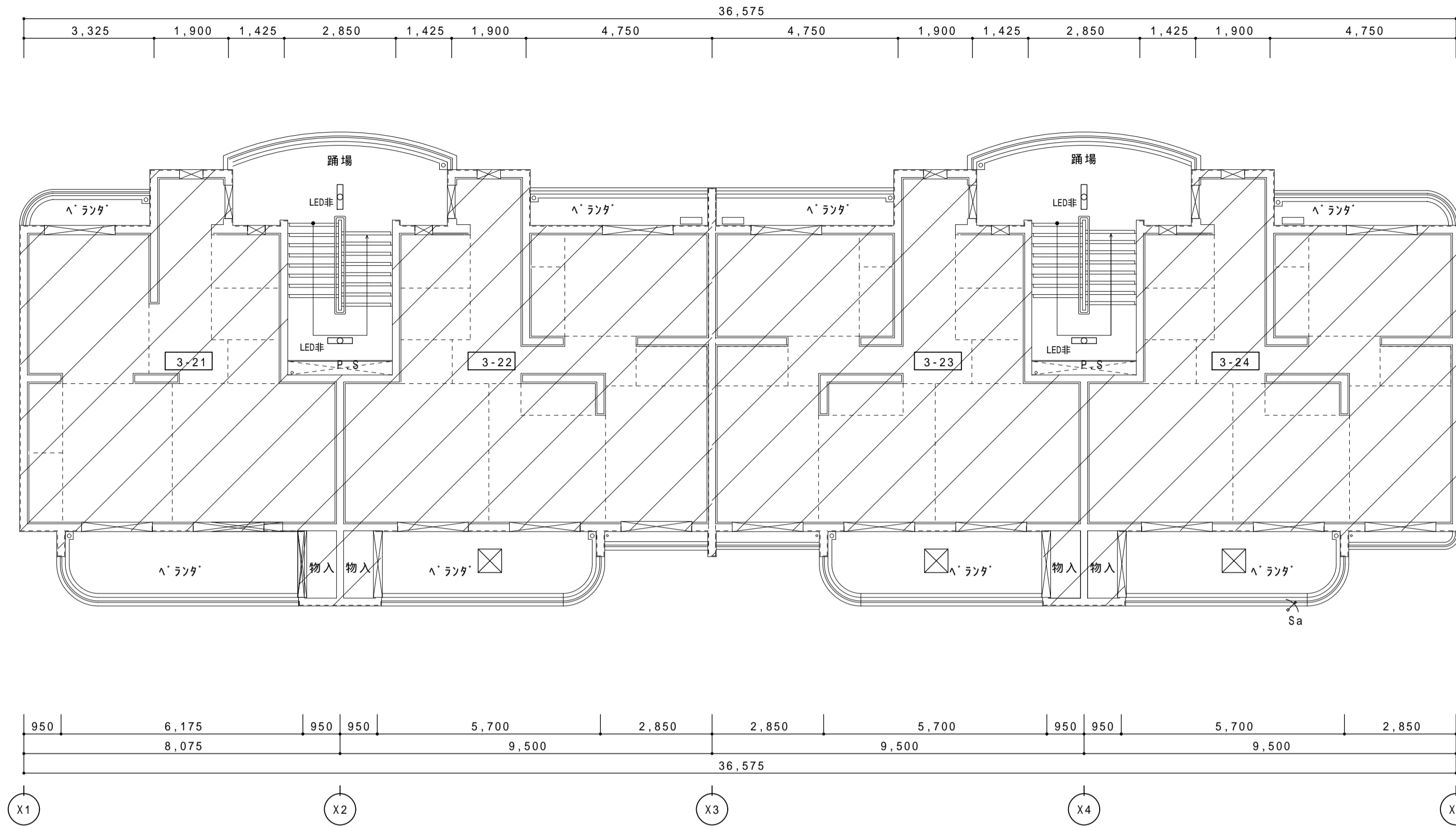
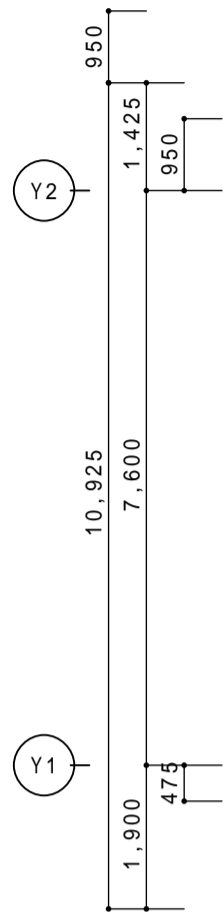
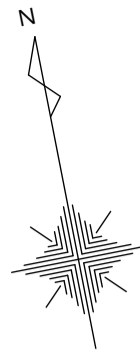
令和 7 年 6 月 日				
工事名称	小長田団地（３棟）改修工事	特 記 仕 様 書		
工事場所	福岡県京都郡みやこ町勝山黒田（小長田団地 内）	図 書 E - 0 1		
設計者氏名	1級建築士登録第 223569 号 代表取締役 松尾 真也			
事業所名及び所在地	株式会社エム・ピー・アイ 行橋市行事 8 丁目 8 - 1 0			



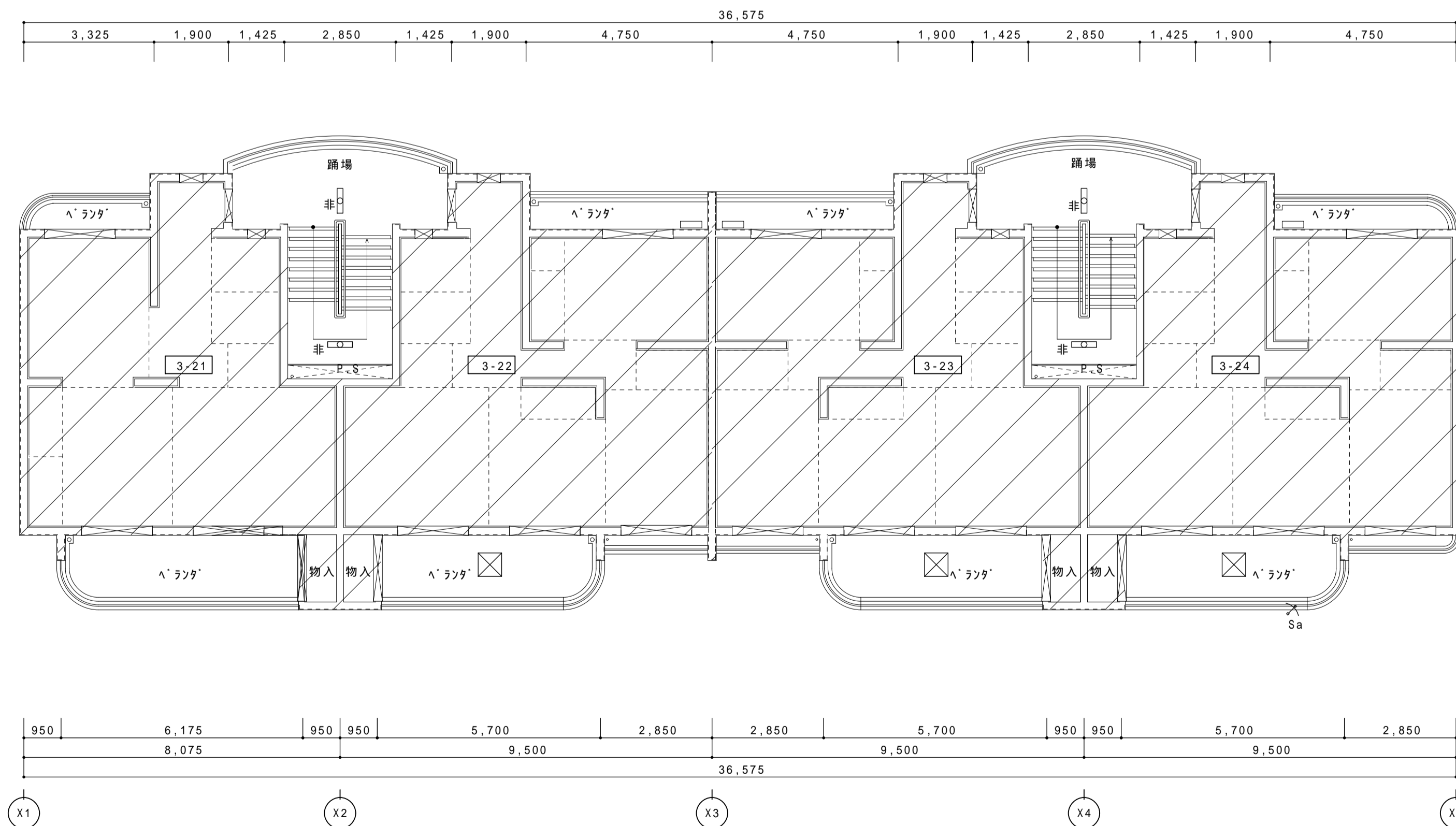
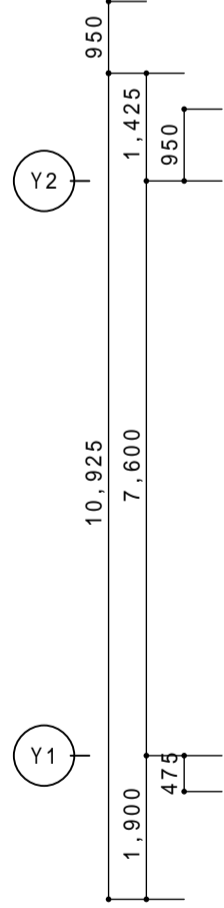
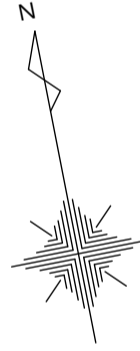
凡例	
Sa	衛星アンテナ 再取付(受信調整)
LED	LED照明器具(壁付け)
LED	LED非常灯(天井直付け)



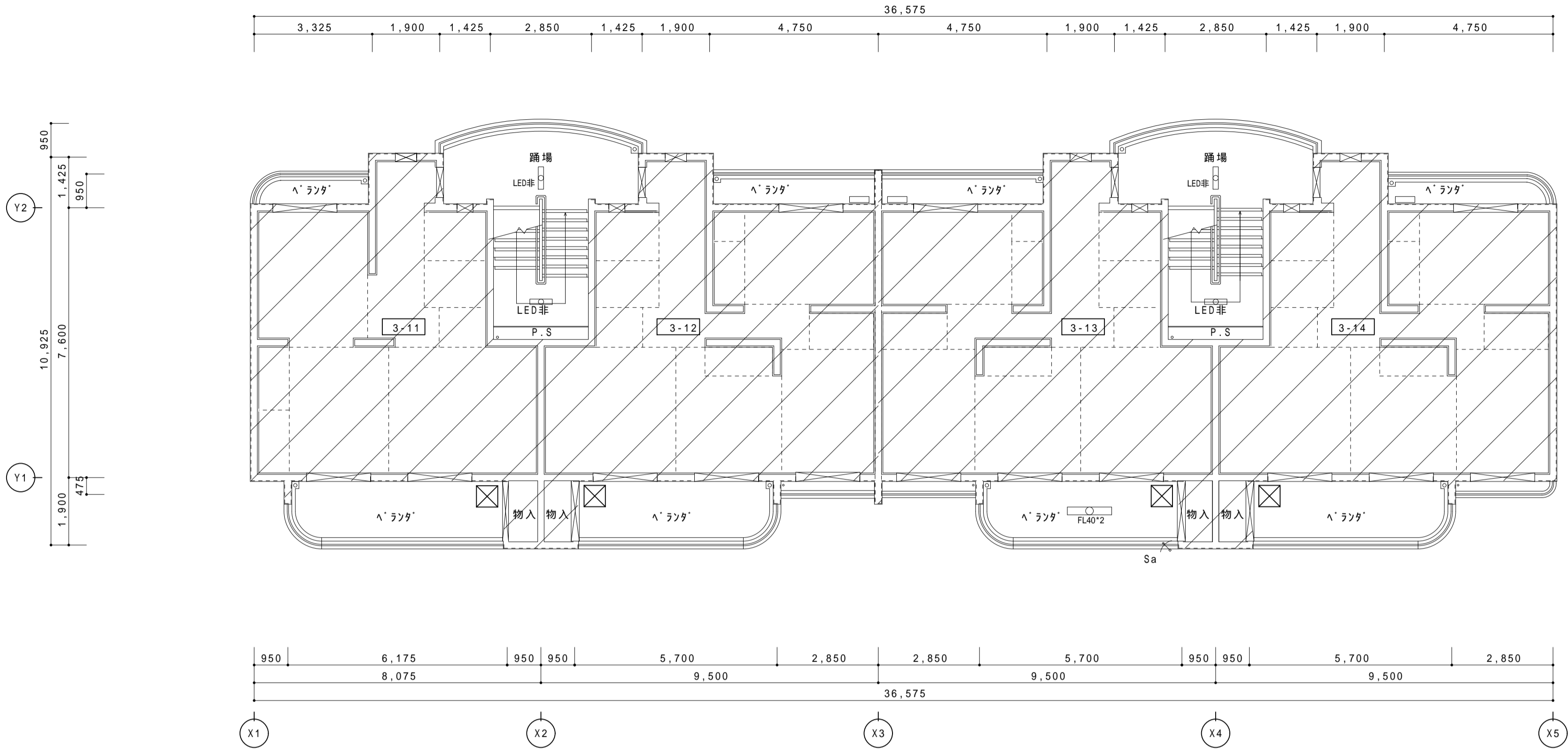
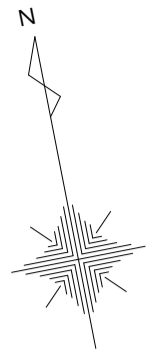
凡例	
Sa	衛星アンテナ取外し、足場に仮設置(受信調整)
非	照明器具(壁付け)撤去
非	非常灯(天井直付け)撤去



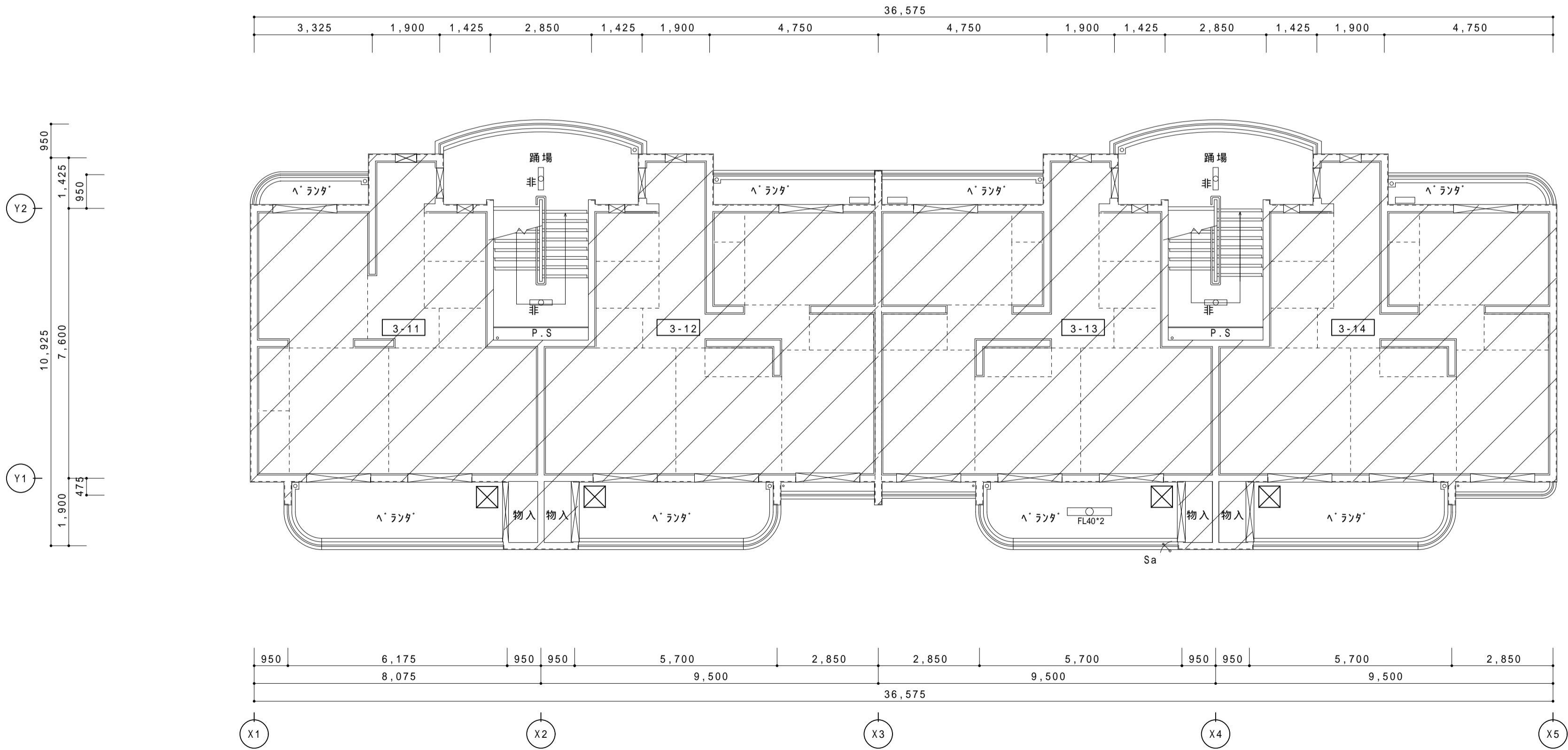
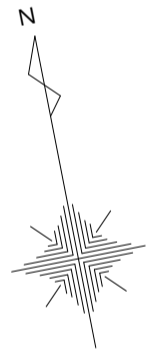
凡例	
Sa	衛星アンテナ 再取付(受信調整)
LED非	LED非常灯(天井直付け)



凡例	
Sa	衛星アンテナ取外し、足場に仮設置(受信調整)
非	非常灯(天井直付け)撤去

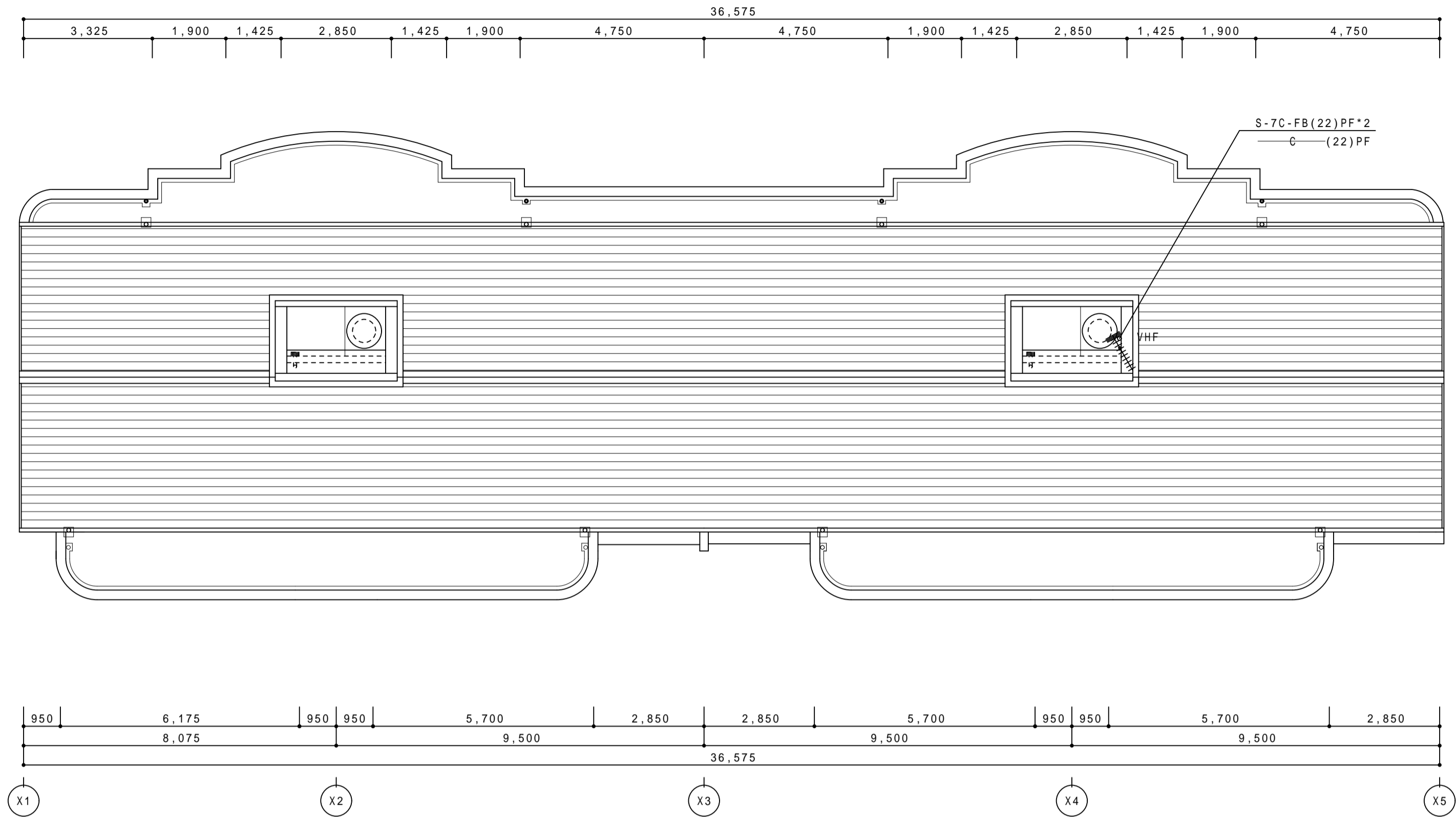
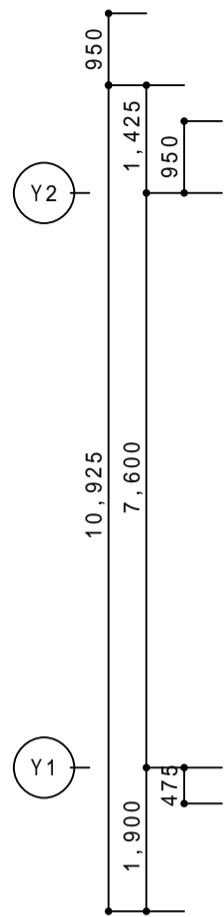
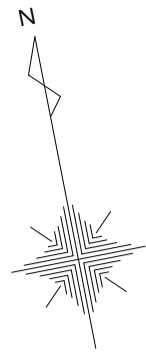


凡例	
Sa	衛星アンテナ 再取付(受信調整)
LED非	LED非常灯(天井直付け)
FL40'2	天井直付け照明再取付



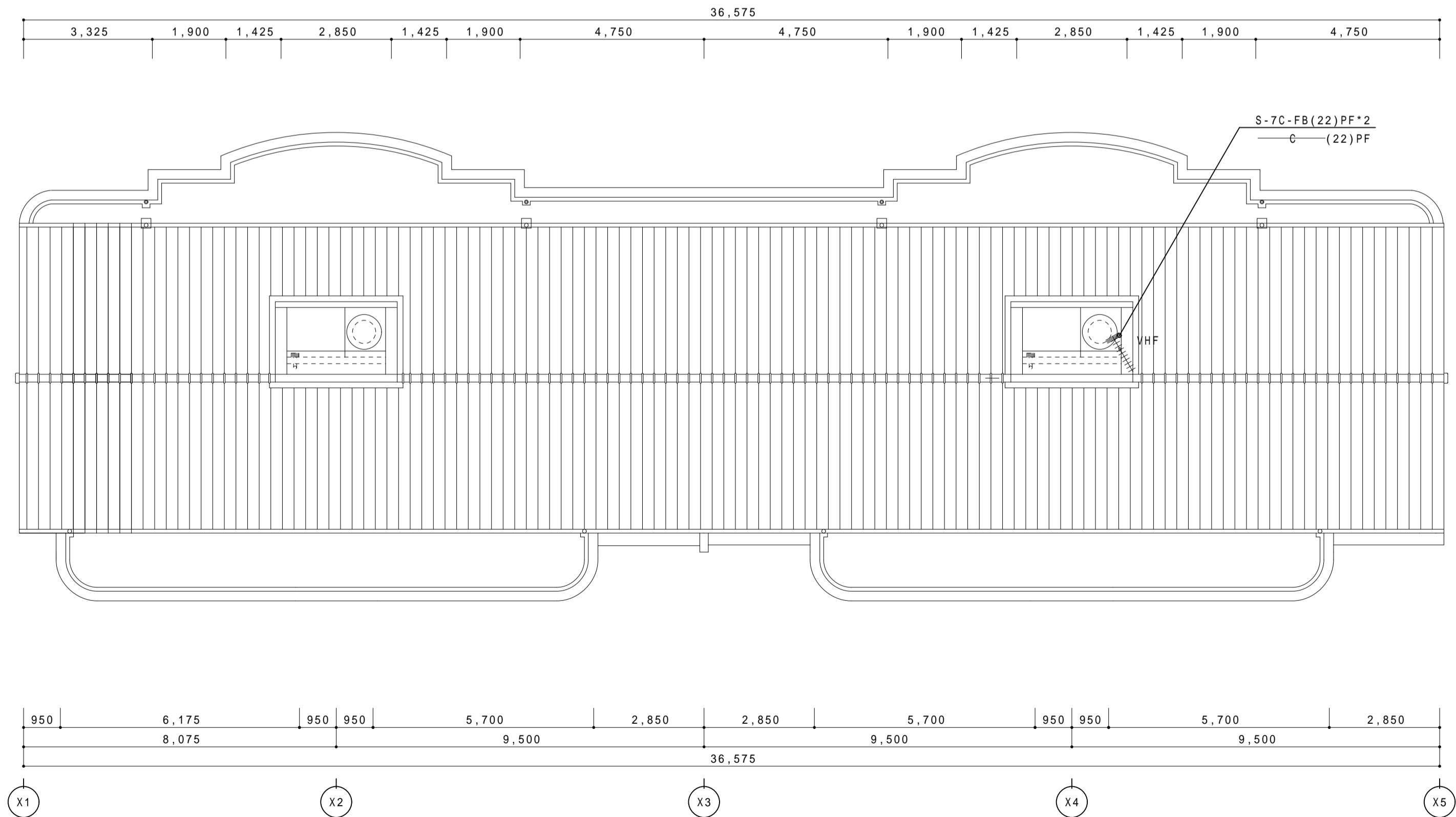
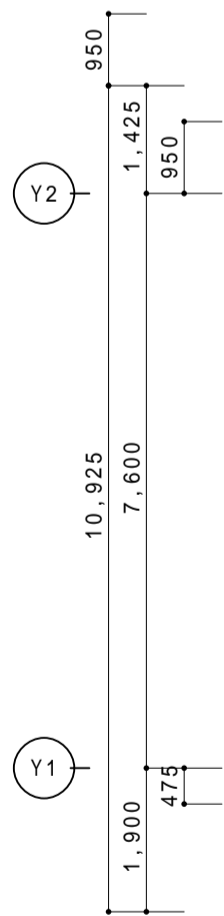
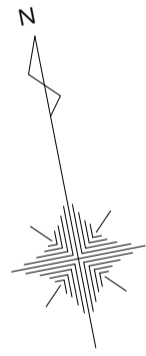
凡例	
Sa	衛星アンテナ取外し、足場に仮設置(受信調整)
LED非	非常灯(天井直付け)撤去
FL40'2	天井直付け照明取外し

改修後 屋根伏図 S=1:100

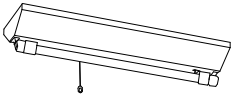




凡例	
WF	TVアンテナ 既存のまま(受信調整)

改修前 屋根伏図 S=1:100



凡例	
WF	TVアンテナ

直管LEDランプ 富士型防水非常灯用1200lm		10個	LEDウォールライト 20形 FL20形×1灯器具相当	2個	FL40形×2灯器具 反射笠付型 取外し、再取付け	1個
<div></div> <div>防湿型・防雨型 ランプ同梱、電源ユニット内蔵、ガラス管採用、FL20形器具相当 非常時：620lm点灯 本体：亜鉛銅板（クロムフリー）、反射板：亜鉛銅板（クロムフリー・高反射白色粉体塗装） 電圧：100～242V対応、蓄電池：ニッケル水素蓄電池 非常灯評定番号：LALD-007 点検スイッチ付、充電モニタ（緑）付 光源寿命40,000時間（光束維持率85%） パナソニック NWFG21002LE9 東芝ライテック LEKTSW212164N-LS9 岩崎電気 ELAV20811NPN9 以上同等品</div>			<div></div> <div>LED内蔵、電源ユニット内蔵 防湿型・防雨型 5000K、Ra83、光源寿命40000時間（光束維持率85%） 器具光束990lm、消費電力10W、電圧100～242V 本体：ステンレス、カバー：ポリカーボネート（乳白） 天井直付型・壁直付型、保護等級：IP23 パナソニック NNFW21800KLE9 東芝ライテック CO-2180 LDM20SSN/10/10-01 以上同等品</div>		<div></div> <div>3-13号室 南側ベランダ</div>	

特記事項

(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所

福岡県知事登録第1-20757号

福岡県行橋市行事8丁目8-10

TEL 0930-26-1101

代表取締役 松尾 真也

一級建築士 大臣登録第223559号

工事名称

小長田団地（3棟）改修工事

図面名称

(参考図)
立面
詳細図

縮尺

A1: S=1/10
S=1/20
S=1/30

A2: S=1/20
S=1/40
S=1/60

製図年月日

2025年06月

所長

検図

作図

E-06